

昭島市教育委員会の事務事業
に関する点検及び評価報告書
(令和元年度分)

令和2年9月

昭島市教育委員会

目 次

	ページ
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1章 昭島市総合教育会議	
1 昭島市教育に関する大綱・・・・・・・・・・	2
第2章 教育委員会の組織及び活動状況	
1 教育委員会の構成・・・・・・・・・・	4
2 教育委員会事務事業を主管する組織・・	4
3 教育委員会の会議における審議内容一覧	
(1) 総合教育会議（企画政策課所管）・・	6
(2) 定例会・・・・・・・・・・	6
(3) 臨時会・・・・・・・・・・	10
4 教育委員会委員の主な活動・・・・・・・・	11
5 教育委員会委員の研修・・・・・・・・・・	13
第3章 主要施策の点検及び評価	
プラン1 確かな学力の定着	
主要施策 1 学習指導要領の確実な定着・・	14
主要施策 2 理数教育の充実・・・・・・・・	22
主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成	23
主要施策 4 個に応じた支援の充実・・	26
プラン2 豊かな心の醸成	
主要施策 1 人権教育の推進・・・・・・・・	32
主要施策 2 道徳教育の充実・・・・・・・・	34
主要施策 3 体験活動の充実・・・・・・・・	36
主要施策 4 いじめ問題への対応・・	38
プラン3 健やかな体の育成	
主要施策 1 体力向上の推進・・・・・・・・	40
主要施策 2 学校給食・食育の充実・・	44
主要施策 3 学校保健安全の推進・・	48
プラン4 輝く未来に向かって	
主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実	51
主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実・・	53
主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上・・	55
主要施策 4 学校運営の改善・・・・・・・・	57
主要施策 5 教育環境の整備・・・・・・・・	59
主要施策 6 情報教育の推進・・・・・・・・	61
主要施策 7 環境教育の推進・・・・・・・・	63
主要施策 8 国際理解教育の推進・・	64
主要施策 9 キャリア教育の推進・・	67
プラン5 生涯学習の推進	
主要施策 1 生涯学習・・・・・・・・・・	69
主要施策 2 図書館活動・・・・・・・・・・	73
主要施策 3 文化・芸術・・・・・・・・・・	77
主要施策 4 スポーツ・レクリエーション	79
主要施策 5 文化財・・・・・・・・・・	84
第4章 令和元年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」 の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	87
第5章 令和元年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれ に対する実績について・・・・・・・・	110
第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見・・・・・・・・	148

は じ め に

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育委員会は、効果的な教育行政の推進を図るとともに教育委員会活動の透明性をより高め説明責任を果たすため、毎年、自らの権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に報告し、公表することが義務付けられています。

平成27年4月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正され、教育委員会制度、そして教育行政の在り方が大きく変化しています。

昭島市教育委員会では、教育の振興のための施策に関する基本的な計画として、平成27年度から、新たな教育活動の推進に向けた、『第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度から平成32年度）』を策定しました。この計画に基づく教育施策及び事業について、学識経験を有する方の知見を活用し、点検評価を行いました。

この報告書において課題とされた事項について、更に検討を加え、学校教育、生涯学習の充実に努めてまいります。

令和2年9月

昭島市教育委員会

第1章 昭島市総合教育会議

1 昭島市教育に関する大綱

第五次基本構想における、まちづくりの理念である「人間尊重」と「環境との共生」のもと、本市の教育に関する大綱を次のとおり定めます。

- 市民憲章と人間尊重の精神を基調とした教育を推進します。
- 子どもたちが常に心身ともに健康で生きがいを持ち、創造性に富み、社会の一員としての自覚を有し、人間性豊かな市民として成長することを目指し、その実現に努めます。
- 学校教育においては、学校、家庭、地域の密接な連携のもと、子どもたちが生涯を通して未来社会の変化に対応できるよう自主的精神を培い、国際的視野を持ち、健全で豊かな心をはぐくみ、個性を生かすための教育を推進します。
- 社会教育においては、地域の文化、教育、スポーツ活動を通して市民誰もが、あらゆる機会に、生きる喜び、学ぶ楽しさを得られ、生涯にわたって主体的に学び続けることができ、市民相互と地域のつながりを育てていく生涯学習社会の実現を目指します。
- 子どもから高齢者までが生涯にわたっていきいきと学習できる環境の充実を図り、もって豊かな文化の創造とふるさと昭島を愛する心を育て、且ついのちの大切さや環境との共生を考え、ひろく国際社会に貢献できる人材の育成を図ります。

基本方針

【学校教育】

基本方針 1 確かな学力の定着

- 1 学習指導要領の確実な定着
- 2 理数教育の充実
- 3 読書活動の推進と言語能力の育成
- 4 個に応じた支援の充実

基本方針 2 豊かな心の醸成

- 1 人権教育の推進
- 2 道徳教育の充実
- 3 体験活動の充実
- 4 いじめ問題への対応

基本方針 3 健やかな体の育成

- 1 体力向上の推進
- 2 学校給食・食育の充実
- 3 学校保健安全の推進

基本方針 4 輝く未来に向かって

- 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実
- 2 日本の伝統文化教育の充実
- 3 家庭・地域の教育力の向上
- 4 学校運営の改善
- 5 教育環境の整備
- 6 情報教育の推進
- 7 環境教育の推進
- 8 国際理解教育の推進
- 9 キャリア教育の推進

【生涯学習】

基本方針 1 生涯学習

- 1 生涯学習推進体制の整備
- 2 生涯学習の推進
- 3 公民館活動の充実

基本方針 2 図書館活動

- 1 図書館サービスの充実
- 2 図書館資料の充実
- 3 子ども読書活動の支援
- 4 サービス網の整備

基本方針 3 文化・芸術

- 1 市民文化の育成
- 2 自主的な活動の支援
- 3 文化芸術に関する意識の高揚
- 4 文化芸術に接する機会の拡充
- 5 文化芸術を担う人材の育成

基本方針 4 スポーツ・レクリエーション

- 1 スポーツ振興計画の推進
- 2 スポーツライフの形成
- 3 スポーツ・レクリエーションの基盤整備

基本方針 5 文化財

- 1 文化財の保護・保存
- 2 文化財の活用

第2章 教育委員会の組織及び活動状況

1 教育委員会の構成

※ 令和2年3月31日現在

職 名	氏 名	任 期 期 間	期数
教 育 長	山 下 秀 男	平成31年4月1日から 令和4年3月31日まで	1 期
委 員 (教育長職務代理)	紅 林 由紀子	平成29年6月24日から 令和3年6月23日まで	5 期
委 員	石 川 隆 俊	平成30年12月25日から 令和4年12月24日まで	5 期
委 員	氏 井 初 枝	平成28年4月1日から 令和2年3月31日まで	1 期
委 員	白 川 宗 昭	平成31年4月8日から 令和5年4月7日まで	2 期

2 教育委員会事務事業を主管する組織

教育委員会

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
学 校 教 育 部	庶務課	庶務係	・教育委員会の会議に関すること。 ・条例、規則及び規程に関すること。 ・予算及び経理に関すること。 ・事務局及び課内庶務に関すること等
		施設係	・教育施設の建設計画に関すること。 ・教育機関の設置、管理及び廃止の手續に関すること。 ・教育施設の新営工事及び維持修繕工事に関すること。 ・教育施設関係の補助金に関すること等
	指導課	学務係	・学齢児童及び学齢生徒の就学並びに児童生徒及び幼児の入 学、転学及び退学に関すること。 ・通学区域に関すること。 ・学級編制に関すること。 ・児童及び生徒に係る就学奨励に関すること等
		教職員係	・教職員の任免の内申その他人事に関すること。 ・教職員の服務に関すること。 ・教職員の給与、旅費、退職手当等に関すること。 ・教職員の福利厚生に関すること等
		指導係	・指導事務予算に関すること。 ・教育計画事業の推進に関すること。 ・教科書採択に関すること。 ・教育振興基金に関すること等
		特別支援 教育係	・特別支援教育の推進に関すること。 ・教育相談及び適応指導に関すること。 ・就学、転学等の相談に関すること。 ・巡回相談に関すること等
		指導主事	・教育課程編成、実施に関すること。 ・教育施策の企画、実施に関すること。 ・校内研究等、教職員の研修に関すること。 ・学校教育に関する専門的事項の指導に関すること。

部	課	係	主 な 分 掌 事 務
学校教育部	学校給食課	庶務係	・学校給食の計画に関すること。 ・配送に関すること。 ・学校給食運営審議会に関すること。 ・業者登録に関すること等
		収納係	・学校給食費に関すること。 ・給食物資の支払いに関すること。
		共同給食係	・学校給食共同調理場において調理される学校給食に係る次の事務に関すること。 (1) 献立に関すること。 (2) 調理に関すること。 (3) 食品の管理に関すること。 (4) 衛生管理に関すること等
		給食施設整備担当	・学校給食の施設整備に関すること。
生涯学習部	社会教育課	社会教育係	・社会教育及び生涯学習の総合調整に関すること。 ・社会教育及び生涯学習に係る行政相談に関すること。 ・社会教育関係団体の育成及び援助に関すること。 ・市史及び文化財の保護、調査に関すること等
	教育福祉総合センター建設室		・教育福祉総合センターの建設に関すること。
	スポーツ振興課	スポーツ振興係	・スポーツ推進委員に関すること。 ・生涯スポーツの推進に関すること。 ・関係団体との連携及び協働に関すること。 ・スポーツの指導者の研修に関すること。 ・総合スポーツセンターの管理及び運営に関すること等
	市民図書館管理課	管理係	・指定管理業務の評価・モニタリングに関すること ・図書の購入及び廃棄の決定に関すること。 ・学校等市内関係機関及び団体との連携調整に関すること。 ・図書館協議会に関すること。
	市民会館・公民館	管理係	・市民会館・公民館の施設及び設備の維持管理に関すること。 ・市民会館・公民館の利用承認並びに使用料の徴収、付属設備等の使用料の免除及び還付に関すること。 ・市民会館・公民館の庶務に関すること。 ・市民会館の自主文化事業に関すること等
		事業係	・公民館運営審議会の処務に関すること。 ・各対象別、課題別講座等の開設に関すること。 ・討論会、展示会、音楽会、美術展その他の集会に関すること。 ・公民館事業に係る情報収集及び提供に関すること等

3 教育委員会の会議における審議内容一覧

(1) 総合教育会議（企画政策課所管）

会議名 (開催日)	議 題
第1回（令和2年3月19日） 傍聴者なし	・新型コロナウイルス感染症における今後の課題等について

(2) 定例会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第4回 (平成31年 4月18日) 傍聴者5名	議 案	な し
	協議事項	な し
	報告事項	・昭島市教育委員会教育長職務代理者について ・平成31年度小学生英語チャレンジ体験事業及び中学生英語キャンプ事業の実施について ・昭島市教育委員会事務局処務規則の一部を改正する規則 ・昭島市教育委員会事務局の標準的な職を定める規程を定める訓令 ・昭島市教育委員会文書管理規程の一部を改正する訓令 ・昭島市立学校文書取扱規程の一部を改正する訓令 ・昭島市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令 ・昭島市教育委員会職員被服等貸与規程の一部を改正する訓令 ・昭島市民図書館に勤務する職員の勤務を要しない日、勤務時間の割振り等に関する規程を廃止する訓令 ・昭島の教育だより発行に関する要綱等の一部改正について ・平成31年度昭島市立学校教職員異動の概要について ・平成31年度昭島市立小・中学校学級編制の状況について ・平成30年度指定校変更・区域外就学の処理状況について ・令和2年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択方法について ・平成31年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・平成30年度就学支援の状況について ・昭島市公立学校副校長の配置について ・昭島市教育福祉総合センター及び昭島市民図書館の管理に関する年度協定について ・昭島市教育福祉総合センター指定管理者モニタリング・評価実施要領について ・その他11件
第5回 (令和元年 5月16日) 傍聴者2名	議 案	・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について ・令和元年度昭島市青少年教育協力者感謝状被贈呈者について
	協議事項	な し

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第5回 (令和元年 5月16日) 傍聴者2名	報告事項	・昭島市立小学校学校薬剤師の委嘱について ・平成30年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）年度末評価の結果について ・令和元年度昭島市立学校学校経営重点計画（教育推進計画）について ・昭島市就学支援委員会委員の委嘱について ・昭島市転学・入級判定委員会委員の委嘱について ・昭島市難聴・言語障害通級指導学級入退級判定委員会委員の委嘱について ・その他3件
第6回 (6月21日) 傍聴者7名	議 案	・昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について
	協議事項	な し
	報告事項	・昭島市教育委員会就学援助費支給要綱の一部改正について ・昭島市立中学校学校歯科医の委嘱について ・令和元年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について ・令和元年度昭島市青少年教育協力者感謝状被贈呈者（追加）について ・教育福祉総合センターの愛称について ・市民プール・拝一小プールの開設について ・昭島市民図書館の運営状況について ・その他4件
第7回 (7月18日) 傍聴者6名	議 案	・昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について ・昭島市民図書館協議会委員の委嘱について
	協議事項	な し
	報告事項	・昭島市教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する学識経験者の委嘱について ・令和元年度昭島市一般会計第1号補正予算＜教育委員会関係＞について ・令和元年度昭島市学力調査（小学校第4学年・中学校第1学年）結果について ・「未来をひらく」発表会の実施について ・平成30年度昭島市学校給食費会計決算報告について ・昭島市新春駅伝競走大会実施要綱について ・昭島市新春駅伝競走大会実行委員会設置規程について ・その他4件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第 8 回 (8 月 8 日) 傍聴者 34 名	議 案	・ 令和 2 年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について
	協議事項	な し
	報告事項	・ 令和元年度昭島市小学生英語チャレンジ体験事業及び昭島市中学生英語キャンプ事業の実施報告について ・ 第66回昭島市民体育大会について ・ 昭島市公民館主催事業について
第 9 回 (9 月 20 日) 傍聴者 4 名	議 案	・ 昭島市立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する条例施行規則の一部を改正する規則 ・ 昭島市学校給食費会計規則の一部を改正する規則
	協議事項	・ 昭島市教育委員会の事務事業に関する点検及び評価報告書（平成30年度分）について
	報告事項	・ 令和元年度昭島市一般会計第2号補正予算＜教育委員会関係＞について ・ 昭島市給付型奨学金制度の募集について ・ 第65回昭島新春駅伝競走大会について ・ スポーツ施設の改修工事等について ・ 子どもラグビー体験教室及びラグビーワールドカップ2019パブリックビューイングの開催について ・ 昭島市民文化祭の開催について ・ その他10件
第10回 (10月25日) 傍聴者 4 名	議 案	・ 昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・ 昭島市奨学金等支給条例に基づく奨学生の決定について（非公開）
	協議事項	・ アキシマエンス開館後の市民図書館つつじが丘分室について
	報告事項	・ 令和元年度全国学力・学習状況調査の結果について ・ 令和元年度東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）の結果について ・ 令和元年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の実施について ・ その他 8 件
第11回 (11月21日) 傍聴者 10 名	議 案	・ 令和 2 年度昭島市立学校における教育課程編成基準について
	協議事項	な し
	報告事項	・ 令和元年度昭島市学校給食費会計上半期報告について ・ アキシマエンスに関わる今後の予定について ・ 昭島市教育福祉総合センター条例の一部を改正する条例について ・ その他 4 件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第12回 (12月12日) 傍聴者11名	議 案	・昭島市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則
	協議事項	・令和元年度昭島市立学校卒業式における告辞及び令和2年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について
	報告事項	・令和元年度校長職選考、教育管理職選考、4級職選考、主任選考結果について（非公開） ・教育委員と市立小中学校長との情報交換会について ・昭島市立学校職員服務規程の一部を改正する訓令について ・令和元年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都）」の結果について ・令和元年度学校給食食育展示の開催について ・アキシマエンス連絡会議要綱について ・その他3件
第1回 (令和2年 1月16日) 傍聴者5名	議 案	・昭島市立学校施設設備使用条例の一部を改正する条例の経過措置に係る期日を定める規則 ・昭島市公立学校学区に関する規則の一部を改正する規則 ・昭島市教育福祉総合センター条例の一部の施行期日を定める規則 ・昭島市民図書館条例の一部を改正する条例の施行期日を定める規則
	協議事項	・令和元年度昭島市立学校卒業式における告辞及び令和2年度昭島市立学校入学式におけるお祝いの言葉について ・成年年齢引き下げによる成人式について
	報告事項	・昭島市実施計画（令和2年度～令和4年度）〈教育委員会関係〉について ・令和元年度「昭島市立学校の児童・生徒及び保護者アンケート」の調査結果について ・その他2件
第2回 (2月14日) 傍聴者6名	議 案	・令和2年度昭島市立学校校長等の任用に関する内申について（非公開）
	協議事項	な し
	報告事項	・令和元年度昭島市一般会計第3号（専決）補正予算及び第4号補正予算（案）〈教育委員会関係〉について ・令和2年度教育施策推進の基本的考え方について ・令和元年度東京都教育委員会職員表彰について ・平成30年度昭島市立学校におけるいじめ、不登校、暴力行為の状況について ・学校給食共同調理場の整備について ・昭島市教育福祉総合センター条例施行規則について ・昭島市民会館・公民館におけるTwitterの利用開始について ・昭島市民会館ネーミングライツ・パートナーの継続について ・その他7件

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第3回 (3月19日) 傍聴者4名	議案	・昭島市教育委員会表彰被表彰者について ・昭島市立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則 ・昭島市教育センター設置及び運営に関する規則 ・昭島市教育相談室設置規則の一部を改正する規則 ・昭島市適応指導教室設置規則の一部を改正する規則 ・令和2年度昭島市立学校の教育課程の受理について ・昭島市青少年委員の委嘱について ・昭島市スポーツ推進委員の委嘱について
	協議事項	なし
	報告事項	・新型コロナウイルス感染症における市の対応について ・昭島市教育委員会職員被服等貸与規程の一部を改正する訓令について ・令和2年度昭島市一般会計予算＜教育委員会関係＞について ・令和2年度予算編成に対する昭島市議会各会派からの要望等＜教育委員会関係＞について ・令和2年度昭島市立学校校長・副校長等の一覧について（非公開） ・令和元年度昭島市立中学校における進路決定の状況について ・昭島市立小中学校の学校医及び学校薬剤師の委嘱について ・令和2年度昭島市学校給食費会計予算について ・臨時休校に伴う学校給食費の返金について ・その他1件

(3) 臨時会

会議名 (開催日)	議案等	内 容
第1回 (2月28日)	協議事項	・新型コロナウイルス感染症に関する対応について
第2回 (3月23日)	協議事項	・新型コロナウイルス感染症に関する今後の対応について

4 教育委員会委員の主な活動

事業名	実施日	場所
校長辞令伝達式	平成31年 4月1日	市民ホール
昭島市教育委員会表彰式（平成30年度第2回）	4月7日	市民ホール
小学校入学式	4月8日	各小学校
中学校入学式	4月9日	各中学校
東京都教育施策連絡会	4月16日	中野サンプラザ
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事会	4月24日	東京自治会館
教育委員会学校訪問（第1回）	令和元年 5月16日	東小学校、富士見丘小学校
東京都市町村教育委員会連合会定期総会	5月17日	東京自治会館
昭島市体育協会評議委員会（総会）	5月27日	市民ホール
昭島市租税教育推進協議会定期協議会	5月30日	市役所301会議室
関東甲信越静市町村教育委員会連合会総会、研修会	5月31日	山梨県北杜市
昭島市立公立小学校PTA協議会総会	6月7日	市民ホール
昭島市立公立中学校PTA協議会総会	6月24日	市民ホール
東京都市教育長会研修会	7月22日	東京自治会館
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事会及び第1回理事研修会	8月9日	東京自治会館
第66回昭島市民体育大会開会式	9月8日	KOTORIホール
「未来をひらく」発表会	9月14日	市民ホール
小学校音楽鑑賞教室	9月18日	KOTORIホール
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修	10月11日	群馬県富岡市 （※台風19号接近のため中止）
昭島市民文化祭	10月13日～ 11月3日	KOTORIホール・公民館
市民スポーツ・レクリエーションフェスティバル2019	10月14日	昭和公園内運動施設 （※台風19号のため屋外種目中止）
東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会	10月24日	府中市学校給食センター
教育委員会学校訪問（第2回）	10月25日	拝島第二小学校、清泉中学校
東京都市町村教育委員会連合会第1ブロック研修会	10月28日	都民の森 （※台風19号被害のため中止）
昭島市教育委員会表彰式（令和元年度第1回）	11月3日	市民ホール
小学校音楽会	11月7日	KOTORIホール
昭島市教育懇談会	11月8日	市民ホール
2019青少年フェスティバル	11月24日	KOTORIホール・公民館

事業名	実施日	場所
税の作文・標語表彰式	12月13日	市長応接室
令和2年昭島市まちづくり新年賀詞交歓会	令和2年 1月9日	フォレスト・イン昭和館
第65回新春駅伝競走大会	1月12日	昭和飛行機工業南工場～いちょう並木～昭和飛行機工業南工場
第66回成人式	1月13日	フォレスト・イン昭和館
東京都市町村教育委員会連合会第3回理事会及び第2回理事研修会	1月14日	東京自治会館
市立小中学校長との情報交換会	1月16日	市民交流センター
特別支援学級合同学習発表会	1月18日	KOTORIホール
第59回新春たこあげ大会	1月19日	(※台風19号の影響により中止)
小学校展覧会	1月24日～ 26日	公民館
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	2月4日	狛江市役所
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月7日	東京自治会館
第8回昭島市自治会ブロック対抗スポーツ大会	3月15日	総合スポーツセンター (※コロナウイルス感染拡大防止のため中止)
中学校卒業式	3月18日	各中学校 (※縮小開催により来賓出席せず)
小学校卒業式	3月25日	各小学校 (※縮小開催により来賓出席せず)

5 教育委員会委員の研修

事業名	実施日	場所	内 容
関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会研修会	令和元年 5月31日	女神の森 セントラル ガーデン（山梨 県北杜市）	・行政説明 文部科学省 ・記念講演 演題「人生100年時代を見据えた高等教育の 在り方」 講師 金田一 真澄 氏
東京都市教育長会研修会	7月22日	東京自治 会館	演題 「三つ子の魂百までー学校健診情報の 活用による一生を通じた健康増進とライ フコースデータの実現にむけてー」 講師 京都大学教授 川上 浩司 氏
東京都市町村教育委員会連合会第1回理事研修会	8月9日	東京自治 会館	演題 「「持続可能な社会の創り手」に必要な 資質・能力を育成するための教育活動の 改善・充実」 講師 東京都多摩教育事務所 指導課長 榎並 隆博 氏
東京都市町村教育委員会連合会管外視察研修	10月11日	群馬県 富岡市	（※台風19号接近のため中止） ・世界遺産 「富岡製糸場」（群馬県富岡市） ガイドツアー ・【上武絹の道マイスター講座】 講演「世界遺産登録が地域にもたらしたもの ～絹産業の“再発見”と再生へのみちのり～」 講師 世界遺産マイスター 佐滝 剛弘 氏
東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会	10月24日	府中市学 校給食セ ンター	・府中市学校給食センター 施設見学 ・講演 「学校での突然死を防ぐために教育委 員会ができることーアレルギーを含め て対応体制を考えるー」 講師 医療法人社団崎山小児科 院長 崎山 弘 氏
東京都市町村教育委員会連合会第1ブロック研修会	10月28日	檜原村 都民の森	（※台風19号被害のため中止） ・森林セラピーロード体験
東京都市町村教育委員会連合会第2回理事研修会	令和2年 1月14日	東京自治 会館	演題 「教育行政の現状と課題」 講師 東京都多摩教育事務所 所長 松尾 正純 氏
東京都市町村教育委員会連合会第4ブロック研修会	2月4日	狛江市役 所	講演 「学校現場におけるハラスメント防止に ついて」 講師 公益財団法人 21 世紀職業財団 客員講師 上村 美由紀 氏
東京都市町村教育委員会連合会研修会	2月7日	東京自治 会館	演題 「医療的ケアがあっても安心して暮ら し、学びたい」 講師 国立成育医療センターもみじの家 ハウスマネージャー 内多 勝康 氏

第3章 主要施策の点検及び評価

第2次昭島市教育振興基本計画（平成27年度～32年度実施）

プラン1	確かな学力の定着
プラン2	豊かな心の醸成
プラン3	健やかな体の育成
プラン4	輝く未来に向かって
プラン5	生涯学習の推進

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 1 学習指導要領の確実な定着

子ども一人一人に学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるために、子どもの学習意欲の向上や学習規律の確立を図ることは重要です。また、子どもの特性や習熟の程度に応じた学習集団を編成したり、指導体制や指導方法を工夫したりするなど、個に応じた教育を推進することは大切です。

そのためには、小学校4年生から中学校3年生で実施する学力調査の結果を分析し、その結果から「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的改善を図らなければなりません。

また、それらの目的を達成するために、教職員は常に研究と修養に努め、その指導力を高めることが求められています。

【施策の取組状況】

- (1) 教職員の指導力の向上
- (2) 授業改善の推進
- (3) 個に応じた指導の充実
- (4) 子どもの実態に合った教科用図書の採択と副読本の作成
- (5) 教職員のサービスの充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	教職員の研修 の充実 【指導課】	主任・主幹教諭の研修、加えて副校長・校長の研修などについて、職層に応じた研修の実施やOJTの充実を図ります。	職層に応じて、4月に校長、新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長、8月に主任教諭2年目を対象とした研修を実施しました。
1-(1)	若手教員の育成 【指導課】	初任者から3年次までの教員の指導力を育成するための研修を実施します。	初任者研修では「教員が身に付けるべき4つの力の育成」を主なテーマに10回、2年次研修では「学習指導力、生活指導力・進路指導力の育成」を主なテーマに3回、3年次研修では「外部との連携・折衝力、学校運営力・組織貢献力の育成」を主なテーマに2回行いました。初任者研修は29人、2年次研修は17人、3年次研修は25人の教員が修了しました
1-(1)	教育研究会 との連携 【指導課】	教育委員会は、教員が研究を行っている小学校教育研究会・中学校教育研究会と連携し、指導力の向上を図ります。	小学校教育研究会は年8回、中学校教育研究会は年7回の研修会を開催し、授業研究を中心に指導力の向上を図りました。
1-(1)	教育委員会研究 指定校制度の活用 【指導課】	様々な教育課題や施策推進に対しての研究を推進する学校を指定し、全校で共有し、教育活動を推進します。	東小学校が「新学習指導要領のねらいに沿った算数科指導の在り方」、田中小学校が「新学習指導要領における理科教育の在り方について（理論と実践）」、中神小学校が「プログラミング教育」について研究し、研究発表会や紙上発表を行いました。
1-(1)	教員における リーダー層の育成 【指導課】	校長・副校長への人材発掘をはじめ、有望な若手教員への研修への積極的なアプローチを行い、リーダー層を育成します。	主任教諭2年目以上の教員を対象とした学校マネジメント講座を実施し、ミドルリーダーとしての意識や役割、授業改善の方法について研修を行いました。10名の教員が受講しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(2)	学力調査の実施 【指導課】	子どもの学力向上を図るために小学校4年生と中学校1年生で市独自の調査を実施します。また、国の調査を小学校6年生と中学校3年生で、都の調査を小学校5年生と中学校2年生で実施し、授業改善の指標とします。	全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査及び市学力調査の教科別平均正答率については、〔表1〕から〔表3〕のと通りの結果でした。校長会、副校長会、教務主任会で詳細な結果分析を伝え、各学校における授業改善推進プランに活かすことや、今後の学力向上のための取り組み方法について指導しました。特に授業改善推進プランについては、学校全体で活用するように指導しました。また、学力調査で課題のあった問題を集めた確認問題集を作成し、各学校に配布しました。各校は、この問題集を活用して指導を行いました。
1-(2)	授業改善推進 プランの作成・活用 【指導課】	各学力調査の結果を学校ごとに分析し、「授業改善推進プラン」を作成し、授業の質的向上を図るとともに、子どもの学力の定着を図ります。	全校が全教科で授業改善推進プランを作成し指導に活かしました。また、指導課訪問等で指導主事が授業改善推進プランの実施状況の効果・確認等を行うとともに指導・助言を実施しました。
1-(2)	学力向上推進 委員会での研究 【指導課】	小・中学校の学力向上のための方策について検討し、推進する委員会を実施、子どもに確かな学力を身に付けさせます。	学力向上に係る取組については、学校運営の中核を担う教務主任の役割が大きいことから、年6回の教務主任会において、カリキュラム・マネジメントの取組について、各学校が発表し、協議を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(2)	学習規律の徹底 【指導課】	授業内容の定着をより図るために、子どもたちに学習に取り組む規準を示し、徹底を図ります。	小中一貫教育の取組において小中学校でまとめた学習規律について、教務主任会の分科会において実施状況を確認し、必要に応じて各校で改善しました。
1-(3)	習熟度別指導等の実施 【指導課】	少人数習熟度別学習など、子どもの実態に合わせた指導を実施するとともに、各学校の教員が集まり効果的な指導法を検討します。	小学校では、主に第3学年以上の算数、中学校では数学・英語において少人数習熟度別学習を実施しました。また、指導課職員及び指導主事が定期的に訪問し、指導内容・方法について、指導・助言を行いました。
1-(3)	東京ベーシック・ドリルの活用 【指導課】	小学校第4学年までに習得すべき基礎的・基本的な内容のドリルを活用し、一人一人の子どもに応じた指導を行います。	東京ベーシック・ドリルをデータで各小学校に配布し、各学校での活用を促しました。小学校土曜補習事業全体でも活用しました。
1-(3)	土曜日・放課後補習の実施 【指導課】	学校と教育委員会が連携して、土曜日や放課後等に子どもの学習状況に応じて補習を行い、確かな学力の定着を図ります。	全小中学校等において、土曜日補習を延べ1,795時間、88名の指導員で実施しました。土曜日補習教室では、主任指導員・指導員による指導体制により基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りました。全中学校を対象とした英検対策講座を指導課主催により市役所にて4回実施しました。放課後補習は、延べ831時間、37名の指導員で実施しました。各学校の1回あたりの平均参加児童・生徒数は約28名でした。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(4)	教科用図書の採択 【指導課】	昭島市の小・中学校で使用する教科用図書が子どもの実態に合ったものとなるよう選定資料を作成し、教育委員会で適正に採択します。	8月の定例教育委員会において採択を適正に実施しました。令和2年度から小学校では新学習指導要領全面実施のため、全教科の教科用図書について、新たに採択を実施しました。中学校の通常の学級で使用する教科用図書については、平成27年度に作成した教科書図書選定資料を基に採択を実施しました。また、特別支援学級で使用する教科用図書についても、採択を実施しました。
1-(4)	社会科副読本の編集・作成 【指導課】	昭島市のことについて学ぶ、「わたしたちの昭島市」を作成し、小学校3・4年生の社会科の学習で活用します。	「わたしたちの昭島市」1,003冊を市内第3学年児童に配布しました。また、次回改訂に備え、小学校社会科副読本作成委員会を5回開催し、新学習指導要領に対応した副読本を目指し、内容の改善について検討しました。
1-(5)	子どもと触れ合う時間の確保 【指導課】	教員が子どもと触れ合う時間を確保するために、業務の効率化や削減を行います。また、ワーク・ライフ・バランスを考えた職場環境の充実に努めます。	授業準備等の補助をする学級事務補助支援員として、スクール・サポート・スタッフを全小中学校に配置しました。
1-(5)	教職員のサービスの徹底 【指導課】	体罰の根絶など、教職員の服務事故防止に向けた研修を実施し、サービスの徹底を図ります。	全小中学校において年2回以上の全教職員悉皆の服務事故防止研修を実施し、サービスの徹底を図りました。また、啓発用チラシを作成し、教員一人一人に配布することで、自己啓発を促しました。

〔表 1〕

〈全国学力・学習状況調査〉

調査対象：全小学校 6 年生及び全中学校 3 年生

実施日：平成31年 4 月18日

		教科別平均正答率			
小 学 校	教 科	国語	算数		計
	国平均	63.8	66.6		130.4
	昭島市	63.0	66.0		129.0
中 学 校	教 科	国語	数学	英語	計
	国平均	72.8	59.8	56.0	188.6
	昭島市	71.0	56.0	55.0	182.0

〔表 2〕

〈東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査〉

調査対象：全小学校 5 年生及び全中学校 2 年生

実施日 令和元年 7 月 4 日

		教科別平均正答率					
小 学 校	教 科	国語	社会	算数	理科		計
	都平均	67.0	66.3	60.0	56.6		249.9
	昭島市	61.7	62.3	54.9	53.6		232.5
中 学 校	教 科	国語	社会	数学	理科	英語	計
	都平均	71.9	51.1	54.5	49.5	57.5	284.5
	昭島市	70.7	48.7	51.6	47.2	56.2	274.4

〔表 3〕

〈市独自の児童・生徒の学習状況を把握するための調査〉

調査対象：全小学校 4 年生及び全中学校 1 年生

実施日：平成31年 4 月11日

		教科別平均正答率		
小 学 校	教 科	国語	算数	計
	国平均	70.2	74.9	145.1
	昭島市	69.5	72.7	142.2
中 学 校	教 科	国語	数学	計
	国平均	68.8	69.7	138.5
	昭島市	68.9	69.2	138.1

【主な課題】

(a) 教員の研修について

新学習指導要領に明記されている「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善について研修を深めることや、指導と評価の一体化を図っていくことが今後も必要である。授業改善に向けて研修を行うことや、経験年数に応じた効果的な研修を行っていくことが今後も必要である。

(b) 児童・生徒の学力向上について

各種学力調査の結果では、全国や都の平均正答率を下回る状況である。基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、学習したことを活用したり、応用して考えたりする能力を身に付けさせることが必要である。各学校の児童・生徒の実態及び個に応じた指導の充実を図っているが、より一層の教員の授業力向上が必要である。

(c) 学力調査の活用について

各学校が調査結果を分析・作成した授業改善推進プランを活用した授業に取り組むとともに、昭島市の実態として児童・生徒の理解が十分ではない問題を確認問題集として作成し配布しているが、今後も継続した取組が必要である。

(d) 学校の働き方改革について

教員が時間をかけたいと考えている子どもとの触れ合い、教材研究の時間の確保及び教員の長時間勤務の解消のためにも学校の働き方改革は喫緊の課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 教員の研修について

今後も新学習指導要領の趣旨に基づいた内容を指導課主催の研修に取り入れていく。若手教員育成研修の内容を充実させるとともに主任教諭任用時研修や主幹教諭任用時研修等において研修内容に人材育成の観点を取り入れ、教員の資質向上を図る。

(b) 児童・生徒の学力向上について

教員の授業力向上が図れるように中学校1校をモデル校として、大学教授等から助言を受けられる「授業力向上アドバイザー事業」を実施する。他校においても指導課訪問等において教員の授業力向上を焦点にした取組を進められるように指導・助言を行う。

学習の定着に課題のある児童・生徒の指導の充実については、今後も習熟度別少人数指導、学習支援員等を活用した個別指導、土曜日・放課後補習教室を有効活用しながら、学習内容の定着を図る。

(c) 学力調査の活用について

学力調査の結果等から、各教科の重点課題を一つに絞り、授業改善推進プランを作成する。授業改善推進プランに基づいた取組や学力向上に効果のあった取組について教務主任会で発表・協議し、各学校のレベルアップを図る。

学力調査の結果分析に基づいた確認問題集を引き続き作成し、各学校で活用していくよう教務主任会等で説明を行う。

(d) 学校の働き方改革について

「学校の働き方改革実施プラン」に基づき、教職員の心身の健康保持やライフ・ワーク・バランスの取れた生活を実現するとともに、教職員が子どもと向き合う時間を十分に確保し、学校教育活動の質の維持向上を図れるようにする。そのために、スクール・サポート・スタッフや部活動指導員等を積極的に活用して教員の業務軽減を図れるようにする。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 2 理数教育の充実

学術研究や科学技術の分野において、世界で活躍する人材を育成するためには、その土台である理数教育の充実を図る必要があります。科学に関する基礎的な素養を身に付けるとともに、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を評価して表現したり、帰納的な考え方や演繹的な考え方を活用したりするなど、思考力・判断力・表現力の育成に向けた指導内容の充実を図ります。

また、観察・実験において子どもの学習意欲を高めるよう教員研修を実施します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2	理科実技実験研修 の実施 【指導課】	小学校若手教員を対象に理科の実験に関する研修会を実施し、模擬授業を実践するとともに、実験の演習を通じて指導力の向上を図ります。	各校の理科教育推進教員（若しくは推薦者）が東京都理科教育推進研修に参加し、校内のOJT研修で各教員に内容を伝達しました。
2	理数フロンティア 事業 【指導課】	東京都から指定された理数フロンティア校における実践を市内小・中学校に広めるとともに、様々な教材を提供します。	平成 26 年度で東京都の理数フロンティア事業が終了し、理科教育カンファレンスに移行しました。

【主な課題】

(a) 理数教育について

子どもの理科離れを防ぐために、今後も教員が理科指導の能力を身に付ける必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 理数教育について

理科の観察や実験において、子どもの学習意欲を高めるように東京都教職員研修センターで実施している教科等・教育課題研修の積極的な受講を促す。また、理科教育推進教員を全小学校に配置する。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 3 読書活動の推進と言語能力の育成

各校で「学校図書館活用計画」を作成し、学校図書館担当教員、司書教諭、学校司書及びボランティアなどが連携し、子どもの読書活動を一層推進します。

また、学校図書館と市民図書館の連携を強化するとともに、子どもに読書活動を通して考える力や豊かな感性、情緒などを身に付けさせ、人間力の基礎となる「言語力」の育成を図ります。

東京都から指定された、言語能力向上拠点校を中心とした取り組みを、学力向上推進委員会を通じて広めます。

【施策の取組状況】

- (1) 読書活動の推進
- (2) 司書の専門性の活用
- (3) 言語能力の育成

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(1)	全校一斉朝読書 の実践 【指導課】	市内全校で朝読書を実施し、言語能力の向上を図るとともに、豊かな感性や思いやりの心をはぐくみます。	小学校は、学期毎に1週間程度、読書週間の取組の一環として実施しました。中学校は年間を通して、実施しました。
3-(1)	読み聞かせの実践 【指導課】	学級担任や上級生、ボランティア等による「読み聞かせ」を実施し、読書への関心を高めます。	全小学校で図書ボランティアや上級生が読み聞かせを行いました。
3-(1)	学校図書館 の蔵書の充実 【庶務課】	子どもに親しまれる図書や調べ学習に役立つ図書資料の充実に努めます。	古い図書等の整理を行い、各学校の予算の範囲内で図書を購入しました。その結果、学校図書館図書標準に対する蔵書率は、小・中学校全校で100%を超え、全体として小学校は147%、中学校は116%となっています。
3-(1)	学校図書館 の利用促進 【指導課】	学校図書館の利用促進を図るための指導を行います。	読書活動全体計画、年間指導計画を作成し、国語、総合的な学習の時間、社会科等を中心に活用を促進しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(2)	学校司書の派遣と 図書ボランティア による活動の推進 【指導課】	学校司書を派遣し、学校図書館の充実を図るとともに、図書ボランティアの育成を図り、学校における読書活動を推進し、子どもの豊かな感性や情緒を身に付けさせるとともに、言語能力を育成します。	小中学校全校に司書教諭を配置し、各学校に司書資格のある支援員を年間 45 日派遣するとともに、図書ボランティアを活用して読書活動の充実を図りました。
3-(2)	学校図書館管理 システムの活用 【指導課】	学校図書館管理システムの活用を図り、子どもたちの読書傾向を分析し、図書購入の資料とするとともに、言語能力育成に生かします。	学校図書館管理システムから各分野の蔵書割合を算出し、バランスのとれた図書購入を行いました。読書活動でのお勧めの本の他に総合的な学習の時間や社会科等の調べ学習において必要な資料等、子どものニーズに合った本をそろえました。
3-(3)	言語能力向上 拠点校の取組 【指導課】	拠点校において、伝統的な言語文化の理解や社会生活に役立つ言語の技能及びコミュニケーション能力の育成についての研究に取り組み、その成果を広めます。	東京都教育委員会言語能力向上拠点校の事業が平成 28 年度で終了しました。新学習指導要領の理解を深めるにあたり、今後も言語活動の充実を継続できるように指導・助言を行いました。
3-(3)	子どもの主張意見 文コンクールの 開催 【指導課】	「青少年とともにあゆむ都市宣言」に基づき、自分の思いを発表する意見文コンクールを開催します。	小中学校全校で取り組み、自己とのかかわりを見つめ、これからの昭島について考えたことを表現しました。応募数は 1,999 点。2 回の委員会を開催し、小中各 15 点の入選作品を選定しました。コンクールには、126 名の参観がありました。

【主な課題】

(a) 読書活動について

子どもの活字離れを防ぐためにも、学校における読書活動の充実が必要である。

(b) 学校図書館運営業務の人材の確保について

司書資格を持っている学校図書館支援員（委託業務）の配置日数を年45日に増加したが、今後も人材確保が課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 読書活動について

読書活動全体計画に基づき、国語の時間に加え、朝の時間・休み時間・放課後等の授業以外の時間を活用して、計画的に読書活動を充実させる。

(b) 学校図書館運営業務の人材の確保について

学校図書館支援員の配置日数について年45日を維持し、地域人材による図書ボランティアの募集を積極的に行う。

プラン1 確かな学力の定着

主要施策 4 個に応じた支援の充実

発達障害を含めた特別な支援を必要とする子どもをトータルな面から支援する体制を整え、子どもの一人一人の教育ニーズを把握し、もてる力を高め、生活や学習の困難を改善・克服するための特別支援教育を推進します。

また、不登校傾向にある子どもに適応指導教室における支援を行うことや、教育に関する悩みがある保護者が相談しやすいよう相談体制を充実します。

【施策の取組状況】

- (1) 特別支援教育の充実
- (2) 不登校への対応・適応指導の充実
- (3) 教育相談体制の充実
- (4) 就学援助等による支援

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	推進体制の整備 【指導課】	自閉症・情緒障害特別支援学級を開設し、子どもが必要としている支援に応じた教育を行います。	平成 31 年 4 月より富士見丘小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」を開設しました。
4-(1)	教育内容の充実 【指導課】	通級指導学級における教育課程や個別の教育支援計画の充実を図ります。また、交流や共同学習を実践します。	自閉症・情緒障害特別支援学級、情緒障害等通級指導学級担当教員及び特別支援教室巡回指導教員を対象とした情緒障害学級部会、知的障害特別支援学級担当教員を対象とした特別支援学級部会を年間各 3 回開催し、教育課程の内容の充実や授業研究等を通して研修を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	人材の育成 【指導課】	すべての教員が特別支援教育に携わることから、研修を実施するとともに、教育内容を充実します。	「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を 250 冊発行し、全教員に配布しました。各学校へ訪問し、全教員に対して、教室環境・学習環境・授業に関して具体的に指導しました。
4-(1)	特別支援教育関係機関との連携 【指導課】	エリア・ネットワークを活用し、都立あきる野学園などの関係機関との連携を図るとともに「居住地交流」や「副籍交流」を活性化し、特別支援教育を推進します。	「居住地交流」及び「副籍交流」について、児童・生徒の障害の程度に応じた交流内容を保護者等と協議して実施しました。
4-(1)	特別支援教育の啓発活動の推進 【指導課】	特別支援教育について多くの方に理解していただくために、説明会や研修会を定期的に実施します。	特別支援教育市民説明会を年 2 回実施して、市民の方に発達障害の特性についての講演会を行いました。内 1 回は子ども育成課と連携して共同開催で実施しました。参加者は延べ 224 名でした。
4-(1)	情緒障害等通級指導学級での指導の充実 【指導課】	情緒障害等通級指導学級に指導員を配置し、子どもへの指導を充実させるとともに、通級指導学級の担任が子どもの在籍校を巡回指導します。	情緒障害等通級指導学級に 2 人の指導員を配置しました。通級指導学級の担任は、学期始めを中心に在籍校の巡回指導を実施しました。
4-(1)	特別支援学級の開設 【指導課】	支援を必要とする子どもに対して、個に応じた指導が充実できるよう、特別支援学級を開設します。	令和元年度より富士見丘小学校に自閉症・情緒障害特別支援学級の「さくら学級」を開設しました。全学年で 20 名の児童が在籍しています（平成 31 年 4 月 1 日現在）。
4-(2)	適応指導教室の指導体制と指導内容の充実 【指導課】	適応指導教室における指導体制と指導内容を充実し、不登校傾向にある子どもが学校復帰できるよう支援します。	適応指導教室には、小学生 11 名、中学生 12 名が通室しました。通室児童・生徒に対して、個別指導を継続的に行い、学校復帰及び上級学校への進学を目指しました。（※適応指導教室児童・生徒在籍状況については〔表 4〕のとおり）

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	学校と家庭の 連携推進事業 【指導課】	不登校・いじめなどの生活指導の課題に対応するため、支援員を配置し、地域や学校の実態にあった取組を行います。	全校に学校と家庭の連携支援員を配置し、登校時の家庭訪問や登校後の子どもへの個別指導により、不登校傾向の子どもに支援を行いました。(※児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸課題（不登校）に関する調査については〔表5〕のとおり)
4-(3)	窓口を一本化した 相談体制の充実 【指導課】	特別支援教育を含め、学校教育に関しての相談について、窓口を一本化し、充実した相談活動を行います。	学務係が窓口対応を行い、相談内容によって各担当係に振り分ける体制を構築しました。
4-(3)	適切な就学 【指導課】	子どもが適切な教育を受けることができるよう就学相談を実施します。	特別支援教育係が年間を通して、随時、就学相談を受け、円滑に就学支援委員会（年 12 回開催）につなげる体制をとりました。
4-(3)	スクールカウンセラーの配置 【指導課】	子どものみならず保護者の相談に応じるために、全校にスクールカウンセラーを配置します。	スクールカウンセラーを全校に配置し、子ども・保護者の相談に応じました。
4-(3)	スクールソーシャルワーカーの派遣 【指導課】	教育相談室にスクールソーシャルワーカーを配置し、子どもの様々な行動や保護者のもつ課題について関係諸機関との連携を図り、解消します。	スクールソーシャルワーカー 3 名を教育相談室及び指導課に配置し、子どもや保護者の家庭にかかわるトラブルに、円滑な対応ができる体制をとりました。関係機関とのケース会議に延べ 26 回出席して、支援を行いました。
4-(3)	教育相談研修・ 教育相談担当者会 の実施 【指導課】	教員が教育相談の能力を身に付け、子どもとの関わり方を学ぶための研修を実施します。また、教育相談の担当者が集まり各学校の取組について情報交換を行います。	初任者、10 年経験者及び希望者を対象に教育相談基礎研修を実施し、40 名が受講しました。また、特別支援教育コーディネーター研修会において、教育相談における各学校の取組について情報交換を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	教育相談室の充実 【指導課】	教育相談員のキャリアアップを図るとともに、相談体制をより整備し、教育相談の充実を図ります。	週1回、受付会議を実施し、相談の方向性について検討を行いました。（※教育相談室相談状況については〔表6〕のとおり）
4-(3)	望ましい学級集団を形成するための調査の実施 【指導課】	学級集団への満足度についての調査を実施し、よりよい学校生活が送れるように支援します。	学級満足度調査を小学校3年生～中学校3年生で実施しました。教員に対して、理解を深めるため全体講義を1回実施するとともに、臨床心理士が各学校で個別講義を行って、学級の状態や支援すべき子どもを把握し、学級経営の充実を図る体制を構築しました。
4-(4)	就学援助の実施 【指導課】	経済的な事情で教育費の支出が困難な家庭を対象として、就学に必要な費用を援助します。	小学生 863 名、中学生 497 名を対象に合計 1 億 1,723 万 9,293 円の援助を行いました。（就学援助率は小学校 15.4%、中学校で 19.8%）また、給付型奨学金制度から、高等学校等に入学予定の生徒 10 名に合計 60 万円の入学準備金と、昨年度までに採用された生徒 17 名に合計 204 万 4,600 円の奨学金を支払いました。
4-(4)	特別支援教育 就学奨励の実施 【指導課】	子どもが特別支援学級に在籍する家庭を対象として、その就学の特殊性から経済的な負担を軽減するため、就学に必要な費用を援助します。	小学生 38 名、中学生 20 名を対象に合計 316 万 4,344 円の援助を行いました。
4-(4)	日本語指導の実施 【指導課】	外国籍の児童・生徒や帰国子女に対して、日本語指導が必要な場合、日本語指導員を派遣します。	外国籍等の子ども 13 名に対して日本語指導員を派遣して、授業の補助を行いました。

〔表 4〕

〈適応指導教室児童・生徒在籍状況〉 (人)

区分	小学校	中学校	合計
人数	11	12	23

〔表 5〕

〈児童・生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題（不登校）に関する調査〉

小学校	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
都出現率	0.49%	0.52%	0.56%	未公表	未公表
市出現率	0.51%	0.49%	0.51%	0.63%	0.63%
不登校児童数	28人	27人	28人	35人	35人

中学校	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度
都出現率	3.33%	3.60%	3.78%	未公表	未公表
市出現率	2.85%	3.43%	3.27%	3.12%	3.74%
不登校生徒数	76人	89人	86人	80人	94人

〔表 6〕

〈教育相談室相談状況〉 (件)

相談内容	不登校	いじめ	交友関係	性格上の問題	情緒不安定	特別支援	進路相談	学校教育	家庭教育	その他	合計
相談件数	278	2	35	268	20	98	1	47	102	113	964

【主な課題】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級の担任だけでなく、通常の学級の担任も含め、特別支援教育に関する教員の専門性について、より一層向上させていく必要がある。

(b) 特別支援教室についての啓発活動について

特別支援教育に関わりの少ない保護者について、特別支援教育、特に発達障害について理解啓発活動を継続していく必要がある。

(c) 特別支援教室の開設について

小学校の特別支援教室の全面実施に伴い、過去5年の通級・通室児童数は増加傾向にあり、今後も個別指導計画に基づいた指導の充実が必要である。

〈情緒障害等通級指導学級・特別支援教室の通級・通室人数（小・中合計）〉

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
人数	142人	183人	215人	249人	237人

(4月1日現在数)

(d) 不登校児童・生徒について

不登校の兆候がある段階で手だてを講じる必要がある。家庭状況が複雑化、多様化しているため保護者との協力体制をとり、進めることが大切である。

(e) 日本語指導の実施について

日本語の習得に支援が必要な子どもが増加傾向にあり、母国語も多様化しており、より一層の充実を図る必要がある。また、外国籍の子どもが日本語の習得に時間がかかるため、日本語指導員の派遣期間を延ばす必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 特別支援教育に関する教員の専門性の向上について

特別支援学級担任教員を対象とした研修会について、授業研究を中心とした内容を今後も継続して実施する。冊子「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を継続して活用し、通常の学級における特別支援教育の推進を図る。

(b) 特別支援教育の啓発活動について

発達障害に関する市民向け説明会を継続して実施するとともに、特別支援教室での指導について学校だよりや保護者会、合同学習発表会の紙面紹介等を活用し、より一層特別支援教育への理解・啓発に努める。

(c) 特別支援教室の開設について

特別支援教室の指導にあたっては、今年度の指導の成果を生かして一人一人の課題に応じた自立活動と教科の補充指導の充実を図っていく。また、特別支援教室専門員や巡回心理士を活用し、特別支援教室での指導の充実を図る。

(d) 不登校児童・生徒について

毎月1回以上欠席をする児童・生徒を学校全体で把握し、組織的に対応するように、担任・学年主任・生活指導主任の連携を密にする。児童・生徒の欠席状況に関する調査も実施し、休みがちな児童・生徒には、教育相談担当教諭・養護教諭やスクールカウンセラーの支援も取り入れる。

不登校対策のスーパーバイザーから具体的な取組について指導を受けたことを実施する。

(e) 日本語指導の実施について

日本語指導員の指導時間を確保するために予算の増額を行った。様々な言語に対応するため、近隣市からも情報収集し、支援が必要な子どものニーズにあった指導ができるようにしていく。また、日本語の理解を短期間で深めるため、学校だけでなく、保護者の協力を得て、家庭でも日本語の習得に取り組むよう働きかける。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 1 人権教育の推進

子ども一人一人が発達段階に応じ、人権の意義・内容や重要性について理解する必要があります。自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになり、それが様々な場面や状況下で具体的な態度や行動で示せることが大切であり、さらには、人権が尊重される社会づくりにつながるようにしていかなければなりません。

この目標を達成するために、学校の教育活動全体を通して人権教育に取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1	人権教育の推進 【指導課】	あらゆる偏見や差別をなくすために、全教育活動を通じて人権教育を推進します。	教育課程編成の最重要課題に位置付け、教育活動全体を通して、全教職員で取り組みました。また、6月には、人権教育研修会を各学校の人権教育担当者を対象に行いました。
1	人権教育 推進委員会の開催 【指導課】	学校教育において、様々な人権課題を解決していくための実践について、研修を行います。	年に4回開催し、人権教育推進の基本的な考え方について研修を行いました。他市で開催された東京都教育委員会人権尊重教育推進校の研究発表会や協議会に2回参加し、人権教育の推進について理解を深めることができました。
1	人権教育全体計画の作成と人権諸課題に関する指導の充実 【指導課】	小・中学校全校で「人権教育全体計画」及び「人権教育年間指導計画」を作成するとともに、人権教育推進委員会で情報を共有しながら、人権課題に関する計画的な指導を行います。	教育課程編成の際に、全体計画と年間指導計画を見直し、次年度の全体計画と年間指導計画を作成しました。

【主な課題】**(a) 人権教育推進委員会の開催について**

人権教育推進委員会の取組を充実させることで、委員を通して各校の教員全体の「人権課題」についての理解を深め、実践につなげていく必要がある。

【今後の取組の方向性】**(a) 人権教育推進委員会の開催について**

人権教育推進委員が研修で、具体的な事例や研究授業から学ぶ機会を増やし、学んだことを各学校で還元していくようにする。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 2 道德教育の充実

子どもたちが、自他の生命を尊重し、法やルールの意義やそれらを遵守することの意味を理解し、主体的に判断し、適切に行動できるよう、家庭、学校、地域社会の連携のもと、道德教育の改善、充実を図ります。

各学校における道德の時間を道德教育の要の時間と位置づけ、各教科との密接な関連を図りながら、計画的、発展的に道德的価値や人間としての生き方について自覚を深められるようにするとともに、道德的实践力を育成します。

また、毎年度「道德授業地区公開講座」を実施し、家庭や地域と連携して子どもたちの豊かな心を育成するとともに、道德教育の一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 道德授業の充実
- (2) 道德教育の推進

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	道德授業の充実 【指導課】	小・中学校における年間指導計画の検討を行い、道德の時間を中心に全教育活動を通じて指導の充実を図ります。	全校で、道德教育の全体計画を見直し、35時間（小学校1年は34時間）の授業について、新しい教科書に準拠した年間指導計画を作成しました。
2-(1)	道德授業地区公開講座の充実 【指導課】	道德授業を保護者及び地域に公開し、家庭、学校、地域社会が連携して子どもたちの豊かな心を育成します。	各学校が年1回実施し、保護者との意見交換会を行い、道德の授業や豊かな心の醸成について話し合いました。道德授業地区公開講座へは、全校で延べ4,839名の保護者や地域の方が参加しました。
2-(2)	各教科等における道德教育の推進 【指導課】	道德教育推進教師を中心に、各学校において指導の重点項目を設定し、学習指導要領に基づき、各教科等における道德教育を推進します。	教育課程編成時に今までの取組を踏まえて、各学校において指導の重点項目を設定しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	道徳教育推進 委員会の開催 【指導課】	道徳教育を推進するため、道徳教育推進委員会を開催し、授業研究や教材の開発を行います。	「東京都道徳教育拠点校」として、福島中学校と多摩辺中学校を指定し、「特別の教科 道徳」の実施に向けて、3回の授業公開を実施しました。授業公開に各学校の道徳教育推進教師が参加して「特別の教科 道徳」の授業の在り方について周知することができました。
2-(2)	あいさつ運動 の実施 【指導課】	学校・保護者・地域が連携してあいさつ運動を実施することにより、子どもたちを地域で育てる意識を醸成します。	あいさつ運動を各学校で年3回のふれあい月間の取組に位置付けました。

【主な課題】

- (a) 特別の教科 道徳について
「特別の教科 道徳」の充実に向けた授業改善を各学校で継続的に行っていく必要がある。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
保護者が積極的に参加できるよう、意見交流会について時間の設定や企画を工夫していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 特別の教科 道徳について
教務主任会等で「特別の教科 道徳」の充実に向けた研修を行っていく。
- (b) 道徳授業地区公開講座での意見交流会について
保護者にとって切実なテーマの設定や時間設定、特定の人に意見を求めない交流会の取組など様々な工夫を行い、参加者の増加を図っていく。

プラン2 豊かな心の醸成

主要施策 3 体験活動の充実

子どもたちが、地域の自然や歴史、文化などに直接触れる郷土学習や福祉の心を育てるボランティア活動等に参加するとともに、小・中学校で、発達段階に応じた「移動教室」等を通し、子どもたちの体験活動の充実を図ります。そして、自主的に体験しようとする力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3	小学校での 移動教室の実施 【指導課】	集団での宿泊体験を通して、よりよい人間関係を築くとともに、思いやりの心や助け合いの心、あきらめない気持ちを育成するため、市内全小学校5・6年生による移動教室を実施します。	小学校5年生は全校2泊3日で清里・八ヶ岳移動教室を実施しました。小学校6年生は全校2泊3日で日光移動教室を実施しました。
3	中学校移動教室 ・修学旅行の実施 【指導課】	自然との関わりを深めるとともに、最後まで努力する態度を育成するため、市内全中学校で農業体験、スキー教室などの移動教室や修学旅行を実施します。	中学校3年生については全校京都・奈良方面に2泊3日の修学旅行を実施し、中学校1、2年生の移動教室は、全校スキー教室を実施しました。
3	小・中学校での 生産体験の実施 【指導課】	小・中学校において、学校農園や近隣の農園等を活用して、生産活動を行います。	各学校の実情に応じて、学校農園や近隣の農園を活用したり、ゲストティーチャーを招いたりして実施しました。
3	移動教室検討委員会による宿泊行事の充実 【指導課】	5年生宿泊行事検討委員会をはじめとして、移動教室における体験活動の内容を検討・実践することにより、教育効果を高めます。	昨年度から全校で山梨方面、2泊3日の実施に統一し、計画の見直しや検討を行うことで、体験活動の充実を図ることができました。

【主な課題】**(a) 小学校第5学年の移動教室について**

各学校の実態に応じた幅広い体験活動ができるよう、より充実した自然体験活動の内容にする必要がある。活動に際して児童の安全を確保できるよう、気候条件等を十分に考慮する必要がある。

【今後の取組の方向性】**(a) 小学校第5学年の移動教室について**

昨年度策定した移動教室実施要項に基づき、各学校の実態を考慮しながらも市内各学校でのよりよい実践を共有し、実施計画を立てていく。児童の安全を確保できるように、実地踏査において十分な情報収集を行う。

主要施策 4 いじめ問題への対応

昭島市の全ての子どもが安心して登校し、学校生活を送ることができるよう、学校の内外を問わず、いじめの未然防止、早期解消に取り組みます。

いじめはどんなことがあっても社会の中では許されないことですが、どの子どもにも起こる可能性があるという意識をもって、関係機関と連携し、組織的かつ継続的な取組を行います。

学校でも教育活動全体を通じて、全ての子どもに「いじめは決して許されない」ことの理解を促し、豊かな情操や道徳心、自他の存在を尊重し合える態度、自己肯定感等、心の通う人間関係を構築する能力を育成します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4	いじめ問題防止 会議等の開催 【指導課】	いじめは絶対許されないという意識啓発活動を推進し、いじめの未然防止、早期発見・早期対応等に関係機関と連携して取り組みます。	学校関係者、保護者、関係機関、地域の健全育成団体等の代表者が委員となり年3回開催しました。各学校のいじめの未然防止の取組について報告するとともに、携帯電話・スマートフォンに関わる課題について協議し、保護者の意識啓発の在り方について検討しました。
4	いじめ防止等に関する教育委員会の 具体的な取組の 実施 【指導課】	いじめ問題の状況に関する調査、いじめ相談体制の確立、サポートチームや関係諸機関との連携、教職員の資質・能力の向上、インターネット等によるいじめ対策の推進、啓発活動の推進など、具体的な取組を実施します。	12月に中学校生徒会が中心となって作成した「いじめ防止ポスター」を各小学校や自治会の掲示板に掲示し、社会全体でいじめを許さない雰囲気を醸成しました。また、中学校生徒会役員が小学校6年生にいじめ防止の取組について説明を行う交流活動を全校で実施しました。
4	学校いじめ防止 基本方針の推進 【指導課】	各学校の実態に応じていじめを防止する方針を定め、いじめを受けている子どもに対しての支援を的確に行います。	各学校において、学校サポートチームを生かし、学校いじめ防止基本方針の見直しを図り、保護者会やホームページ等を活用して、周知しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4	いじめに関する 学校における 取組の実施 【指導課】	いじめ防止のポスターの掲示 やふれあいボックスを設置す るなど、いじめの防止や早期発 見等のため、子どもがいつでも 思いを伝えることができるよ うな取組を実施します。	軽微ないじめを見逃さないよ うに、未然防止の校内体制を整 備しました。また、年3回、全 小中学校でアンケートを実施 し、早期発見・早期対応に努め ました。

【主な課題】

(a) いじめ問題防止会議について

年間を通して、「携帯電話・スマートフォンに関わる課題」について協議を行い、保護者の意識を啓発していく取組の必要性について共有できたが、具体的な方策については今後も継続して検討していく必要がある。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

いじめの防止について児童・生徒が主体的に考える機会を継続的に設定していく必要がある。

(c) いじめの早期発見・早期対応について

軽微ないじめの把握の仕方に学校間で差があるため、教職員の資質・能力の向上を図るとともに、迅速な報告体制を構築する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) いじめ問題防止会議について

継続して「携帯電話・スマートフォンに関わる課題」について協議を行い、保護者への意識啓発については、各団体でできることから精力的に実施する。

(b) いじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組について

小中一貫教育の取組の一環として中学生と小学生がいじめ防止について意見交流を行う機会を設定したり、中学校生徒会が中心となって作成するいじめ防止ポスターを小学校に掲示したりする取組を継続するなど、児童・生徒がいじめ防止について考える機会を意図的に設けていく。

(c) 児童・生徒のいじめの認知件数について

いじめの定義について、生活指導主任会において研修を深め、各校での研修に活かせるようにする。また、毎月の報告書を活用して、軽微ないじめについても背景を含めて学校と教育委員会で情報を共有する。必要に応じて報告事例についての聞き取りを行い、生活指導主任との意識の共有も図れるようにする。詳細な実態や対応経過の報告のみにとどまらないように、各校が児童・生徒に対して速やかに対応できるように連携を図る。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 1 体力向上の推進

子ども一人一人の体力の向上及び健康の保持増進を図るため、「第五次昭島市総合基本計画」（平成 23 年 5 月策定）を踏まえ、学校・家庭・地域が連携した体力向上策を推進します。

また、各学校では、東京都の「総合的な子どもの基礎体力向上方策（第 2 次推進計画）」に基づき、子どもの体力の実態を把握するとともに、一校一取組を推進し、計画的に体力の向上を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 体育・保健体育の授業の充実
- (2) オリンピック・パラリンピック教育の推進
- (3) 一校一取組の充実
- (4) 部活動の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	体育・保健体育 の授業の充実 【指導課】	小中学校における体育や保健体育の授業改善を図り、子どもたちの体力向上に資するため、体力向上推進委員会を設置し、実践研究を推進します。	平成 30 年度研究指定校の成隣小と清泉中の研究成果を参考にして、各校が、生活習慣と運動習慣の改善から体力向上に取り組みました。
1-(1)	体力・運動能力・ 運動習慣等調査 の実施・活用 【指導課】	各種調査を実施し、その調査結果を分析し、本市の子どもたちの実態に応じた指導や体育・保健体育の授業改善に活用します。	小中学校ともに、東京都の平均よりも上回った種目が多く見られました。年間を通して「元気アップガイドブック」を活用して日常的な体力向上の取組を実施したことが要因として考えられます。「上体起こし」などいくつかの種目に課題があるので、課題のある種目を中心に、生活習慣と運動習慣から体力向上に取り組めます。(※東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査については〔表 7〕のとおり)

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	武道実技研修 の実施 【指導課】	中学校における武道の指導を安全に行うとともに、確実な指導技術を身に付けるため、教員の実技研修を実施します。	東京都教育委員会が実施する武道実技研修に参加することにより、他地域との交流も図ることができました。
1-(1)	校庭芝生化の推進 【庶務課】	校庭の芝生化を推進し、地球環境への配慮を行うとともに、子どもたちの運動能力の向上を図ります。	小学校 13 校及び中学校 4 校の芝生運動場について、芝生の健全な生育を図るため、計画的に播種や目土等の更新作業を実施しました。
1-(2)	オリンピック・パラリンピック教育推進校での研究と啓発 【指導課】	運動・スポーツへの興味・関心を高める体育授業等の内容・方法の改善や日常的な運動・スポーツの実践による健康増進に向けた取組の充実を図ります。	オリンピック・パラリンピック教育推進校に引き続き全校が指定され、全ての児童・生徒が大会に関わる取組を行いました。オリンピック・パラリンピック教育を推進するため、全校が全体計画及び各学年の年間 35 時間の年間指導計画に基づいて授業を実施しました。
1-(3)	一校一取組の充実 【指導課】	体力の向上及び健康の保持増進を図るため、運動量を増やすなど、指導法の工夫・改善を図ります。	各学校が創意工夫をし、朝の時間や休み時間、放課後等に子どもが運動できるような環境や時間を設定して取り組みました。
1-(4)	中学校における運動系部活動参加の推進 【指導課】	中学校において、スポーツを通して、生徒一人一人が特性を生かして部活動に参加できるようにし、最後まであきらめずに継続することや仲間と協力して成し遂げることの喜びを体験できるようにします。	全中学校の運動部活動は 54 部あり、それぞれの運動部活動での特性を生かし、生徒一人一人の成長を目指して取り組みました。
1-(4)	運動系部活動指導補助員の充実 【指導課】	中学校に運動系部活動の技能の向上を図るため指導補助員を派遣し、より専門的な指導を行います。	全中学校で 46 名の部活動指導補助員を派遣し、生徒の能力向上を図りました。また、運動部及び文化部の部活動指導員を市内で 15 名派遣しました。
1-(4)	部活動対外試合への支援 【庶務課】	部活動の各種大会の参加費や全国大会及び関東大会への交通費を支援します。	部活動に対して、各種大会の参加費や消耗品、備品等を支出しました。また、関東大会以上の試合に延べ 8 人が出場し、交通費、宿泊費等を支出しました。

〔表 7〕

〈東京都児童・生徒体力運動能力、生活・運動習慣等調査〉

※網掛け・太字は、都の平均を越えている種目

令和元年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査（東京都統一体力テスト）について
 体格及び体力・運動能力結果平均値（昭島市） 令和元年10月10日

	性別	学年	人数	身長(cm)	体重(kg)	握力(kg)	上体起こし(回)	長座体前屈(cm)	反復横とび(回)	持久走(秒)	シャトルラン(回)	50M走(秒)	立ち幅とび(cm)	ボール投げ(m)	体力合計点	(東京都) 体力合計点
小学校	男子	1	478	116.3	21.0	9.2	10.8	27.1	25.0	—	18.2	11.5	110.9	7.7	29.2	29.38
		2	437	123.0	23.6	10.7	14.3	28.0	29.5	—	26.7	10.7	124.7	11.1	36.9	36.99
		3	462	127.9	26.3	12.7	16.6	30.5	32.0	—	36.5	10.1	131.8	14.6	42.9	43.16
		4	502	133.4	29.8	14.6	18.8	33.2	38.1	—	44.5	9.6	143.7	18.0	49.9	48.92
		5	479	138.8	32.8	16.5	19.8	35.1	41.0	—	50.1	9.2	152.2	20.6	54.1	54.18
		6	454	145.6	37.8	20.1	22.1	36.3	43.2	—	59.1	8.7	162.9	24.6	60.1	59.56
	女子	1	483	115.5	20.7	8.6	11.3	29.2	24.1	—	15.0	11.9	104.2	5.5	29.7	29.28
		2	460	121.8	23.5	10.1	14.6	31.3	28.5	—	20.3	10.9	116.1	7.4	38.2	37.17
		3	456	127.4	26.1	12.2	15.9	34.3	30.7	—	26.1	10.5	124.9	9.4	43.4	43.62
		4	455	133.9	29.9	13.8	18.0	36.7	36.5	—	33.3	10.0	134.7	11.5	50.7	49.99
		5	450	140.0	33.6	16.5	19.4	39.6	39.6	—	39.7	9.4	147.1	14.0	56.8	55.89
		6	428	147.2	39.6	20.0	20.3	40.0	41.4	—	44.0	9.0	152.7	16.1	60.8	61.14
中学校	男子	1	410	153.3	43.3	23.5	24.6	41.8	50.2	433.7	86.0	8.6	180.4	18.3	34.6	32.72
		2	410	159.7	47.6	27.9	27.7	42.9	53.5	389.0	83.1	8.0	196.1	21.3	41.5	40.86
		3	415	166.2	52.7	34.8	30.3	50.0	55.9	377.1	94.2	7.5	212.3	23.6	49.9	47.80
	女子	1	410	152.2	43.3	22.0	21.5	43.3	46.3	310.4	65.0	9.1	163.6	11.9	44.6	44.25
		2	392	155.2	46.6	23.8	23.7	45.7	46.9	290.5	58.8	8.8	169.1	13.9	49.6	49.56
		3	371	157.1	49.0	25.1	24.4	47.4	47.1	293.6	51.3	8.8	170.2	14.4	51.2	51.74

【主な課題】

(a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について

都の平均点より低く、課題のある種目については、体育の授業・休み時間・放課後等に取り組む充実させる必要がある。

(b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について

各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、2020 年を終えてもオリンピック・パラリンピック教育の財産を生かせるようにする必要がある。

(c) 校庭芝生化について

芝生化した学校により、芝の生育状態や、除草、散水などの管理等に差が出ている。また、維持管理等に保護者や地域の方の協力を得ているものの費用がかかる。

(d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について

「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき指導内容の充実、生徒の安全確保、教員の長時間勤務の解消等の観点から、円滑に運動部活動を実施できるよう検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 体力・運動能力・運動習慣等調査の実施・活用について

体力向上・健全育成の取組のために作成した「元気アップガイドブック」を活用して日常的な遊びや運動を通して総合的な体力向上を図る。

(b) オリンピック・パラリンピック教育推進校について

各学校がオリンピック・パラリンピック教育のレガシーを明らかにし、全体計画、年間指導計画にレガシーを反映させて取組を充実させる。

(c) 校庭芝生化について

芝生の大規模校については、散水用に井戸水や雨水を利用するなど維持管理費の抑制に努めていく。また、踏圧等により芝生が枯れてしまった部分について、児童・生徒と共に補植用の苗を育て、補植する。

(d) 運動部活動の指導・運営に係る体制整備について

「昭島市立中学校に係る運動部活動の方針」に基づき、運動部活動を適切に運営していく。また、部活動指導員を活用し、部活動指導の充実を図るとともに教員の長時間勤務の解消に努めていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 2 学校給食・食育の充実

子どもの健全な発育のため、地元農家の協力を得て、地場野菜を積極的に活用し、安全・安心な学校給食の提供を行います。

また、「第五次昭島市総合基本計画」（平成23年5月策定）を踏まえ、学校、家庭及び地域等と連携し、食育を推進します。

そして、各学校では、「食に関する全体計画」に基づき、食育リーダーを中心とした指導体制を一層充実するとともに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣の形成を促進します。

【施策の取組状況】

(1) 学校給食の充実

(2) 食に関する指導の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	学校給食運営基本計画の策定及び実施 【学校給食課】	学校給食に関する中期的な計画を策定し、学校給食の充実を図ります。	「昭島市学校給食運営基本計画」に基づき平成29年5月に策定した「昭島市学校給食共同調理場整備基本計画」で早急に整備することとされている、共同調理場整備について検討を行い、中学校給食を親子方式へ移行し、共同調理場を現位置にて建替えることとしました。 また、令和3年度の基本計画の改定に向けて、評価を行いました。
2-(1)	学校給食施設・設備の維持管理 【学校給食課】	学校給食を安定的に提供するため、学校給食の調理用施設・設備の維持管理を行います。	施設等の適正な維持管理をするため、保守点検などを行うとともに、調理機器の修繕や買換えを行い、安全・安心な給食の提供に努めました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	学校給食を通した 食育の推進 【学校給食課】	子どもに身近な教材である学校給食を通して、食料の生産・流通や地域の食文化及び適正な食生活の理解を深めます。	栄養教諭及び栄養士が児童・生徒に対し、食に関する指導を行い、食育の推進に努めました。 また、その取り組みなどを内容としたパネル等を市民ロビーにおいて展示し、保護者などへ学校給食について周知を行いました。 【学校給食食育展示】 令和2年1月24日（金）～30日（木） 来場者数 約387人
2-(1)	地産地消の推進 【学校給食課】	地産地消を進め、自然に親しみ、自然のめぐみと生産者への感謝の心を育成するため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れます。	地産地消の推進を図るため、生産者と連携を図り、学校給食に地場食材を取り入れました。また、生産者が授業や給食の時間に出向き、地元でとれる梨や米の育成について、講話する機会を作りました。
2-(2)	お弁当の日の実施 【学校給食課】	学齢に応じたお弁当作りへの協力を通じて、家庭内での役割や食事の大切さについて考える機会となるよう、お弁当の日を実施します。	小中学校全校において「お弁当の日」を年3回実施しました。児童・生徒がお弁当づくりなどに係わることができるよう各学校ごとにテーマ等を決めて取り組みました。
2-(2)	食に関する指導 の推進 【指導課】 【学校給食課】	食育の推進を図るため、各学校で食育リーダーを選任し、食に関する全体計画を作成し、家庭へ情報発信をします。	教育課程編成時にこれまでの食に関する全体計画の取組を見直して、作成しました。 また、各学校で食育リーダーを選任し、年2回会議を開き、食育や今後の取組等について情報交換等を行いました。
2-(2)	栄養教諭の活用 【学校給食課】 【指導課】	共同調理場に栄養教諭を配置し、学校を巡回しながら、食に関する指導の充実を図ります。	授業や給食時間を利用し、栄養教諭及び栄養士が学校と連携を図り、食に関する指導を行いました。また、栄養教諭の巡回指導に関しては、指導助言を行い、各学校の取組の充実を図りました。

【主な課題】

(a) 給食施設の整備について

学校給食共同調理場は施設の老朽化に伴い、新たな調理場を整備する必要がある。

(b) 衛生管理について

安全・安心な学校給食の提供を行うため、業者、職員等へ衛生管理の徹底を図る必要がある。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進していく中で、家庭や地域と連携した取組みについて、更に検討を進める必要がある。

(d) 食育指導の充実について

食育を更に推進するため、栄養教諭の複数配置が必要である。また、食育の取組は、各学校の実態に合わせたものが必要である。

(e) 家庭における食育の取組について

食育を推進するにあたり、家庭での食育が重要であり、保護者や児童・生徒が食育を身近にとらえる機会や情報提供が必要である。

(f) 地産地消の推進について

地元の食材を身近に感じてもらうとともに、生産者や食材への感謝の気持ちを育み、地場食材の関心を高めていくため、学校給食に地場食材を積極的に取り入れていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 給食施設の整備について

学校給食共同調理場の整備について、中学校給食を親子方式へ移行し、学校給食共同調理場の現位置での建替え整備を進める。

(b) 衛生管理について

職場環境の整備や職員の衛生管理に対する意識向上を図り、異物混入や食中毒を防いでいく。また、異物混入時の連絡体制などの徹底を図るとともに、食品の選定時にはより細かく確認することにより、食中毒の防止や安全な食材の調達に努める。

(c) 食育推進のための連携について

学校給食を通じた食育を推進するため、家庭・学校・地域が一体となって取り組める体制を整える。

(d) 食育指導の充実について

栄養教諭の増員配置について東京都教育委員会へ要望し、各学校と連携を図りながら食育を推進していく。

(e) 家庭における食育の取組について

家庭での食育を推進するため、お弁当の日の取組を家庭に周知し、理解を深めていくとともに、児童・生徒がお弁当づくりを通じて、食への関心や食事の大切さなどについて、家庭で考えるきっかけづくりとなるよう繋げていく。また、家庭への情報発信について検討していく。

(f) 地産地消の推進について

市内生産者や関係者と連携を図り、供給の見通しや食材の安全性、給食施設への効率的な納品などについて、定期的に検討を行う場を設け、地産地消の推進に取り組み、学校給食に地場食材を積極的に取り入れていく。

プラン3 健やかな体の育成

主要施策 3 学校保健安全の推進

子どもたちが安全な学校で安心して学校生活を送ることができるよう、安全教育を推進するとともに心と体の健康を保つための体制を整えます。

【施策の取組状況】

- (1) アレルギー疾患対応の充実
- (2) 心と体の健康管理の充実
- (3) 安全教育・防災教育の充実
- (4) 通学路における安全対策の推進
- (5) 中学生救命救急講習授業の実施

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(1)	アレルギー疾患対応マニュアルに基づいた対応の充実 【指導課】 【学校給食課】	学校がアレルギー疾患を理解し、個々の子どもの症状等を的確に把握します。また、個別の配慮や緊急時の対応へ備えます。	アレルギー疾患対応については、「学校生活管理指導表」の提出を受け、面談を行い、保護者、学校、教育委員会が共通認識をもち対応しています。また、学校管理職・養護教諭・栄養士・学級担任を対象としたアレルギー疾患マニュアルの説明会を実施し、教職員の啓発、当事者意識の向上に努めます。 なお、学校給食における食物アレルギー対応については、「昭島市学校給食食物アレルギー対応給食実施要綱」に基づき対応しています。
3-(2)	定期健康診断の実施 【指導課】	子どもの健康状態を定期的に把握するために、定期健康診断を行います。	6月30日までに各学校が定期健康診断を行い、子どもの健康状態を把握しました。
3-(2)	就学時健康診断の実施 【指導課】	小学校入学前の子どもに対して、安心して学校生活を始めることができるよう、就学時健康診断を行います。	各学校で10月～11月に就学時健康診断を実施し、希望する保護者に対して面談を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(2)	薬物乱用防止教室 の実施 【指導課】	小学校低学年では「薬の正しい使い方」から学び、中学校では、薬物（シンナー・覚せい剤・危険ドラッグ等）の作用を科学的に学び、薬物の害について理解を深め、自己の生き方を考え、行動選択ができるようにします。	小中学校全校で薬物乱用防止教室を実施し、薬物の害についての理解を深めることができました。セーフティ教室等を活用し、警察官・学校薬剤師等、薬物乱用防止について専門性の高い講師を活用しました。
3-(3)	学校地震防災計画 の実施 【指導課】	各学校で策定した計画を確実に実施し、子どもの安全確保に努めます。	学校地震防災計画を基にした避難訓練を各学校において、年間11回程度実施しました。
3-(3)	学校保健安全計画 の実施 【指導課】	安全指導や保健指導、避難訓練、不審者対応訓練など、各学校が策定した計画を確実に実施します。	教育課程編成時に学校保健安全計画を基に実施した取組を改善し、作成しました。
3-(3)	セーフティ教室 の実施 【指導課】	子どもが自分で自分の身を守ることができるよう、様々な危険について対応できる能力を育成するためにセーフティ教室を開催します。	全校がセーフティ教室を実施し、警察や関係諸機関と連携し、犯罪被害防止や万引き防止、SNSにおけるトラブル防止に関して体験的に学ぶことができました。
3-(4)	スクールガード・リーダーや見守り活動の実施 【指導課】	学校や通学路における子どもの安全確保を図るため、スクールガード・リーダーや地域・保護者による見守り活動の充実を図ります。	スクールガード・リーダーを7名配置し、通学路や校内安全について年間6回の巡回指導を実施しました。また、各学校でPTA・地域と連携し、登下校の見守りを実施しました。
3-(4)	防犯ブザーの貸与 【指導課】	防犯ブザーを小学校1年生に貸与します。	小学校1年生950名に対して防犯ブザーを配布しました。
3-(4)	防犯カメラの設置 【指導課】	学校、地域等が行う通学路における児童の見守り活動を補完するため、計画的に防犯カメラを設置します。	見守り活動の補完的な役割を果たす、市内の小学校通学路上に設置している75台の防犯カメラの保守・点検を実施しました。
3-(5)	中学生救命救急講習の全員実施 【指導課】	昭島消防署と連携し、中学校2年生全員を対象に救命救急講習を行い、非常時への備えを学ばせます。	昭島消防署と連携し、中学校2年生813名が救命救急に関して体験的に学びました。

【主な課題】

(a) アレルギー疾患対応について

平成29年度に改訂し、全教職員へ配布したアレルギー疾患対応マニュアルについての周知徹底、フォローアップの実施が必要である。

【今後の取組の方向性】

(a) アレルギー疾患対応について

アレルギー疾患は生命に関わる事態となるため、今後も対応マニュアルに基づいた適切な対応ができるよう各学校に指導していく。また、食物アレルギーのある児童・生徒については、学校生活管理指導表(アレルギー疾患用)をもとに学校・家庭・学校給食課で情報を共有するとともに、間違いが起きないチェック体制を整備し、それぞれの児童・生徒に合った安全な対応を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 1 幼・保・小・中が連携した教育の充実

幼稚園・保育園と小学校の間において、小学校入学段階において円滑なスタートができるよう連携会議を開催したり、学級支援員の配置等を行ったりします。

また、小学校から中学校への進学時に学習や生活面においてギャップを感じることが無いように、小・中連携推進委員会において情報交換を行い、年間3回の小・中連携の日を設定するなどの取組を推進します。

また、特別な支援を必要とする子どもに適切な支援を行うため、個別の教育支援計画を小学校と中学校間で情報共有します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1	幼・保・小連携推進 委員会の開催 【指導課】	幼稚園・保育園・小学校の代表者が集まり、円滑な小学校生活スタートができるよう情報を共有します。	幼・保・小連携推進委員会を年3回開催し、円滑な小学校生活をスタートさせることができました。また、24名の幼稚園教諭及び保育士が小学校の授業を参観し、さらに各小学校教員が幼稚園及び保育園の保育を参観し、小学校教員と入学時の円滑な接続について意見交換を行い、相互交流を図ることができました。
1	小・中連携推進 の強化 【指導課】	中学校の学区ごとに年間3回小・中連携の日として具体的な取組を行うとともに、小中一貫教育校の設置について検討を行います。	各学校が年3回小・中連携の日を設定して、全教員が中学校区ごとに授業参観等をし、教員同士の交流及び児童の部活動体験等を実施しました。平成28年度から平成30年度までの3年間、瑞雲中学校、武蔵野小学校、つつじが丘小学校を小中一貫教育研究指定校として指定し、小中一貫教育の在り方について研究発表を行いました。この研究成果を基に、各校で取組を行いました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1	学級支援員の配置 【指導課】	新1年生が学校生活を始める4月に、きめ細かな指導を行うために学級支援員を配置します。	全小学校の新1年生の学年に学級支援員を配置しました。
1	個別の教育支援計画の活用 【指導課】	特別な支援を必要とする子どもに対して、個別の教育支援計画を立て活用するとともに、進学時に引継を行います。	発達に課題のある子どもには、保護者の協力を得て、個別の教育支援計画を作成して、進学時引き継ぎを行いました。

【主な課題】

(a) 小・中学校の連携推進について

小中一貫教育研究指定校により昭島市における小中一貫教育の在り方について研究を進め研究発表会を実施したが、他校においても小中一貫の視点による教育活動を更に推進していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 小・中学校の連携推進について

研究指定校の成果を受けて、各中学校区において義務教育9年間を見据えた育てたい子ども像を共有した上で、年3回「小・中一貫の日」を設定し、引き続き教員間及び児童・生徒間の交流活動を実施する

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 2 日本の伝統文化教育の充実

子どもの発達の段階を踏まえ、各教科等を通じて日本の文化や伝統、東京都や昭島市の歴史と風土についての学習を充実することで、我が国と郷土を愛し、伝統や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。また、他国を尊重し、国際社会で活躍する子どもの育成に努めます。

また、小学校において音楽鑑賞教室・連合音楽会を実施するとともに、連合の展覧会を開催し、豊かな情操を育成します。

【施策の取組状況】

- (1) 伝統文化教育の推進
- (2) 文化行事の開催

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	各教科等における 日本の伝統文化 教育の推進 【指導課】	学習指導要領等の趣旨を踏まえ、各教科等において、日本の伝統文化教育を推進し、我が国の歴史や文化を継承・発展させようとする子どもを育成します。	各教科等で日本の伝統・文化について取り上げ、日本の伝統文化教育を推進しました。また、オリンピック・パラリンピック教育の一環としても実施しました。
2-(1)	体験活動を通した 日本の伝統文化 教育の推進 【指導課】	生活科や総合的な学習の時間における昔あそび等の体験活動を充実します。また、日本の伝統や文化、昭島市の歴史や風土について学ぶ機会の充実を図り、伝統文化を継承・発展させようとする態度を育みます。	生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域人材を活用した昔あそび等の体験活動や尺八や箏、三味線といった伝統楽器等の学習を通して、日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育みました。
2-(1)	地域との連携による 伝統文化教育 の推進 【指導課】	外部講師として地域人材の活用を図り、東京都や昭島市の歴史や文化を学ぶことで、郷土を愛する心や継承しようとする態度を育成します。	和太鼓、茶道、箏など伝統文化に関する見識の高い外部講師を招聘し、体験的な活動に重点をおいて日本の伝統文化教育を実践しました。
2-(2)	連合音楽行事 の開催 【指導課】	小学校5年生で音楽鑑賞教室、小学校6年生で連合音楽会を行い、音楽に親しむ機会を設けます。	小学校5年生では、プロのオーケストラ鑑賞を実施し、小学校6年生では連合音楽会を通して全校が発表形式で交流しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	小学校展覧会 の実施 【指導課】	小学校全校で取り組んでいる 図画工作の作品から代表作品 を集め、展覧会を実施し、鑑賞 する機会を設けます。	全小学校から 560 点の作品を集 め、1 月 24 日から 26 日まで小 学校展覧会を実施しました。延 べ 1,579 人が観賞しました。ま た、図画工作科の教員が会場で 来場者に作品の解説を行いました。
2-(2)	中学校合唱 コンクールの実施 【指導課】	中学校において合唱コンクー ルを実施することにより、協力 する大切さや豊かな情操を育 成します。	全中学校で合唱コンクールを 実施し、子どもの自主的な態度 を育て、豊かな情操を育みまし た。

【主な課題】

(a) 地域との連携による伝統文化教育について

日本の伝統・文化を大切にしていこうとする態度を育むために、継続して
体験活動を実施していく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 地域との連携による伝統文化教育について

日本の伝統・文化のよさを体験的に理解できるように系統性のある指導
計画を作成できるよう指導・助言を行う。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 3 家庭・地域の教育力の向上

子どもたちの教育は、学校だけでなく、家庭や地域と連携し、充実させる必要があります。

学校での学習指導に加えて、家庭における基礎的な生活習慣や学習習慣を身に付けていくことも大切です。

そのために、家庭学習についての重要性を各学校が家庭に伝え、連携して取り組みます。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3	家庭学習の定着 【指導課】	学習ドリルや家庭学習のしおり等を活用し、家庭での学習習慣の定着を図ります。	「家庭教育のすすめ」等の資料を作成するなど、各学校で保護者と連携して学年や発達段階に応じた家庭学習の習慣化を図りました。
3	家庭における生活習慣の充実 【指導課】	「早寝・早起き・朝ごはん」などの家庭における生活習慣の啓発を行い、保護者の協力のもと、充実を図ります。	全小中学校で、年度当初の保護者会において、「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣についての啓発を図りました。また、「グッドモーニング 60分」の取り組みにより、登校前の時間を有効に活用することができるようになりました。
3	e ライブラリ事業の展開 【庶務課】 【指導課】	インターネットの接続環境がある中で、学校以外でも予習・復習ができるコンテンツにアクセスできる e ライブラリ事業を展開します。	開発事業者による学校訪問を各学校 1～3 回行い、活用事例の紹介や活用方法についての相談や研修を行うことで活用促進活動を行いました。また、家庭学習の利用促進資料「くじらーニング」の各家庭への配布及び教員用への家庭学習利活用手順を配布しました。

【主な課題】

(a) 家庭学習の定着について

家庭学習に意欲的に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が起っており、より一層の家庭学習の習慣化の取組が必要である。

(b) e ライブラリ事業の普及について

e ライブラリの利用回数について個人差が大きい。

【今後の取組の方向性】

(a) 家庭学習の定着について

家庭での学習習慣の定着を図るために、教務主任会等において各学校の取組状況や実践事例の発表を行い、全校で家庭学習の定着を図るとともに、自ら学ぶ姿勢が身に付けられるように取組を推進する。

(b) e ライブラリ事業の普及について

引き続き e ライブラリの家庭学習活用パンフレットや利用手順書等を各家庭に配布するとともに、開発事業者が学校を訪問し、活用促進活動を行う。家庭学習活用パンフレットについては内容を精査し、児童・生徒がより興味を持って取り組むことができるよう工夫する。教員への研修も検討する。

主要施策 4 学校運営の改善

多くの行事、各種公開講座、学校公開週間等の機会を設け、「開かれた学校」づくりを推進し、学校運営の状況について、保護者・地域の方々の理解を図ります。

現在増加している若手教員に研修や経験を積ませることにより、リーダーとしての資質を身に付けるとともに指導力を高めます。

また、各学校の自己評価（教員による評価）、学校関係者評価（子ども・保護者、学校評議員による評価）、第三者評価（専門家による評価）を関連させ、学校の取組に対して評価と支援をいただき、学校運営を活性化します。

【施策の取組状況】

- (1) 教育推進計画の着実な実施
- (2) 「開かれた学校」の推進
- (3) 人材育成の推進
- (4) 学校評価（自己評価・学校関係者評価・第三者評価）の充実

番号	施策・事業名	概要	取組内容
4-(1)	教育推進計画の 着実な実施 【指導課】	各学校が作成する教育推進計画（HDS プラン）を着実に実施し、学校運営の充実を図ります。	学校評価の様式と教育推進計画の様式を統合し、学校経営のPDCA サイクルに生かせるようにしました。2月の教育課程の届出相談に合わせて成果と課題を確認しました。
4-(2)	情報発信への取組 の推進 【指導課】	学校の取組をホームページや学校だより等を通じて、保護者や地域に向けて発信します。	全小・中学校のホームページにおいて、各学校の教育活動を紹介しました。
4-(2)	学校公開の推進 【指導課】	現在行っている学校公開（行事・公開講座・公開週間）について積極的に行うとともに、主な行事の公開の日について市のホームページで公表します。	全校で年5回以上の土曜日授業を学校公開とし、ホームページにおいて日程等を公表しました。
4-(2)	スクール インターンシップ 事業の実施 【指導課】	近隣の大学と連携・協力し、小・中学校で実習活動する大学生を受け入れ、教育活動を活性化します。	小中学校で教員を目指しているスクールインターンシップの学生を小学校8校・中学校4校で受け入れ、教育活動の活性化を図りました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	職層に応じた研修の実施 【指導課】	職層に応じた研修を教育委員会が行うとともに、教育課題についての研修会を設定し、教員の指導力を高めます。	4月に校長、新任主幹教諭、新任主任教諭、5月に副校長、8月に主任教諭2年目を対象とした研修を実施しました。危機管理を中心に職層に応じた役割について理解を深めました。
4-(4)	学校評価の充実 【指導課】	自己評価・学校関係者評価・第三者評価を行い、多くの視点から学校運営を検証し、課題として明らかになった部分を改善します。	自己評価及び学校関係者評価を全校で実施し、次年度の教育課程に生かしました。第三者評価については、平成29年度に検討した結果、一定の役割を果たしたことを受け、事業を終了しました。

【主な課題】

(a) 学校評価の充実について

「社会に開かれた教育課程」を実現するためにも学校関係者評価を充実させることが課題である。

【今後の取組の方向性】

(a) 学校評価の充実について

学校経営計画・評価シートに学校関係者評価の様式の見直しを行ったため、令和2年度においても同じ様式を使用して、学校の自己評価及び学校関係者評価の一層の充実を図る。

また、学校評価の状況をホームページで公開することで積極的な情報発信を行う。

主要施策 5 教育環境の整備

子どもたちが安全で快適に学校生活を送り、効果的な学習活動ができるように施設や設備、教材の維持・整備を計画的に行います。

また、地域の活動拠点としての学校施設の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
- (2) 学校施設の維持と活用
- (3) 学校ICT・教育機器・教材の整備

番号	施策・事業名	概要	取組内容
5-(1)	学校施設の大規模改修工事の計画的実施 【庶務課】	空調設備やトイレ、外壁、プールなどの大規模改修工事を計画的に実施します。	東小ほか5校の体育館に空調設備を設置、東小及び光華小の便所改修、玉川小及び中神小の外壁改修、昭和中のプール改修などの工事を実施しました。
5-(2)	学校施設・設備の維持及び整備 【庶務課】	子どもたちが安全・安心で快適に学校生活が送れるよう、各種施設の維持管理を行うとともに、設備を利用しやすいよう整備します。	冷暖房機、プール浄化装置、消防用設備などの保守点検や、快適な学習環境の確立に向けた修繕を実施しました。
5-(2)	校内防犯体制の整備 【庶務課】	不審者等の侵入に備えて、子どもたちを守る体制を整えるとともに、設備の充実を図ります。	不審者侵入対策として、非常通報装置を設置するとともに、各学校に防犯カメラ、モニター、感知式パトライトの常時起動を行っています。
5-(3)	学校 ICT の整備 【庶務課】	情報教育の推進に不可欠な教育用・教職員用コンピュータ及び周辺機器の計画的な整備を行います。	小学校全校のコンピュータ教室の機器を更新しました。また、大型ディスプレイ 47 台を普通教室・特別教室に設置しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(3)	教育機器・教材等の整備 【庶務課】	学習指導要領に対応した授業を円滑に実施するため、教育機器・教材等の整備を行います。	理科設備及び算数・数学設備の整備のため、小学校4校と中学校4校に顕微鏡や電源装置等の教材を購入しました。
5-(3)	情報教育研修の実施 【指導課】	導入した ICT 機器や教育機器・教材等を有効活用するため、情報教育研修を実施します。	夏季休業日中に、初任者教員を中心に28人が受講しました。学校で活用している教育用ソフトウェアの操作・活用方法を中心とした研修を実施しました。

【主な課題】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の老朽化が進み、大規模改修工事を行わなければならない施設が多々ある。
- (b) 校内防犯体制の整備
学校の困障等によっては、不審者の学校敷地内への侵入を防ぐのが難しい。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙や机・椅子の引きずる音が気になる子どもがいる。

【今後の取組の方向性】

- (a) 学校施設の大規模改修工事の計画的実施
学校施設の大規模改修等工事については、実施計画に基づき実施し、学校運営に支障が出ないよう施設を整備する。
- (b) 校内防犯体制の整備
不審者対応として、校内に設置している防犯カメラによる訪問者の確認と来校者に対する教職員の声掛け等を徹底する。
- (c) ユニバーサルデザインの推進
黒板周りの貼り紙をなくしたり、棚にカーテンをつけるなど各学校に徹底させる。机・椅子の足にテニスボールをつけ騒音を減らす。

主要施策 6 情報教育の推進

子どもたちが高度情報化社会に柔軟な対応ができるようにするため、情報機器の導入や視聴覚ソフトの活用による効果的な学習指導を行うとともに、インターネットなどを活用した学校間交流などを推進します。

また、情報リテラシー教育の徹底により、正しい利用方法の指導を行うとともに、インターネットなどの普及による多種多様な危険や犯罪に巻き込まれないよう、情報教育の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概要	取組内容
6	小・中学校コンピュータ等の活用の推進 【指導課】	子どもが ICT の活用方法に慣れ親しみ、習熟することなどを通じて、急速に進展する情報化社会に対応した能力を身に付けます。	教科等の学習を通してコンピュータに慣れ親しむとともに、プログラミングやコンピュータリテラシー等の授業を取り入れ、子どもが ICT を活用できるようにしました。
6	タブレット端末の活用 【指導課】	タブレット端末の教育効果を検証し、計画的な配備を行い、子どもたちの活用能力を育成します。	各教科の調べものや、体育での動画撮影、プログラミング教育等において、効果的に活用しました。
6	情報活用能力の育成 【指導課】	コンピュータや学習情報センターとしての図書館を利用した学習を通して、子どもの情報活用能力を育成します。	国語・社会・総合的な学習の時間等において、図書館やコンピュータを活用した調べ学習を授業に取り入れ、子どもの情報活用能力を育てました。
6	情報モラル教育の推進 【指導課】	情報活用には光と影の部分があり、SNS やスマートフォンの活用には、それらを踏まえた情報モラルが必要であることを指導します。	各学校において教育活動全体を通して、情報モラル向上について指導を行いました。また、セーフティ教室では、SNS やスマートフォンの正しい利用方法について指導を行いました。

【主な課題】

(a) 情報モラル教育の推進について

LINE 等のSNSを用いた子ども同士の不適切な関わりから生じるいじめなどの諸問題の発生は、年々低年齢化している。これらの問題に対して学校でも計画的な指導に取り組み、家庭に情報発信する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 情報モラル教育の推進について

スマートフォンやインターネットから生じるネットいじめ等の諸問題について、児童・生徒に危険性を認識させる。また、情報活用によるメリットやマナーを守った適正な使用により生活を向上させるを目的とした指導を、セーフティ教室や学級活動、道徳の時間等で実施していく。また、学校だより等で保護者にも情報提供を行い、情報モラルに関する啓発活動を実施する。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 7 環境教育の推進

自然に親しみ、自然を大切にする心を育成するとともに、地球環境の保全について考え、行動できる教育を推進します。

また、学校・家庭・地域の連携・支援体制を確立し、環境教育のより一層の充実を図ります。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
7	豊かな自然環境を生かした教育の推進 【指導課】	総合的な学習の時間を活用して、農業体験や昭島に残されている自然やその保全など、地域の教育資源を生かした教育活動を実施します。	生活科・総合的な学習の時間を活用し、地域や学校の実態に応じた農業体験等を実施しました。
7	環境月間における環境教育の推進 【指導課】	環境月間（6月）に関連して、各教科等で環境教育を推進します。	各学校が環境月間において、それぞれの学校の実態に応じて、リサイクル、節電、節水等を実施しました。
7	みんなで実行 ISOの実施 【指導課】	電気・ガス・水道について使用量等の調査活動を通して、環境への配慮や節約意識を醸成します。	電気・ガス・水道について使用量が見えるようにし、全教職員に節約意識を周知させ、環境への配慮を行いました。

【主な課題】

(a) ごみの減量について

ごみの減量は、昭島市全体の課題であるため、子どもたちが主体的にごみの減量やリサイクルに取り組む態度を継続して育てていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) ごみの減量について

各学校でごみの減量や分別の取組を徹底し、子どもたちが主体的にごみの減量に取り組む態度を育てる。

主要施策 8 国際理解教育の推進

グローバル化が進展するなかで、子どもたちが広い視野をもち、異文化を理解し、世界の人々と協調しながら生きていく態度を身に付けることを目指し、国際理解教育を推進します。

また、国際社会において、相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を表現できる基礎的な力を育てるために、小・中学校において外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 外国語教育・外国語活動の推進
- (2) 国際理解に関する事業の実施

番号	施策・事業名	概要	取組内容
8-(1)	外国語教育や 外国語活動の充実 【指導課】	外国語の授業や外国語活動を通じて、小学校段階から系統的に指導を行い、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と能力の基礎を培います。	中学校英語教育推進モデル地区事業の成果を活用して、小学校と中学校の有機的な連携を図るために、小学校の外国語活動と中学校の外国語の授業の交流を行いました。
8-(1)	ALT（外国語指導助手）派遣事業の充実 【指導課】	国際理解教育を一層推進するために、各小・中学校にALTを派遣し、中学校外国語教育及び小学校外国語活動の充実を図ります。	外国語を母国語とするALTを全中学校6校に派遣しました。1校あたり平均で約93日派遣しました。小学校外国語活動では、各学級につき派遣時間を前年度より10時間増やしました。小学校5・6年生は、各学級平均で約33時間、小学校3・4年生は、各学級平均で約18時間派遣しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
8-(1)	小学校外国語カリキュラムの開発 【指導課】	学習指導要領の内容を踏まえ、文部科学省が発行する外国語活動副教材に合ったカリキュラムを開発します。	新学習指導要領全面実施に向けて、平成30年度は英語教育の小学校と中学校の円滑な接続に向けたスタートカリキュラムを作成し、各学校に配布しました。令和元年度は、小学校高学年で年間70時間の年間計画に基づき、授業を行いました。
8-(2)	平和教育の充実 【指導課】	他者と共存できる感性を育み、命と人権に関する身近な問題から平和な社会的関係のあり方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていることを理解したりして、共に友好的に生きることのできる基礎を養います。	小・中学校の教科等の指導においては、社会の授業を中心に、平和な社会的関係の在り方を考えたり、世界の人々と緊密につながっていたりすることへの理解を図りました。また、各学校が人権教育を推進する中で、命と人権の大切さを指導しました。
8-(2)	中学生英語スピーチコンテストの実施 【指導課】	英語による中学生の主張の機会を設け、話すことを中心として積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ります。	中学生15名が出場し、「未来をひらく発表会」において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することができました。
8-(2)	英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業の実施 【庶務課】 【指導課】	国内施設に宿泊し、外国人学生がリーダーとなり、英語研修や英語を使ったゲームなどを行い、外国人とのコミュニケーションを図る楽しさを実感させます。	外国人留学生との2泊3日の宿泊事業を実施しました。中学生は東大和市と共同で実施し、昭島市の小学校6年生45名、中学生30名が参加し、外国人とコミュニケーションを図る楽しさを実感しました。
8-(2)	中学生海外交流事業の実施 【庶務課】 【指導課】	オーストラリア（パース）にある学校との相互交流を通して、直にその国の文化や歴史、言語に触れることで、国際的視野を広げさせます。	隔年事業のため、令和元年度は実施しませんでした。

【主な課題】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

小学校と中学校の連携を図り、中学校の1年生の始めの段階で生徒が学習につまずかないように手だてを準備する必要がある。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業では小学生55名、中学生56名の応募があったが、小学生45名、中学生30名しか参加できなかった。現状では参加定員の増加は難しく、希望者が全員参加できていない。

【今後の取組の方向性】

(a) 外国語教育や外国語活動の推進について

東京都教育委員会から委託を受けた中学校英語教育推進モデル地区事業の研究の成果を生かして、中学校卒業時のゴールを見据え、小学校第6学年までに学ぶ内容と、中学校で学ぶ内容について教職員が共通理解して取り組めるように研修する。また、小・中学校の教員で連携を強化し、双方で授業改善を行っていく。

(b) 国際理解に関する事業の実施について

中学生海外交流事業では交流校のうち1校との交流が終了し、隔年事業となった。もう1校との交流についても、協定期間が2020年までとなっているため、今後の事業の在り方について、これまでの検証を踏まえ検討を行う。

また、英語チャレンジ体験事業・英語キャンプ事業においても、一部の希望者が参加できていないため、より幅広い層が参加できる事業の実施について検討を行う必要がある。

プラン4 輝く未来に向かって

主要施策 9 キャリア教育の推進

子どもの望ましい勤労観・職業観を育て、将来の進路につなげるキャリア教育が重視されています。職場訪問や職場体験などの体験活動は、子どもの勤労観・職業観を育成する上で大きな期待が寄せられ、小学校段階から意図的・計画的に実践する必要があります。自立した社会人・職業人として生きていくために求められる資質、能力の育成を目指して、キャリア教育を推進します。

【施策の取組状況】

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
9	キャリア教育全体計画の作成と年間指導計画の作成 【指導課】	各学校において「キャリア教育全体計画」に基づいた年間指導計画を作成し、子どもが将来への夢をもてるようにするとともに、望ましい勤労観を育成します。	一人一人のキャリア形成と自己実現に向けて、現在及び将来の学習と自己実現とのつながりを考えたり、学ぶことと働くことの意義を意識して学習の見通しを立て、振り返ったりした。
9	中学生職場体験の充実 【指導課】	全中学校において2年生による職場体験を実施し、働くことの意義や勤労観・職業観を育成するとともに、主体的に進路を選択できる能力や態度を育てます。	全中学校2年生が3日間の職場体験を実施し、生徒全体に仕事の重要さや望ましい勤労観の育成を図りました。
9	職場体験受入事業所の確保・拡大 【指導課・各課】	生徒に幅広い選択肢の中から自分の将来の夢に近い事業所や興味のある事業所で働くことを体験させ、好ましい勤労観を育成します。そのために中学生職場体験の受入事業所の確保に努めます。	東京都の中学生職場体験の受入事業所の紹介、他校との情報交換を通して、受入事業所を確保しました。長年継続して協力していただいている事業所には感謝状を贈呈しました。
9	キャリア教育推進委員会の活用 【指導課】	小・中学校のキャリア教育推進担当教員が集まり、講師を招いた研修会や情報交換を行うとともに、研究授業を通じて教員の指導力の向上を図ります。	キャリア教育の推進について実践事例の発表及び講師による指導・助言を行い、各学校のキャリア教育の取組に生かしました。

【主な課題】

- (a) 職場体験受入事業所について
すべての生徒が希望する事業所への体験が難しいため、体験できる事業所を広げる必要がある。

【今後の取組の方向性】

- (a) 職場体験受入事業所について
進路指導主任会等で引き続き学校間の情報交換を行い、事業所の確保に引き続き努める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 1 生涯学習

平成 25 年 3 月に策定した「あきしま学びぷらん（第 2 次昭島市生涯学習推進計画）」に基づき、「だれもが、いつでも、どこでも」学ぶことができる生涯学習社会の実現に向けて、学習の機会と場の充実を計画的に推進します。

また、市民の学習ニーズの把握につとめ、学習講座の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 生涯学習推進体制の整備
- (2) 生涯学習の推進
- (3) 公民館活動の充実

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(1)	社会教育関係団体 指導者育成 【社会教育課】	社会教育関係団体の育成、発展を図るため団体の登録、補助事業や指導者育成の研修会などを実施します。	社会教育関係団体研修会 市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議 7 月 21 日 市民交流センター 参加者 36 名 2 月 16 日 市民交流センター 参加者 38 名
1-(1)	生涯学習推進のための校区協議会 機能の充実 【社会教育課】	「小学校区を中心にした生涯学習」を推進するために、PTA や自治会などと連携し、実施団体の設置や活動を支援します。	生涯学習校区協議会育成補助金 田中小校区 0 円 (活動縮小による)
1-(1)	教育福祉総合 センター整備事業 【教育福祉総合 センター建設室】	「つなぐ・広がる・見つける・はぐくむ」知の拠点となる教育福祉総合センターの設置に向けて取り組みます。	施設整備について、安全管理の徹底及び周辺環境への配慮を行いながら工事を進め、令和 2 年 3 月 28 日に開館しました。
1-(1)	市立会館 管理運営事業 【社会教育課】	11 館設置されている市立会館が市民の皆様の活動拠点として、また、地域の情報交換の場としての充実を図ります。	武蔵野会館コジェネレーションシステム設備修繕を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(2)	生涯学習援助協力者の登録制度の充実と活用の促進 【社会教育課】	生涯学習援助協力者制度の充実を図り、登録者への支援の場の提供など支援者の充実を図ります。	生涯学習援助協力者 登録者 13 人 生涯学習サポーター養成講座 1 期（12 月～1 月）開催
1-(2)	土曜地域ふれあい事業 【社会教育課】	子どもたちの居場所づくりと地域の方々の技能や技術を生かした生涯学習の場の充実を図ります。	・囲碁教室（6 月～10 月） 朝日会館 7 回 参加者 31 人 緑会館 7 回 参加者 16 人 ・陶芸教室（6 月・7 月） 福島会館 2 回 参加者 22 人 ・ダブルダッチ（11 月 23 日） 総合スポーツセンター 参加者 31 人
1-(2)	生涯学習情報センターの設置 【社会教育課】	生涯学習情報雑誌「あきしま学びガイド」による生涯学習の機会の情報提供を図り、生涯学習センターとしての機能強化のため市立会館の充実を図ります。	4 月に発刊 市主催の講座・イベントなど 229 件を掲載しました。 配布用 620 部発行
1-(2)	成人式の実施 【社会教育課】	昭島市の将来を担う市民の成人式を、新成人による実行委員会を組織し、実施します。	1 月 13 日に市内ホテルで開催しました。 実行委員 7 人 参加者 795 人
1-(3)	公民館事業の充実 【公民館】	仲間づくりの場、集団活動の場、学びの場、文化創造の場として明日を築く市民が育つ場としての事業を展開します。	障害のある青年の交流講座、市民大学、各種講座、自主企画事業、市民文化祭を実施しました。
1-(3)	公民館利用団体懇談事業の実施 【公民館】	公民館がより一層効果的に活用されるよう、公民館運営に関する意見交換会を公民館利用登録団体と行います。	保育室保育者連絡会を実施しました。
1-(3)	市民講座の実施 【公民館】	地域課題や生活課題に即したテーマでの各種講座を開設し、市民の皆さんの自主的な学習の場を提供します。	家庭教育セミナー、男女共同参画セミナー、社会文化セミナー、芸術文化セミナー、歴史文化セミナー、夏休みわくわく体験教室、冬休み親子工作教室、JAXA 子ども科学教室、パリンピック競技体験事業を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
1-(3)	市民大学の実施 【公民館】	市民としての自治能力を培い、学びの成果を地域で活かせるように、学術的な学びの場を提供する昭島市民大学を実施します。	市民大学第9期2年次 修了者 16人 市民大学フォーラム公開講座を実施しました。
1-(3)	シニア講座の実施 【公民館】	高齢者が抱える様々な課題を学び、交流し、学びの成果を自身の生活に活かせるような講座を実施します。	講座「人生100年時代を豊かに生きる」を実施しました。 全4回 参加者30人
1-(3)	障害のある青年 の交流講座の実施 【公民館】	障害のある青年たちが、健常な青年たちと共に活動し、交流を深め、共生できる社会の実現のために、多様な機会の提供と支援に努めます。	開講のつどい、くじら祭り参加（よさこいソーラン）、工作・料理教室、クリスマス会、などを実施しました。 全20回 参加者33人

【主な課題】

(a) 市立会館管理運営事業について

市内に11会館ある市立会館は、設置後40年以上経過する施設があり、経年劣化による施設の改修工事や維持管理を進める必要がある。また、省エネルギー性能の向上など環境に配慮し時代の変化に応じた施設機能の向上を図る必要がある。

(b) 土曜地域ふれあい事業について

学校週5日制実施により始めた事業であるが、児童の習い事や家族で過ごす時間の増加などにより参加者が減少傾向にある。参加人数を増加して事業実施するための広報活動を行うことが必要となる。また、ボランティア講師の高齢化が顕著となっているため新たな人材発掘が必要である。

(c) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育委員との連携事業「市民のニーズを活かす・つなげるあきしま会議」において、団体の活動の悩みや情報交換の場の提供をしているが、若い世代の会議への参加を促すような働きかけが必要である。

(d) 生涯学習推進事業について

生涯学習情報について、冊子や団体紹介カードなどの活用や窓口でのご案内など情報提供に努めているが、学びたい市民と団体とをつなげる機能が弱い。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

誰もが自由に学べる拠点として市民が求める多様な学習課題と時局の流れを的確に把握する必要がある。公民館で学んだことを地域に生かすということ、講座を通じ地域活動を活性化させることが公民館活動の目的のひとつであることから、その活動の場の提供や、活動の支援をするために、庁内や関係機関との連携を図ることが必要である。

(f) 市民会館・公民館の施設整備について

市民会館・公民館は昭和57年の開館以来38年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでいる。市民に安全で快適な施設を提供するために、実施計画に基づき、大規模改修工事を行っている。今後は公共施設等総合管理計画の個別施設計画に基づき、改修計画の詳細を決めていく必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 市立会館管理運営事業について

昭島市公共施設総合管理計画の市立会館個別計画により各施設の特性に適した保全を実施し計画的な改修と維持管理に努めていく。

(b) 土曜地域ふれあい事業について

私立大学との共同による事業を実施し大学生と子ども達がふれあう場として成果をあげた。他大学を含め魅力のある事業にしていく。

本年度は、特別支援教室の児童にも参加の呼びかけ、今後も引き続き参加者の拡大に努めていく。

また、新たなボランティア講師確保に向け、広報活動を積極的に行っていく。

(c) 社会教育関係団体指導育成事業について

社会教育関係団体の活動支援としてのパソコン講習会とあきしま会議をととして、団体活動におけるスキルアップと横のつながりをつくるための場の設置を進めていく。

(d) 生涯学習推進事業について

冊子による生涯学習の情報提供を継続するとともに、生涯学習サポーターの育成と活用を図り、学びたい市民と活動団体とをつなげるコーディネーターの設置を進めていく。また、サポーターの養成については、養成講座修了者の会まなぶんの活動を支援していく。

(e) 公民館の役割及び支援体制について

市民が求める多様な学習課題と時局の流れを把握するための情報収集を行うとともに、公民館の活動や役割について積極的な周知を行っていく。

また、市民の自主的な公民館活動を支え、地域での活動の場に関する情報を提供できるような支援体制、庁内・関係機関との連携について引き続き検討していく。

(g) 市民会館・公民館施設整備について

公共施設等総合管理計画の個別施設計画に基づき、施設の長寿命化を図り、計画に沿った改修事業を進める。また、利用者へのサービス向上と、維持管理経費節減のため、管理運営の手法についても検討を行う。

主要施策 2 図書館活動

市民図書館は、市民生活に欠かすことのできない教育文化施設です。子どもの読書活動推進のための様々な事業、青少年の読書活動、図書館利用の推進及びあらゆる人に対応した読書環境への整備を進めます。

また、(仮称)教育福祉総合センターの中に中央図書館の建設が計画されており、図書館機能の充実を図ります。

【施策の取組状況】

- (1) 図書館サービスの充実
- (2) 図書館資料の充実
- (3) 子どもの読書活動の支援
- (4) サービス網の整備

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(1)	中央図書館の整備 【市民図書館 管理課】	中央図書館建設に向けて図書館機能の充実を図ります。	新しい図書館は貸出・返却、学習席等の利用に ICT を活用し、セルフサービス化を推進するとともに、自動化書庫の導入による省力化も実現し、利便性が高く効率的な運営が可能となりました。 また、ティーンズコーナーや屋外読書ひろば等の多彩な閲覧環境と個人学習席やグループ学習室、研究個室等の学習環境を備えました。
2-(1)	障害者用録音図書のデジタル化 【市民図書館 管理課】	障害者用録音図書の安定供給や利便性の向上を図ります。	デージー図書（録音図書の CD 版）を 2 タイトル製作し、また、他の図書館からの借用を含め 427 タイトルを貸出しました。
2-(1)	図書館ボランティアの活用や市民図書館協議会との連携 【市民図書館 管理課】	図書館ボランティア講習会を実施し、活躍の場を広げるとともに、市民図書館協議会との共催事業を企画するなど、市民が参画した図書館づくりに努めます。	音訳者講習会及び録音図書デジタル化講習会を実施しました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(2)	蔵書の充実 【市民図書館 管理課】	市民の身近な課題解決を支援したり、ブックスタートに適したりする図書を中心に蔵書を充実させていきます。また、利用者のリクエストや社会ニーズを考慮した資料の整備に努めます。 さらに、児童・青少年を対象とした各種事業を行うとともに、児童図書の充実に努め、児童・青少年の図書館利用の促進を図ります。	・図書購入冊数 新館用図書 24,711 冊 経常用図書 17,715 冊 ・多文化サービスの充実を図るため、中国語、ハングル語、タガログ語、ネパール語、ベトナム語、英語などで記された図書を購入しました。 ・読書ビンゴなど図書館資料を使って調べるイベントを実施し、利用促進を図りました。 ・児童・生徒による図書館見学(481人)、職場体験学習(33人)
2-(3)	第二次子ども読書活動推進計画の推進 【市民図書館 管理課】	平成 24 年 3 月に策定した計画を学校等とともに連携をしながら実施します。	本計画は平成 28 年度をもって終了し、第三次子ども読書活動推進計画へ移行しました。引き続き第三次計画においても学校等と連携し、子ども読書活動の推進を図っています。
2-(3)	第三次子ども読書活動推進計画の策定及び実施 【市民図書館 管理課】	第二次子ども読書活動推進計画の取り組み状況や国の計画などを参考に第三次子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書への関心を深める事業を推進します。	・小学校 1 年生を対象に貸出券を交付しました。 ・おはなし会やものがたりライブなど、読書習慣の定着を促す事業を実施しました。 ・調べる学習の推進事業として、夏休みに調べ学習ワークショップを実施しました。
2-(3)	学校図書館との連携 【市民図書館 管理課】	小学校教育研究会との連携や職員の学校派遣を行い、連携を深めます。また、中学校の読書活動推進委員会と協働し、中学生の読書活動を推進します。	・小学校へ職員を派遣し、ブックトークを 6 回実施しました。 ・小学校及び中学校の司書教諭等を対象とした司書教諭等研修会を 2 回実施しました。
2-(3)	中・高校生の読書フォーラム 【市民図書館 管理課】	中・高校生の読書フォーラムを実施し、読書に関する興味・関心を深めます。	新型コロナウイルス感染拡大抑止のため中止となりました。

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
2-(4)	移動図書館の実施 【市民図書館 管理課】	図書館から遠い地域や身体的理由で図書館を利用できない方々のために、移動図書館「もくせい号」による利用サービスの向上を図ります。	市内 13 箇所のサービスステーションで延べ261回実施しました。
2-(4)	近隣他市の図書館との連携 【市民図書館 管理課】	近隣他市の図書館との相互利用について模索し、市民の利便性を高めます。	現在、立川市、福生市、武蔵村山市、あきる野市との相互利用を継続しています。

【主な課題】

- (a) 図書館利用の拡大について
新たな図書館の開館に伴い、より多くの市民に図書館の有用性を知ってもらい、図書館利用の拡大を図る必要がある。
- (b) 図書館資料の充実について
市民の多様な目的に対応できるよう、様々な分野の資料を網羅した選書を行う必要がある。
- (c) 子どもの読書活動の支援について
第三次子ども読書活動推進計画の目標達成に向け効果的な事業を実施する必要がある。
- (d) 読書活動に対する学校支援について
子どもの読書力向上のために、学校と連携して団体貸出による学校図書館の支援、ブックトークなどの学校訪問、司書教諭研修など学校支援を充実する必要がある。
- (e) 高齢者への対応について
今後更に進む高齢化に対応し、高齢者にとっても利用価値の高い図書館となるよう、魅力的な事業展開が求められる。

【今後の取組の方向性】

- (a) 図書館利用の拡大について
様々な年代に向けた啓発事業を実施することにより、図書館の魅力を発信するとともに、児童サービス、レファレンス等、図書館におけるサービスの充実をはかり利用者の拡大に努める。
- (b) 図書館資料の充実について
各分野を網羅した選書を心がけるとともに、多文化・多言語サービスの充実を図るため、外国語資料の収集に努める。
- (c) 子どもの読書活動の支援について
子どもの読書活動を高めるため、第三次昭島市子ども読書活動推進計画に基づいた取り組み状況の実態調査を行い、その結果を踏まえて新たな事業展開を検討していく。

(d) 読書活動に対する学校支援について

団体貸出や学校を訪問してのブックトーク等の実施を継続するとともに、学校図書館運営において要となる司書教諭に対する研修会を実施する。

また、学校の要望を反映し、調べ学習に対応した資料の収集と提供に努める。

(e) 高齢者への対応について

高齢者向けの図書館オリエンテーションを実施する等、図書館を身近な施設と捉えてもらうとともに、高齢者向けの資料の充実及び講演会等の催し物の実施に努める。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 3 文化・芸術

昭島市文化芸術の振興に関する基本方針に基づき、市民の文化活動の振興を図るため、身近な場所での多様な芸術鑑賞の機会の提供、また、日常的な文化活動や発表の機会の提供を行い、市民の文化活動や教養を高め、感動や喜び、精神的な安らぎをもたらす心豊かにする文化芸術活動を推進します。

【施策の取組状況】

- (1) 市民文化の育成
- (2) 自主的な活動の支援
- (3) 文化芸術に関する意識の高揚
- (4) 文化芸術に接する機会の拡充
- (5) 文化芸術を担う人材の育成

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(1)	市民文化祭の実施 【公民館】	昭島市の文化の祭典として、多くの市民が日頃の文化活動の成果を発表する場として、また市民相互の交流を図る機会として市民文化祭を実施します。	市民文化祭 10月13日～11月3日 演奏・演芸・展示・発表及び対局を実施しました。 26部門 参加者 12,625人
3-(2)	文化・芸術活動団体への支援 【公民館】	自主的な文化芸術活動を行っている団体への活動場所の提供や発表の機会の拡充に努める。	文化芸術活動を行っている公民館登録団体に、公民館の使用料を免除し活動場所の提供をしました。また、発表の場として市民文化祭を実施しました。
3-(3)	文化芸術に関する講座・講演会の実施 【公民館】	日々の生活に潤いをもたらす文化芸術作品に触れ、豊かな感性を養えるよう関心と理解を高める講座・講演会等を実施します。	歴史文化セミナー 「歩いて学ぶ歴史と文化～旧街道紀行～」 全4回 参加者 52人
3-(4)	市民会館自主文化事業の充実 【市民会館】	昭島市民会館文化事業協会を中心に質の高い多様な芸術・文化事業を実施し、市民文化活動の振興と地域文化の向上を目指します。	市民会館文化事業協会による、歌謡、クラシック、寄席、能など多岐にわたる様々な鑑賞事業を、大ホールは共催を含め13事業、小ホールは2事業を実施しました。 入場者 延べ11,326人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
3-(4)	公民館ふれあい コンサートの充実 【公民館】	市民のみなさんに身近な場所 で芸術鑑賞の機会を提供しま す。	ふれあいコンサートを実施し ました。 7月13日実施 参加者 115人
3-(5)	伝統芸能の後継者 の育成 【社会教育課】	市民の共有の財産であり、将来 の文化芸術の発展の基礎とな る伝統芸能を保存・継承するた めの支援をします。	【文化財保存事業補助金】 ・拝島日吉神社祭礼囃子保存育 成事業 120,000円 ・福島ばやし保存育成事業 60,000円

【主な課題】

(a) 文化芸術の振興について

昭島の文化芸術に関する施策は、現在、市長部局、教育委員会の各課が独自に実施している。「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」において課題となっている文化芸術の振興を計画的に推進していくため、市の各部課との調整と、民間団体との連携強化を検討中である。

(b) 文化芸術活動の推進について

公民館事業として市民文化に接する機会の拡充を検討する必要性がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 文化芸術の振興について

平成22年に策定した「昭島市文化芸術の振興に関する基本方針」は対象期間を10年としていることから、市の文化芸術に関する施策を計画的に推進していくために、新たに「昭島市文化芸術推進計画」を策定に努める必要がある。令和2年度より企画部が主体となり計画策定に向けて動き出すが、生涯学習部としても文化芸術の推進の場として、計画策定に向けて協力していく。

(b) 文化芸術活動の推進について

市民文化祭をはじめ、市民による自主的な文化芸術活動の発表の場を提供し、文化芸術の活動の推進を図るとともに、さらなる活動の促進のために文化芸術に関する情報の発信と、施設の限られたスペースを有効活用し、誰でも気軽に情報を得ることができるように検討をしていく。また、市民が気軽に質の高い文化芸術に触れる機会を提供するため、ふれあいコンサートを今後も実施していく。

プラン5 生涯学習の推進

主要施策 4 スポーツ・レクリエーション

健康志向の高まりにより、生涯にわたりスポーツに親しみ、個々のライフステージに応じたスポーツの楽しみ方が求められ、スポーツ・レクリエーションの種目も多様化しています。

こうした中で、市民が健やかでより豊かな生活を実現するため、「いつでも どこでも いつまでも」スポーツ・レクリエーションを親しむ地域スポーツ社会と市民の多様なニーズに取り組みます。

【施策の取組状況】

- (1) スポーツ振興計画の推進
- (2) スポーツライフの形成
- (3) スポーツ・レクリエーションの基盤整備

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(1)	スポーツ振興計画の推進 【スポーツ振興課】	スポーツ振興計画の基本施策の実現に向けて着実に実施します。	スポーツ振興計画については、平成 28 年度に計画期間を満了し、検証結果を踏まえた上で、平成 28 年 3 月に新たにスポーツ推進計画を策定しました。
4-(1)	スポーツ推進計画の策定及び実施 【スポーツ振興課】	平成 23 年度に改正された「スポーツ基本法」に基づき、国の定めた「スポーツ基本計画」を参酌し、「昭島市スポーツ推進計画」を策定し、実施します。	平成 28 年 3 月に策定した昭島市スポーツ推進計画（平成 28 年度～平成 33 年度）の 4 つの基本施策に基づき、気軽に参加できるスポーツプログラムの提供や、スポーツ団体への支援、スポーツ施設の改修やスポーツを通じた地域や学校との連携など、総合的に施策を推進しました。
4-(2)	チャレンジデーの実施 【スポーツ振興課】	市民のスポーツへの参加のきっかけづくりと健康づくりを図るため「チャレンジデー」を実施します。	平日開催では家族と一緒に参加出来ないとの声を多くいただき検討を重ねた結果、平成 30 年度よりチャレンジデーからスポーツ週間へと変更し実施しました。
4-(2)	各種スポーツ・レクリエーション教室の充実 【スポーツ振興課】	多様なニーズに応じたスポーツ・レクリエーション教室を開催し、スポーツをするきっかけづくりとともに健康づくりを支援します。	幅広い年齢層の参加者を対象とした教室を開催しました。 開催教室数 全 19 教室 参加者 延べ 11,037 人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	市民体育大会 の実施 【スポーツ振興課】	競技スポーツとしての日頃の練習成果を発揮する場及びスポーツを通して、地域の交流を深め、活性化を図る機会を提供します。	体育協会及び自治会連合会に委託し実施しました。 種目別大会 開催種目 24 種目 参加者 5,556 人 自治会ブロック別運動会 会場数 10 会場 参加者 5,300 人
4-(2)	スポーツによる市民 交流大会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、市民の健康づくりを図り、地域の交流と親睦を深める大会を実施します。	自治会対抗スポーツ大会を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため中止しました。 開催予定日 3 月 15 日
4-(2)	気軽にスポーツを 親しむ事業の実施 【スポーツ振興課】	子どもから高齢者までが様々なスポーツを体験し、身近で気軽にスポーツに親しむことができる場を提供します。	親子ふれあいスポーツデーを市内 3 小学校で実施しました。 会 場：共成小、田中小、つつじが丘小 参加者 延べ 229 人 スポーツレクリエーションフェスティバルの実施（台風 19 号のため屋外種目は中止） 実施日 10 月 14 日 会 場：総合スポーツセンター 参加者 1,544 人
4-(2)	高齢者のためのス ポーツ大会の実施 【スポーツ振興課】	高齢者が生涯スポーツに親しみ、健康維持・増進を図るためのスポーツ大会を実施します。	シニア軟式野球大会を実施しました。 実施日 11 月 2 日 チーム数 4 チーム 参加者 80 人
4-(2)	新春駅伝競走大会 の実施 【スポーツ振興課】	「走る」ことによるスポーツの振興と健康づくり及び市民の交流を深める機会を提供します。	第 65 回の大会を実施しました。 実施日 1 月 12 日 チーム数 220 チーム 参加者 1,611 人 第 65 回大会よりコースを昭島駅北口へ変更し開催。
4-(2)	スポーツ力向上 事業の充実 【スポーツ振興課】	競技力向上を目的として、トップアスリートなどを招き、専門的な指導を実施します。	昭島市体育協会の所属スポーツ団体にて実施しました。 実施団体 7 団体 参加者 475 人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(2)	スポーツ推進委員 によるスポーツ の推進 【スポーツ振興課】	各小学校区域にスポーツ推進委員を配置し、市民の健康づくりのためにスポーツの推進を図ります。	各地域でスポーツ指導を実施しました。 市民健康づくり歩け歩け運動を2回実施しました。 1回目 5月19日 参加者 43人 2回目 11月3日 参加者 75人
4-(2)	大会への選手・役員の派遣 【スポーツ振興課】	スポーツを通して、近隣市等との交流を深めるとともに、競技力向上のために各種大会に選手・役員を派遣します。	都民体育大会などに昭島市代表として選手を派遣しました。 派遣大会数 4大会 派遣選手数 478人
4-(3)	指導者向け講習会の実施 【スポーツ振興課】	スポーツ団体の指導員向けの各種講習会を実施することにより、さらなる競技力の向上を図ります。	指導者を対象に、上級救命講習会を実施しました。 参加者 20人
4-(3)	運動施設の整備 【スポーツ振興課】	市内各運動施設の適切な維持管理を図るとともに、利用者が安心して利用できる施設整備を行います。	老朽化が進む各スポーツ施設において、建物・機械設備など各種修繕を行いました。 昭和公園内周路の舗装改修工事を行いました。
4-(3)	学校施設の活用 【スポーツ振興課】	学校教育の場である学校施設の運動施設を、夜間及び休日に、地域のスポーツ活動の場としての活用を図ります。	校庭夜間照明設備開放 ・つつじが丘小 利用者 1,070人 ・旧拝島第四小 利用者 1,118人 ・昭和中校庭 利用者 2,183人 ・昭和中テニスコート 利用者 477人 旧拝島第四小学校運動施設開放 校庭 5,090人 体育館 5,017人 小学校プール一般開放 会場 拝島第一小 開催日数 7日間 利用者 297人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
4-(3)	スポーツ団体への支援 【スポーツ振興課】	各種スポーツ団体への支援に努めるとともに、組織化の推進及び活動の活性化を図ります。	スポーツ団体の普及及び競技力向上のため各団体に補助金を拠出しました。 団体数 7 団体 補助金額 4,581,000 円

【主な課題】

(a) 運動習慣の定着について

平成29年度までチャレンジデーを実施していたが、実施日が5月の最終水曜日に決められているため、参加しづらいとの意見もあり、改めて市民一人一人が個々の状況に応じて、継続的に運動やスポーツを行うことのきっかけを作る施策の検討が必要である。

(b) 国際的な大会の開催について

2019ラグビーワールドカップ及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、市民のスポーツへの関心が高まる中、啓発活動の充実の検討が必要である。

(c) 運動施設の整備について

老朽化が進む各運動施設の修繕等の対策が必要である。また、新たに設置を予定している立川基地跡地内調節池の平常時利用の運動施設としての設置については、近年の気象状況に鑑み、残堀川から水が流入した場合の利用者の安全対策や、流入後の施設への影響等を再検討する必要がある。

【今後の取組の方向性】

(a) 運動習慣の定着について

平成30年度よりチャレンジデーをスポーツ週間へと変更し令和元年度は5月13日から19日の期間を定め実施した。これまで取り組んできたチャレンジデーを、いつでもどこでも誰とでも一緒に運動できる機会を提供するスポーツ週間へと移行することにより、市民の誰もがスポーツに親しみ取り組めるきっかけをつくり、スポーツへの参加機会の充実を図る。

(b) 国際的な大会の開催について

2019ラグビーワールドカップ開催期間中に、栗田工業昭島グラウンドを利用し栗田工業ラグビー部の協力のもと子どもラグビー教室を開催した。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、パラリンピック競技の更なる啓発活動や、ジュニア育成のため、競技団体と連携し競技力の向上を目指すとともに、市民の誰もがスポーツに親しむための機会の充実を図る。

(c) 運動施設の整備について

健康づくりとしての生涯スポーツの関心が高くなっている現状を踏まえ、より多くの市民に安全・安心なスポーツ環境を提供するため、老朽化が進む運動施設の計画的な修繕を昭島市公共施設等総合管理計画の個別計画によ

り実施する。

また、新たに設置する調節池の平常時利用の運動施設整備については、調節池に残堀川の水が流入するのは数年に一度と予測していたが、近年の気象状況においては、年に数回の可能性もあることから、施設利用者の安全対策、施設への流入時の影響等を調査し、運動施設の内容について再検討を行い、東京都等と調整を行う。

主要施策 5 文化財

文化財は、地域の伝統的な文化が結実したもので、昭島の歴史や文化の理解に必要な不可欠なものです。また、将来の地域づくりの核となるものとして、確実に次世代に継承していくことが大切です。

そこで、これらの文化遺産を後世に伝え、地域の文化遺産としての活用を図るため、その調査と保護・保存と活用を図ります。

【施策の取組状況】

(1) 文化財の保護・保存

(2) 文化財の活用

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(1)	郷土資料室の展示 【社会教育課】	市内の遺跡から発掘された土器・石器類や古文書、農具等の民具を体系的に展示し、昭島の歴史や文化の理解を図ります。	毎週、水曜・土曜・日曜日の正午～午後4時に開室 夏休期間の特別開室は猛暑のため中止。 アキシマエンスに新郷土資料室開設のため11月30日をもって閉室しました。 来館者 延べ705人
5-(1)	民具の調査・整理 【社会教育課】	現在では使用されなくなった民具は、先人の生活実態を知る手掛かりとして貴重な文化財です。その収集と保存に努めます。	民具調査整理補助作業員2名（臨時職員）を雇用し民具等の調査、整理、分類作業を実施しました。 旧昭和中学校木造校舎内1階及び旧拝島第四小学校内、収納民具調査・整理委託
5-(1)	埋蔵文化財の発掘調査 【社会教育課】	土木工事等により、貴重な文化遺産である埋蔵文化財の散逸を防ぐため、文化財保護法に基づき、諸手続きを確実に実施します。	埋蔵文化財発掘調査箇所 ・東耕地遺跡 (1346.72 m ²) ・長者屋敷遺跡 (1420.56 m ²) ・滝ノ上遺跡 (536.66 m ²) ・林ノ上遺跡 (717.00 m ²) ・林ノ上遺跡 (313.87 m ²) ※宅地開発等に伴う遺跡範囲の確認調査

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(1)	指定文化財の保護 【社会教育課】	国や都の指定文化財を保護・保存の支援を行うとともに、市指定文化財の保護・保存と活用を図るため助成事業などを継続します。	文化財保存事業補助金 ・文化財公開謝礼 18件 216,000円 ・木造大日如来坐像ほか2軀修理事業 1,396,000円 ・中神の獅子舞獅子頭等新調及び修理事業 917,000円
5-(2)	文化財ボランティアガイドの活用 【社会教育課】	文化財ボランティアガイドによる文化財めぐりの企画や郷土資料室の団体見学の解説など、活動の場の提供に努めます。	浄土古墳清掃（毎月1回）、 文化財めぐり説明・随行4回 郷土資料室開室管理（毎週水曜日、11月27日終了） 4月26日 ・ボランティア研修会 国立歴史民俗博物館（佐倉市） 文化財保護審議会委員及び 民具調査補助員等 19人 文化財講演会開催準備補助
5-(2)	文化財めぐりの実施 【社会教育課】	郷土昭島の歴史を自らの目で確かめ、身近な文化遺産を通して郷土を知り、文化財保護に対する啓発を図るために実施します。	4月27日 ・拝島のフジ開花時史跡案内 参加者 32人 10月19日、26日 ・中神熊野神社特別公開（本殿・拝殿） 参加者 92人 10月26日 ・中神・宮沢コース 参加者 29人 11月3日 ・大日如来（金剛像）坐像の特別公開、文化財ボランティアによる大日堂・拝島公園周辺の史跡説明 参加者 27人 11月17日 ・文化財講演会「考古学から見た多摩川中流域と昭島の歴史」 参加者 38人

番号	施策・事業名	概 要	取組内容
5-(2)	市史・文化財資料 図書の発刊・頒布 【社会教育課】	昭島市の歴史や文化財に関する資料を作成し、広く市民に周知します。	・昭島市近代史調査報告書Ⅶ ～陸軍航空工廠と昭島～ 500冊発刊
5-(2)	郷土資料室企画 事業の充実 【社会教育課】	郷土資料室の企画による「まが玉づくり教室」の実施のほか、郷土の歴史や文化に親しむ機会の場の提供を図ります。また、アキシマクジラの化石の活用を検討します。	・まが玉づくり教室 8月8日 参加者8人 ・くじら祭り及び青少年フェスティバルにおいて「アキシマクジラ」の化石を展示。

【主な課題】

(a) 郷土資料室の展示について

アキシマエンシスオープンに伴い、旧郷土資料室展示品及び旧昭和中学校木造校舎から校舎棟へ移送した大量の民具や出土遺物を整理し展示にむけて適切な管理をしなければならない。

【今後の取組の方向性】

(a) 郷土資料室の展示について

アキシマエンシス国際交流教養文化棟内郷土資料室には、来館者に昭島の歴史と魅力を伝えるため、ICTを用いた映像や三町屋台人形の展示のほか、都・市指定文化財の土器や遺物が展示されている。また、校舎棟の郷土資料展示室にも多くの土器等を展示し、校舎棟には収蔵室を設置し、市内に分散収蔵していた民具、土器、遺物、化石などが集約できた。

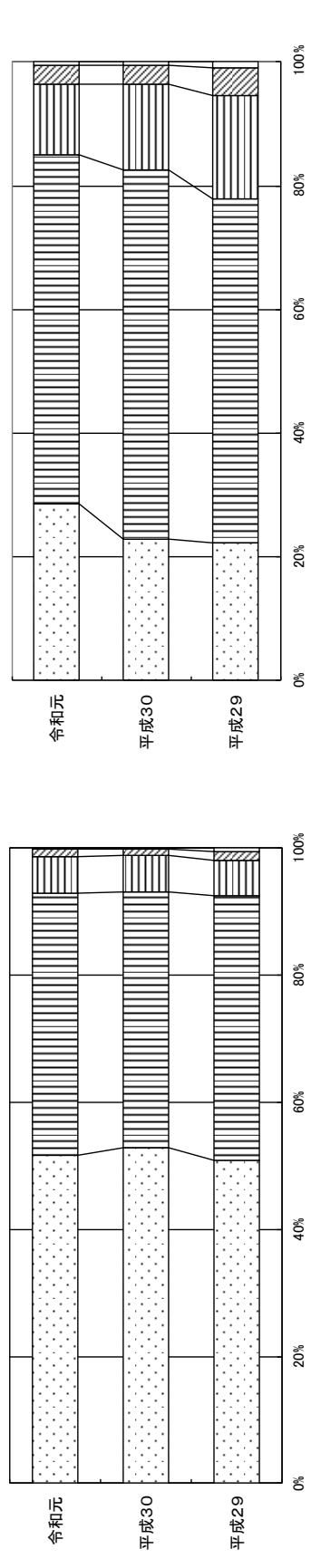
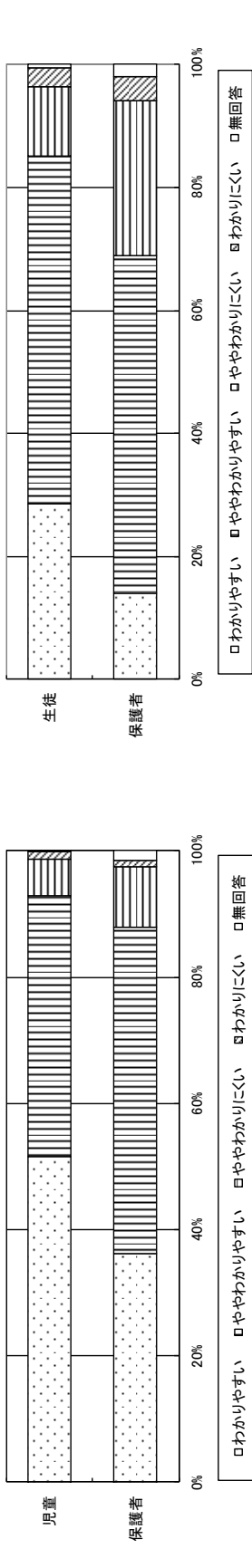
今後、2万点をこえる豊富な民具や土器、化石等を利用し、それぞれ特化した企画展示を実施することで、恒常化しがちな展示から、リピーターの絶えない施設運営をし、文化財保護思想の普及、啓発を図りつつ、内外から人を呼び込む観光資源としての機能をもつ文化財発信拠点となるよう努めていく。

1 確かな学力①

■ 肯定的な回答をした児童は92.9%で前年度より0.3ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は85.0%で前年度から2.3ポイント増加した。
⇒小学校では0.3ポイント減少したものの、各校で授業改善の取組の成果が見られる。授業が分かりにくいと答えている児童・生徒もいるため今後も授業改善を進めていく必要がある。

【中学校】							
質問事項		選択肢				無回答	
		わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい		
学校の授業は、わかりやすいですか。 (保護者の方には「学校はお子様に学力を身に付けさせていますか。」)	保護者	令和元	14.0%	54.9%	25.3%	3.8%	2.0%
	生徒	令和元	28.6%	56.4%	11.3%	3.1%	0.6%
		平成30	22.9%	59.8%	13.9%	3.0%	0.5%
		平成29	22.3%	55.6%	16.8%	4.4%	1.0%

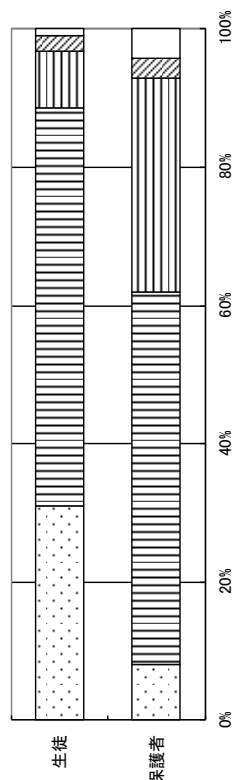
【小学校】							
質問事項		選択肢				無回答	
		わかりやすい	ややわかりやすい	ややわかりにくい	わかりにくい		
学校の授業は、わかりやすいですか。 (保護者の方には「学校はお子様に学力を身に付けさせていますか。」)	保護者	令和元	36.2%	51.8%	9.6%	1.0%	1.5%
	児童	令和元	51.7%	41.2%	5.9%	1.1%	0.1%
		平成30	52.8%	40.4%	5.6%	1.1%	0.1%
		平成29	50.8%	41.7%	5.6%	1.4%	0.6%



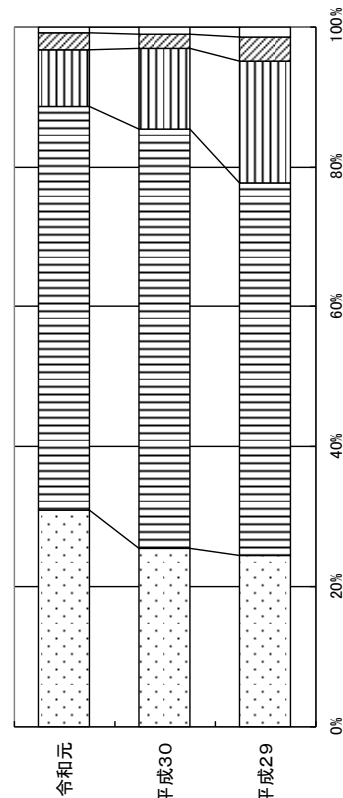
肯定的な回答をした原簿は93.7%で前年度から0.7ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は88.6%で前年度から3.2ポイント増加した。→各学校で児童・生徒の状況に応じて授業の工夫を行っており、成果が表れている。特に中学校では肯定的な回答の割合が年々増加している。しかし、中学校においては保護者の回答と生徒の回答に差があるため学校公開等において授業で工夫している点を発信していく必要がある。

【中学校】

質問事項	選択肢					
		令和元	令和元	令和元	令和元	令和元
先生方は授業を工夫していますか。	保護者		8.1%	53.9%	31.0%	2.9%
	生徒	令和元	31.1%	57.5%	8.2%	2.4%
		平成30	25.4%	60.0%	11.5%	1.9%
		平成29	24.5%	53.2%	17.3%	3.4%
						4.2%
						0.9%
						1.2%
						1.5%



□とても工夫している ▢工夫している ▣あまり工夫していない ▤工夫していない □無回答

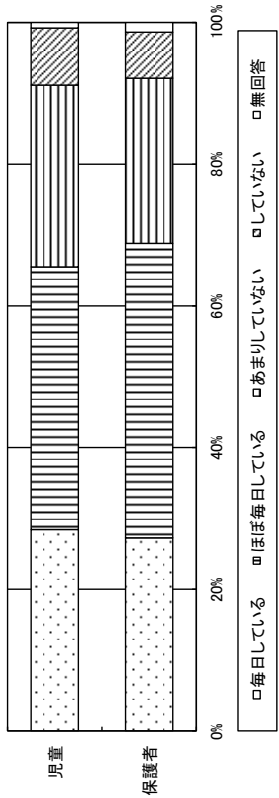


1 確かな学力③

■ 肯定的な回答をした児童は65.5%で前年度より1.3ポイント減少し、肯定的な回答をした生徒は47.6%で前年度から0.5ポイント増加した。
 ⇒各校での家庭学習定着の取組や保護者への啓発により効果が見られている。しかし、小学校では前年度よりも肯定的な回答の割合が減少しており、家庭学習の定着に向けた取組を継続して行っていく必要がある。

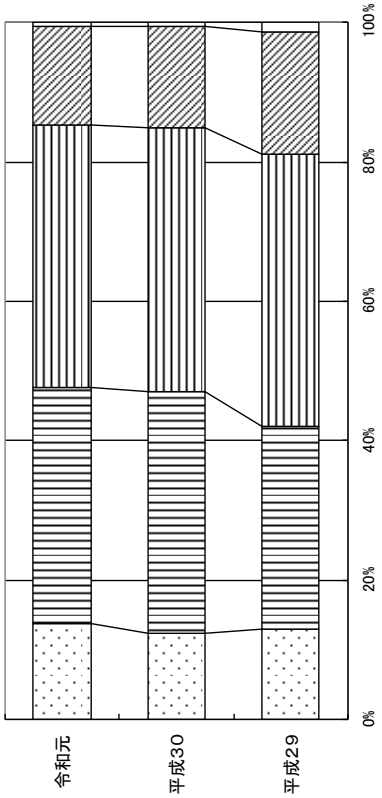
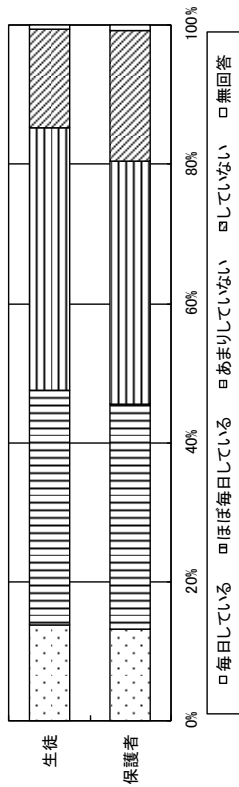
【小学校】

質問事項	選択肢						
		毎日している	ほぼ毎日している	あまりしていない	無回答		
家庭で決まった時間、勉強していますか。	保護者	令和元	27.3%	41.5%	23.5%	6.4%	1.3%
	児童	令和元	28.5%	37.0%	25.7%	8.1%	0.7%
		平成30	30.3%	36.5%	24.0%	8.9%	0.3%
		平成29	29.9%	35.9%	25.4%	7.8%	1.0%



【中学校】

質問事項	選択肢				
	毎日している	ほぼ毎日している	あまりしていない	無回答	
家庭で決まった時間、勉強していますか。	令和元	13.1%	32.3%	18.8%	0.8%
	保護者	13.7%	33.9%	37.7%	0.5%
	生徒	12.4%	34.7%	37.9%	0.6%
	平成29	12.9%	29.1%	39.1%	1.3%

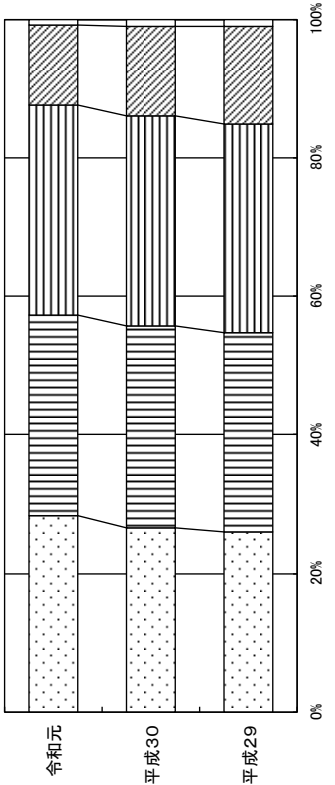
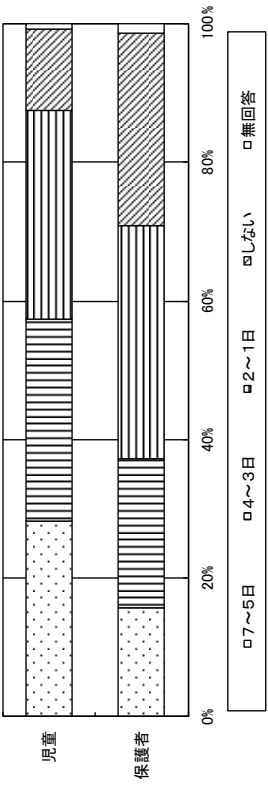


1 確かな学力④

- 1日以上読書をしていると回答した児童は87.8%であり、前年度から1.3ポイント増加した。1日以上読書をしていると回答した生徒は75.1%であり、前年度から2.8ポイント増加した。
⇒ 1日以上読書をしている児童・生徒は増加傾向にある。今後は、各校の読書活動の全体計画を基に学校図書館の活用をより一層推進するとともに、無読書の増加を抑えるために今後も継続して本に慣れ親しみ習慣化させる取組を推進していく必要がある。

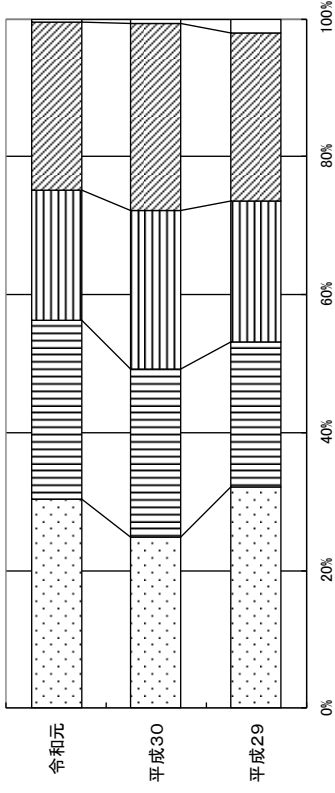
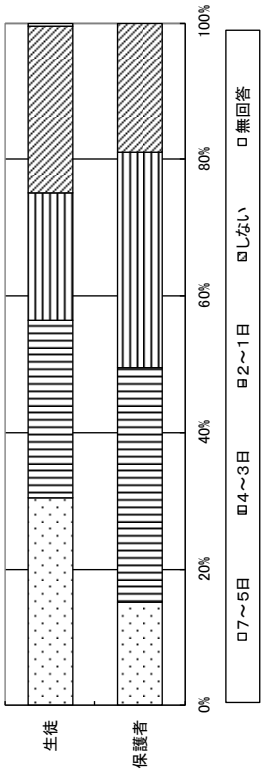
【小学校】

質問事項	選択肢					
		7～5日	4～3日	2～1日	しない 無回答	
一週間にどのくらい読書に取り組んでいますか。	保護者	令和元 15.8%	21.4%	33.8%	27.7%	1.4%
	児童	令和元 28.3%	29.1%	30.2%	11.7%	0.7%
		平成30 26.6%	29.4%	30.3%	13.1%	0.9%
		平成29 26.0%	28.8%	30.2%	14.1%	1.0%



【中学校】

質問事項	選択肢					
		7～5日	4～3日	2～1日	しない 無回答	
一週間にどのくらい読書に取り組んでいますか。	保護者	令和元 14.7%	18.4%	26.8%	39.3%	0.8%
	生徒	令和元 30.4%	26.0%	18.7%	24.4%	0.5%
		平成30 24.8%	24.5%	23.0%	27.2%	0.6%
		平成29 32.1%	21.0%	20.6%	24.3%	2.0%



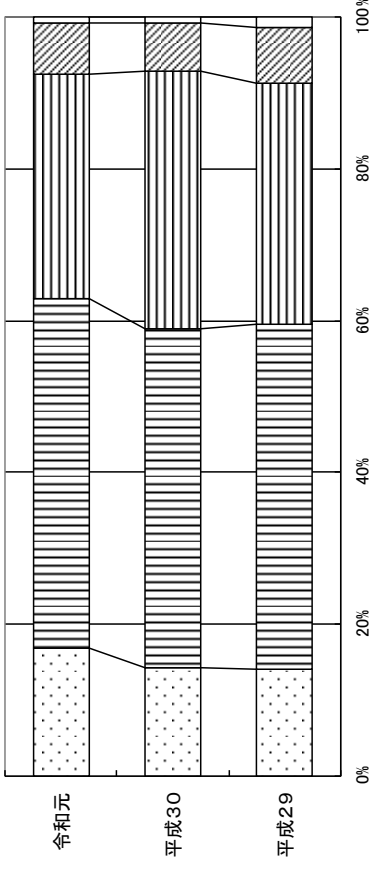
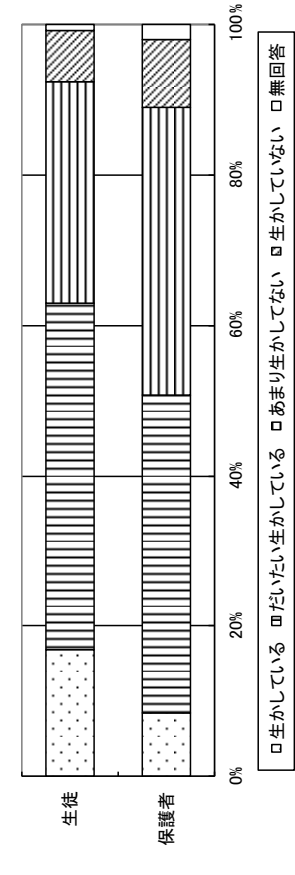
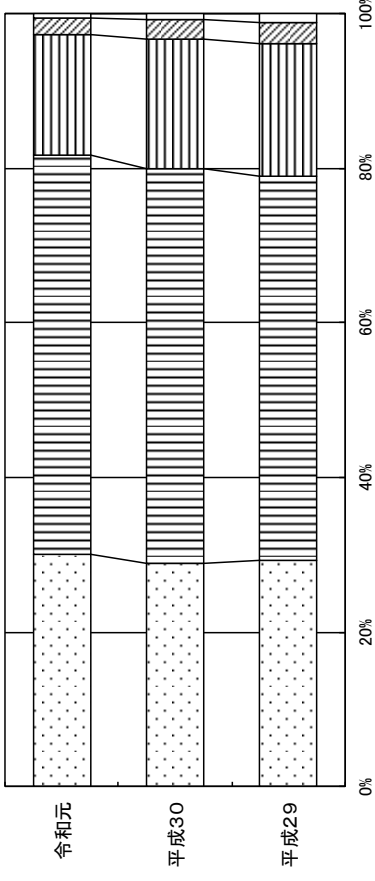
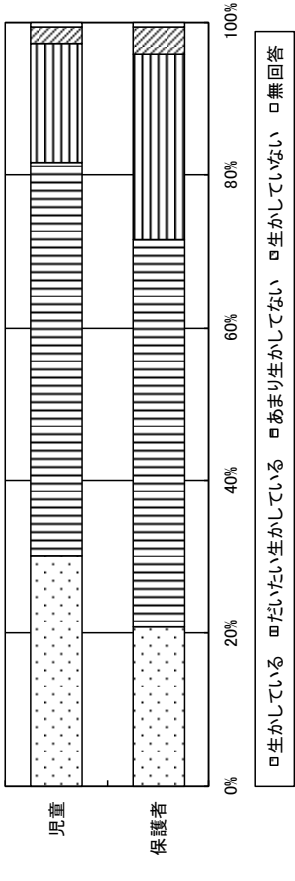
1

確かな学力⑤

■

肯定的な回答をした児童は81.6%で前年度から1.8ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は62.9%で前年度から4.0ポイント増加した。
 ⇒体験学習の充実を図り、学習と日常生活との関連を明確にするとともに、問題解決の方法等学習のしかたや児童・生徒の学び姿勢や態度についても育成していく必要がある。

【小学校】		選択肢			
質問事項		生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	無回答
学校で学んだことを生活の中で生かしていますか。	保護者	20.9%	50.6%	24.2%	3.6%
	児童	令和元	30.0%	51.6%	2.2%
		令和元	28.9%	50.9%	2.6%
		平成30	29.3%	49.7%	2.9%
		平成29			1.1%

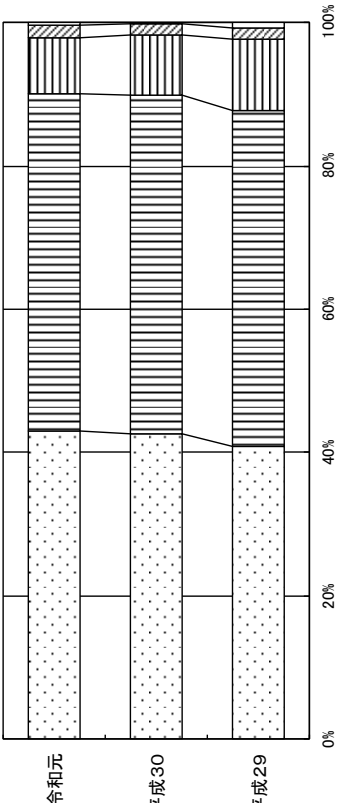
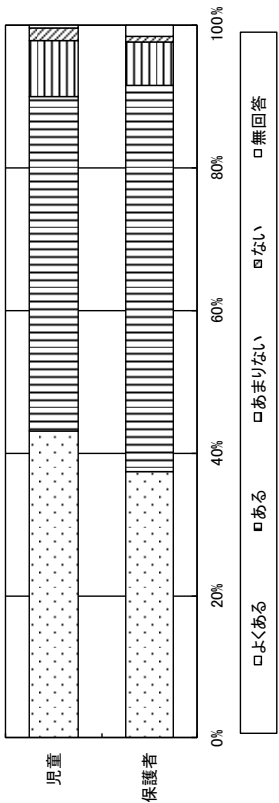


2 豊かな心①

肯定的な回答をした児童は90.0%で前年度から0.1ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は84.4%で前年度から2.1ポイント増加した。
⇒各校で、人権教育を中心とした「自己共に大切に心」の醸成に向けた取組の効果が表れている。

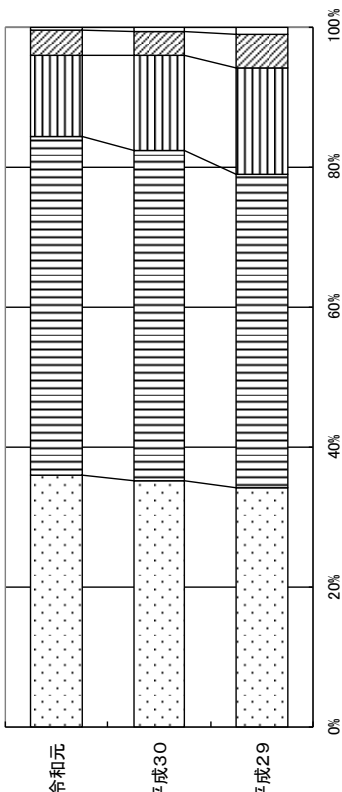
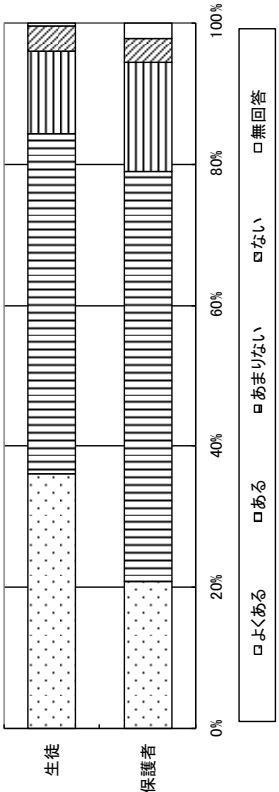
【小学校】

質問事項		選択肢			
		よくある	ある	あまりない	ない
学校の授業で、自分や友だちのことを大切に だと学ぶことがあると 思いますか。	保護者	令和元 37.4%	54.1%	6.2%	0.7%
	児童	令和元 43.0%	47.0%	8.0%	1.7%
		平成30 42.7%	47.2%	8.4%	1.4%
		平成29 40.9%	46.9%	9.9%	1.6%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		よくある	ある	あまりない	ない
学校の授業で、自分や友だちのことを大切に だと学ぶことがあると 思いますか。	保護者	令和元 20.8%	58.1%	15.6%	3.4%
	生徒	令和元 36.1%	48.3%	11.6%	3.6%
		平成30 35.3%	47.0%	13.7%	3.4%
		平成29 34.3%	44.7%	15.2%	4.9%

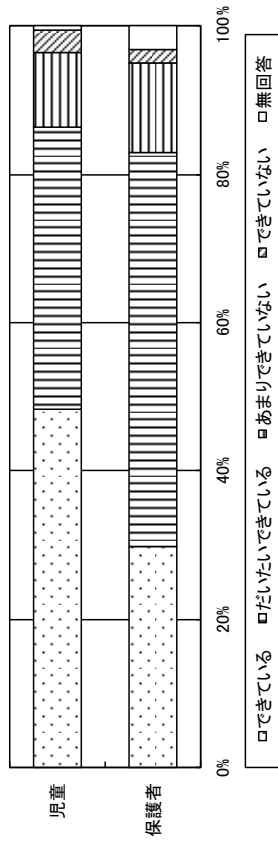


2 豊かな心②

肯定的な回答をした児童は88.2%で前年度から1.7ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は88.1%で前年度から2.6ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が安心して学校生活を通じることができるよう、各校で「昭島市公立学校教育のユニバーサルデザイン」を効果的に活用していく。

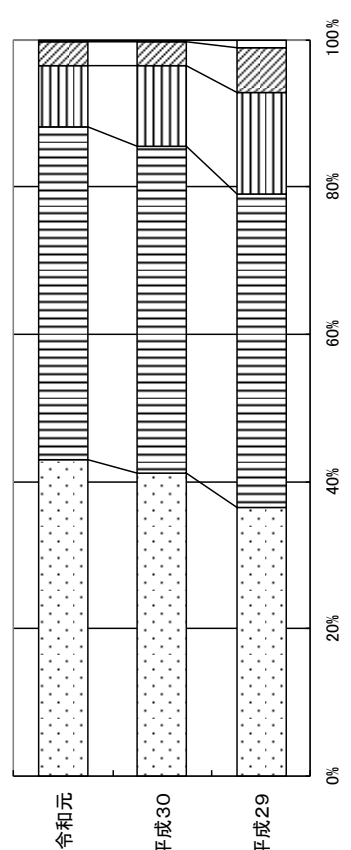
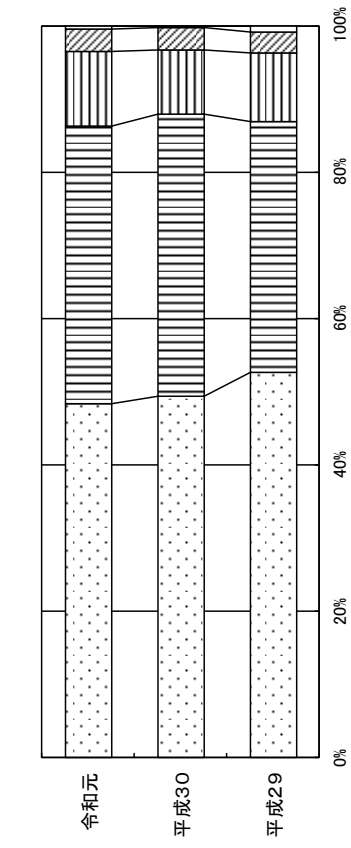
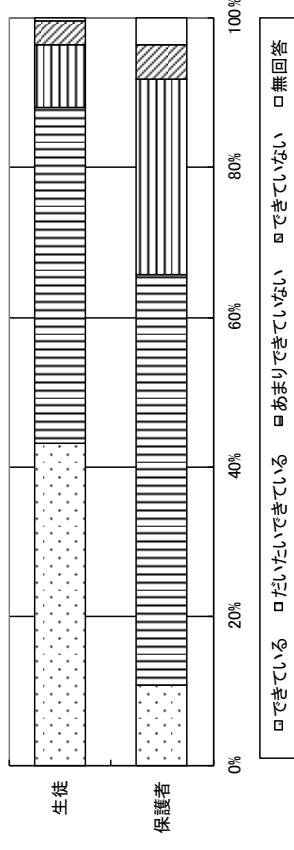
【小学校】

質問事項	選択肢		選択肢	選択肢
	できていない	できていない	できていない	できていない
あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	保護者	令和元	29.8%	3.2%
	児童	令和元	48.3%	0.5%
		平成30	49.3%	0.3%
		平成29	52.5%	0.9%



【中学校】

質問事項	選択肢		選択肢	選択肢
	できていない	できていない	できていない	できていない
あなたは学校で落ち着いて安心して生活できていますか。	保護者	令和元	10.8%	4.5%
	生徒	令和元	43.1%	3.1%
		平成30	41.1%	3.2%
		平成29	36.5%	1.0%

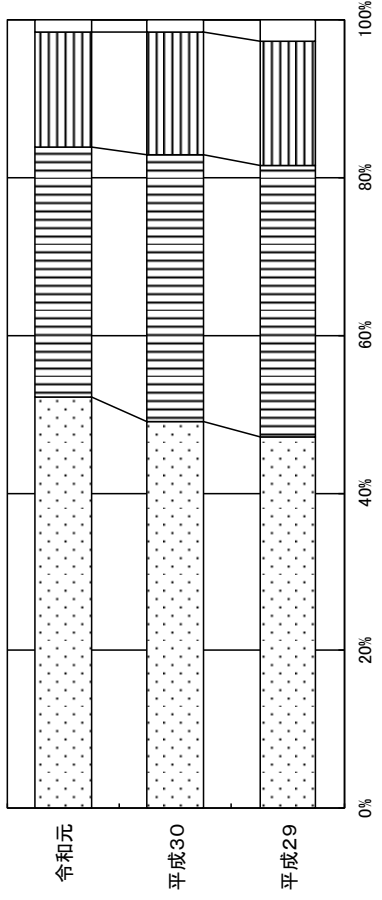
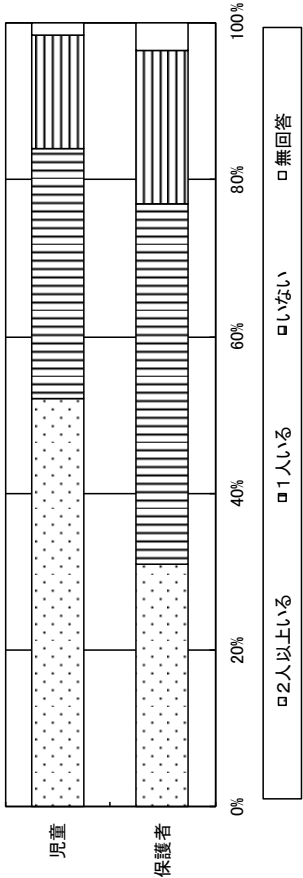


2 豊かな心③

■ 学校に相談できる先生が1人以上いると回答した児童は83.9%で前年度から0.9ポイント増加した。学校に相談できる先生が1人以上いると回答した生徒は71.2%で前年度から6.9ポイント増加した。
 ⇒各校で学級満足度調査を効果的に活用している成果が表れている。今後も、配慮を要する児童・生徒に対しては、教員がより積極的に声を掛けるなど、児童生徒とのより一層の信頼関係を構築していく必要がある。

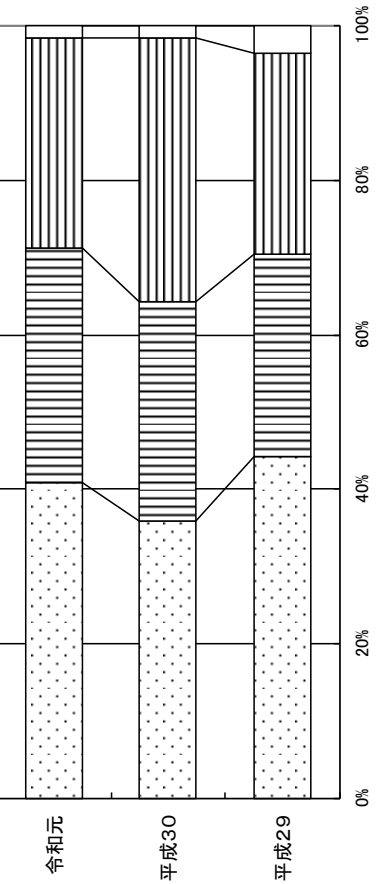
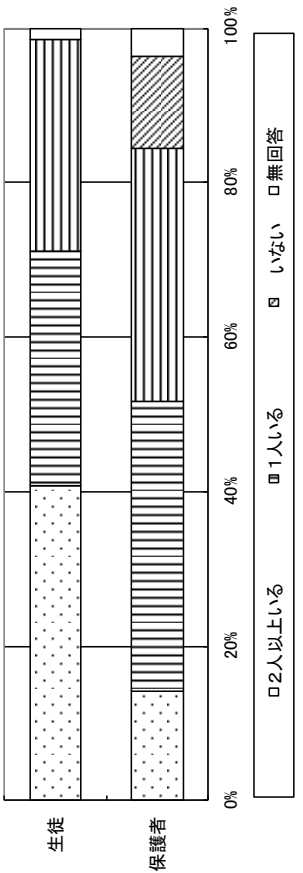
【小学校】

質問事項		選択肢			
		そう思う 2人以上いる	だいたい 1人いる	あまり いない	無回答
学校に相談できる先生がいますか。	保護者	令和元 29.3%	43.8%	18.5%	5.1%
	児童	令和元 52.2%	31.7%	14.5%	3.3%
		平成30 49.0%	34.0%	15.5%	1.6%
		平成29 47.1%	34.5%	15.6%	2.7%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		そう思う 2人以上いる	だいたい 1人いる	あまり いない	無回答
学校に相談できる先生がいますか。	保護者	令和元 14.1%	37.6%	32.6%	11.9%
	生徒	令和元 40.9%	30.3%	27.3%	1.6%
		平成30 35.9%	28.4%	34.1%	1.6%
		平成29 44.2%	26.3%	26.1%	3.4%

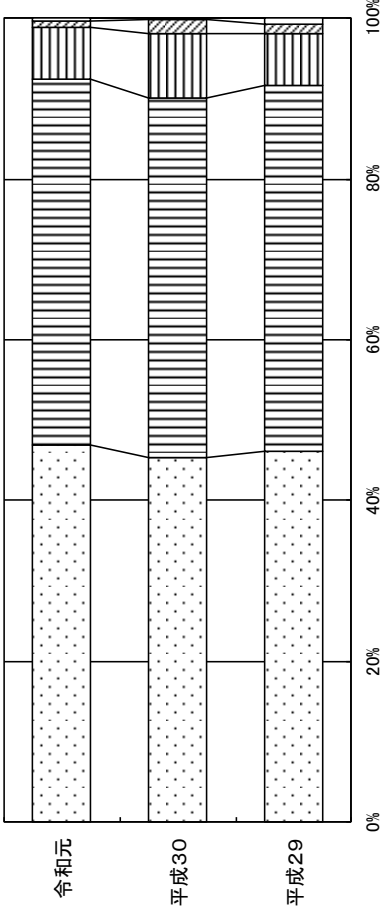
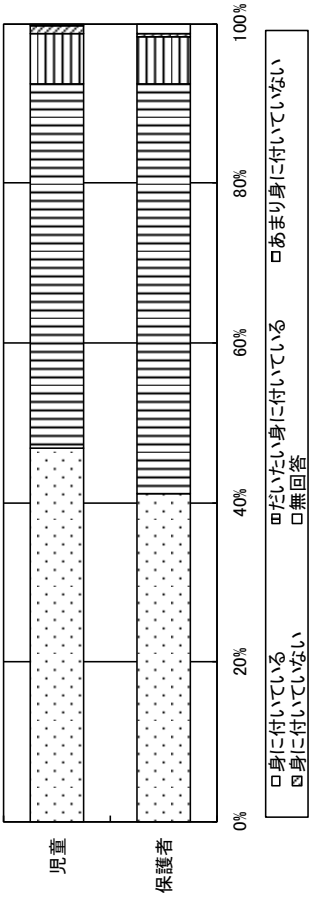


2 豊かな心④

■ 肯定的な回答をした児童は92.4%で前年度から2.3ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は95.0%で前年度から2.6ポイント増加した。
⇒善悪の判断能力が身に付いてきている。今後も、授業等により行動には心から賞賛し、課題のある行動には毅然とした態度で指導することをより一層徹底し、規範意識の醸成を図る。

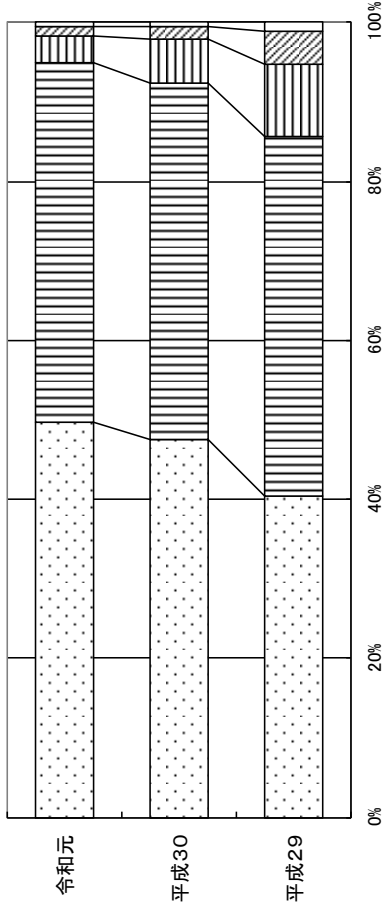
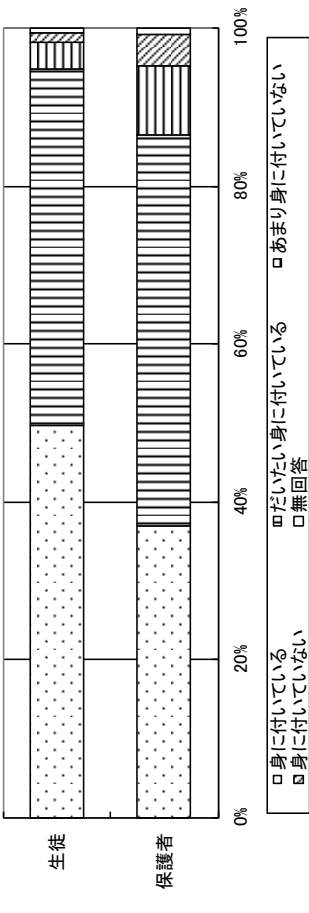
【小学校】

質問事項		選択肢			
		身に付いている	だいたい身に付いている	あまり身に付いていない	身に付いていない
あなたは、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	41.1%	51.3%	5.9%	0.4%
	児童	46.8%	45.6%	6.3%	1.0%
	平成30	45.3%	44.8%	7.9%	1.8%
	平成29	46.2%	45.5%	6.3%	1.3%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		身に付いている	だいたい身に付いている	あまり身に付いていない	身に付いていない
あなたは、よいこと、悪いことを判断する力が身に付いていると思いますか。	保護者	36.9%	49.6%	8.8%	4.0%
	生徒	49.8%	45.2%	3.4%	1.2%
	平成30	47.5%	44.9%	5.7%	1.4%
	平成29	40.5%	45.2%	9.0%	4.2%

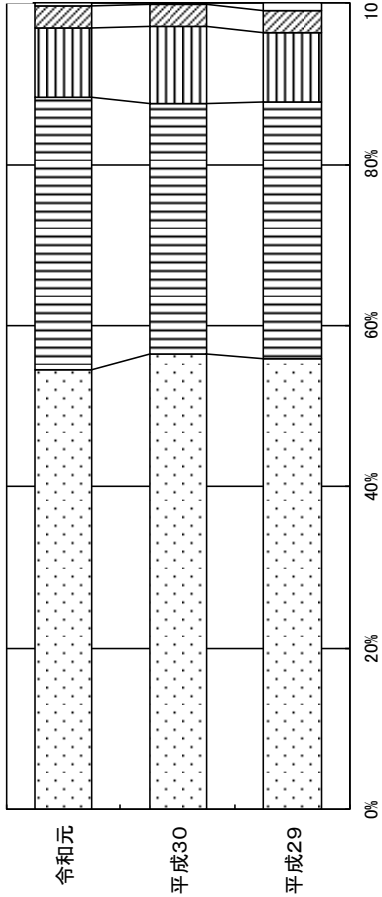
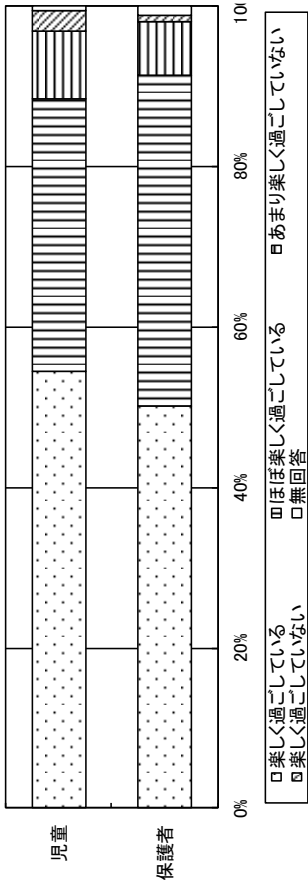


2 豊かな心⑥

■ 肯定的な回答をした児童は88.3%で前年度から0.8ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は87.0%で前年度から1.4ポイント減少した。
⇒今後も児童・生徒が楽しく学校生活を送れるように教育活動を充実させるとともに、楽しく学校生活を送っているかどうか、児童・生徒の日常の様子を学校全体で見守り、教員間で生徒情報の共有を密に行う。

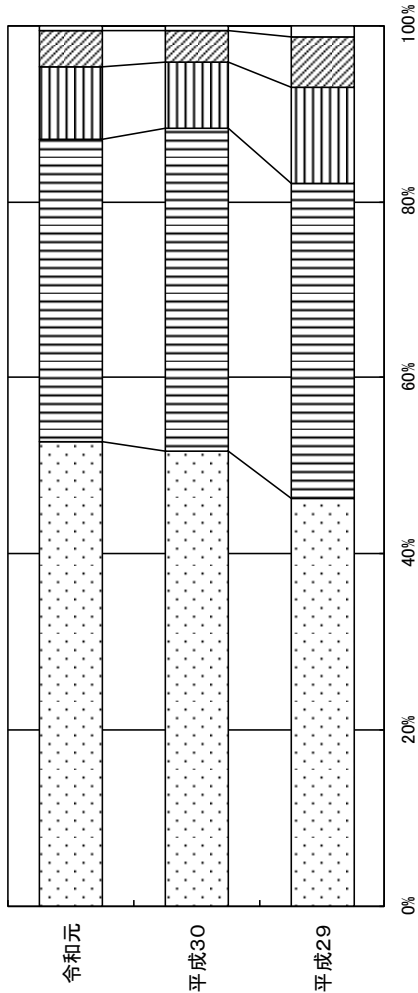
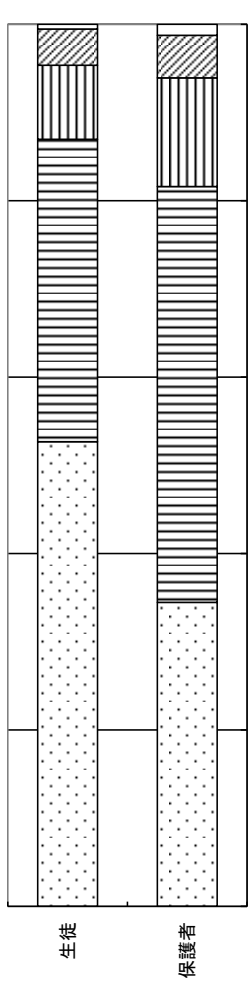
【小学校】

質問事項		選択肢			
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	無回答
あなたは楽しく学校生活を過ごしていますか。	保護者	50.1%	41.2%	6.8%	0.8%
	令和元				1.1%
	令和元	54.5%	33.8%	8.5%	2.7%
	児童				0.5%
	平成30	56.5%	31.0%	9.5%	2.8%
	平成29	55.8%	31.8%	8.6%	2.7%
					0.2%
					1.0%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	無回答
あなたは楽しく学校生活を過ごしていますか。	保護者	34.6%	47.1%	12.4%	4.8%
	令和元				1.2%
	令和元	52.8%	34.2%	8.4%	4.1%
	生徒				0.5%
	平成30	51.8%	36.6%	7.5%	3.5%
	平成29	46.2%	35.9%	10.8%	5.8%
					0.6%
					1.2%



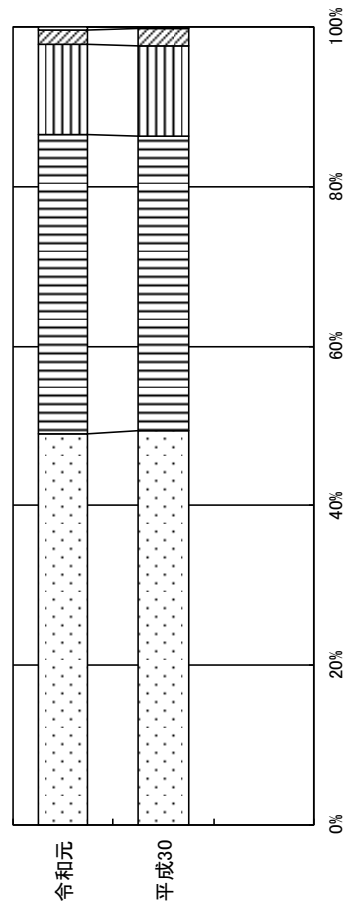
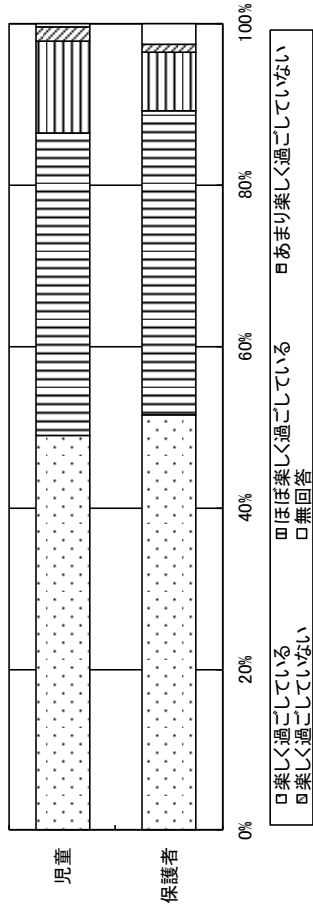
2 豊かな心⑦



肯定的な回答をした児童は86.5%で前年度から0.1ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は83.3%で前年度から1.6ポイント増加した。
⇒男女の別なく接することができている児童・生徒は80%を超えており、今後も男女共同参画社会の実現に向けて、人権教育をより一層推進していく。

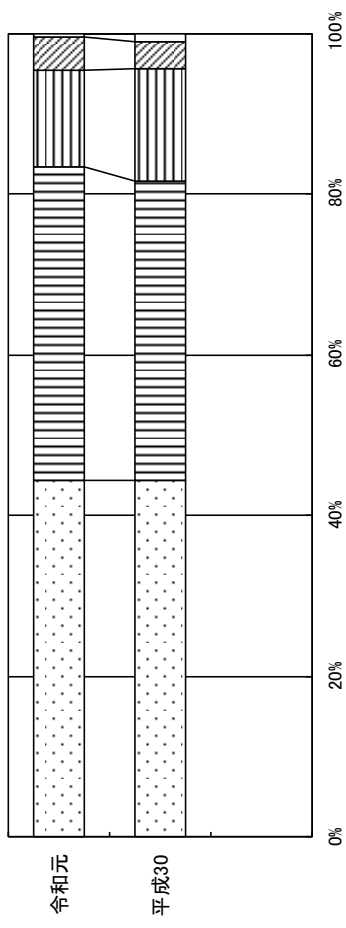
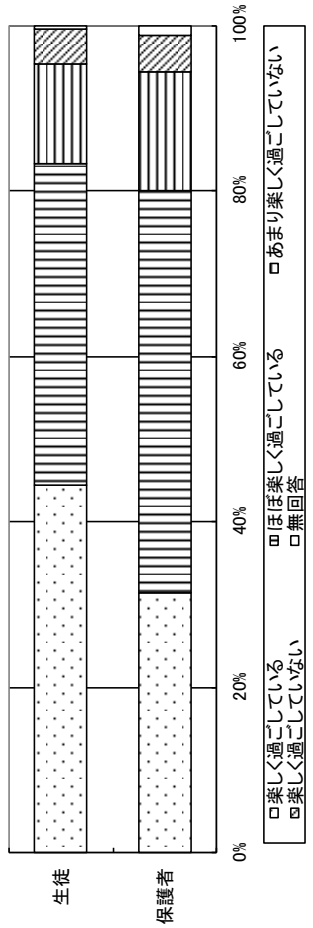
【小学校】

質問事項		選択肢			
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない
あなたは、男女の性別に関係なく、クラスや学校の仲間と接していますか。	保護者	令和元	51.6%	37.7%	7.1%
	児童	令和元	48.9%	37.6%	11.4%
		平成30	49.4%	37.0%	11.4%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		楽しく過ごしている	ほぼ楽しく過ごしている	あまり楽しく過ごしていない	楽しく過ごしていない
あなたは、男女の性別に関係なく、接することができていますか。	保護者	令和元	31.4%	48.6%	14.3%
	生徒	令和元	44.4%	38.9%	12.1%
		平成30	44.4%	37.3%	14.0%

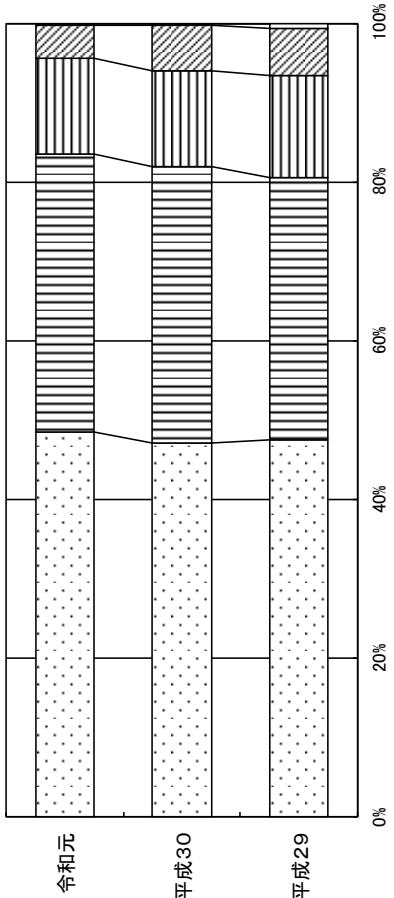
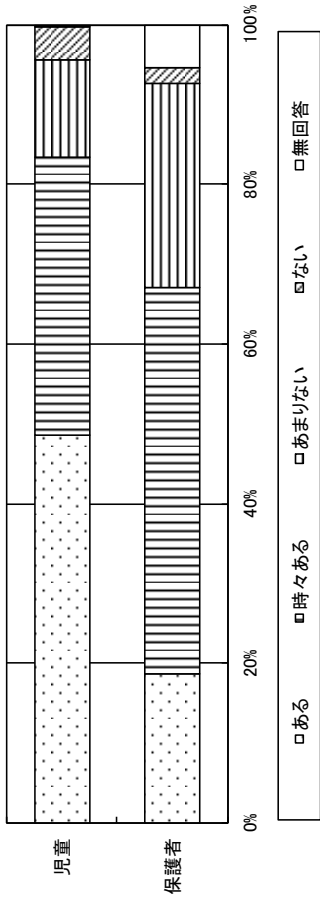


3 輝く未来①

肯定的な回答をした児童は83.5%で前年度から1.5ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は74.1%で前年度から1.7ポイント減少した。
⇒今後も一人一人のキャリア形成や自己実現に向けて、自己理解を深める学習や、自分の生き方や進路について考える学習を充実させる。

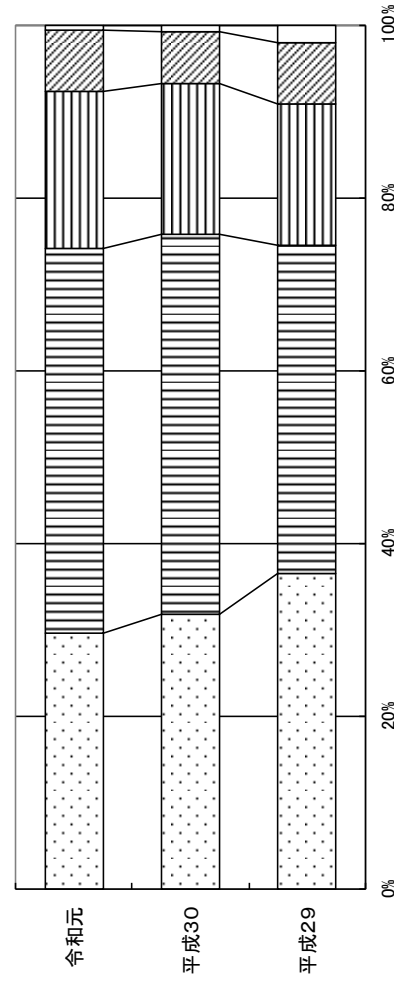
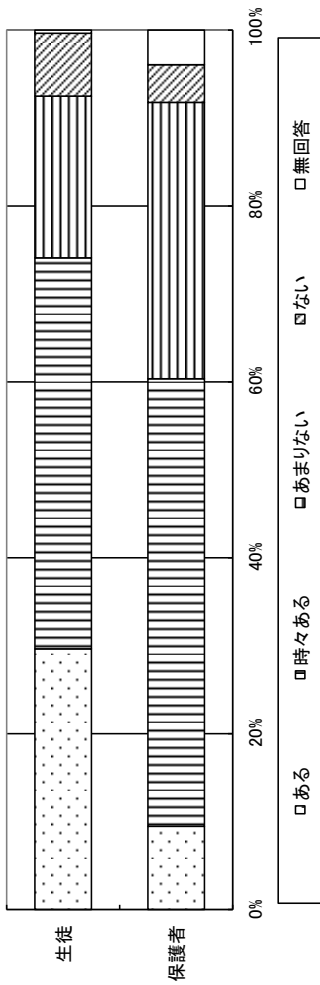
【小学校】

質問事項			選択肢			
	保護者	児童	ある	時々ある	あまりない	無回答
「自分の得意なものは何か」「自分に向いているのは何か」について考えることがありますか。	令和元	令和元	18.6%	48.5%	25.5%	5.3%
	令和元	令和元	48.6%	34.9%	12.2%	0.3%
	平成30	平成30	47.1%	34.9%	12.1%	0.3%
	平成29	平成29	47.6%	32.9%	12.9%	0.6%



【中学校】

質問事項			選択肢			
	保護者	生徒	ある	時々ある	あまりない	無回答
学校は、あなたの将来の生き方について、考える機会を与えていると思いますか。(職場体験など)	令和元	令和元	9.5%	50.8%	31.3%	4.1%
	令和元	令和元	29.6%	44.5%	18.3%	0.5%
	平成30	平成30	31.9%	43.9%	17.6%	0.7%
	平成29	平成29	36.5%	38.1%	16.4%	1.9%

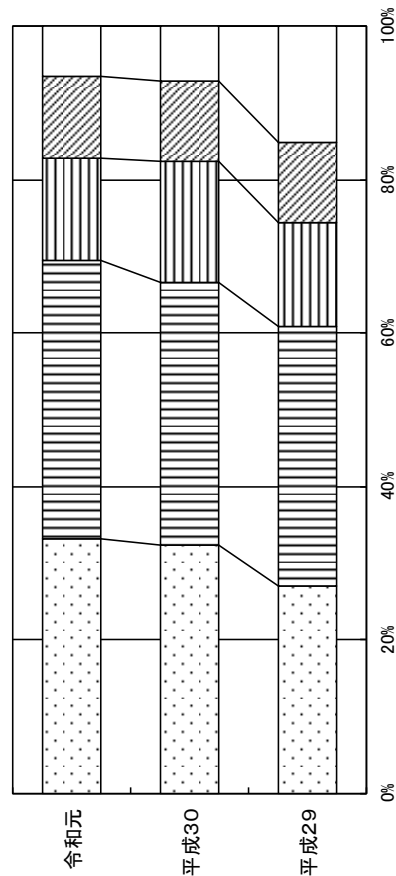
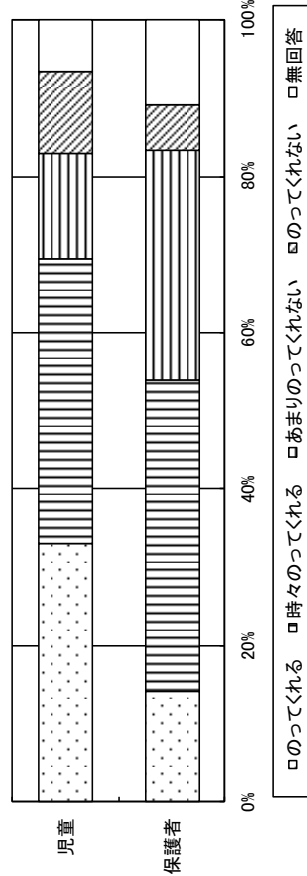


3 輝く未来②

肯定的な回答をした児童は69.5%で前年度から2.9ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は69.3%で前年度から0.7ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が相談しやすい環境づくりに努めていく。保護者の回答と児童・生徒の回答に差があるため、各校で保護者に情報発信をしていく必要がある。

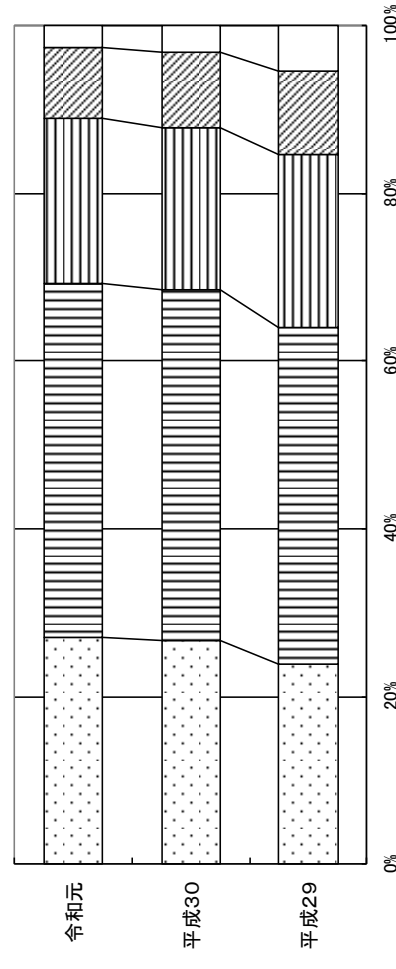
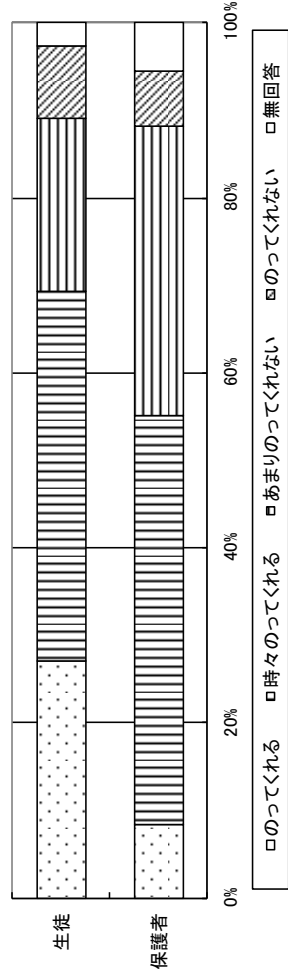
【小学校】

質問事項	選択肢						
		のってくれる	時々のってくれる	あまりのってくれない	無回答		
先生方は、将来の夢や目標などについて相談にのってくれますか。	保護者	令和元	14.2%	39.7%	29.4%	5.8%	10.9%
	児童	令和元	33.1%	36.4%	13.4%	10.5%	6.5%
		平成30	32.3%	34.3%	15.8%	10.5%	7.1%
		平成29	27.0%	33.8%	13.6%	10.5%	15.0%



【中学校】

質問事項	選択肢						
		のってくれる	時々のってれる	あまりのってくれない	のってくれない	無回答	
先生方は、あなたが知りたい進路の情報や将来の生き方について、適切にアドバイスをしてくれていますか。	保護者	令和元	8.5%	46.6%	33.0%	6.4%	5.5%
	生徒	令和元	27.1%	42.2%	19.7%	8.4%	2.6%
		平成30	26.7%	41.9%	19.4%	9.1%	3.1%
		平成29	23.9%	40.2%	20.7%	9.8%	5.5%

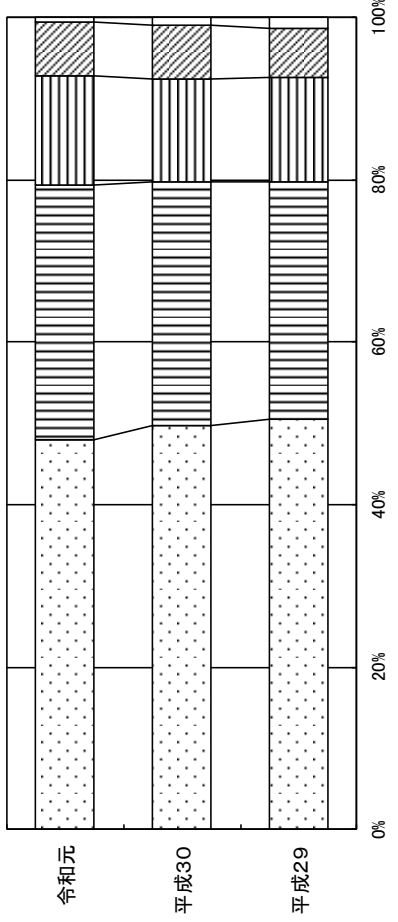
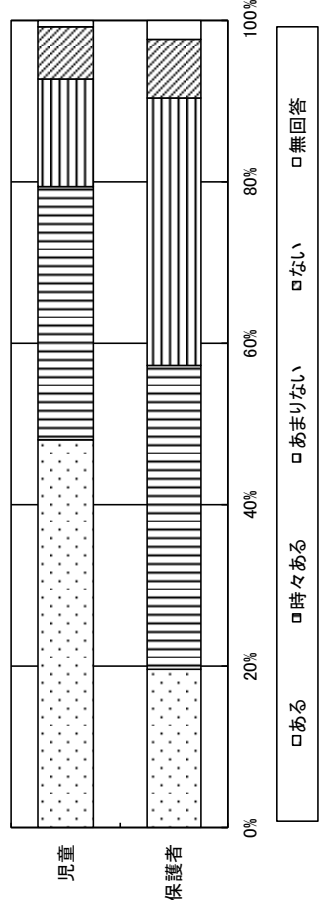


3 輝く未来③

肯定的な回答をした児童は79.4%で前年度より0.3ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は79.1%で前年度から0.6ポイント増加した。
⇒学級活動や総合的な学習の時間をはじめとして教育活動全体を通して、児童・生徒が将来のことをについて考える機会を設定し、一人一人が将来の目標をもつことができるようにしていく。

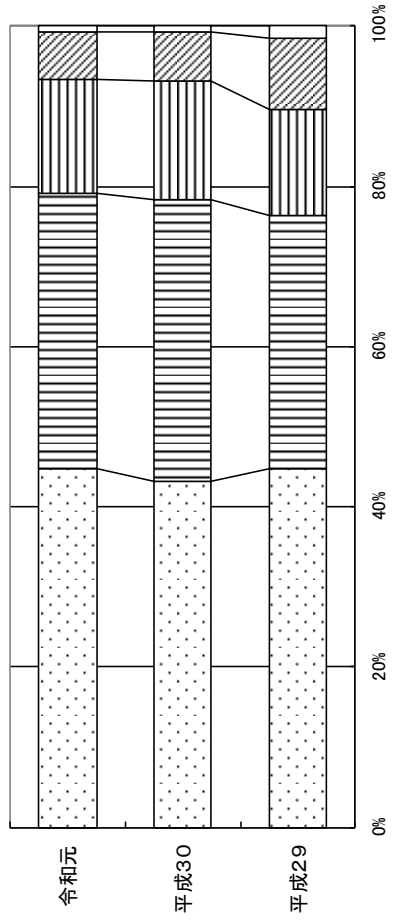
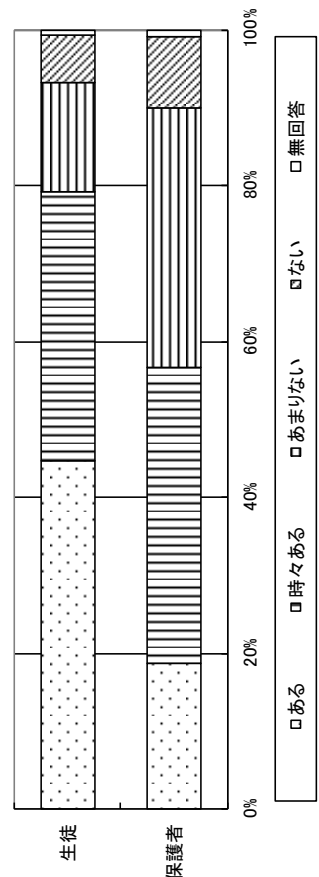
【小学校】

質問事項	選択肢						
		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答	
自分の将来について考えることがありますか。	保護者	令和元	19.6%	37.7%	33.0%	7.4%	2.3%
	児童	令和元	48.0%	31.4%	13.3%	6.6%	0.7%
		平成30	49.8%	29.9%	12.7%	6.5%	1.0%
		平成29	50.5%	29.2%	12.9%	6.1%	1.3%



【中学校】

質問事項	選択肢						
		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答	
自分の将来について 考えることがあります か。	保護者	令和元	18.7%	38.0%	33.2%	9.1%	1.0%
	生徒	令和元	44.7%	34.4%	14.2%	6.0%	0.6%
		平成30	43.1%	35.4%	14.7%	6.2%	0.7%
		平成29	44.7%	31.6%	13.4%	8.8%	1.5%

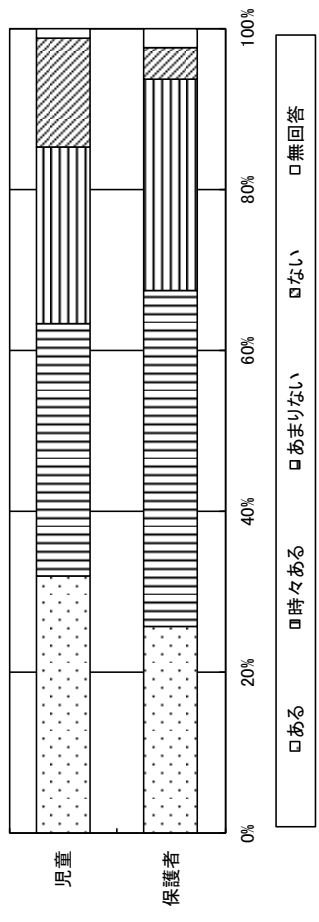


3 輝く未来④

肯定的な回答をした児童は63.4%で前年度から0.9ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は68.1%で前年度から1.1ポイント増加した。
⇒今後も児童・生徒が自分の将来について家族と話をし、考える機会をつくるように保護者会等を通じて啓発していく。

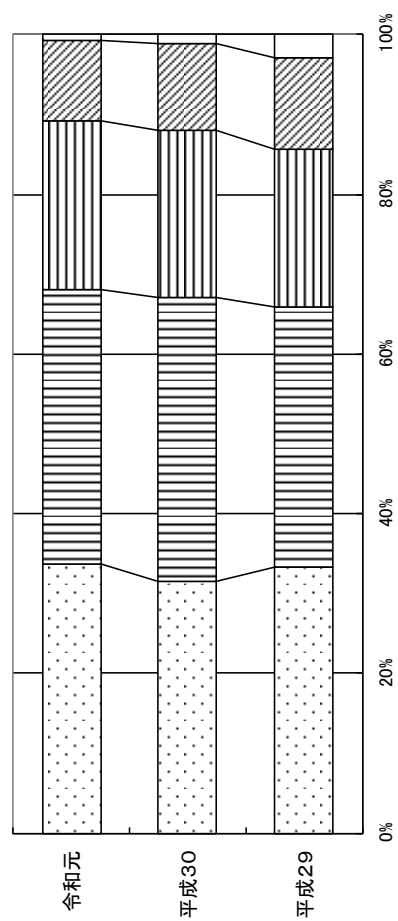
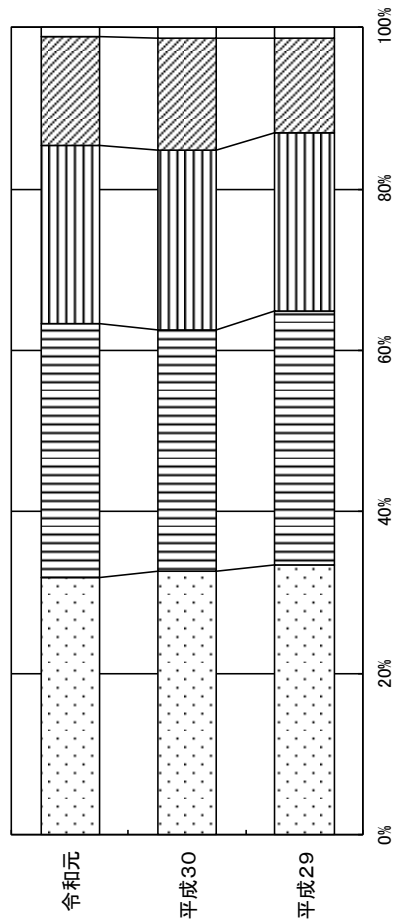
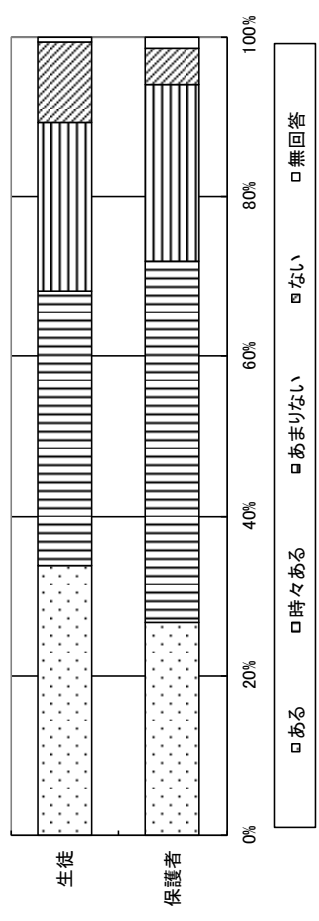
【小学校】

質問事項		選択肢			
		ある	時々ある	あまりない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	25.8%	41.8%	26.2%	3.9%
	令和元	31.9%	31.5%	22.0%	13.4%
	令和元	32.6%	29.9%	22.2%	14.0%
	平成30	33.5%	31.5%	22.0%	11.6%
	平成29				1.4%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		ある	時々ある	あまりない	無回答
家族と自分の将来について考えることがありますか。	保護者	26.7%	45.2%	22.1%	4.7%
	令和元	33.8%	34.3%	21.2%	10.1%
	令和元	31.6%	35.4%	21.0%	10.8%
	平成30	33.3%	32.6%	19.7%	11.6%
	平成29				2.8%

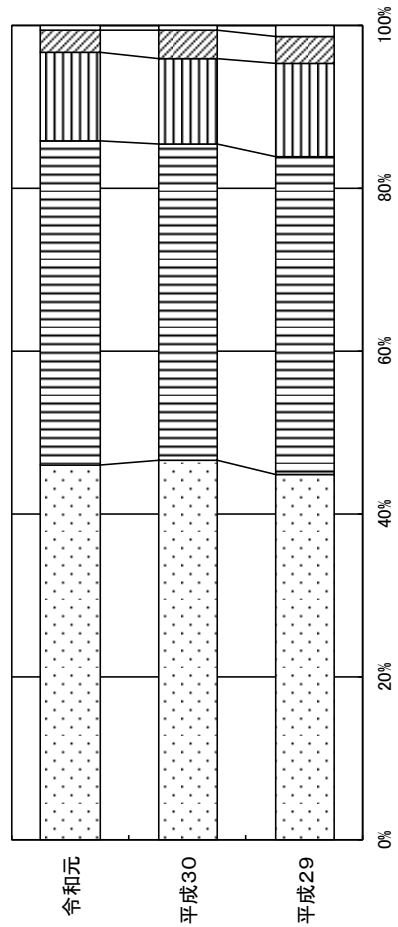
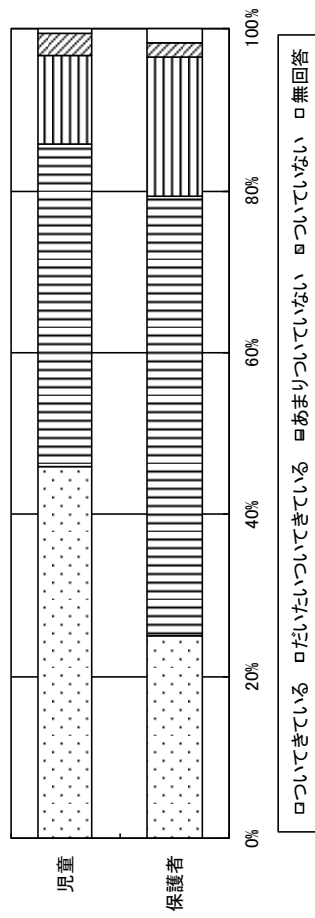


4 たくましい体①

肯定的な回答をした児童は85.8%で前年度から0.2ポイント増加した。肯定的な回答をした生徒は79.6%で前年度から1.0ポイント増加した。
⇒今後も各校で「元気アップガイドブック」を効果的に活用し、日常的な体力向上の取組を更に推進していく。

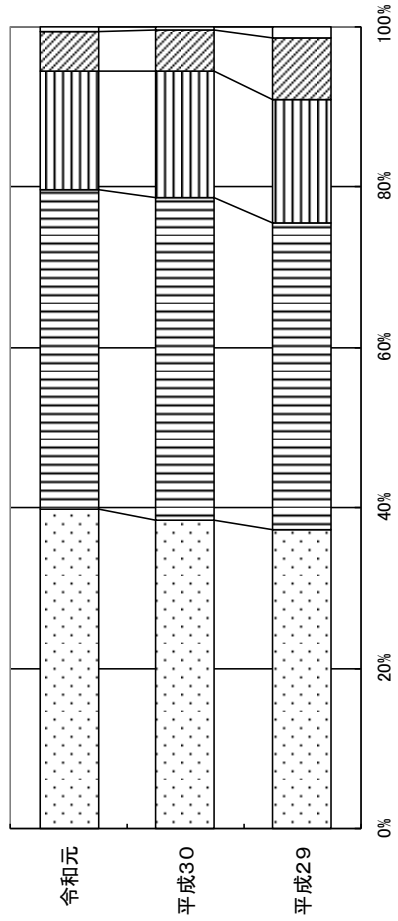
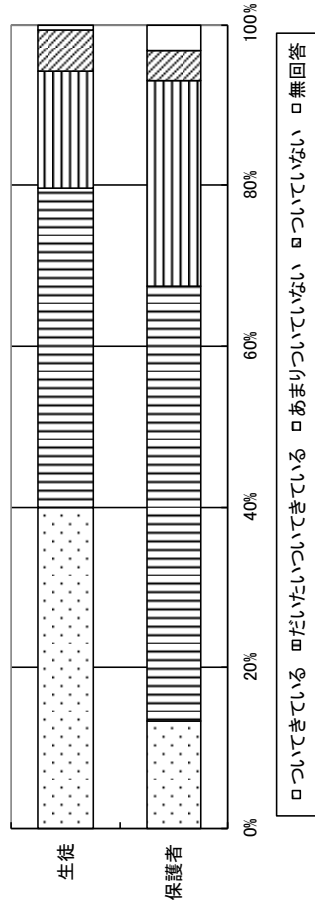
【小学校】

質問事項		選択肢			
		ついてきている	だいたいついてきている	あまりついていない	ついていない
学校生活を通して、体力が付いてきていますか。	保護者	25.0%	54.3%	17.2%	1.7%
	児童	46.0%	39.8%	11.0%	2.6%
	平成30	46.7%	38.9%	10.5%	3.3%
	平成29	45.0%	38.9%	11.4%	3.3%



【中学校】

質問事項		選択肢			
		ついてきている	だいたいついてきている	あまりついていない	ついていない
学校生活を通して、体力が付いてきていますか。	保護者	13.4%	54.1%	25.6%	3.2%
	生徒	39.9%	39.7%	14.7%	0.7%
	平成30	38.4%	40.2%	15.7%	0.4%
	平成29	37.4%	38.1%	15.5%	1.5%

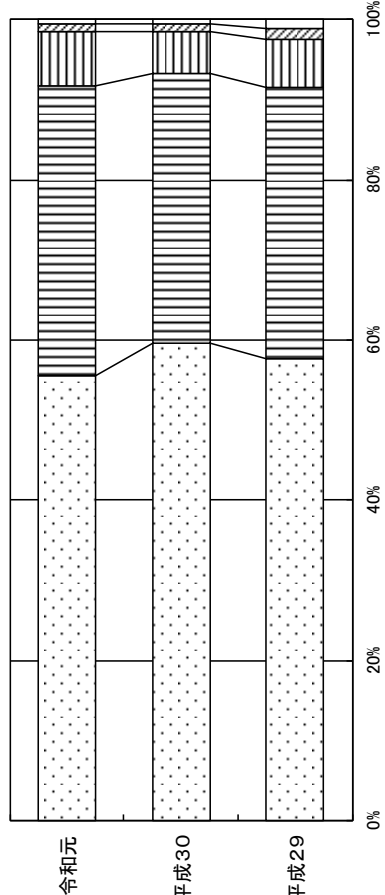
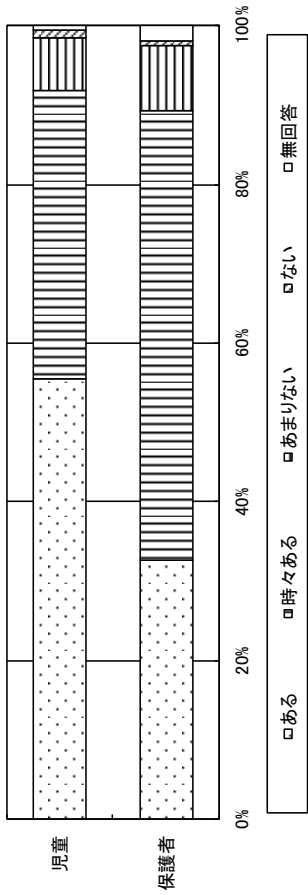


4 たくましい体②

■ 肯定的な回答をした児童は91.7%で前年度から1.6ポイント減少し、肯定的な回答をした生徒は91.4%で前年度から3.2ポイント増加した。
 ⇒ 肯定的な回答をした児童・生徒は90%を超えており、各校における安全や健康についての指導を丁寧に行っている成果であると考えられる。今後も計画的に指導を実施し、児童・生徒が安全や健康についてより深く理解できるようにしていく。

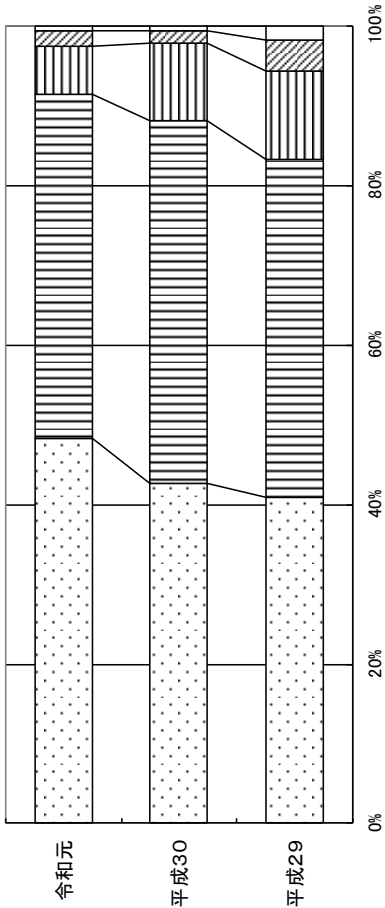
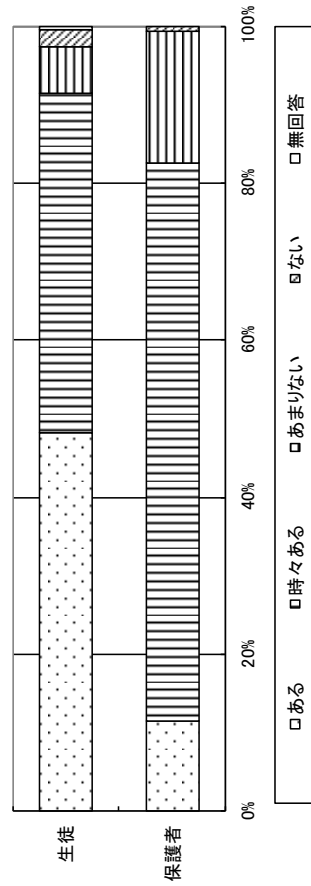
【小学校】

質問事項		選択肢					
		ある	時々ある	あまりない	ない	無回答	
学校で、安全や健康 について学ぶことがあ りますか。	保護者	令和元	32.7%	56.6%	8.1%	0.6%	2.0%
	児童	令和元	55.5%	36.2%	6.7%	1.1%	0.5%
		平成30	59.6%	33.7%	5.3%	0.9%	0.5%
		平成29	57.7%	33.9%	6.0%	1.4%	1.1%



【中学校】

質問事項			選択肢				
			ある	時々ある	あまりない	ない	無回答
学校で、安全や健康 について学ぶことがあ りますか。	保護者	令和元	11.6%	61.7%	20.5%	2.6%	3.7%
	生徒	令和元	48.2%	43.2%	6.0%	2.0%	0.5%
		平成30	42.7%	45.5%	9.6%	1.7%	0.5%
		平成29	40.9%	42.4%	11.1%	4.0%	1.7%

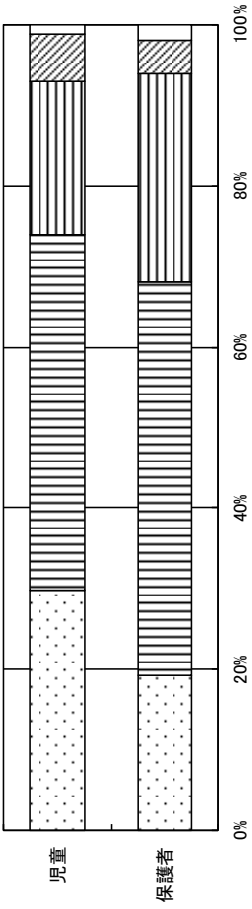


4 たくましい体③

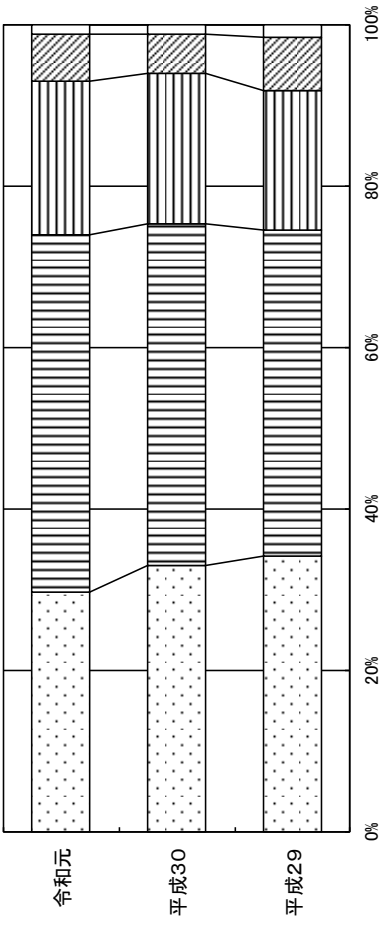
■ 肯定的な回答をした児童は74.1%で前年度から1.2ポイント減少した。肯定的な回答をした生徒は59.1%で前年度と同じ数値であった。
 ⇒今後も家庭科や給食の時間等を活用して、食育指導の充実を図り、生活習慣の確立を図っていく必要がある。中学校については昨年度と同様に40%近くの生徒が普段の食生活に生かしていないことから取組の改善を図る必要がある。

【小学校】

質問事項		選択肢			
		生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない
学校で学んだ食事や栄養の知識は生活の中で生きていると思いますか。	保護者	19.2%	49.0%	25.9%	4.1%
	令和元				1.8%
	令和元	29.8%	44.3%	19.1%	5.8%
	平成30	33.1%	42.2%	18.7%	5.0%
	平成29	34.2%	40.5%	17.3%	6.5%

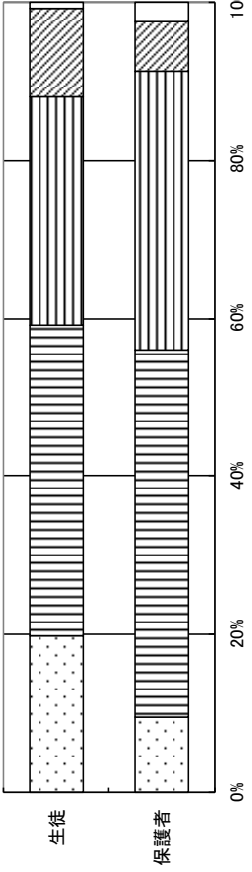


□ 生かしている □ だいたい生かしている □ あまり生かしていない □ 生かしていない □ 無回答

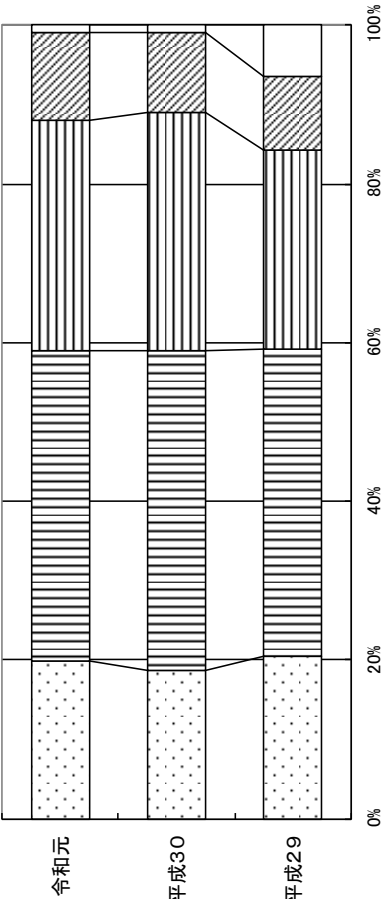


【中学校】

質問事項		選択肢			
		生かしている	だいたい生かしている	あまり生かしていない	生かしていない
学校で学んだ食事や栄養の知識は普段の食生活の中で生きていると思いますか。	保護者	9.7%	46.2%	35.3%	6.4%
	令和元				2.4%
	令和元	20.0%	39.1%	29.0%	11.1%
	平成30	18.6%	40.5%	29.9%	10.1%
	平成29	20.4%	38.7%	25.1%	9.4%



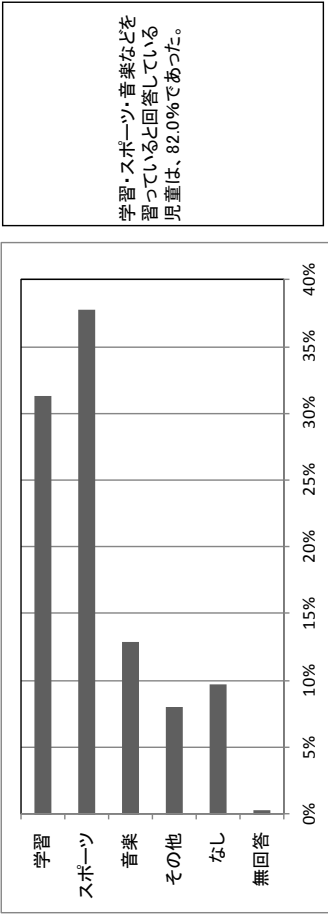
□ 生かしている □ だいたい生かしている □ あまり生かしていない □ 生かしていない □ 無回答



その他①習い事

【小学校】

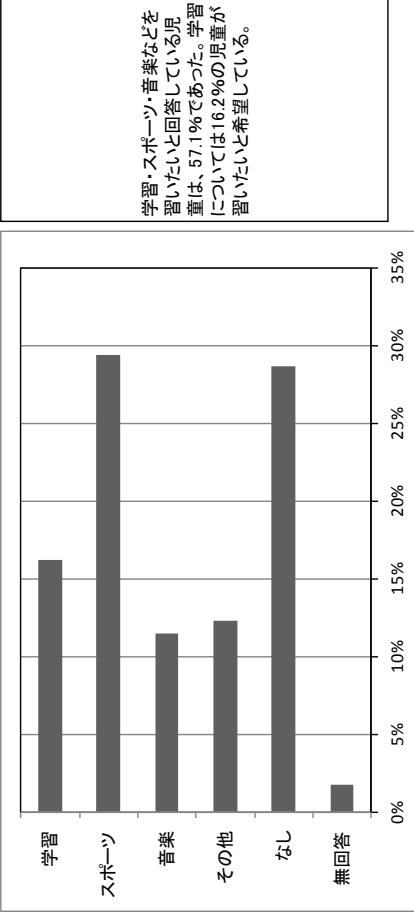
【その他①】	年 度	学 習	ス ポー ツ	音 楽	そ の 他	な し	無 回 答
①学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答)	令和元年度	31.3%	37.8%	12.9%	8.0%	9.7%	0.3%



学習・スポーツ・音楽などを習っている児童は、82.0%であった。

【中学校】

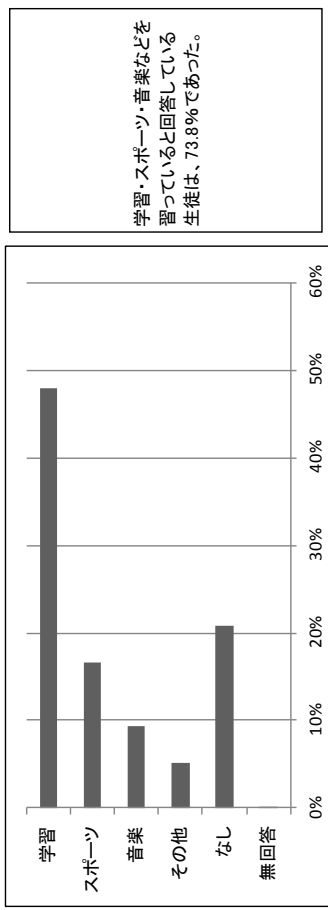
【その他①】	年 度	学 習	ス ポー ツ	音 楽	そ の 他	な し	無 回 答
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	令和元年度	16.2%	29.4%	11.5%	12.3%	28.7%	1.8%



学習・スポーツ・音楽などを習いたいと回答している児童は、57.1%であった。学習については16.2%の児童が習いたいと希望している。

【中学校】

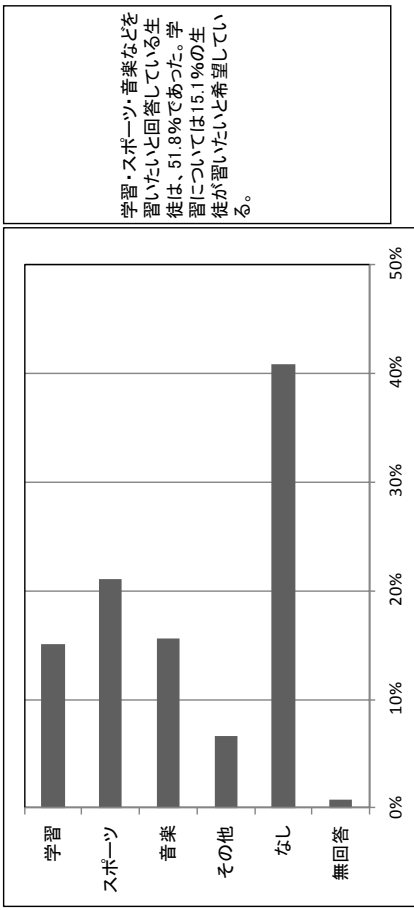
【その他①】	年 度	学 習	ス ポー ツ	音 楽	そ の 他	な し	無 回 答
①学習・スポーツ・音楽などを習っていますか。(複数回答)	令和元年度	47.9%	16.6%	9.3%	5.2%	20.8%	0.2%



学習・スポーツ・音楽などを習っている生徒は、73.8%であった。

【中学校】

【その他①】	年 度	学 習	ス ポー ツ	音 楽	そ の 他	な し	無 回 答
②学習・スポーツ・音楽などを習いたいと思いますか。(複数回答可)	令和元年度	15.1%	21.1%	15.6%	6.7%	40.8%	0.7%

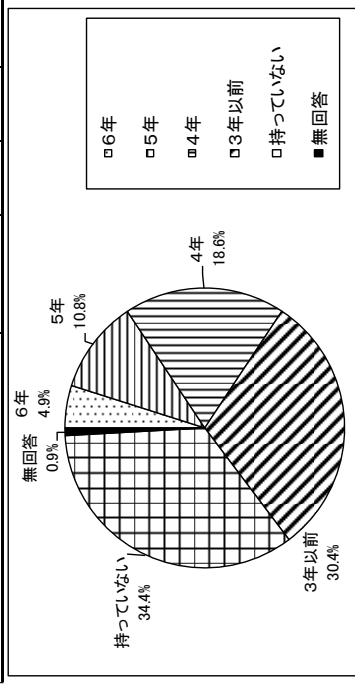


学習・スポーツ・音楽などを習いたいと回答している生徒は、51.8%であった。学習については15.1%の生徒が習いたいと希望している。

その他②携帯電話

【小学校】

【その他②】	年 度	6年	5年	4年	3年以前	持っていない	無回答
①いつから携帯電話やスマートフォンを持っていますか。	令和元年度	4.9%	10.8%	18.6%	30.4%	34.4%	0.9%



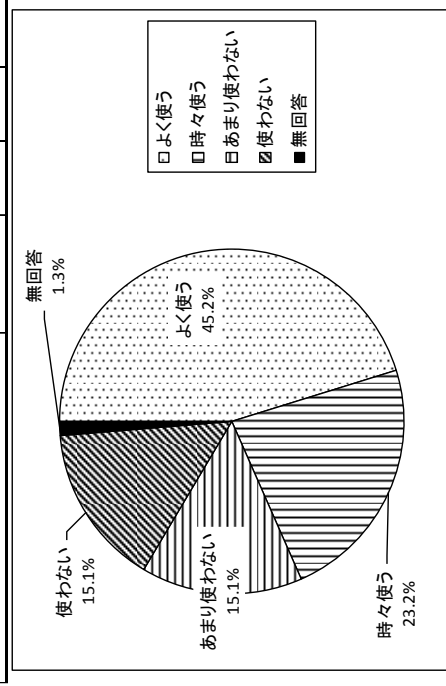
携帯電話やスマートフォンを持っている児童は64.7%であった。高学年(5、6年)から携帯電話やスマートフォンを持っていると回答した児童は15.7%で、3年生以前で持っている児童が30.4%であった。
⇒低学年の段階から継続的にSNSに関する指導を行っていく。

- ☐ 6年
☐ 5年
☐ 4年
☐ 3年以前
☐ 持っていない
☒ 無回答

【その他②】

年 度	よく使う	時々使う	使わない	無回答
令和元年度	45.2%	23.2%	15.1%	1.3%

②SNSを使っていますか。

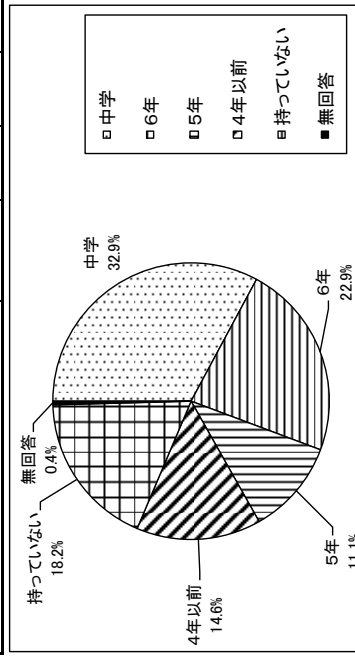


SNSを使っていると回答した児童は、68.4%であった。

- ☐ よく使う
☐ 時々使う
☐ あまり使わない
☒ 使わない
☒ 無回答

【中学校】

【その他②】	年 度	中学	6年	5年	4年以前	持っていない	無回答
①いつから携帯電話やスマートフォンを持っていますか。	令和元年度	32.9%	22.9%	11.1%	14.6%	18.2%	0.4%



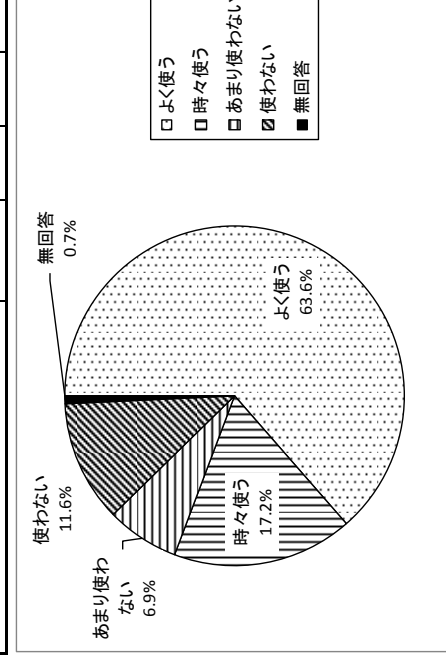
- ☐ 中学
☐ 6年
☐ 5年
☐ 4年以前
☐ 持っていない
☒ 無回答

携帯電話やスマートフォンを持っている生徒は81.4%であった。小学校から携帯電話やスマートフォンを持っていると回答した生徒は、48.6%である。
⇒小学校と連携してSNSのトラブルに巻き込まれないように指導を行う。

【その他②】

年 度	よく使う	時々使う	使わない	無回答
令和元年度	63.6%	17.2%	11.6%	0.7%

②SNSを使っていますか。



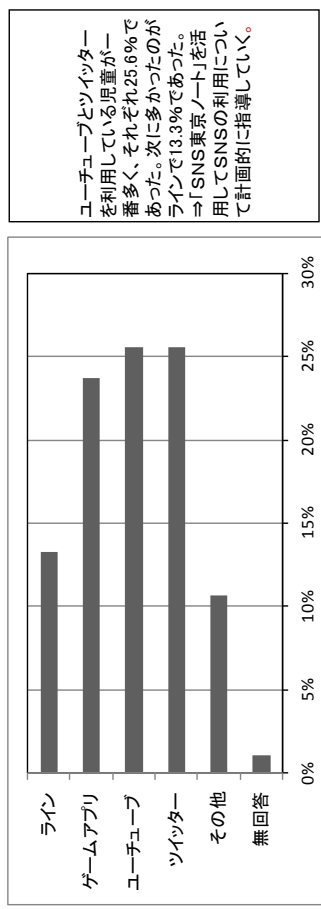
SNSを使っていると回答した生徒は、80.8%であった。

- ☐ よく使う
☐ 時々使う
☐ あまり使わない
☒ 使わない
☒ 無回答

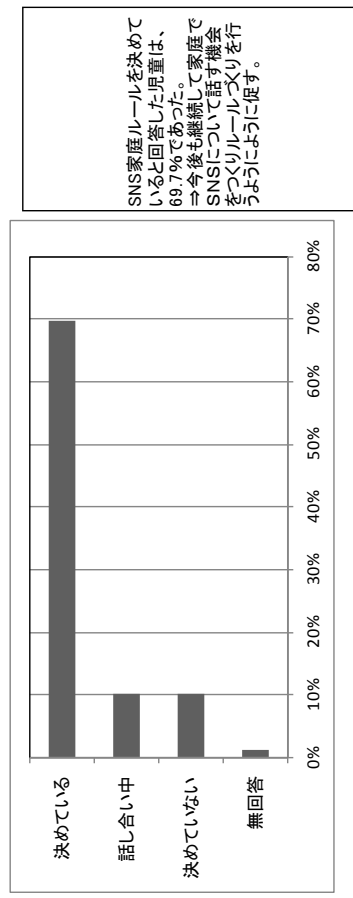
その他②携帯電話

【小学校】

【その他②】	年 度	ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	その他	無回答
③SNSで使っている機能はどれですか。 (複数回答)	令和元年度	13.3%	23.7%	25.6%	25.6%	10.7%	1.1%

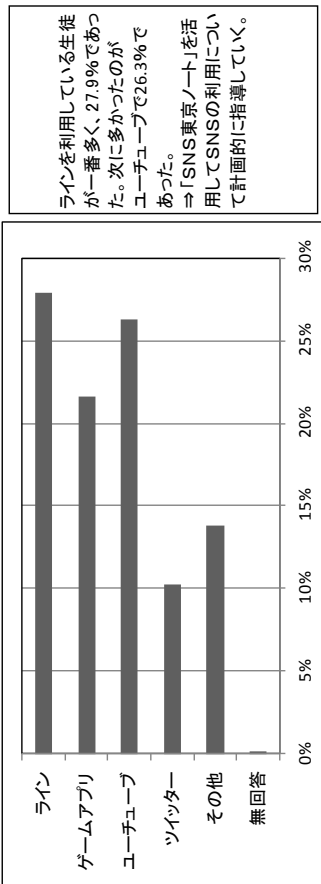


【その他②】	年 度	決めている	話し合い中	決めていない	無回答
④SNS家庭ルールは決めていますか。	令和元年度	69.7%	10.2%	10.2%	9.9%

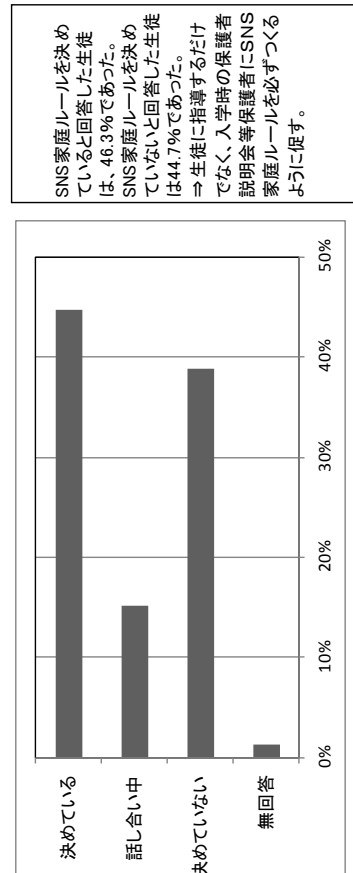


【中学校】

【その他②】	年 度	ライン	ゲームアプリ	ユーチューブ	ツイッター	その他	無回答
③SNSで使っている機能はどれですか。 (複数回答)	令和元年度	27.9%	21.6%	26.3%	10.2%	13.8%	0.2%



【その他②】	年 度	決めている	話し合い中	決めていない	無回答
④SNS家庭ルールは決めていますか。	令和元年度	44.7%	15.2%	38.8%	1.3%



第5章 令和元年度「昭島市立学校教育推進計画」の数値目標及びそれぞれに対する実績について

令和元年度

昭島市立東小学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価

学校教育目標	◎よく考える子 ○思いやりのある子 ○健康で明るい子	ビジョン	【目指す学校像】		
			【目指す児童・生徒像】		
			【目指す教師像】		
領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	自己の課題を意識し、「めあてをもたせる、実現への意欲を高める、努力の過程を認める、めあて達成の支援・援助をする」このサイクルの中で、学ぶ楽しさを実感させることのできる日常的な指導の実践	基礎的・基本的な内容の確実な定着	UDを意識し、授業で姿勢よく字を丁寧に書かせ、補習・漢検等、効果的に実施する。	4 児童の補習参加への呼びかけ・出席率100%	2
				3 75%	
				2 50%	
				1 25%	
		授業改善及び授業力の向上(校内研究の充実・研究指定校としての取組)	改善推進プランを作成し、週案に基づく授業を実施し、校内研で授業力向上を目指す。	4 週案への記述・提出率100%	3
				3 90%	
				2 80%	
				1 70%	
		思考力・判断力・表現力の育成	校内研究の成果を生かしながら、1～6年までの算数習熟度別指導の充実を図る。	4 児童の表現への意欲・発言率100%	3
				3 80%	
				2 60%	
				1 40%	
豊かな心	自然体験活動や福祉体験、勤労体験活動等の豊かな体験の場を設定し、人と関わり合いながら、子どもの内面を育てる道徳的な指導の実践	道徳全体計画、年間計画の見直しと特別の教科「道徳」としての改善・充実	教科としての授業改善を進め、道徳授業地区公開講座での内容の充実を目指す。	4 毎週の授業実践・略案の作成100%	3
				3 75%	
				2 50%	
				1 25%	
		トライ&チャレンジふれあい月間の取組の推進	毎学期のアンケートを生かし、SCとも連携しながら、いじめ・不登校0を目指す。	4 アンケート実施後の個別対応100%	4
				3 95%	
				2 90%	
				1 85%	
		運動会や学芸会等の学校行事、遠足や移動教室等の校外学習の充実	前例踏襲とならないよう反省を生かしながら、児童の実態に合った内容に改善する。	4 反省に基づく改善案の提案3点以上	4
				3 2点	
				2 1点	
				1 0点	
健やかな体	様々な運動を体験させ、その特性にふれた運動技能を身に付けさせる体力向上の実践及び健康教育・食育の推進	学年や学級、異年齢集団での遊びの奨励	休み時間の外遊びを奨励し、運動に親しみやすい環境整備を行う。	4 毎週子どもたちと一緒に遊ぶ時間の確保3回以上	3
				3 2回	
				2 1回	
				1 0回	
		年間を通した体力の向上(元気アップガイドブックの活用)	東ンピックの継続により、日常的に運動に親しみ、心身ともに健康な児童を育成する。	4 年間で楽しい種目の開発3点以上	3
				3 2点	
				2 1点	
				1 0点	
		食育の充実	ランチルームを活用し、栄養教諭や共同調理場と連携しながら食育の推進を図る。	4 年間で食育に関する授業の実施3回以上	3
				3 2回	
				2 1回	
				1 0回	
輝く未来	人間尊重の精神を基調とし、広く国際社会において信頼と尊敬を得られる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指した、生涯教育の基盤づくりとなる学校教育の推進	ソーシャルスキル教育の充実	年2回のQUの活用で一人一人の良さを生かし、やる気とまとまりのある学級集団作りを目指す。	4 毎週の学級活動等での実践100%	3
				3 75%	
				2 50%	
				1 25%	
		オリンピック・パラリンピック教育の実践	競技種目や選手に注目させるとともに、人とかかわりや多文化理解・交流を進める。	4 オリパラに関する授業3回以上	4
				3 2回	
				2 1回	
				1 0回	
		外国語教育の推進	外国語の研修を積極的に行い、ALTと協力しながら楽しい外国語教育を実践する。	4 年間で外国語の公開授業3回以上	2
				3 2回	
				2 1回	
				1 0回	

令和2年5月定例会で報告

【総括表】

○子どもにとって安全安心で、誰もが自慢できる学校	○家庭・地域とともにある学校	○教職員にとって魅力的で、働きがいのある学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども	○互いを尊重し、思いやりのある言動をとることができる子ども	○心身ともに健康で、活力のある子ども
○人権感覚を磨き、子どもを大切にする教師	○常に向上心を持ち、指導力向上に努める教師	○公務員としての自覚を持ち、信頼される教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	6年全国学力調査基礎正答率+5%以上(都平均)	2	補習への出席を呼びかけたところ土曜は定着したが、水曜は出席率が伸びなかった。漢検は、学芸会の午後で日程がきつかった。	土曜補習は評価できるが、水曜日の取組改善を望む。厳しい状況の中でも、漢検の受験者が多いと感じた。	B	補習教室の実施方法を工夫し、基礎・基本の徹底を図る。漢検は日程を考慮して継続実施、ICT機器導入で学力向上を目指す。
3	国語+3.5%・算数+4.5%					
2	国語+2%・算数+4%					
1	国語0.5%・算数+3.5%					
4	児童による評価(授業が分かりやすい)100%	4	週案の提出率は100%とならず、記述内容、見通しが不十分な状況を改善できていない。児童は教師の努力を認め信頼している。	児童と教師の信頼関係から頑張っている様子が伝わってくる。改善プランは常に必要と感じる。	A	6年以外の担任をシャッフルすることで、ベテランと若手教員の組み合わせを更新し、様々な経験を積みせ研究で力を付けさせる。
3	95%					
2	90%					
1	85%					
4	6年全国学力調査応用正答率+8%以上(都平均)	2	研究に取り組んでいる算数は良かったが、昨年度まで良かった国語が伸びなかった。5年の都学力調査も、算数は良かった。	国語の学力が伸びなかった理由を解明し、今後に生かしてほしい。算数は、研究発表会が楽しみである。	B	算数は、研究を中心にさらに充実させ、授業改善推進プランを具体的に進めることで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。
3	国語+7%・算数+6%					
2	国語+6%・算数+4%					
1	国語5%・算数+2%					
4	授業参観・意見交換会への出席人数250人・100人以上	2	道徳授業地区公開講座は、昨年度、実施方法(時間設定)を工夫したことで出席人数が増加したが、今年度は現状維持となった。	道徳の授業は、さらに工夫を重ねていってもらいたい。講座に関しては、講師の選定を検討・工夫してほしい。	B	講座は時間設定だけでなく、内容や講師の選定も工夫していく必要がある。授業の充実が図られるよう研修も計画・推進していく。
3	231人・80人					
2	209人・66人					
1	180人・50人					
4	不登校(傾向を含む)人数0人	3	1年から不登校だった6年男児が卒業を意識し徐々に教室で過ごせるようになってきた。一方、登校を渋りがちな児童が数名いる。	深刻ないじめが無く、不登校の児童への対応が充実したことで状況も改善したことは評価に値する。	A	良かった取組を共有するとともに、個々の興味関心やそのときの状況を把握し、どの児童にとっても登校しやすい状況を作っていく。
3	1人					
2	2人					
1	3人					
4	児童による評価(行事が楽しい)100%	2	工事で例年との変更点が多かったが、臨機応変に対応できた。反省で出された意見の中で実行可能なことは既に改善している。	例年と日程の変更があったにもかかわらず、運動会や学芸会など、児童全員で頑張っていたことは評価大。	A	マンネリ化している行事について、良き伝統は残しつつも、ねらい、内容、方法、時期等の見直しを図り、計画を再考していく。
3	95%					
2	90%					
1	85%					
4	休み時間の外遊び率100%	2	休み時間は多くの児童が外に出て遊んでいるが、外に出たがらない児童も数名いる。今年度も、芝生をうまく活用できなかった。	せつかくの広い校庭が生かし切れていない。学校(教師)からもっと休み時間の遊び方の提案をしてはどうか。	B	昨年度まで未実施の学校保健委員会を開催することができた。さらに啓発を図り、家庭と連携していく。芝生を有効活用していく。
3	95%					
2	90%					
1	85%					
4	6年体力・運動能力調査合計点+0.4・7.1以上(都平均)	3	5年女子は全て全国平均を超えた。男子のソフトボール投げと女子の立ち幅跳びが課題である。工事で使えない部分は工夫した。	男子のソフトボール投げは努力目標としてほしい。地方では、小学校にも部活動を取り入れていると聞いた。	B	東ンピックで新種目が増え、意欲が向上したので、次年度に向け、さらに改善していく。特に、投力と跳躍力向上の方策を練る。
3	男子+0.3・女子+6.1					
2	男子+0.2・女子+5.1					
1	男子+0.1・女子+4.1					
4	年間の残菜率3.30%	2	毎日給食を完食の学級があれば、残菜が多い学級もある。ランチルームは使用頻度が低く、食育の授業があまり実施できなかった。	授業の中に地産のカリキュラムを導入してみてもどうか。嫌いな食材も食べてもらえるよう児童間で競争をしてみても？	B	残菜については、担任の声掛けとともに、引き続き管理職も指導していく。また、食育の計画に基づきランチルームを活用していく。
3	3.50%					
2	3.70%					
1	3.90%					
4	QUの結果で各学級の要支援群0人	2	QUのフィードバックで、担任の見取りと照合することができた。2学期にも実施したことで学級での指導に生かすことができている。	アンケートの結果を生かして、学級での指導につなげられていることは評価良。	B	11月に私費で今年度2回目の調査を実施した。次年度も実施し、SCや巡回心理士、大空とも連携を図りながら活用していく。
3	1人					
2	2人					
1	3人					
4	児童による評価(取組が充実している)100%	3	パラリンピアン等の選手を招いたことで意欲付けできたが、今年度もオーストラリアなどの国について調べる取組ができなかった。	アスリートの生の声は心に残る。実際にパラリンピックを観戦することによってさらに意識を高めてもらいたい。	B	年間の計画を立て、外国語の授業や食育でも多文化理解を深め、さらにオリンピアン・パラリンピアンを招聘し、身近なものとしていく。
3	95%					
2	90%					
1	85%					
4	児童による評価(授業が楽しい)100%	2	外国語の授業に対する担任の意識が高まり、まだALTに課題はあるものの、ICTの活用なども含めた教材研究が進んだ。	外国語の授業を見る機会が少ないので、ぜひ参観してみたい。	B	オリンピック・パラリンピックを絶好の機会と捉え、クリケットの授業を入れたり、ICTを整備したり、効果的な環境整備を進めていく。
3	95%					
2	90%					
1	85%					

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができ、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	1単元、1単位時間において「めあて」「見通し」「振り返り」のある授業を展開する。	主体的に学ぶ過程が分かるように、板書とノート指導を工夫する。	4	90%以上の教員が学習過程の工夫に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が学習過程の工夫に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が学習過程の工夫に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が学習過程の工夫に取り組んだ	
		すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	スモールステップで「できた」意識を積み上げよう自己・相互評価の指導を工夫する。	4	90%以上の教員が評価と支援の工夫に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が評価と支援の工夫に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が評価と支援の工夫に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が評価と支援の工夫に取り組んだ	
		協働的に学び、考えを深め合うことができる授業をつくる。	考えを視覚化し、言語活動を工夫して深め合う授業を展開する。	4	90%以上の教員が言語活動の工夫に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が言語活動の工夫に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が言語活動の工夫に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が言語活動の工夫に取り組んだ	
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる学校づくりを推進する。	あいさつの意義を考え、自分も相手も大切にする態度を育む。	「あいさつ」「返事」「アイコンタクト」を継続的に振り返りながら取り組む。	4	90%以上の教員が挨拶の目標設定・評価に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が挨拶の目標設定・評価に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が挨拶の目標設定・評価に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が挨拶の目標設定・評価に取り組んだ	
		「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	「やさしい言葉」を使い、温かい関係づくりに児童が主体的に取り組む指導を行う。	4	95%以上の教員が主体的活動の指導に取り組んだ	4
				3	90%～95%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ	
				2	80%～90%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ	
				1	80%未満の教員が主体的活動の指導に取り組んだ	
		小さな問題にも気付けるよう児童理解に努め、組織的・継続的に観察・指導する。	組織的に児童のサインをキャッチする機会を設定する。	4	90%以上の教員が組織的にサインキャッチに取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が組織的にサインキャッチに取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が組織的にサインキャッチに取り組んだ	
				1	70%未満の教員が組織的にサインキャッチに取り組んだ	
健やかな体	児童が自分の心を体の健康に関心をもって学ぶことができるようにするとともに、運動を楽しむ態度、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む取組を計画的に行う。	児童自身が体力向上の成果を実感できるよう、組織的・継続的に指導する。	体力向上週間や授業で関心を高め、元気アップガイドブックを継続的に活用する。	4	90%以上の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	2
				3	80%～90%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	
				2	70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	
				1	70%未満の教員が元気アップガイドブックを継続的に活用した	
		健康と食について理解を深め、望ましい生活習慣づくりに向けて実践的な態度を育む。	「グッドモーニング60分」に着実に取り組み、児童自身が習慣化を図る。	4	95%以上の教員が習慣化の指導に取り組んだ	4
				3	90%～95%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ	
				2	80%～90%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ	
				1	80%未満の教員が習慣化の指導に取り組んだ	
		自分の心の健康づくりに関心を持ち、他者の心も大切にする意識や態度を育む。	心のもち方や他者との関わり方を振り返ったり、学んだりする機会をつくる。	4	90%以上の教員が自他の心の理解の指導に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が自他の心の理解の指導に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が自他の心の理解の指導に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が自他の心の理解の指導に取り組んだ	
輝く未来	目標をもって粘り強く取り組む態度を育み、人とかかわりを大切にした豊かな人間性やコミュニケーション能力を高める教育活動を推進する。	集団活動等で、自分を生かすことを判断し、行動する力を育む。	リーダー・フォロワーとして等多様な立場で活動し、自己を見つめる指導を行う。	4	90%以上の教員が自己を見つめる指導に取り組んだ	3
				3	80%～90%未満の教員が自己を見つめる指導に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が自己を見つめる指導に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が自己を見つめる指導に取り組んだ	
		福島中、玉川小との連携を図り、中学校とのつながりをもった教育を推進する。	学習スタンダードの指導を徹底するよう内容や方法を工夫する。	4	90%以上の教員が学習スタンダードの徹底に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員が学習スタンダードの徹底に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員が学習スタンダードの徹底に取り組んだ	
				1	70%未満の教員が学習スタンダードの徹底に取り組んだ	
		児童の目的意識や相手意識を大切にするとともに、協働し認め合う態度を育む。	「ありがとう」をキーワードに、児童が主体的に協働・承認する活動に取り組む。	4	90%以上の教員がありがとうを伝え合う活動に取り組んだ	4
				3	80%～90%未満の教員がありがとうを伝え合う活動に取り組んだ	
				2	70%～80%未満の教員がありがとうを伝え合う活動に取り組んだ	
				1	70%未満の教員がありがとうを伝え合う活動に取り組んだ	

【総括表】

①共に成し遂げる過程で、「ありがとう」が生まれる学校 ②児童が自他を尊重し、「やさしさ」を感じる学校③児童が課題を解決する過程で、「学びがよい」を感じる学校 ④児童が心と体の健康に関心をもち、「元気」を感じる学校
①粘り強く目標に向かい、「ありがとう」を見付け合う児童 ②誰かのために自分ができることを考え実行する児童③思いや考えを共有し、学び合い、認め合う児童 ④一緒に運動を楽しみ、互いに支え合う児童
①多様な立場の人と目標を共有して協働する教師 ②児童の心情や意図の理解に努め、価値付ける教師③児童にとって魅力ある授業づくりに努め、変容を見出す教師 ④運動の楽しさと心の元気を児童に感じさせる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 80%以上の児童が学習態度がよくなったと回答	4	学習のゴールを明確にし、見通しをもたせることで、より主体的に学習できるようになっている。	教員の意識が高く、成果に手応えを感じている。学習ゴールの明確化、考えさせる授業は良い。	A	学習活動や期待する学習成果のモデルを教員間で工夫して共有し、学習過程の工夫を進める。
3 70%～80%未満の児童が学習態度がよくなったと回答					
2 60%～70%未満の児童が学習態度がよくなったと回答					
1 60%未満の児童が学習態度がよくなったと回答					
4 80%以上の児童が自己評価ができたと回答	4	教員がスモールステップで児童によく声を掛けている。めあてと振り返りを意識できている。	教員が児童のペースに応じて指導している様子、温かい言葉を掛ける様子が見られた。	A	身に付けたい力をイメージできるように目標を示す。自己の学習状況を振り返る機会を設定する。
3 70%～80%未満の児童が自己評価ができたと回答					
2 60%～70%未満の児童が自己評価ができたと回答					
1 60%未満の児童が自己評価ができたと回答					
4 80%以上の児童が言葉の力が付いたと回答	4	自分の考えを言葉にして表すことの大切さと、その技能について、児童が意識できている。	自分の考えをまとめたり、発表したりする力は、社会に出ても大切。話し合って学ぶ活動は良い。	A	自分の考えをもつこと、それを言葉や図などで表すことについての学習を一層進める。
3 70%～80%未満の児童が言葉の力が付いたと回答					
2 60%～70%未満の児童が言葉の力が付いたと回答					
1 60%未満の児童が言葉の力が付いたと回答					
4 80%以上の児童が場に応じてあいさつできると回答	4	挨拶等について継続した指導を行い、児童が意識的に取り組み、習慣化してきている。	教職員の挨拶が良く、挨拶できる児童が増えた。さらに笑顔も大切。地域・家庭の協力も重要。	A	場に応じてどのような挨拶をすることができるのか、知識と技能の面から指導を継続する。
3 70%～80%未満の児童が場に応じてあいさつできると回答					
2 60%～70%未満の児童が場に応じてあいさつできると回答					
1 60%未満の児童が場に応じてあいさつできると回答					
4 90%以上の児童がいじめ防止に取り組んだと回答	3	児童がいじめ防止のために自分ができることを考える過程が、実践につながっている。	「命の授業」の様子から、児童の心の優しさを感じる。相手の気持ちを理解することの指導が大切。	B	児童自身が自分のできることを話し合う授業を行う。日常的に相手の気持ちを考える場面をつくる。
3 80%～90%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
2 70%～80%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
1 70%未満の児童がいじめ防止に取り組んだと回答					
4 95%以上の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答	2	学校全体で、日常の観察とともに、相談することのよさ、SOSの出し方の指導に努めている。	話を聞く場づくりを工夫し、聞いてくれる大人の存在に気付かせたい。家庭との連携も重要。	B	学校から児童や保護者に相談し、相互連携・理解を更に深め、協働して問題解決に当たる。
3 90%～95%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
2 80%～90%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
1 80%未満の児童及び保護者が相談できる先生がいると回答					
4 95%以上の児童が体力がついてきていると回答	2	ガイドブックの内容を基に指導は行っている。運動機会が十分に確保されていない。	放課後の外遊びが増えている。運動の重点課題を決め、一つずつ目標を達成していく。	B	元気アップガイドブックで取り上げるの内容を検討し、日常の体育学習等で取り組むようにする。
3 90%～95%未満の児童が体力がついてきていると回答					
2 80%～90%未満の児童が体力がついてきていると回答					
1 80%未満の児童が体力がついてきていると回答					
4 90%以上の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答	1	生活習慣改善の取組はよい評価だが、家庭習慣について特に保護者が厳しい評価をしている。	保護者が、忙しい中でも高い意識をもって評価している。学校での取組を啓発し、協働する。	C	グッドモーニング60分の取組を継続する。家庭学習の目標と方法等を家庭・児童と共有する。
3 80%～90%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
2 70%～80%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
1 70%未満の児童及び保護者が学習・生活習慣が改善したと回答					
4 90%以上の児童が他者のために思い行動したと回答	3	児童は相手を思う気持ちをもっている。それに比べると、相手のよさを伝えていない様子がある。	授業で、児童相互の温かい励まし、優しい声掛けの様子が見られた。認め合いを大切にする。	A	職員が連携し、発達段階に応じて、自己理解の機会、互いのよさを伝え合う機会を大切にする。
3 80%～90%未満の児童が他者のために思い行動したと回答					
2 70%～80%未満の児童が他者のために思い行動したと回答					
1 70%未満の児童が他者のために思い行動したと回答					
4 90%以上の児童が自分の得意なものについて考えたと回答	3	目標をもち、協力し、努力することのよさを児童自身が感じている。	目標、協力は今後も大切なこと。できたことを認め、小さな目標の達成感を積み重ねる。	B	小さな目標を大切にし、達成状況を可視化して達成感をもたせる指導を全校で行う。
3 80%～90%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
2 70%～80%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
1 70%未満の児童が自分の得意なものについて考えたと回答					
4 90%以上の保護者がスタンダードを活用したと回答	1	学校では学習のきまりを意識して行動している。「家庭連携スタンダード」の浸透が不十分である。	スタンダードの認知度と必要感を高める。短時間でもできることを積み重ねて意識を高める。	C	「スタンダード」の内容を細分化し、スモールステップで継続的に啓発し、定着を図る。
3 80%～70%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
2 70%～80%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
1 70%未満の保護者がスタンダードを活用したと回答					
4 80%以上の児童がありがとうを伝え合ったと回答	4	9割近い児童が、学校生活で「ありがとう」という言葉が以前よりも増えたと感じている。	児童から「ありがとう」という言葉をよく聞く。感謝されて自己有用感も育つ。学校の指導にも感謝。	A	自己有用感につなげるよう、感謝の気持ちにつながる行動を一層具体的に促える機会をもつ。
3 70%～80%未満の児童がありがとうを伝え合ったと回答					
2 60%～70%未満の児童がありがとうを伝え合ったと回答					
1 60%未満の児童がありがとうを伝え合ったと回答					

学校教育目標	◎よく考える子ども ◎けんこうな子ども ◎すすんで働く子ども ◎思いやりのある子ども	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	○基礎的・基本的な学力の定着させる。 ○読書に親しむ態度や、資料を活用する能力を育成する。 ○主体的に学習に取り組む態度を育成する。	漢字を確実に読めるようにすることで、読むことに対する抵抗感を低減し、自己肯定感を育む。	音読や小テスト、日常的な読むことなどを通して、当該学年までの漢字を確実に読むことができるようにする。	4 週に3日以上、音読や小テストに取り組んだ。	4
				3 週に2日程度、音読や小テストに取り組んだ。	
				2 週に1日程度、音読や小テストに取り組んだ。	
				1 2週に1日程度、音読や小テストに取り組んだ。	
		計算力を向上させることで、算数に対する苦手意識を低減し、自己肯定感を育む。	家庭学習やスタディ教室等も活用し、既習の計算が確実にできるようにする。	4 週に3日以上、小テストや家庭学習に取り組んだ。	4
				3 週に2日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。	
				2 週に1日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。	
				1 2週に1日程度、小テストや家庭学習に取り組んだ。	
		学校図書館の活用による読書活動の活性化	児童の実態把握の実施と、読書旬間、読み聞かせ、読書イベント等による本に親しむ活動の推進	4 児童が本に親しむ取組を年3回以上実施	4
				3 児童が本に親しむ取組を年2回実施	
				2 児童が本に親しむ取組を年1回実施	
				1 児童が本に親しむ取組を未実施	
		学習規律の確立	「富士見丘スタンダード」の確実な実施	4 「富士見丘スタンダード」をほぼ毎日実施	3
				3 「富士見丘スタンダード」を週4日実施	
				2 「富士見丘スタンダード」を週3日実施	
				1 「富士見丘スタンダード」を2日以下実施	
豊かな心	○自分も、他の人も、敬意をもって大切にできる心情を養う。	体験的な活動を通した「障害」「障害児」理解の推進	通常の学級とさくら学級との交流及び共同学習	4 通常の学級とさくら学級の共同学習を6月以降週10時間以上実施	2
				3 通常の学級とさくら学級の共同学習を6月以降週6時間以上実施	
				2 通常の学級とさくら学級の共同学習を6月以降週4時間以上実施	
				1 通常の学級とさくら学級の共同学習を6月以降週4時間未満	
		障害理解教育を通した人権教育の推進	障害理解に関わる読書活動や調べ学習、交流活動に意図的に取り組む。	4 障害理解教育に関わる指導や活動を年3回以上実施	3
				3 障害理解教育に関わる指導や活動を年2回実施	
				2 障害理解教育に関わる指導や活動を年1回実施	
				1 障害理解教育に関わる指導や活動を未実施	
		居場所作りができる力や自己肯定感の育成	体験活動やボランティア活動を通した自己有用感を感じられる体験活動の充実	4 自己有用感を育む体験活動を年3回以上実施	3
				3 自己有用感を育む体験活動を年2回実施	
				2 自己有用感を育む体験活動を年1回実施	
				1 自己有用感を育む体験活動を未実施	
健やかな体	○生涯にわたって心身ともに健康に過ごすことができる力を育成する。 ○スポーツに親しみ、社会に貢献しようとする心情を養う。	オリンピック・パラリンピック教育の推進	4つのテーマと4つのアクションの「4×4の取組」を発達段階に応じて実施する。	4 「4×4の取組」に年3回以上取り組んだ。	3
				3 「4×4の取組」に年2回取り組んだ。	
				2 「4×4の取組」に年1回取り組んだ。	
				1 「4×4の取組」に取り組めなかった。	
		「元気アップガイドブック」を活用した体力・運動能力の向上と基本的な生活習慣の確立	運動遊びに親しむ態度の伸長	4 「元気アップガイドブック」(42項目)に18項目以上取り組んだ。	2
				3 「元気アップガイドブック」(42項目)に14～17項目取り組んだ。	
				2 「元気アップガイドブック」(42項目)に10～13項目取り組んだ。	
				1 「元気アップガイドブック」(42項目)は10項目未満の取り組みだった。	
			グッドモーニング60分を意識した生活リズムの確立	4 グッドモーニング60分に年3回以上取り組んだ。	4
				3 グッドモーニング60分に年2回以上取り組んだ。	
				2 グッドモーニング60分に年1回以上取り組んだ。	
				1 グッドモーニング60分に取り組むことができなかった。	
輝く未来	○家庭・地域と連携した教育活動を推進する。	家庭や地域と連携した教育活動の推進(学習指導・生活指導・特別支援教育)	保護者会や面談、通信類などを通して、指導方針や児童の実態について発信することで共有理解を図る。	4 直接及び文書による発信を年間20回以上行った。	3
				3 直接及び文書による発信を年間15～19回行った。	
				2 直接及び文書による発信を年間10～14回行った。	
				1 直接及び文書による発信は年間10回未満だった。	
		家庭学習の定着	学年×10分+10分の家庭学習の実施	4 週4回以上、家庭学習の確認を行った。	4
				3 週3回、家庭学習の確認を行った。	
				2 週2回、家庭学習の確認を行った。	
				1 週に1回程度、家庭学習の確認を行った。	

【総括表】

○学校大好き！富士見っ子　確かな学力、健やかな体、豊かな心が育つ　信頼される学校
○自ら学ぶことができる子供　○自らを律することができる子供　○自分の居場所作りができる子供　○自分もほかの人も大切にできる子供
○子供たち一人一人が活躍できる場面を創る教師　○子供の思考や活動に寄り添う教師　○子供のよさを褒める教師(よさを伸ばして褒める・隠れたよさを価値づけて褒める)

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	当該学年までの漢字の9割以上読める児童が90％以上	3	音読は全学年取り組んでいる。ほぼ毎日取り組んでいる学年もある。漢字は読みのテストとの書きのテストを分けて取り組んだ。読むことについては90％近く定着した。音読を楽しむ児童も増えている。	・音読に熱心に取り組んでいる児童が増え、定着している。 ・読むことから書くことへ段階を付けたことはよい。	A	・音読に親しみ、楽しむ態度が定着しつつある。今後は暗唱にも取り組んでいく。
3	当該学年までの漢字の9割以上読める児童が80～89％					
2	当該学年までの漢字の9割以上読める児童が70～79％					
1	当該学年までの漢字の9割以上読める児童が70％未満					
4	9割以上正確に計算できる児童が90％以上	2	家庭学習のほか、朝学習の時間に筆算を中心とした計算練習に重点的に取り組み、かけ算九九など計算等の力が定着してきた。一部の児童はまだ不十分な実態が見られる。	・計算力定着への取り組みは行われていたが、集中できない児童もいる。 ・基礎学力を全児童が身に付けられる取り組みをお願いする。	B	・くじラーニングや東京ベアシックドリル等の活用により、系統性を意識した指導と個別指導の充実により、さらに定着を図っていく。
3	9割以上正確に計算できる児童が80～89％					
2	9割以上正確に計算できる児童が70～79％					
1	9割以上正確に計算できる児童が70％未満					
4	年間30冊以上の本に親しんだ児童が9割以上	3	保護者、ボランティア、担任等による読み聞かせ、おすすめの本の紹介などの読書イベント、読書記録の充実などの活動を通して、本を読む活動が定着してきている。	・良く読んでいる。 ・保護者、ボランティアを活用し、読書の楽しさを伝えた。 ・本に親む取り組みは大切。読書が定着してきているのは素晴らしい。	A	・読書に親しむ活動は、今後も継続していく。 ・アキシマエンス活用により、読書記録の充実も図っていく。
3	年間20～29冊の本に親しんだ児童が9割以上					
2	年間10～19冊の本に親しんだ児童が9割以上					
1	年間10冊の本に親しんだ児童が9割未満					
4	「富士見丘スタンダード」が定着している児童80％以上	2	「授業の開始に着席・準備」や「指名されたら返事」は概ね定着している。筆記用具等の持ち物に関する事項は、忘れ物が多いなど一部定着していない実態がある。	・授業開始時の着席はよい。 ・自由な中にも規律は必要なので定着が見られているのは良い。 ・必要なものは忘れ物をしないという意識も大切。	C	・学習規律は引き続き継続して指導していく。 ・忘れ物については家庭とのさらなる連携を図る。
3	「富士見丘スタンダード」が定着している児童70～79％					
2	「富士見丘スタンダード」が定着している児童60～69％					
1	「富士見丘スタンダード」が定着している児童60％未満					
4	通常の学級の授業に週6時間以上入れるさくら学級児童が80％以上	2	音楽、図工、生活科等の授業や、運動会などの行事での共同学習や交流ができた。さらに発展していくことができるよう、年間指導計画の中に位置づけ、系統的に取り組んでいく。	・障害児を理解し、交流できるというののは難しい。 ・共同学習や交流の体験ができるように取り組んでいた。 ・取り組みはとてもよい。	C	・より有効な交流活動や共同学習を検討し、年間指導計画に位置付けていく。
3	通常の学級の授業に週6時間以上入れるさくら学級児童が60％以上					
2	通常の学級の授業に週6時間以上入れるさくら学級児童が40％以上					
1	通常の学級の授業に週6時間以上入れるさくら学級児童が40％未満					
4	「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」90％以上	3	いろいろな感じ方や考え方があり、「違う考えから学ぶ」という観点で指導を行った。特別支援教育に関わる読書コーナーなどの設置により、保護者の方々にも発信を行っている。難聴理解授業を他校に向けて2回実施するなどの実績を生かして、校内での指導をさらに充実させる。	・人権教育は保護者の方と一緒にという考えは、とてもよい。 ・人権教育は児童と保護者が共に学ぶことが大切。	B	・どのようなことが苦手であるのかなど、発達段階に応じて、体験活動を通した障害理解教育の充実を図る。
3	「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」85～89％					
2	「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」80～84％					
1	「授業で自分や友達の大切さを学んでいる」80％未満					
4	「学校で落ち着いて安心して生活できている」90％以上	3	毎日、友達のよさや頑張りを見つけて伝え合う活動や、学期に一度「きらきら見つけた」カードに友達のよさを書いて伝える活動など、発達段階に応じた取り組みを行っている。自他のよさに気付かせることで、さらに自己肯定感を高めていく。	・自分の居場所があるという安心感、自分は必要とされているという有用感、体験活動の取り組みは良い。 ・安心感や自己肯定感を高める取組の積み重ねを。	B	・今後も「誰かの役に立つ」「必要とされる」体験活動の充実により、自己肯定感を育んでいく。
3	「学校で落ち着いて安心して生活できている」80～89％					
2	「学校で落ち着いて安心して生活できている」70～79％					
1	「学校で落ち着いて安心して生活できている」70％未満					
4	「体力向上の面で学校の指導に満足している」85％以上	2	ベルマーク運動への積極的な参加によるボランティアマインドや特別支援教育の読書コーナーなどの障害者理解は進んだ。ゲストティーチャーによる墨絵の指導やALTの英語や身体表現の指導により、日本人としての自覚や誇り・国際理解についても実施できた。	・ベルマーク運動の取り組みは、児童から保護者、地域ぐるみで取り組み、結果が出てよかった。	B	・今年度の実績を基盤として、さらに発展させ、充実・定着を図っていく。
3	「体力向上の面で学校の指導に満足している」80～84％					
2	「体力向上の面で学校の指導に満足している」70～79％					
1	「体力向上の面で学校の指導に満足している」70％未満					
4	「元気アップガイドブック」に、18項目以上取り組んだ児童が8割以上	3	「元気アップガイドブック」は、常時児童がすぐ使える場所に置き、体育の時間や休み時間などに取り組んだことを振り返ってシールを貼る機会を設けている。日常的に身近な運動遊びについて親しもうとする意欲が高まった。	・「元気アップガイドブック」が児童に活用されている。 ・取り組みが目に見えると意欲も増すことでしよう。 ・なかなか進んでやれる子は少ない。	B	・「元気アップガイドブック」に掲載されている活動の紹介や、運動のコツなどを紹介し合う活動により、運動遊びの活性化を図る。
3	「元気アップガイドブック」に、14～17項目取り組んだ児童が8割以上					
2	「元気アップガイドブック」に、10～13項目取り組んだ児童が8割以上					
1	「元気アップガイドブック」に、10項目取り組んだ児童が8割未満					
4	グッドモーニング60分を実施できた児童が8割以上	3	保護者会でも協力を呼びかけ、長期休業の後などの機会を中心に「グッドモーニング60分」の活用を呼びかけている。各家庭で様々な工夫をし、取り組んでくださっている様子が感想から伝わってきている。家庭で記入できない児童は学校で一緒に記入している。定着をさせていきたい。	・具体的な取組が継続してなされている。 ・早寝・早起き・朝ごはんの充実と家庭環境も千差万別ですが、家庭と共に取り組めているのは良いこと。継続を！	B	・「グッドモーニング60分」の取り組みが、さらに定着するように、家庭との連携をより緊密に図っていく。
3	グッドモーニング60分を実施できた児童が7割以上					
2	グッドモーニング60分を実施できた児童が6割以上					
1	グッドモーニング60分を実施できた児童が6割未満					
4	「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」60％以上	3	保護者会の機会を通した児童の実態・指導方針の発信や、学年・学級だより・クラブだより等による情報の発信により、連携のための共通理解に取り組んだ。障害種別による保護者会の実施も、有効であった。個に応じた発信の充実にも務める。	・家庭や地域との連携に取り組んでいる。 ・家庭と保護者との連携は大切。取り組まれているのはとても良い。	B	・学校の取り組みや児童の活動の様子について、より細やかな発信を行うことにより、家庭・地域と連携した教育活動の充実を図る。
3	「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」50～59％					
2	「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」40～49％					
1	「学校から提供される進路資料情報は分かりやすい」40％未満					
4	「家庭で決まった時間勉強している」75％以上	3	15分から30分程度で終わる家庭学習を毎日出し、取り組んだことの確認として保護者のサインをもらうなどの活動に取り組んだ。一部定着できていない児童には家庭と連携して、定着を図っていく。	・家庭学習定着の活動を保護者と連携している。 ・家庭を巻き込んだ学習が習慣化しているのは、とても良い。 ・時間だけでなく、内容にも力を入れたほうがよい。	B	・家庭との連携を図り、児童自身が計画を立てる活動や振り返り活動の充実を図ることで、さらなる家庭学習の習慣化や基礎学力の定着を図る。
3	「家庭で決まった時間勉強している」65～74％					
2	「家庭で決まった時間勉強している」55～64％					
1	「家庭で決まった時間勉強している」55％未満					

学校教育目標	○しっかり考える子(問題解決力) ○心やさしい子(人間関係形成力) ○つよく元気な子(体力・活力)	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	○自ら学ぶ意欲や学び方を身に付けさせ、基礎的な知識及び技能の定着を図る。	○学習状況を把握し、「主体的・対話的で深い学び」の指導を充実、学力向上を図る。	○国や都、市のテストを実施し、学力の把握をして、授業改善を図る。	4 全教員が週の指導計画に位置付けた	4
				3 80%～100%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた	
				2 70%～80%の教員が週ごとの指導計画に位置付けた	
				1 70%未満の教員が週ごとの指導計画に位置付けた	
		○家庭学習の定着と補習教室の実施から、自学自習する態度を育成する。	○家庭学習全体計画を作成し、定着を図る。年間8回の補習教室の実施。	4 全教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。	3
				3 80%～100%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
				2 70%～80%の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
				1 70%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
		○特別支援教育を充実させ、児童が安定した学校生活を過ごせるようにする。	○そよかぜ職員によるOJTと、市のユニバーサルデザインを活用した教育実践を図る。	4 全教員がチェックリスト7項目に取り組んだ。	4
				3 80%～100%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
				2 70%～80%の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
				1 70%未満の教員がチェックリスト7項目に取り組んだ	
豊かな心	○人権意識を高め、自他ともに大切にする態度を育成する。	○児童の自己肯定感を高め、個々の良さを発揮できるように、学級活動を実施する。	○QU調査を年2回実施し、学級の実態に応じた指導をする。	4 全教員が学級活動計画を活用した指導を行った	4
				3 80%～100%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	
				2 70%～80%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	
				1 70%未満の教員が学級活動計画を活用した指導を行った	
		○教育活動全体を通して、道徳実践力を身に付けさせる。	○児童が考え議論する道徳の授業と評価を確実に実施する。	4 全教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	4
				3 80%～100%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	
				2 70%～80%の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	
				1 70%未満の教員が共通のワークシートを活用した指導をしている	
		○オリ・パラ教育の重点、ボランティアマインド、障害者理解、豊かな国際感覚の育成	○3つの重点を年間指導計画に組み込み、各学年で取組を行う。	4 全学年の教員が取組を実施した	4
				3 80%～100%未満の学年・教員が取組を実施した	
				2 70%～80%未満の学年・教員が取組を実施した	
				1 70%未満の学年・教員が取組を実施した	
健やかな体	○健康への関心を深め、基礎的な体力の育成と向上を図る。	○系統性を重視した健康教育と、体育活動を推進し、体力向上を目指す。	○体育講師を有効活用し、少人数展開の授業を実施する。	4 全教員が計画を活用した指導を行った	4
				3 80%～100%未満の教員が計画を活用した指導を行った	
				2 70%～80%未満の教員が計画を活用した指導を行った	
				1 70%未満の教員が計画を活用した指導を行った	
		○日常的な運動習慣の確立を図り、健康な生活を目指す。	○体力向上部会を設置し、元気アップガイドブックを有効活用する。	4 全教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った	4
				3 80%～100%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った	
				2 70%～80%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った	
				1 70%未満の教員が元気アップガイドブックを活用した指導を行った	
		○望ましい食習慣の形成を促進する。	○学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせる。	4 全教員が食育計画を活用した指導を行った	4
				3 80%～100%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	
				2 70%～80%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	
				1 70%未満の教員が食育計画を活用した指導を行った	
輝く未来	○子供たちが自立できる基礎を培う。また、日本の伝統・文化の良さを理解し郷土を愛する態度を育成する。	○小中連携し、児童が安心して進級・進学できるようにする。	○瑞雲中ブロック、小中一貫教育を推進し、昭島のスタンダードを作成する。	4 全教員が方策を実施した	3
				3 80%～100%未満の教員が方策を実施した	
				2 70%～80%未満の教員が方策を実施した	
				1 70%未満の教員が方策を実施した	
		○教育活動を通して外部人材と交流体験できるようにする。	○文化、スポーツ、高齢者、地域工場・店舗での学びの場を、各学年設定する。	4 全学年の教員が交流体験を実施した	4
				3 80%～100%未満の学年・教員が交流体験を実施した	
				2 70%～80%未満の学年・教員が交流体験を実施した	
				1 70%未満の学年・教員が交流体験を実施した	
		○保護者や地域と連携し、児童が活動できる事業を展開する。	○OPTAや地区委員会の行事に計画的に参加・協力する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した	3
				3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	
				2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	
				1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	
その他	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	○芝生での運動促進と、芝管理も体験させ、環境に対する意識も高めさせる。	○学校のレガシーとして、芝生の校庭を様々な教育活動に活用する。	4 全教員が年間計画に沿って参加・協力した	4
				3 80%～100%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	
				2 70%～80%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	
				1 70%未満の教員が年間計画に沿って参加・協力した	

【総括表】

○子供にとって充実した学校	○保護者にとって信頼できる学校	○教職員にとって働きがいのある学校
○思考力・判断力・表現力を身に付けた子供	○感性あふれる豊かな心をもつ子供	○すすんで心と体を鍛えることができる子供
○ありのままの児童を受け止め、個性を発揮させる教師	○授業で勝負できる教師	○家庭・地域との理解を深め協働できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 調査が市平均ポイントから+3ポイント以上	3	学力調査が市平均を1.56ポイント上回った。高学年で学力が落ちる傾向がある。	高学年の学力が落ちたことは残念である。ブロックごとに取り組んだ成果があった。	A	学年の引継ぎを密にし、中学校と連携を図ることによって高学年の学力向上を図る。
3 調査の正答率が市平均～+3ポイント					
2 調査の正答率が市平均-5ポイント以内					
1 調査の正答率が市平均-5ポイント以上					
4 90%以上の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答	3	家庭学習や家庭自主学習の定着に向け、系統性を意識しながら取り組むことができた。	家庭学習の更なる定着を望む。根気強く取り組んでほしい。	B	各学年で連絡ノートを作成し活用することで、家庭学習や自主学習の定着を目指す。
3 80%～90%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
2 70%～80%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
1 70%未満の児童が家庭で決まった時間勉強していると回答					
4 90%以上の児童が安心した学校生活が過ごせている	3	楽しく学校に登校できていると答える児童は85%を超えた。	不登校予備軍が増加している。多くの児童は楽しく学校生活をおくっている。	A	継続して指導するとともに、特別支援教育のさらなる充実を図り、安心した学校生活を目指す。
3 80%～90%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
2 70%～80%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
1 70%未満の児童が安心した学校生活が過ごせている					
4 学級生活満足群が50%以上	4	学級生活満足群は児童全体で62%で、親和的学級は73%であった。	自己肯定感は、家庭や地域でも高める必要がある。QU調査で把握し学級で指導している。	A	年2回のQU調査を継続、専門のQU講師研修会を2学期末に行い、学級活動に活かす。
3 学級生活満足群が40%以上					
2 学級生活満足群が30%以上					
1 学級生活満足群が30%以下					
4 90%以上の児童が振り返りを書くことが出来た	4	小中一貫教育のワークシートを活用、全学級で振り返りを児童に書かせることができています。	工夫した道徳授業で実践力が向上している。児童の善行を保護者に伝えることが大切だ。	A	継続して指導するとともに、道徳の研修機会を増やし、さらなる規範意識の向上を図る。
3 85%以上の児童が振り返りを書くことが出来た					
2 80%以上の児童が振り返りを書くことが出来た					
1 振り返りを書くことが出来た児童が80%以下だった					
4 児童の90%以上がパラリンピック競技を体験した	4	年間指導計画をもとに取組を行い、全校児童がゴールボール日本代表選手と交流できた。	本物を体験することは、非常に大事だ。オリパラを目指し教師児童が一丸となって取り組めた。	A	計画的に取組を実施し、ゴールボール体験が児童にとって充実したものとなるよう努める。
3 児童の85%以上がパラリンピック競技を体験した					
2 児童の80%以上がパラリンピック競技を体験した					
1 80%未満の児童がパラリンピック競技を体験した					
4 調査結果が昨年比平均ポイントから+5ポイント以上	3	体力テストにおいて前年度から1ポイント数値向上を果たし、児童の運動時間も増加した。	体育講師の活用が運動時間を増やした。成果指数が下がっている。取り組み方法を検討する。遊び時間を増やす。	A	体育の指導計画を作成、更なる体力向上、維持を目指す。
3 調査結果が昨年比 ～+5ポイント					
2 調査結果が昨年比 -5ポイント以内					
1 調査結果が昨年比 -5ポイント以上					
4 90%以上の児童が目標を達成している	3	全教員が元気アップカードを活用したが家庭での活用が不十分であった。	元気アップカードの活用を日常的に家庭で行わせたい。保護者対応をしたい。	B	年度当初に元気アップカードの年間活用計画を作成し、計画的な活用を行う。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 90%以上の児童が食育のめあてを達成している	4	学校給食やお弁当の日を通して食の大切さを考えさせることができた。	早寝早起き朝ご飯を見直し、食への関心度をたかめたい。食育はよくしている。	A	食生活のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付けるようにしていく。
3 80%～90%未満の児童が食育のめあてを達成している					
2 70%～80%未満の児童が食育のめあてを達成している					
1 70%未満の児童が食育のめあてを達成している					
4 90%以上の児童が安心して進級・進学できる	4	安心して進級・進学できる児童が93%であった。	決定内容を全学級で実践した成果が表れた。瑞雲中ブロックの児童交流を活発に行いたい。	A	今年度中に瑞雲ブロックで年間計画を作成し、計画的に指導を行う。
3 80%～90%未満の児童が安心して進級・進学できる					
2 70%～80%未満の児童が安心して進級・進学できる					
1 70%未満の児童が安心して進級・進学できる					
4 90%以上の児童が目標を達成している	4	今年度は新たに日本電子やゴールボール協会と連携することができた。	地域交流は、通学時の安心に繋がる。外部人材の活用はすばらしい。スポーツ以外の職業交流にも活用したい。	A	来年度も外部人材との交流活動を各学年で設定、パラリンピックアスリートと交流を行う。
3 80%～90%未満の児童が目標を達成している					
2 70%～80%未満の児童が目標を達成している					
1 70%未満の児童が目標を達成している					
4 60%以上の児童が積極的に活動に参加できた	4	地域のお祭りや行事に参加した児童は62%であった。	児童への声掛けは保護者の意識向上に効果があった。参加児童はかぎられている。ボランティアカードも活用したい。	A	今後も積極的に児童への声掛けを行い、参加率を上げ、郷土や地域を愛する児童を育成する。
3 50%～60%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 40%～50%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 40%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
4 90%以上の児童が積極的に活動に参加できた	4	年間計画に沿って教職員・児童が芝生の維持管理に参加、芝生の良好な状態を維持できた。	児童の手で芝生維持を行っているのは素晴らしい。地域とともに続けた。地域の宝だ。	A	PTAや地域の協力者を増やし、学校のレガシーとして地域に根差したものににする。
3 80%～90%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
2 70%～80%未満の児童が積極的に活動に参加できた					
1 70%未満の児童が積極的に活動に参加できた					

学校教育目標	◎ 精いっぱい学習する子(重点) ○ 人のためにつくす子 ○ すすんで体をきたえる子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	知識・技能が生きて働き、未知の状況にも対応できるよう、自ら考え、判断し、豊かに表現できる学習方法を工夫する。	自らの考えを広げ深める対話的な学びを工夫する。	生活科や総合的な学習の時間の授業改善を中心に、対話的な学びの授業を実践する。	4 授業で話し合い活動…80%以上の授業	3
				3 授業で話し合い活動…70%以上の授業	
				2 授業で話し合い活動…60%以上の授業	
				1 授業で話し合い活動…60%未満の授業	
		児童向け資料「家庭学習のすすめ方」を作成、活用していく。	リーフレット「学びのすすめ」とともに、保護者会等で家庭に発信し、活用を促す。	4 家庭学習の進め方を作成…完成	4
				3 家庭学習の進め方を作成…80%以上の完成	
				2 家庭学習の進め方を作成…60%以上の完成	
				1 家庭学習の進め方を作成…60%未満の完成	
		児童にやさしい教室環境、学習環境、授業を工夫改善する。	ユニバーサルデザインに基づき、児童にやさしい授業を構造化して、実践する。	4 やさしい学習指導…90%以上の教員	3
				3 やさしい学習指導…80%以上の教員	
				2 やさしい学習指導…70%以上の教員	
				1 やさしい学習指導…70%未満の教員	
豊かな心	学校・家庭・地域で、児童一人一人が「かけがえのない存在として大切にされている」自己有用感を高める。	挨拶運動や人権週間を充実・改善・定着させる。	児童が主体的につくる「人権集会」を充実させるなど、人権意識を高めていく。	4 教員が児童に敬称…全教員	2
				3 教員が児童に敬称…95%以上の教員	
				2 教員が児童に敬称…90%以上の教員	
				1 教員が児童に敬称…90%未満の教員	
		玉小の約束を分かりやすく発信し続け定着させる。	全教員が共通理解を深める中で、生活・授業規律を徹底する。	4 玉っ子ハンドブックを活用…90%以上の教員	3
				3 玉っ子ハンドブックを活用…80%以上の教員	
				2 玉っ子ハンドブックを活用…70%以上の教員	
				1 玉っ子ハンドブックを活用…70%未満の教員	
		自己有用感を高め、児童が個々のよさを発揮できる。	縦割り班活動をショートとロングに分けて、実施時間を精選しつつ内容を充実させる。	4 縦割り班活動の実施…10以上の実施	4
				3 縦割り班活動の実施…9回実施	
				2 縦割り班活動の実施…8回実施	
				1 縦割り班活動の実施…8回未満の実施	
健やかな体	体育の授業改善とともに、日常的な運動習慣を定着させ、生涯に渡って積極的に運動に親しむ資質や能力を向上させる。	体力調査結果を検証・活用し、体育朝会を改善する。	体育朝会の年間指導計画を立て、ねらいを明確にして、系統立てて実施する。	4 体育朝会の実施…25回以上の実施	4
				3 体育朝会の実施…20回以上の実施	
				2 体育朝会の実施…15回以上の実施	
				1 体育朝会の実施…15回未満の実施	
		様々な人と関わりをもち、悩みを話せるようにする。	担任以外に、全教職員が児童と関わり、誰にでも相談できる雰囲気醸成する。	4 校長と会食…全学年・全学級	4
				3 校長と会食…2年生以上の学年・学級	
				2 校長と会食…3年生以上の学年・学級	
				1 校長と会食…4年生以上の学年・学級	
		健康教育・食育推進計画を改善、充実させる。	健康教育と保健指導、食育指導を総合的に関連させて取り組んでいく。	4 朝会で安全・給食指導…計22回以上	3
				3 朝会で安全・給食指導…計20回以上	
				2 朝会で安全・給食指導…計18回以上	
				1 朝会で安全・給食指導…計18回未満	
輝く未来	ボランティアマインド、障害者理解、スポーツ志向、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を身に付けさせる。	総合的な学習の時間の在り方を研究し、探究学習につなげる。	総合的な学習の時間をカリキュラムマネジメントの観点で構築する。	4 研究授業(観察)実施…全担任+専科	3
				3 研究授業(観察)実施…全担任	
				2 研究授業(観察)実施…9割以上の担任	
				1 研究授業(観察)実施…9割未満の担任	
		多様性を尊重し、心のバリアフリーを浸透させる。	オリパラ教育を年間指導計画に沿って、読本を活用しながら、計画的に実施する。	4 講話+体験+交流の実施…全学年	3
				3 講話+体験+交流の実施…5つの学年	
				2 講話+体験+交流の実施…4つの学年	
				1 講話+体験+交流の実施…3つの学年	
		すべての教職員が図書館機能を有効に活用する。	司書教諭を中心に、全学級で、学校図書館活用能力を育成する授業を実施する。	4 司書教諭による授業…全学級3回以上	4
				3 司書教諭による授業…全学級2回以上	
				2 司書教諭による授業…全学級1回以上	
				1 司書教諭による授業…一部学級で実施	

【総括表】

児童が主体的に活動する学校 生涯学習の基礎を確実に身に付ける学校 家庭・地域の信託に応える学校 教職員が組織的に協働する学校
自ら考え、創造力・表現力に富んだ子供 互いを尊重し人の為に尽くす心豊かな子供 心身共に健康で活力に満ちた子供 社会を創造していく子供
野球型からサッカー型の経営参画 心・愛情・言葉・表情豊かな人権感覚 安全を全てに優先させる危機管理 付加価値を付け、結果に責任を持つ

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査正答率…都平均+5割以上	2	○対話の形態等を工夫 ●探究学習を充実推進	探究心、創造力を育成 十分話し合う労力を重視	B	個→集団→個の主体的・対話的な授業形態で探究学習を推進
3 学力調査正答率…都平均+3割以上					
2 学力調査正答率…都平均以上					
1 学力調査正答率…都平均未満					
4 家庭学習の目標達成…80%以上の児童	3	○学びのすすめを配布 ●自主学習ノートの充実	発展的家庭学習も大切 興味付けで学習を深化	C	自主学習ノートを充実、興味を高めて学習習慣を確立させる
3 家庭学習の目標達成…70%以上の児童					
2 家庭学習の目標達成…60%以上の児童					
1 家庭学習の目標達成…60%未満の児童					
4 授業が分かりやすい…80%以上の児童	3	○統一した指導を目指す ●推進プランを全面改定	統一した指導が効果的 生き生きとした授業展開	B	授業改善推進プランを全面改訂、全校統一した指導を確立する
3 授業が分かりやすい…70%以上の児童					
2 授業が分かりやすい…60%以上の児童					
1 授業が分かりやすい…60%未満の児童					
4 社会通念上のいじめ…0件	3	○児童の人権集会充実 ●NIEにより視野を拡大	児童に熱い眼差し 社会のニュースも教材	A	社会や他者との関わりの中で、人権を自分事として考えるさせる
3 社会通念上のいじめ…1件から6件					
2 社会通念上のいじめ…7件から12件					
1 社会通念上のいじめ…13件以上					
4 善悪の判断がある…95%以上の児童	3	○全校統一して指導徹底 ●些細な変化を見逃さない	話し合い活動が大切 柔軟な指導で主体性を	A	挨拶や授業姿勢等、基本的なことを徹底し、規範意識を高める
3 善悪の判断がある…90%以上の児童					
2 善悪の判断がある…85%以上の児童					
1 善悪の判断がある…85%未満の児童					
4 異学年交流満足度…90%以上の児童	3	○集団と個の関係を重視 ●縦割り班活動の精選	子供の笑顔が評価 体験や共同作業が大切	B	QUを活用し、多様な人間関係の場を設定、自己有用感を醸成
3 異学年交流満足度…80%以上の児童					
2 異学年交流満足度…70%以上の児童					
1 異学年交流満足度…70%未満の児童					
4 体力調査の体力合計点…58点以上	3	○元気UPの活用充実 ●外部講師の活用推進	一律な基準は必要ない 個に応じた目標づくりを	B	元気アップカードの活用、元気アップステーションの充実で個の目標達成を
3 体力調査の体力合計点…55点以上					
2 体力調査の体力合計点…52点以上					
1 体力調査の体力合計点…52点未満					
4 誰かに相談できる…90%以上の児童	4	○SOSカードを創作 ●SOSカードの有効活用	SOSカードの成果に期待 教師から働きかけること	B	SOSカードを効果的に活用し、児童が悩みを抱えない雰囲気を作る
3 誰かに相談できる…80%以上の児童					
2 誰かに相談できる…70%以上の児童					
1 誰かに相談できる…70%未満の児童					
4 1日の病欠児童数…平均3人以下	3	○スッキリカードを活用 ●給食指導を一層深める	早寝早起き朝御飯推進 家庭と連携した食育	D	健康や食に関する学習を家庭と連携して系統的に計画・実施
3 1日の病欠児童数…平均4～5人					
2 1日の病欠児童数…平均6～8人					
1 1日の病欠児童数…平均9人以上					
4 課題発見ができる…90%以上の児童	3	○指導方法の共通理解 ●カリマネの計画実施	教育活動全体で取組 関心と観察力を上げる	B	カリキュラムマネジメントを構築し、探究活動を推進する
3 課題発見ができる…80%以上の児童					
2 課題発見ができる…70%以上の児童					
1 課題発見ができる…70%未満の児童					
4 オリパラの精神の理解…80%以上の児童	2	○多様な人材を招聘 ●オリパラの観戦、総括	真っ直ぐ育っている 恒常的に取り組むこと	C	計画的な指導計画を確立し、次代に繋がるレガシーを構築する
3 オリパラの精神の理解…70%以上の児童					
2 オリパラの精神の理解…60%以上の児童					
1 オリパラの精神の理解…60%未満の児童					
4 図書の貸出冊数…年間平均100冊以上	3	○司書教諭が授業実施 ●課題解決能力の育成	読書が言語力向上に 読書で多様な出会い	A	課題解決学習に資する蔵書整備を進め、言語活動を充実させる
3 図書の貸出冊数…年間平均80冊以上					
2 図書の貸出冊数…年間平均40冊以上					
1 図書の貸出冊数…年間平均40冊未満					

学校教育目標	◎よく考える子(すすんで学び考え、諦めずに問題に取り組む子ども)	ビジョン	【目指す学校像】
	○心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にする子ども)		【目指す児童・生徒像】
	○たくましい子(すすんで体を鍛え、粘りよく行動する子ども)		【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に し、分かる授業の実現 に努め、確かな学力の 定着を図る。	自ら学ぶ基本的な学 習習慣や学習規律の 定着を図る。	朝学習や学習への取 組み方など学び方を学 ぶ指導を行う。	4 全学級が具体的な取組を行っている	4
				3 具体的な取組を行っている学級が85%以上である。	
				2 具体的な取組を行っている学級が75%以上である。	
				1 具体的な取組を行っている学級が75%未満である。	
		読む、書く、伝える、計 算する、考察する力の 育成及び定着を図る。	東京ベーシックドリルの 活用で、基礎・基本の 定着80%を目標に取り 組む。	4 全学級テスト実施率が100%である。	3
				3 全学級テスト実施率が90%である。	
				2 全学級テスト実施率が80%である。	
				1 全学級テスト実施率が80%未満である。	
			調べ学習やまとめたこ とを発表する場を設定 する。	4 全学級が計画を実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
			ICTを活用し、プログラ ミング的思考をする学 習を行う。	4 全学級が実施する。	4
				3 90%以上の学級が実施する。	
				2 80%以上の学級が実施する。	
				1 80%未満の学級が実施する。	
豊かな心	互いに認め合い、支え 合う豊かな心を育成す る。	すすんであいさつをす る子を育成する。	あいさつが自主的にで きるような取組を行う。	4 全学級が実施する。	4
				3 90%以上の学級が実施する。	
				2 80%以上の学級が実施する。	
				1 80%未満の学級が実施する。	
		共生社会を生きる子ど もの育成を図る	体験や交流を通して障 害者理解教育を行う。	4 全学級が実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
		言語環境を整え、児童 の居場所となる学級づ くりを推進する。	道徳・学級活動を中心に 各教科等において、より よい人間関係を築くため の活動を実施する。	4 全学級が実施する。	4
				3 90%以上の学級が実施する。	
				2 80%以上の学級が実施する。	
				1 80%未満の学級が実施する。	
健やかな体	生活習慣を見直し、丈 夫な身体とたくましい 心を育成する。	生活習慣を見直すとし ともに、基礎体力の向上 を図り、健康教育を推 進する。	体力向上及び運動能力向上 に向け、サーキットトレーニ ングなどの取組にすすんで取 組めるよう指導する。	4 全教員が指導する。	4
				3 90%以上の教員が指導する。	
				2 80%以上の教員が指導する。	
				1 80%未満の学級が指導する。	
			オリンピック・パラリン ピック教育を通して運 動・スポーツへの興味・ 関心を高める。	4 全学級が実施する。	4
				3 80%以上の学級が実施する。	
				2 70%以上の学級が実施する。	
				1 70%未満の学級が実施する。	
輝く未来	保護者・地域との連携 を深める。	地域を素材とした学習や 伝統文化の体験を通し て、郷土昭島に対する愛 着や誇りを育てる。	地域人材を活用したり 伝統文化の体験を取り 入れる。	4 全学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	3
				3 5つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
				2 4つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
				1 3つの学年が地域人材や伝統文化の体験を行う。	
		家庭学習の習慣化を 図る。	家庭学習の手引きを配 布したり、e-ライブラ リーを説明したりして家 庭学習の定着を図る。	4 全学級で活用について指導する。	4
				3 80%以上の学級で活用について指導する。	
				2 70%以上の学級で活用について指導する。	
				1 70%未満の学級で活用について指導する。	

【総括表】

○特別支援教育を全校で進める学校 ○子どもも教職員も当たり前のことを当たり前に行える学校 ○子ども、保護者・地域、教職員が中神小でよかったと思える学校
○自ら考え、主体的に学ぶ子ども ○互いを尊重し思いやりのある行動ができる子ども ○心身ともに健康でたくましい子ども
○人権感覚を磨き子どもの自尊感情を高める教師 ○常に向上心をもち指導力向上に努める教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 諦めずに取り組む児童が90%以上である。	3	学び方を学ばせる指導の実施により、児童の粘り強さが向上した。	学ぶ姿勢が身に付くことは大事である。より高い成果を期待する。	B	授業規律や授業の流れを、全校で取り組む「中神スタンダード」として設定し、全ての授業での指導を徹底する。
3 諦めずに取り組む児童が80%以上である。					
2 諦めずに取り組む児童が70%以上					
1 諦めずに取り組む児童が70%未満である。					
4 テストの平均点が80点以上である。	3	東京ベーシックドリルの活用がまだ十分ではなく、基礎基本の定着率が低い。	毎日、ページ数を決めて少しずつ取り組むなど、活用法の更なる検討がなされると良い。	B	授業と朝学習・補習教室との連携を強くし毎日の繰り返し学習を徹底することで、確実な定着を図る。
3 テストの平均点が70点以上である。					
2 テストの平均点が60点以上である。					
1 テストの平均点が60点未満である。					
4 児童全員が発表する場を学期に2回以上もつ。	4	調べ学習やまとめたことを児童全員が発表する機会は年3回以上設定できている。	発言力・発表力を高めることができる。発表後、意見交換をすることが大事である。	A	人前で発表させる機会を今後も計画的に設定し、表現力の向上を目指すと共に、児童に自信と自己肯定感を高めさせる。
3 児童全員が発表する場を学期に1回もつ。					
2 児童全員が発表する場を年に2回以上をもつ。					
1 児童全員が発表する場を年に1回もつ。					
4 主体的に問題解決しようとする児童が80%以上である。	4	プログラミング教育は全校級で実施し児童も積極的に取り組んでいるが、ICTの充分な活用に温度差がある。	各教科でプログラミング的思考を育てる学習ができると良い。	B	プログラミング教育には今後も積極的に取り組み、教員の技能の向上も目指す。
3 主体的に問題解決しようとする児童が70%以上である。					
2 主体的に問題解決しようとする児童が60%以上である。					
1 主体的に問題解決しようとする児童が60%未満である。					
4 しっかりあいさつできる児童が90%以上である。	3	あいさつ励行の取り組みに力を入れた結果、8割強の児童にあいさつの習慣が身についた。	多くの子がしっかりあいさつできている。中神小に行くと、廊下で児童からあいさつしてくれる。	B	教員側からの指導だけでなく、児童会活動等においてもあいさつ励行の取り組みを行い、全児童が自主的にあいさつできる学校を目指す。
3 しっかりあいさつできる児童が80%以上である。					
2 しっかりあいさつできる児童が70%以上である。					
1 しっかりあいさつできる児童が70%未満である。					
4 障害者への理解を深めた児童が90%以上である。	3	障害者理解のための体験や交流を9割の学級で実施した結果、8割の児童の理解を深めることができた。	障害者理解のための体験・交流を一層進め、偏見や差別のない、多様性や他者を認める心の育成につなげてほしい。	B	計画的な体験や交流を通した障害者理解教育をすすめて、児童の理解を一層深める。
3 障害者への理解を深めた児童が80%以上である。					
2 障害者への理解を深めた児童が70%以上である。					
1 障害者への理解を深めた児童が70%未満である。					
4 学校が楽しいと思っている児童が90%以上である。	3	よりよい人間関係を築くための活動に積極的に取り組んだ結果、8割強の児童が学校が楽しいと感じている。	互いに尊重し合い、全ての子どもが学校生活を楽しく送り、良い思い出を作る取り組みを期待する。	B	言語環境を整えながら、人間関係を築く取り組みに力を入れ、全児童が楽しいと思える学校作りをすすめる。
3 学校が楽しいと思っている児童が80%以上である。					
2 学校が楽しいと思っている児童が70%以上である。					
1 学校が楽しいと思っている児童が70%未満である。					
4 自らすすんで取り組む児童が90%以上である。	3	体力・運動能力向上にほとんどの教員が取り組んだが、進んで体を動かそうとする児童は8割にとどまっている。	学力だけでなく、体力も重要である。休み時間にはすすんで外に出て遊ぶようになると良い。	B	外遊び、クラス遊びの機会も計画的に設け、全身を思い切り動かす楽しさを全児童に味あわせる。
3 自らすすんで取り組む児童が80%以上である。					
2 自らすすんで取り組む児童が70%以上である。					
1 自らすすんで取り組む児童が70%未満である。					
4 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が90%以上である。	3	オリンピック・パラリンピック教育に関連した学習機会を設定し、8割の児童の興味関心を高めることができた。	オリンピック・パラリンピックを一つのきっかけとして、運動への関心を高められたら良い。	B	オリンピック・パラリンピックについて積極的に教材にすることで、スポーツやアスリートについての興味・関心を高める。
3 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が80%以上である。					
2 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%以上である。					
1 オリンピック・パラリンピックやスポーツに興味・関心をもつ児童が70%未満である。					
4 楽しく活動できた児童が90%以上である。	3	地域を題材とした体験的な授業を設定し、8割の児童に郷土昭島に対する愛着や誇りを育てることができた。	地域の風習や伝統を学ぶのは良いことだ。地域の協力が必要であるし、題材も乏しい中で大変とは思いますが引き続き取り組みに努めてほしい。	B	計画的に地域についての体験的な学習を積み重ね、郷土昭島についての知識を増やしなが、愛着や誇りの育成を目指す。
3 楽しく活動できた児童が80%以上である。					
2 楽しく活動できた児童が70%以上である。					
1 楽しく活動でき児童が70%未満である。					
4 90%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。	3	家庭学習の定着を図った結果、8割の児童が決まった時間に学習できるようになった。	各家庭の状況もあり、定着を図るのが難しい面もあるが、地道に指導をすることが大事である。	B	保護者会等を利用し、家庭への啓発を定期的に行うことも取り入れ、家庭学習に関する保護者の意識を向上させる。
3 80%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。					
2 70%以上の児童が家庭で決まった時間勉強している。					
1 70%未満の児童が家庭で決まった時間勉強している。					

学校教育目標	だれもが笑顔になる学校 ○自ら学び、表現する子 ○認め合い、協力して行動する子 ○すすんで体を整える子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら行う、主体的・対話的で深い学びの実現。	学年ごとに研究教科を決め、その教科の本質に迫る教材研究を行うことで、質の高い授業実践ができるようにする。	校内研究において、全学年・杉の子学級・そよかぜ(8グループ)が研究授業及び協議会を行う。	4 8グループ全てが研究授業及び協議会をした。	4
				3 7グループが研究授業及び協議会をした。	
				2 6グループが研究授業及び協議会をした。	
				1 5グループ以下が研究授業及び協議会をした。	
		学ぶことの楽しさを味わわせる授業を積み重ね、児童の学びに向かう力を向上させていく。	児童自身に課題意識をもたせ、児童主体の問題解決学習を展開していく。	4 8割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	3
				3 7割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
				2 6割以上の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
				1 6割未満の授業で児童主体の問題解決学習を実践した。	
		児童の学力を把握し、実態に即した授業改善を行うことで、学力の向上を図る。	昨年度までの実態を反映させた学年経営案の作成、及び、各学力調査の結果分析と対応策の検討を行う。	4 全学年で学力調査の分析及び対策を実施した。	4
				3 5学年で学力調査の分析及び対策を実施した。	
				2 4学年で学力調査の分析及び対策を実施した。	
				1 3学年以下で学力調査の分析及び対策を実施した。	
豊かな心	自分とともに他者を大切にする態度や、社会の一員であるという自覚と規範意識の育成を図る。	自発的にあいさつをする態度を養い、あいさつが自然に通い合う関係をつくる。	ふれあい月間で小中一貫あいさつ運動を実施する。年度内で3回学校生活目標にあいさつを取り上げて、あいさつ指導の強化を図る。	4 全教員が日常的に指導した。	3
				3 90%以上の教員が日常的に指導した。	
				2 80%以上の教員が日常的に指導した。	
				1 80%未満の教員が日常的に指導した。	
		落ち着いて安心した学校生活を送ることができるようになる。	「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」を活用し、児童に理解しやすい授業や環境整備を行う。	4 全教員が活用し、実践に活かした。	4
				3 90%以上の教員が活用し、実践に活かした。	
				2 80%以上の教員が活用し、実践に活かした。	
				1 80%未満の教員が活用し、実践に活かした。	
		いじめの未然防止・早期発見・早期解決を行う。	軽微ないじめを見逃さない情報共有の日常化と、組織的対応を行う。	4 全教員が日常的に情報共有を行った。	4
				3 90%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				2 80%以上の教員が日常的に情報共有を行った。	
				1 80%未満の教員が日常的に情報共有を行った。	
健やかな体	自ら体を整え、健全な生活を築こうとする児童の育成を図る。	元気アップガイドブックの運動内容を参考にし、児童の体力向上を目指す。	休み時間や朝の時間を活用し、元気アップタイムを実施する。	4 全校児童が参加した。	2
				3 90%以上の児童が参加した。	
				2 80%以上の児童が参加した。	
				1 70%以上の児童が参加した。	
		元気アップガイドブックや保健便り、給食便りを活用し、児童の健康意識を高める。	からだ力向上週間で、生活リズム記録と振り返りを行う。	4 全学級で記録と振り返りを行った。	4
				3 90%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				2 80%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
				1 70%以上の学級で記録と振り返りを行った。	
		児童の危険を予測し、回避する能力を向上させる。	「安全教育プログラム」とワークシート等を活用した安全指導を行う。	4 全学級で指導・活用した。	4
				3 90%以上の学級で指導・活用した。	
				2 80%以上の学級で指導・活用した。	
				1 80%未満の学級で指導・活用した。	
輝く未来	人間関係調整力と自己有用感をもち、積極的に他者とかかわろうとする児童の育成を図る。	学校行事で、自己のよさを発揮し、チャレンジする意欲をもたせる。	学年ごとに行事のねらいに沿った目標を立て、実践と振り返りを行う。	4 全児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	3
				3 90%以上の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				2 80%以上の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				1 80%未満の児童が目標に沿った実践と振り返りを行った。	
		縦割り班活動を活性化させ、人間関係調整力や所属感、連帯感を高める。	縦割り班ごとの目標を設定し、実践と振り返りを行う。	4 全縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	2
				3 90%以上の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				2 80%以上の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
				1 80%未満の縦割り班で目標に沿った実践と振り返りを行った。	
		係活動や児童会・クラブ活動で、集団の一員として学級や学校をよくしようとする態度や自己有用感を高める。	学級活動や、児童会・クラブ活動の時間に、課題を解決するための話し合いの時間を設定する。	4 全児童が話し合いに参加し、集団の課題を解決した。	3
				3 90%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	
				2 80%以上の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	
				1 80%未満の児童が課題解決に向けた話し合いに参加した。	

【総括表】

「だれもが笑顔になる学校」○ひとりぼっちにしない学校 ○未来に向かってチャレンジする学校 ○ともに学びを創造する学校
○自ら課題を見付け、論理的に解決する子 ○感性を働かせ、創造・表現する子 ○お互いを認め合い、助け合える子 ○すすんで人とつながる子 ○自ら体を整え、健全な生活を築く子
○子供第一主義で行動する教師 ○子供の「人間モデル」としての教師 ○指導力向上を目指し学び続ける教師 ○家庭や地域と連携できる教師 ○健康管理ができ、人間性豊かな教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策																						
4	児童アンケート「授業内容が分かる」90%以上	4	授業改善の意識、児童の学習に対する意識は高まってきていると言える。	新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていないため、令和2年度当初に実施する。		学習指導要領の求める新しい学力観について、職員全体で議論・共有し、更に授業改善を進めていく。																						
3	児童アンケート「授業内容が分かる」80%以上																											
2	児童アンケート「授業内容が分かる」70%以上																											
1	児童アンケート「授業内容が分かる」70%未満																											
4	児童アンケート「進んで学習に取り組む」90%以上	3	授業実践によって、意欲は高まりつつある。楽しさの質を吟味し、高めていく必要がある。					深い学びや児童の主体的に学びに向かう力につながる、「学ぶことの楽しさを味わわせる授業」の実践に取り組んでいく。																				
3	児童アンケート「進んで学習に取り組む」80%以上																											
2	児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%以上																											
1	児童アンケート「進んで学習に取り組む」70%未満																											
4	市学力調査(国・算)の正答率が5学年前年度比＋	1	児童の意識と実態に差が大きい。早急に学力調査の分析から分かった課題への対策に取り組む必要がある。							今年度の結果を基に次年度の学年経営案を作成することで、連続した指導を実現し、課題の解決に努める。																		
3	市学力調査(国・算)の正答率が4学年前年度比＋																											
2	市学力調査(国・算)の正答率が3学年前年度比＋																											
1	市学力調査(国・算)の正答率前年度比＋が2学年以下																											
4	児童アンケート「自分からあいさつ」が80%以上	4	児童の自己評価では「自分からあいさつ」できているが教員の目から見ても、自発的に挨拶ができる児童は少ない。特に来校者に対する挨拶が課題である。									教育計画を基に、職員間で再度あいさつに関する指導内容の共通理解を行い、全職員で指導を徹底できるようにする。																
3	児童アンケート「自分からあいさつ」が70%以上																											
2	児童アンケート「自分からあいさつ」が60%以上																											
1	児童アンケート「自分からあいさつ」が60%未満																											
4	児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が80%以上	4	「昭島市立学校ユニバーサルデザイン」を活用したことで学年が変わっても落ち着いて学習に取り組める児童が増えた。											取組が継続するよう年度始め、学期始めに「昭島市立学校ユニバーサルデザイン」を全職員で読み、共通理解を図る。														
3	児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が70%以上																											
2	児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%以上																											
1	児童アンケート「落ち着いて安心して生活」が60%未満																											
4	児童アンケート「いじめは許さないこと」が90%以上	4	学期に1回のいじめアンケートとふれあい月間による指導で児童にも「いじめは絶対に許されない」という意識が定着した。													軽微ないじめを見逃さないよう「いじめ総合対策【第2次】」を活用し、校内研修などでいじめ対策への理解を深めていく。												
3	児童アンケート「いじめは許さないこと」が80%以上																											
2	児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%以上																											
1	児童アンケート「いじめは許さないこと」が70%未満																											
4	体力測定の結果が4学年以上8項目中5項目で都平均以上	2	年間を通して、元気アップタイムを実施し、運動に親しむ機会を設けたが、体力測定の結果は都の平均を下回る項目が増えた。															児童が体の動かし方についての知識・技能が身に付くよう、体育授業の改善を計画していく。										
3	体力測定の結果が4学年以上8項目中4項目で都平均以上																											
2	体力測定の結果が4学年以上8項目中3項目で都平均以上																											
1	体力測定の結果8項目中2項目で都平均以上が4学年未満																											
4	児童アンケート「健康について学び理解している」80%	4	生活リズムカードや年間を通した取組の中で健康に対する知識を深め、意識も高まった。																	生活リズムカードの取組を継続していく。また、身体計測時の健康指導も来年度の取組に加える。								
3	児童アンケート「健康について学び理解している」70%																											
2	児童アンケート「健康について学び理解している」60%以上																											
1	児童アンケート「健康について学び理解している」60%未満																											
4	児童アンケート「安全を理解し生活」80%	4	月ごとの安全指導、様々な想定避難訓練などの実施により、危険予測・回避能力が高まった。																			継続して、安全教育プログラムやワークシートを活用した安全指導を実施していく。						
3	児童アンケート「安全を理解し生活」70%																											
2	児童アンケート「安全を理解し生活」60%以上																											
1	児童アンケート「安全を理解し生活」60%未満																											
4	全児童が学年の目標を達成した。	3	学校行事のねらいを明確化し、教員が方針を共有することで、多くの児童がそれぞれのよさを発揮してチャレンジすることができた。																					行事のねらいを明確化し、教員の指導における行動目標(大人の10の流儀)を継続的に共通理解していく。				
3	90%以上の児童が学年の目標を達成した。																											
2	80%以上の児童が学年の目標を達成した。																											
1	80%未満の児童が学年の目標を達成した。																											
4	児童アンケート「縦割り班の満足度」90%以上	2	1学期に立てた各班の目標を意識した活動ができていない。背景に、活動時間が短く、活動が活性化していない現状がある。																							縦割り班の時間を長めに確保できるようにするとともに、教員のかかわり方について、ねらいに沿って再確認し、児童主体の縦割り班にしていく。		
3	児童アンケート「縦割り班の満足度」80%以上																											
2	児童アンケート「縦割り班の満足度」70%以上																											
1	児童アンケート「縦割り班の満足度」70%未満																											
4	児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」90%以上	2	全体として話し合いの経験が少ない児童が多く、時間を設定しても話し合いに参加できない児童がいた。																									話し合いの機会を継続的に設定していくとともに、学級会など自分たちで話し合い課題解決する経験を低学年から積み上げていく。
3	児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」80%以上																											
2	児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」70%以上																											
1	児童アンケート「話し合いを通し課題解決した」70%未満																											

令和元年度		昭島市立光華小学校		学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価	
学校教育目標	○ 健康な子	ビジョン	【目指す学校像】		
	◎ 考える子		【目指す児童・生徒像】		
	○ すすんでする子		【目指す教師像】		
	○ 協力する子				

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価
確かな学力	授業改善を推進し、基礎的・基本的な学力の定着を図る。	教員の授業力を高めるとともに、児童の実態を把握し、個に応じた指導の充実を図る。	- めあてを明確にした学習の展開 - 単元の学習過程を意識した教材研究 - 個に応じた指導を意識した授業 - 学力調査の分析を行い、改善プランを作成し実践する	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		読書に関する指導や、読書環境を整備し、読書活動の充実をめざす。	- 朝読書の時間の確保 - 読書活動の充実への取組 - 図書支援員の有効活用 - 定期的な意識調査の実施	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		特別支援教育の視点をもった環境整備や、授業改善を推進する。	- 校内委員会の定期開催 - 支援員の効果的な活用 - ユニバーサルデザイン実践 - 研修会の実施(学び合い)	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
豊かな心	計画的な道徳教育の充実を図り、人権尊重の精神を醸成し、共に認め高め合い、学校は楽しいと実感できる児童の育成をめざす。	教科化に沿った道徳教育の充実を図り、互いに認め合う児童の育成をめざす。	- 自己申告授業観察での公開 - 研修会の実施(学び合い) - 年間計画の確実な実施 - 全教育活動で見える化を図り児童の実践力高揚	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		いじめの未然防止と早期対応を推進し、安心して通える学校をめざす。	- 人権教育プログラムの活用 - いじめ防止対策冊子の活用 - 生活指導夕会での報告と情報共有と素早い対応 - いじめアンケートの確実な実施	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		体験活動を通して自尊感情や自己有用感を高める。	- 人間体験活動の実施 - 実践体験活動の実施 - 栽培体験活動の実施 - 縦割り班活動の充実	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
健やかな体	計画的に体力向上を推進し、心身ともに健康な児童の育成をめざす。	心身ともに健康な児童の育成に向けた取組に挑戦する。	- 元気アップガイドブックの活用 - グッドモーニング60分の取組 - いきいきカードの実施 - 食育に関する指導の取組	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		体力向上を目指した体育学習の充実を図る。	- 児童の実態に応じためあてが設定できる学習の展開 - 体力運動能力調査の分析 - 系統性を重視した体育指導の充実 - 計画的なミニ研修会の実施	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		オリンピック・パラリンピック教育を計画的に推進する。	- オリ・パラ読本の活用 - チャレンジ、ルール尊重、フェアプレーの大切さを指導・実践 - 日本の伝統文化にかかわる取組 - オリンピックやパラリンピアンを招聘しての講話や実技指導	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
輝く未来	幼・保・小・中の連携した教育の充実を図り、未来に向けて夢と希望をもち実現しようと努力する児童の育成をめざす。	学級会活動をはじめ、全教育活動において、キャリア教育の充実を図る。	- 学校生活への適応 - 仲間づくり、集団の結束 - 自らの役割の自覚 - 将来の夢を考えたり、目標に向けて真面目に取り組んだりできる	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		幼・保・小・中の連携について模索し、効果的な方法を検討する。	- 学級活動等におけるキャリア教育の推進 - 年3回の中学校区の計画的な交流活動 - 小中連携の具体的な方策の検討 - 入学前の幼・保との交流活動	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	
		保護者・地域との連携を通して、児童の将来への希望や活動意欲を高める。	- 地域人材を活用した体験活動の実施 - 家庭訪問、個人面談の実施と、個別の指導計画の作成、専門医機関との連携 - PTA活動の理解と協力 - 地域行事へ年1回参加	4	4項目全て取り組むことができた。	3
				3	3項目は取り組むことができた	
				2	2項目は取り組むことができた。	
				1	1項目しか取り組めなかった。	

【総括表】

○ 生き生きと学び、達成感を味わえる学校 ○ 安心して子供を預けられる信頼できる学校 ○ 働きがいのある学校(教職員にとって)
○ 心身ともに健康な子 ○ 主体的・対話的で深い学びのできる子 ○ 互いに認め合い高め合う子
○ 教育公務員としての自覚をもち使命を果たすために、絶えず研究と修養に努め、児童のために誠心誠意職務に励む教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	市11月学力調査の平均正答率が-1.5ポイント以上	1	・単元を見通した授業設計図の取組を全員で行った。見通しのある指導の重要性を実感すると共に、毎時間の明確なめあてをもつことができた。 ・学力調査を基にした授業改善プランを作成し、2学期から取り組んだ成果が現れた。	・アクティブラーニングの実現に向けて、学校の取組を進めてほしい。	A	・新学習指導要領の実施に向け、問題解決的な学習への取組を強化し、児童が主体的に学ぶ学習への変換に取り組む。
3	市11月学力調査の平均正答率が-2.0ポイント以上					
2	市11月学力調査の平均正答率が-2.5ポイント以上					
1	市11月学力調査の平均正答率が-2.5ポイント未満					
4	90%以上の児童が週1～2日以上読書していると回答	3	・毎学期の読書月間の取り組みを通して、読書の大切さや面白さを伝えることができた。 ・図書支援員による、書架の整理、学年に合った本の紹介や読み聞かせを定期的に行い、児童の読書に関する興味関心を高めることができた。	・本を読むことの大切さを伝えてほしい。しかし、無理に読ませるのではなく、本に興味をもたせたり、活用する力を付けてほしい。	B	・読書習慣の定着を引き続き図るとともに、読書の質を高める取組を行いたい。
3	85～90%未満の児童が週1～2日以上読書していると回答					
2	80～85%未満の児童が週1～2日以上読書していると回答					
1	75～80%未満の児童が週1～2日以上読書していると回答					
4	90%以上の児童が授業が分かると回答	4	・校内委員会の計画的な実施により、話し合いの内容や質の高まりが見られた。 ・コーディネーターからのミニ研修によって、各教室でのユニバーサルデザインを生かした指導・支援が充実し始めている。	・今後も、子供一人一人の個性が光るように指導をしていったほしい。	A	・講師を招いて、支援を必要とする児童への対応についての研修を行う必要性を感じている。 ・特性のある児童も教室内で安心して過ごせる学級づくりを目指す。
3	80～90%未満の児童が授業が分かると回答					
2	70～80%未満の児童が授業が分かると回答					
1	70%未満の児童が授業が分かると回答					
4	90%以上の児童が大切さを学ぶことができたと回答	3	・道徳授業地区公開講座では、道徳の授業づくりを学び、学年で取り組むことができた。道徳的価値に触れて考える力が身に付き始めている。 また、新しい教科道徳についての話を公開講座で校長が行ったことで、保護者への理解につながった。	・道徳の学習を通して、それぞれのよさを見付けられる子供を育ててほしい。	A	・引き続き、お互いの違いに気付き、よさを認め合うことのできる道徳教育を推進していく。また、評価についても、教員同士で学び、共通理解を図る必要がある。
3	85～90%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答					
2	80～85%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答					
1	80%未満の児童が大切さを学ぶことができたと回答					
4	90%以上の児童が判断できたと回答	3	・いじめアンケートの実施と、その後の個々の聞き取りを適切に行い、児童の実態を把握し、情報共有を行い、必要に応じて対応することができた。日常的にもQU調査の結果を意識して、児童の変容をとらえるように心がけることができた。	・お互いが自分の考えを話し合える雰囲気作りが大切だと思う。	A	・来年度も引き続き、教員のアンテナを高くするための定期的な研修を行うとともに、情報共有を綿密に行い、必要に応じて組織として対応していく。
3	85～90%未満の児童が判断できたと回答					
2	80～85%未満の児童が判断できたと回答					
1	80%未満の児童が判断できたできたと回答					
4	90%以上の児童が体験学習は楽しいと回答	4	・各学年、ゲストティーチャーをお呼びして、体験的な活動に取り組むことができた。 ・縦割り班の交流活動の回を増すごとに、異学年交流のよさが見られた。	・様々な人と出会い、考えを深められる活動を期待する。	B	・総合的な学習での位置付けを明確にするとともに、体験的な活動の意図を明確にして指導することで、児童が、そのよさや効果を感じられるよう実践を行う。
3	85～90%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
2	80～85%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
1	80%未満の児童が体験学習は楽しいと回答					
4	90%以上の児童が安全健康について学ぶと回答	4	・グッドモーニング60分の取組を行い、児童に朝の時間の使い方を考えさせ、家庭にも協力を依頼した。児童の意識改革につなげることができた。 ・教師と運動委員会で元気アップタイムの取組を行った。運動遊びに進んで取り組む姿が見られた。	・家庭教育の協力を得て、健全なことも育ててほしい。	A	・次年度は、グッドモーニング60分の授業を各学年で行い、さらに意識を高めていきたい。 ・元気アップガイドブックの授業での取組をすすめていきたい。
3	85～90%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
2	80～85%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
1	80%未満の児童が安全健康について学ぶと回答					
4	90%以上の児童が体力付いていると回答	3	・体育学習に関するQJT研修会をもつことはできなかったが、副校長を中心に、指導に関するQJTを行うことができた。 ・体力運動能力調査の結果を生かした、次年度の体育の年間指導計画の作成に取り組んだ。	・放課後元気アップタイムの実践はよいと思う。子供たちが自由に活動できる場を提供してほしい。	A	・引き続き、めあてを明確にした体育学習の展開を目指す。 ・体育の基本を中心に実技研修会を実施し、学校全体として協働実践できるようにしていきたい。
3	85～90%未満の児童が体力付いていると回答					
2	80～85%未満の児童が体力付いていると回答					
1	80%未満の児童が体力付いていると回答					
4	80%以上の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答	2	・体育学習の中で、ルールの尊重、フェアプレーの精神を指導することができた。 ・茶道体験や昔遊びなど、日本の伝統文化に関わる取り組みを行った。また、サッカーや野球の関係者による学習を実施した。	・来年度はオリンピックの年なので、是非盛り上げてほしい。	B	・次年度は、オリンピック読本やDVD等活用を充実させ、オリンピックについても学ぶ機会を増やし、オリンピックに対する興味関心をさらに高める。
3	75～80%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
2	70～7%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
1	70%未満の児童がオリパラで学ぶことがあったと回答					
4	90%以上の児童が自分の得意なものを考えたと回答	4	・日常の学級での生活や行事での取組を通して、自分の役割を自覚し、仲間との関係づくりや、集団の結束について、実践的に学ぶことができた。 ・3学期は、次年度の自分の姿をイメージして、なりたい自分を目指した目標を立てる活動を行った。	・キャリア教育の実践を進め、子供たちのよさが生かせる将来になるようにしてほしい。	B	・次年度はキャリアパスポートの在り方について検討しながら、今年度同様に仲間との関わりを大切にできる学級づくりを行っている。
3	85～90%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
2	80～85%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
1	80%未満の児童が自分の得意なものを考えたと回答					
4	90%以上の児童が将来について考えたと回答	3	・小中一貫教育では、テーマを決めて意見交換をすることができたが、具体的な取組が不十分である。 ・就学時健康診断では、気になる児童や相談のある保護者の面談を通して、児童の様子を把握し、次年度に向けた準備につなげることができた。	・幼稚園、保育園の子供たちも多様化している。それぞれの対応は大変だが、社会の一員としての意識を育ててほしい。	B	・小中一貫教育について、継続的に実践を行える土台作りをしていきたい。 ・幼保連携の取組を更に進めていきたい。
3	85～90%未満の児童が将来について考えたと回答					
2	75～85%未満の児童が将来について考えたと回答					
1	75%未満の児童が将来について考えたと回答					
4	80%以上の保護者が学校公開・保護者会に参加している	1	・個別の指導計画、支援計画の作成を通して、児童理解が深まると共に、具体的な教室での対応についても進めることができた。 ・PTA挨拶運動の取り組みには、教員もともに参加して進めることができた。	・地域とのつながりを大切にして、保護者にも信頼される教育活動をこれからも継続してほしい。	B	・保護者会の参加率を高めるためにも、保護者が参加したくなる内容の工夫が必要である。 ・地域人材の活用については、引き続き検討していきたい。
3	75～80%未満の保護者が学校公開・保護者会に参加している					
2	70～75%未満の保護者が学校公開・保護者会に参加している					
1	70%未満の保護者が学校公開・保護者会に参加している					

学校教育目標	○すすんで学ぶ子 ○心豊かな子 ○たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	主体的・対話的・深い学びを通して、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、それらを活用できる力を身に付けさせる授業の実現に努める。	個々の学習状況を明確にするとともに、読む・書く・計算する力を付けさせる。	始業前15分学習(水:読書、火・金:国・算の反復学習)の充実を図る。	4 毎回9割以上の学級が13分以上取り組んだ。	3
				3 毎回8割以上の学級が10分以上取り組んだ。	
				2 10分以上確保できていない学級が5割以上ある。	
				1 学習以外に使っている学級が5割以上ある。	
		家庭学習を重視し、復習することを習慣付けさせる。	家庭学習チェック表等を活用して家庭学習の習慣化を徹底する。	4 家庭学習チェックを全クラスで実施した。	4
				3 家庭学習チェックを10学級以上12学級未満で実施した。	
				2 家庭学習チェックを8学級以上10学級未満で実施した。	
				1 家庭学習チェックの実施が8学級未満だった。	
		どの子にも分かりやすい授業を実施する(ユニバーサルデザイン)。	市のユニバーサルデザインの冊子にあるチェックを毎月1回以上行い適切な環境作りをする。	4 全教室で月1回以上チェックを実施できた。	4
				3 全教室で年11回以上チェックを実施できた。	
				2 全教室で年10回以上チェックを実施できた。	
				1 全教室で年9回以上チェックを実施できた。	
豊かな心	人権意識を高めて自己とともに大切にする態度を育成するとともに、集団の一員である自覚と規範意識の育成を図る。	明るく元気で挨拶のあふれる学校にする。	PTAと連携してあいさつ運動を推進する。	4 あいさつ運動を10回以上実施できた。	4
				3 あいさつ運動を8回以上10回未満実施できた。	
				2 あいさつ運動を6回以上8回未満実施できた。	
				1 あいさつ運動の実施が6回未満だった。	
		道徳科の特質に即した授業をしっかりと行い、児童の道徳性を育む。	都道徳教材集を毎月1回以上持ち帰らせ、家庭との連携ツールとして活用する。	4 全学級で実施できた。	3
				3 9割以上の学級で実施できた。	
				2 8割以上9割未満の学級で実施できた。	
				1 実施できた学級が8割未満だった。	
		教員の人権感覚を高め、児童が安心して生活できるようにする。	人権教育プログラムを活用し、人権感覚チェックを毎学期・年3回以上行う。	4 年3回以上チェックを実施できた。	4
				3 年2回チェックを実施できた。	
				2 年1回チェックを実施できた。	
				1 チェックを実施できなかった。	
健やかな体	健康で安全な生活を送るための生活習慣を身に付けさせるとともに、日常的な運動を通して体力を向上させる。	日常的な運動を通して体力を向上させる。	元気アップガイドブックを活用し、体力向上のための体育的な活動を行う。	4 意欲的に活動できた児童が9割以上だった。	3
				3 意欲的に活動できた児童が7割以上9割未満だった。	
				2 意欲的に活動できた児童が5割以上7割未満だった。	
				1 意欲的に活動できた児童が5割未満だった。	
		健康で安全な生活習慣を送るための生活習慣を身に付ける。	元気アップガイドブックを活用して、生活習慣を身に付けるための健康教育・食育を行う。	4 健康教育や食育の授業を各学期に1回以上実施した。	3
				3 健康教育や食育の授業を年間2回以上実施した。	
				2 健康教育や食育の授業を年間1回実施した。	
				1 健康教育や食育の授業を実施できなかった。	
輝く未来	学校公開を推進して家庭・地域との信頼関係を構築するとともに、家庭・地域との連携を充実させ、教育活動への参画意識の向上を図る。	保護者や地域関係者が月に1回以上来校する機会を設定する。	学校公開と保護者会を同日に開催する等、来校しやすい日時を設定する。	4 8月を除く11か月で実施できた。	4
				3 10か月以上で実施できた。	
				2 9か月以上で実施できた。	
				1 8か月以下の実施だった。	
		学校からの情報発信を積極的に行う。	毎月の学校だよりの発行と、月1回以上HPを更新して最新の情報を発信する。	4 学校だより発行とHPの更新を12か月できた。	3
				3 学校だより発行とHPの更新を11か月できた。	
				2 学校だより発行とHPの更新を10か月できた。	
				1 学校だより発行とHPの更新が10か月未満だった。	

【総括表】

笑顔と信頼あふれる魅力あるSEIRIN小学校 (Smile:笑顔,Energy:元気,Idea:発想,Reliance:信頼,Improve:改善,New:新鮮・進取)
○主体的に学習に取り組む子 ○互いを認め協力し合う子 ○心身を鍛え正しい判断で行動する子
○温かい人間関係をつくり生き生きと仕事ができる教師 ○個々の個性や専門性を発揮し、組織的に教育活動を展開できる教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均以上。	3	朝学習は、年々充実してきている。学力調査の結果ふまえ、今後は課題を精選していく。	学力向上への継続的に取り組んでいくことが大事。今後も続けていあって欲しい。	B	市学力調査の結果を分析し、評価の低かった内容について取り組んでいく。
3 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－5pt以内。					
2 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－10pt以内。					
1 市学力調査の国語・算数の正答率平均が全国平均－10pt以上。					
4 家庭学習の課題を9割以上がやってくる。	4	家庭学習の習慣は、十分定着している。今後は個に応じた課題を増やしていく。	自律的に行動できる児童を育成するためにも、取組を続けていって欲しい。	A	高学年における自主学習の充実等、家庭学習の内容を充実させていく。
3 家庭学習の課題を7割以上9割未満がやってくる。					
2 家庭学習の課題を5割以上7割未満がやってくる。					
1 家庭学習の課題を5割未満しかやってこない。					
4 児童評価で「授業が分かりやすい」92%以上	3	子供たちの評価は高い。教員の意識を高めていきたい。	市・都が作成した冊子等を活用している。これからも続けて欲しい。	B	ユニバーサルデザインの取り組みについて教員の意識を高めていく。
3 児童評価で「授業が分かりやすい」75%以上92%未満。					
2 児童評価で「授業が分かりやすい」55%以上75%未満。					
1 児童評価で「授業が分かりやすい」55%未満					
4 児童による評価で「あいさつができる」90%以上	4	気持ちのよい挨拶ができる児童が多い。保護者や地域との連携もできている。	あいさつ運動を続け、誰とでも分け隔てなくあいさつできる子を育てて欲しい。	A	毎回のあいさつ運動に、教員が積極的に参加できる体制づくりを行う。
3 児童による評価で「あいさつができる」75%以上90%未満。					
2 児童による評価で「あいさつができる」55%以上75%未満。					
1 児童による評価で「あいさつができる」55%未満					
4 児童による授業評価で「自分は役に立っている」90%以上	3	都道徳教材集を保護者との情報ツールとして活用していきたい。	よい教材で道徳授業が展開されており、児童にも大切なことが伝わっていると感じる。	B	道徳的価値の自覚を深め、日常の児童のよさをさらに引き出す授業を行う。
3 児童による授業評価で「自分は役に立っている」75%以上90%未満。					
2 児童による授業評価で「自分は役に立っている」55%以上75%未満。					
1 児童による授業評価で「自分は役に立っている」55%未満					
4 児童による評価で「相談できる先生がいる」90%以上	3	教師が人権感覚を磨くとともに、信頼される教師としての言動をさらに意識する。	不登校児童の解消に向けて、今後もしっかりと取り組んで欲しい。	B	児童の困り感に寄り添う指導を行うとともに、アンケート調査での聞き取りを充実させる。
3 児童による評価で「相談できる先生がいる」75%以上90%未満。					
2 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%以上75%未満。					
1 児童による評価で「相談できる先生がいる」55%未満					
4 体力調査のA、B判定の合計が5割以上。	3	研究のレガシーとして各学年での取組を実施することができた。	さらなる体力の向上が図られたと聞いて嬉しく思う。今後も引き続き取り組んで欲しい。	A	今までの取り組みを、今後も引き続き本校のレガシーとして継続していく。
3 体力調査のA、B判定の合計が4割以上5割未満。					
2 体力調査のA、B判定の合計が3割以上4割未満。					
1 体力調査のA、B判定の合計が3割未満。					
4 グッドモーニング60分の達成率が全児童の9割以上。	3	1年を通して行うことができた。今後も継続して取り組み、児童が身に付いたと意識できるようにする。	学校と家庭の連携がよく図られていて心強い。これからも、取り組みを続けて欲しい。	A	年間計画に位置付け、日常の生活習慣を見直す期間を設定していく。
3 グッドモーニング60分の達成率が全児童の7割以上9割未満。					
2 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割以上7割未満。					
1 グッドモーニング60分の達成率が全児童の5割未満。					
4 参加者数の平均が家庭数の8割以上。	3	計画的な学校公開日の設定により、保護者からも理解をいただき、参加人数も徐々に増加傾向にある。	保護者・地域の参加率が高く、関心の高さがうかがえる。先生と子供の関係がよく、明るいイメージがある。	A	今後も、効果的な公開時期を設定するとともに、多様な学習内容を公開できるようにする。
3 参加者数の平均が家庭数の6割以上8割未満。					
2 参加者数の平均が家庭数の5割以上6割未満。					
1 参加者数の平均が家庭数の5割未満。					
4 保護者アンケートで「学校の資料・情報が分かりやすい」が9割以上。	3	分担を明確にし、自分の担当する分掌についての記事を学校だよりに掲載ができた。HPに関しては、十分ではなかった。	学校だよりから、先生方の子供への温かいまなざしを感じる。今後も保護者・地域への発進力を高めて欲しい。	B	HPの作成分担をさらに明確にし教員が主体的に学校の情報を提供する意識を高めることが急務である。
3 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が7割以上9割未満。					
2 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割以上7割未満。					
1 保護者アンケート「学校の資料・情報が分かりやすい」が5割未満。					

学校教育目標	○ よく考える子 ・ 思いやりのある子 ・ たくましい子	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本を大切に し、わかる授業の実践 に努める。(授業改善・ 新学習指導要領移行 措置含む)	漢字の読み書き、四則 計算の力を定着させ る。	授業、ベーシックドリル 日常の小テスト 力試し、補習教室 宿題、サマーラボ等	4 漢字、計算の定着を90%以上図った	2
				3 漢字、計算の定着を80%以上図った	
				2 漢字、計算の定着を70%以上図った	
				1 漢字、計算の定着が70%未満	
		朝読書、読書旬間等 で意欲をため、学年相 応の図書を読ませる。	毎週月曜・金曜日の朝 読書・学級での図書館 利用・図書の貸し出し 活用・読み聞かせ	4 読書計画に基づいての実施率100%	2
				3 読書計画に基づいての実施率90%	
				2 読書計画に基づいての実施率80%	
				1 読書計画に基づいての実施率70%	
		学年相当の時間(学年 ×10分)に基づいた家 庭学習を推進させる。	自己の課題克服 グットライフ調査 宿題	4 各学年家庭学習実施率95%以上	3
				3 各学年家庭学習実施率90%以上	
				2 各学年家庭学習実施率85%以上	
				1 各学年家庭学習実施率85%未満	
豊かな心	生命を尊重し互いに認 め合える、豊かな心を 育てる。	様々な体験活動を通し て心の交流(児童・教 師)を図る。	縦割班活動・奉仕活 動・栽培活動・交流活 動	4 児童の積極的参加を100%	2
				3 児童の積極的参加を90%以上	
				2 児童の積極的参加を80%以上	
				1 児童の積極的参加を70%以上	
		教室・学習環境を見直 して、すべての児童に やさしい学校・学級に する。	児童理解に努め、個に 応じた指導を進める。	4 市UDチェック⑤0項目以上できている	1
				3 市UDチェック④0項目以上できている	
				2 市UDチェック③9項目できている	
				1 市UDチェック③9項目未満できている	
		学校生活をより楽しい ものにする。	授業、特別活動、交友 関係の充実	4 教育活動を楽しむ工夫をしているか81%以上	3
				3 教育活動を楽しむ工夫をしているか71%～80%	
				2 教育活動を楽しむ工夫をしているか70%	
				1 教育活動を楽しむ工夫をしているか70%未満	
健やかな体	自分の将来を見つめ、 自らの生き方を考える 力を育てる。	児童の基礎体力の向 上を図る。	元気アップガイドや学 習カードを活用して運 動の学び方を身につ け体力をつける。	4 元気アップガイドの活用 毎日	1
				3 元気アップガイドの活用 週4日	
				2 元気アップガイドの活用 週2日	
				1 元気アップガイドの活用週2日未満	
		健康教育、食に関する 指導を推進する。	担任の声かけ 視覚的な掲示 衛生保持・病気の対応 残さいのおにぎり換算	4 週のうち完食が3回以上	3
				3 週のうち完食が2回以上	
				2 週のうち完食が1回以上	
				1 週のうち完食が1回未満	
輝く未来	自分の将来を見つめ、 自らの生き方を考える 力を育てる。	地域の人材や教育環 境の活用を図る。	地域人材(水辺学習・ 昔遊び・交流給食・職 場体験)や地域環境 (施設・公園)の活用を 通して	4 地域人材・環境の活用率80%～	3
				3 地域人材・環境の活用率66%～79%	
				2 地域人材・環境の活用率50%～65%	
				1 地域人材・環境の活用率50%未満	
		基本的生活習慣の確 立を図る。 (今やるべきことの確 認)	早寝・早起き・朝ごはん	4 90%以上の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	2
				3 86%～90%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	
				2 71%～85%の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	
				1 70%以下の教員が意識して家庭・児童への啓蒙をした	

【総括表】

・子供が 願いをもって生き生きと学習し、思いやりの心をもって明るく活動し、健康や安全に気を付けて力一杯運動している学校
・伝え合い・学び合い・高め合う子供
・教育公務員として自覚をもち、協働体制を確立し、教育活動を推進する教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 全国学力 2教科平均ー1, 98以内	4	成果指標は、+2, 0に上げることができた。全体的に学力の向上があった。	学校が一生懸命に取り組んでいる。全員の子供たちが勉強を分かるように努力し続けてほしい。	A	基礎基本をしっかりと定着させる。そのために日々の授業改善をさらに図っていく。
3 全国学力 2教科平均ー2, 98以内					
2 全国学力 2教科平均ー3, 98					
1 全国学力 2教科平均ー3, 98以上					
4 学年の目標冊数・ページ数の達成率95%	2	学年・学級・個人の格差が大きい。低学年の目標達成率は高い。	田中小では地域親子図書を長い間取り組んでいる。今後も読書習慣が広まることを期待する。	B	図書計画の実施率をあげるとともに、図書環境を整備していく。
3 学年の目標冊数・ページ数の達成率90%					
2 学年の目標冊数・ページ数の達成率80%					
1 学年の目標冊数・ページ数の達成率80%未満					
4 学校の授業は分かりやすい99%～100%	3	「授業は、分かりやすい」96%「授業を工夫している」94% 授業改善がなされつつある。	学校は努力している。今の子は、昔に比べて忙しい。宿題はしっかりと家ですることが大切です。	B	復習に重点を置いて、家庭と連携して家庭学習の実施率をあげる。
3 学校の授業は分かりやすい96%～98%					
2 学校の授業は分かりやすい91%～95%					
1 学校の授業は分かりやすい91%未満					
4 相談できる先生がいる99%～100%	2	「相談できる先生がいる」94% 心の交流が図れてきている。	田中の子供は、優しい子が多い。これからも地域行事を含めて共に育てていきたい。	B	縦割り班活動等を活性化し長期的に交流を深めていく。
3 相談できる先生がいる96%～98%					
2 相談できる先生がいる86%～95%					
1 相談できる先生がいる86%未満					
4 学校で落ち着いて安心して生活できている96%～100%	2	UDの理解と実施が、教員間に温度差ができた。	先生も同じ目線に立って、子供たちをこれからも指導して欲しい。	B	年度当初「昭島市立学校 教育のユニバーサルデザイン」の共通理解を深め活用していく。
3 学校で落ち着いて安心して生活できている91%～95%					
2 学校で落ち着いて安心して生活できている81%～90%					
1 学校で落ち着いて安心して生活できている81%～90%					
4 学校生活は楽しいですか96%～100%	1	学校生活を楽しいと感じる児童が減少した。90%→88%	学校と連携して、田中地区を楽しくしていくように努力していく。	C	子供とともに学び・遊ぶことを通して、充実した学校生活を創りだす。
3 学校生活は楽しいですか 91%～95%					
2 学校生活は楽しいですか 90%					
1 学校生活は楽しいですか 90%以下					
4 体力合計点 全校平均 +1以上	2	体力合計点ー1.1→ー0.5 元気アップガイドの日常的な活用が少ない。	子供の遊びも大きく変化してきた。体を鍛えることをさらに続けてほしい。	B	元気アップガイドの活用計画を図り、準備運動等に組み込んでいく。
3 体力合計点 全校平均 0					
2 体力合計点 全校平均ー11					
1 体力合計点 全校平均ー1.1未満					
4 給食残さい率 2.3%	2	食に対する意識が高まってきている。	健康第一。子供のころからしっかりと健康教育をしていくことが大切である。	B	健康と食べ物の関係や自校の残さい率等を知らせ、食に対する意識をさらに高めていく。
3 給食残さい率 2.4%					
2 給食残さい率 2.5%					
1 給食残さい率 2.5%未満					
4 自分の将来を考える 86%～100%	3	人材・環境等を有効活用することができた。	地域で学校に協力する気持ちは強い。相互に力を合わせて子供たちを育てていく。	A	昭島の良さを体感させ「昭島大好き」の子供たちを育成していく。
3 自分の将来を考える 81%～85%					
2 自分の将来を考える 75%～80%					
1 自分の将来を考える 75%未満					
4 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた96%～100%	2	生活リズムは安定している。	家庭での躰けは、大切である。大人も含めてしっかりと生活することが重要である。	B	今やるべきことを年間を通して、しっかり確認していく。
3 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた91%～95%					
2 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた84%～90%					
1 早寝・早起き・朝ごはんを実践できた84%未満					

学校教育目標	◎よく考え《平成31・令和元年度～同3年度重点目標》 ○やさしく ○つよく 手をつなぐ 拝島の子供	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学校体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②朝学習の週3回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した	4
				3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
				2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
				1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
		生きる力の基本となる言語能力の育成を図る指導法の工夫について研究を進めます。	①校内研究会(年間10回) ②授業実践研究(年間7回) ③研究の発表・報告	4 7割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	4
				3 6割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
				2 5割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
				1 4割の教職員が、主題にかかわる授業研究を行った	
		新学習指導要領に基づき、本実施並びに移行措置を確実に進めます。	①週の指導計画確認(45回) ②授業観察・指導(2回) ③OJT研修(年間11回)	4 全ての教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。	4
				3 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
				2 7割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
				1 6割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
豊かな心	学校体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	いじめや不登校の未然防止の指導と即時対応の体制を整えその徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	2
				3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
				2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
				1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
		道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみ、地域ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した	3
				3 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				2 7割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				1 6割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
		家庭読書の啓発と1学級1栽培・1飼育活動に取り組みます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③保護者による読み聞かせ活動(年5回程度)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った	3
				3 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				2 7割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				1 6割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
健やかな体	学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年3回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った	2
				3 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った	
				2 体育科や運動の7割の授業で補強運動を行った	
				1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った	
		保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った	2
				3 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
				2 7割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
				1 6割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(11回) ③安全指導の充実(11回)	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った	3
				3 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
				2 7割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
				1 6割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
輝く未来	学校体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月) ②学級会活動(年10回以上) ③課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った	3
				3 8割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
				2 7割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
				1 6割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
		ハイパーQ.Uやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQ.Uの活用(2回) ②PAの活用の活用(年5回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを5回以上行った	2
				3 8割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				2 7割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				1 6割の学級担任が、PAを5回以上行った	
		自然環境や社会環境、人に関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③宿泊行事の充実(高学年)	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した	2
				3 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	
				2 7割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	
				1 6割の教職員が、外部教育力3回以上活用した	

【総括表】

「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…○子供にとって安全・安心な学校 ○教職員が互いに高め合う学校 ○保護者や地域とともに子供を育む学校
「あい」のある子供…○じっくり考え、学び合う子供 ○目で見つめ心でみつめ、思い合う子供 ○運動で体を動かし、鍛え合う子供 ○まじめにやりぬき、高め合う子供
「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力)のある職員 ○innovation(革新性)のある教職員 ○identity(共同体意識)のある教職員

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 学力調査平均正答率が、都比-1P・	1	①作成したが徹底はこれから。 ②重点化して実施した。 ③週2回以上実施した。 ④学校としての指導基準がないので学級差がある。	組織的、計画的に学力向上を図ろうとする姿勢を強く感じる。まだ、十分に成果となって表れてきていないが、引き続き取組を進めてほしい。	B	○学習スタンダードの重点化とその徹底する ○「活用」の力の育成にも力を入れる。
3 学力調査平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査平均正答率が、都比-4P					
4 学力調査 平均正答率が、都比-1P	1	①授業の構造化を図る工夫を行った。成果はこれから。 ②目標回数には未達。6回。 ③(集約はこれから)	学習指導要領の完全実施を迎えるが、教職員の負担超過が懸念される。教科担任制等工夫し、指導の質の向上と共に時短を図るとよい。	B	○言語能力に焦点化し、基礎基本の習得とともに言語を活用する力を育む指導法の研究を進める。(教科は問わない)
3 学力調査平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査平均正答率が、都比-4P					
4 学力調査 平均正答率が、都比-1P	1	①実施した。全員が皆提出。 ②実施した。 ③実施した。主幹教諭・主任教諭がよく推進した。	教職員が綿密に指導計画を立てて実践していることに頭が下がる。児童がしっかり学習するよう家庭も協力していく。	B	○週の指導計画のICT化を進める。 ○OJT研修の時間を十分に確保する。
3 学力調査平均正答率が、都比-2P					
2 学力調査平均正答率が、都比-3P					
1 学力調査平均正答率が、都比-4P					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	①作成したが徹底はこれから。 ②必要に応じて設置し、組織的な対応を進めた。 ③改訂した。	認知件数が多いのは、学校の感度が高いこととらえる。特にいじめを予防する教育を進めていくことをお願いしたい。	C	○未然防止、早期発見の制度を挙げる。特にQUを活用した予見的な指導を進める。
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数変化なし					
4 いじめ・不登校の出現回数3割減少	2	①全学年がkl級で実施。 ②年間2回実施した。 ③2回実施。2回目は2月に実施する。	家庭のしつけが至らない児童もいる。学校で社会性の基となる態度を育てていってほしい。	B	○評価内容・方法に関する研修を1学期開始前に実施し、評価制度を上げる。
3 いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2 いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1 いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4 全ての児童が、個人での図書室利用回数20回以上	2	①実施した。 ②実施した。 ③実施した。	社会全体が読書離れの傾向にあるが、読書によって育つ感性があり大切にしたい。学校の取組に期待する。家庭への啓発を続けてほしい。	B	○読書活動と言語活動を分けて取り組みを進める。家庭読書を啓発する。
3 8割の児童が、個人での図書室利用回数20回以上					
2 7割の児童が、個人での図書室利用回数20回以上					
1 個人での図書室利用回数20回以上の学級が5割以下					
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	2	①体育部での ②学級差がある。 ③全校的な取組として実施した。	体力の個人差は、日頃の遊びや生活習慣に起因している。継続して組織的・計画的に体力向上に取り組むことを期待する。	B	○体力向上プランの改善。 ○体育授業で毎時間の補強運動の取組を今強化する。 ○体幹を強化し感覚統合を進める運動に取り組ませる。
3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1 運動能力調査都平均値を上回る学級が5割以下					
4 8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	2	①現在改訂中である。 ②毎月保健だよりを発行した。 ③統合後初めて保健委員会を開催した。	家庭での生活リズムの確立に問題がある。人任せ、学校任せの保護者の意識に課題がある。家庭がしっかりしないといけない。	B	○生活習慣の確立について、さらに保護者の啓発につとめる。(家庭差が大きい。)
3 7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2 6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1 5割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
4 保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	2	①学級活動の年間指導計画どおりの実施は徹底していない。 ②自助を目標に改善を進めた。 ③意識が進んだ。	災害安全、交通安全、生活安全について学校が計画的に取り組んでいることはよい。地域も連携して取組を進める。	C	○小学校6か年における本校の全体指導計画の策定を進める。(複数年での計画へ)
3 保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4 全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	3	①徹底はしていない。 ②実施した。 ③指導法の改善に向かっている。	社会に出ると、問題解決の力は必須である。主張して終わりではなく、自ら解決策を考え実行する人を育ててほしい。	C	○体育科の年間指導計画に集団行動を明確に位置付ける(各学年初めに実施する)
3 8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2 児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
1 児童間のトラブルの出現が減少した学年が4割以下					
4 児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	2	①結果の活用は十分ではない。 ②学級差がある。 ③実施した。([3・5・6年全員])	子供の社会性の発達が心配である。学校だから教えられるものがあると考え。話し合う力やリーダー性とフォロー性之力を育んでほしい。	C	○年間2回実施し、その変容を把握し、きめ細やかな支援を進める(1回は私費負担)
3 児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	2	①新たな校外学習を開発する必要がある。 ②学年・学級差がある。 ③カリキュラムマネジメントからより構造化するとよい。	本校の子供が自発的に道路のごみ拾いをしていることは素晴らしい。そういう子供をきちんと認め、ほめていってほしい。	B	○特別活動の遠足・宿泊的行事の改善を進める。 ○本校のカリキュラム・マネジメントを確認し実践化する。
3 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P					
2 児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P					
1 児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし					

学校教育目標	◎よく考える子(知) ○心ゆたかな子(徳) ○元気な子(体)	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	児童が考え、自ら参画できる授業実践を重ね、表現力、思考力を養う。	「拝二小授業スタンダード」をもとに、児童が自身の学びの成果を実感できるようにする。	日々の授業を充実させ、学力調査のCD層の引き下げを図る。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		言葉の力で自分の思いを表現できる児童を育成する。	児童が考えを深め、表現する場を設定する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		司書教諭を中心に組織的に読書環境を整備する。	読書旬間、読み聞かせなどの活動を通して、対話できる場の工夫を図る。	4 全教員が意識して行った。	3
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
豊かな心	一人ひとりの居場所があり、「通ってよかった。」と思う学校生活を送る中で、仲間を大切にし、思いやりのある児童を育てる。	すべての児童が安心して登校できる学校にする。	児童・保護者の声や思いを十分にくみとれるように教員の感受性を高める。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		学校生活を自ら創り上げる児童を育成する。	「拝二小学級スタンダード」をもとに、児童自らが学校生活を築けるようにする。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校のきまりを自発的に守るための取組を進める。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
健やかな体	自ら健康増進と体力向上に取り組む児童を育てる。	「オリンピック・パラリンピック教育推進校」として一人一人の運動意欲の向上を図る。	様々な運動に親しませる場を設定し、スポーツを推進する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		児童の体力を向上させる。	日々の授業の充実をもとに、体力テストの結果を向上させる。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		自らが体力向上への意欲がもてるようにする。	生活習慣とからめ、昭島市の「元気アップカード」をもとに日々の振り返りと実践を行わせる。	4 全教員が意識して行った。	1
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
輝く未来	児童一人ひとりが学校生活の担い手として、自立的に未来を切り開く意欲と態度を育てる。	総合的な学習の充実を図り、地域を担う市民としての自覚を育てる。	地域に根差した総合的な学習の時間を展開する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		外部人材を活用し、人とのかかわりの中で学ぶ機会を充実させる。	外部人材を活用した体験活動を実施し、児童の興味関心を広げる。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	
		体験活動を充実させ、社会の多様な課題への関心・意欲を高める。	地域企業の協力を仰ぎ、将来の進路を意識できる学習を実施する。	4 全教員が意識して行った。	2
				3 80%以上の教員が意識して行った。	
				2 60%以上の教員が意識して行った。	
				1 60%未満であった。	

【総括表】

○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校	○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
○自己肯定感を高くもち、社会参画を行う意欲をもつ児童	○思いやりのある児童
○すすんで心と体を鍛える児童	
○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師	○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 CD層の合計を3%低下させる。	3	年度末までに全教職員が「授業力スタンダード20」において80%以上(16項目以上)を達成させようと意図的に授業に取り組んできたことにより、授業力・学力の向上を図ることができた。	教職員相互の横のつながりはよいと考える。今後も更にお互いを高め合っていける関係の維持が望まれる。	B	・OJTにおいて、算数科、国語科を中心とした教科の実践力向上を狙った内容を定期的に取り入れていく。 ・「授業力スタンダード20」の定着を図り、児童が、学級編制替えがあっても混乱せず新たな学級の授業に取り組めるようにしていく。
3 CD層の合計を2%低下させる。					
2 CD層の合計を1%低下させる。					
1 CD層の合計を0%低下させる。					
4 自分の思いを表現できた実感できる児童80%以上	4	論理的な文章表現力が不可欠であることから、管理職と一体となって、接続語を意識した国語科の授業観察の実施をしてきたことと、校内研究において表現力の育成を目指した結果、全国学力調査国語科では市内で最高の成績を収めた。	学習指導の取り組みの成果が結果として表れたことは、評価できる。	A	・朝学習の時間における文章表現の時間の設定と接続語を児童に意識させる授業展開をし、自分の考えを論理的に表現することができる児童を一層増やしていく。
3 自分の思いを表現できた実感できる児童60%以上					
2 自分の思いを表現できた実感できる児童50%以上					
1 自分の思いを表現できた実感できる児童50%未満					
4 読書が好きな児童80%以上	4	年間を通した読書への取り組みが功を奏したと考えられる。読み聞かせの活動は今後も継続していくとともに、確実に図書の時間を確保していく。	児童、教職員ともに読書に対する意識がとても高い。新図書館お有効利用を検討してほしい。	A	・今後も読み聞かせの活動は今後も継続していくとともに、確実に図書の時間を確保していく。
3 読書が好きな児童60%以上					
2 読書が好きな児童50%以上					
1 読書が好きな児童50%未満					
4 いじめ・暴力の未解決0件	3	いじめの早期発見解決のためにふれあい月間の取り組みや児童アンケートを実施してきたが、いじめが発生してしまった。早期解決を目指していじめ対策委員会を中心に組織的に取り組む。	いじめの早期発見、早期解決に今後も全力を尽くしていってほしい。	B	・まず、3ヶ月以上、該当児童にとっていじめが起こらないようするとともに、未然防止に一層の注意を払う。 ・職員の日直人数の増加で、休み時間におけるトラブルの早期発見解決を図る。
3 いじめ・暴力の未解決1件					
2 いじめ・暴力の未解決2件					
1 いじめ・暴力の未解決3件					
4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童80%以上	4	学校行事では児童が主体となった実行委員が運営してきた。また、学級力スタンダードの結果を基に、学級の実態を把握し、学級会を通して話し合いを経て改善してることができた。	昭島市民科につながる、新しい取り組みの成功を期待する。	A	・児童会選挙を実施し、更なる児童自身による自治的活動の推進を図る。(現在実施中)
3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上					
2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上					
1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満					
4 学校のきまりを守っていると実感する児童80%以上	4	年度当初に「拝二小のやくそく」を全校児童に指導し直したことや、学級力の改善が結果として表れたと考える。	授業を参観した、学校全体が落ち着いた雰囲気であることがうかがえる。	A	・「学級力スタンダード」を一層活用し、児童自身が自分達の学級・学校をよりよくしていこうとする意識と行動力を高める。
3 学校のきまりを守っていると実感する児童60%以上					
2 学校のきまりを守っていると実感する児童50%以上					
1 学校のきまりを守っていると実感する児童50%未満					
4 運動が好きになったと実感できる児童80%以上	4	運動が好きな児童が多くなったことは評価できる。今後も更なる向上のために、体育的活動部を中心とした取り組みを継続する。	オリンピックイヤーであることを利用し、地域スポーツへの積極的な関わりをもってほしい。	A	・体育的活動部を中心とした取り組みを継続する。 ・ベテラン教員や専門教員によるOJTを気軽に実施できる環境を整備する。
3 運動が好きになったと実感できる児童60%以上					
2 運動が好きになったと実感できる児童50%以上					
1 運動が好きになったと実感できる児童50%未満					
4 Tスコアを都平均以上にする。	3	全体的に都平均に近付いているが、学年間の差に開きが見られる。	長期的な取り組み(持久走や縄跳び等)を取り入れていくことも視野に入れて、体力向上を図ってほしい。	B	・元気アップカードを有効活用した取り組みによって、生活習慣からの改善を試みていく。
3 Tスコアを都平均にする。					
2 Tスコアを都平均より-1%にとどめる。					
1 Tスコアを都平均より-2%にとどめる。					
4 体力がついたことを実感する児童80%以上	4	元気アップカードを活用し、体力テストの結果を児童が把握することで、自身の運動能力の高まりを実感できる機会があったためと考える。教職員の更なる、意図的計画的な授業展開が必要となる。	基礎体力の向上は、継続した地道な取り組みが大切だと考える。教職員の取り組み改善が必要である。	B	・教職員が元気アップカードの意図や内容を正しく理解し、着実に活用していく。体育主任が中心となってOJTの実施をする。
3 体力がついたことを実感する児童60%以上					
2 体力がついたことを実感する児童50%以上					
1 体力がついたことを実感する児童50%未満					
4 地域行事にすすんで参加できたと実感できる児童80%以上	3	地域との関わりを意識した授業を各学年で展開してきたが、地域行事への参加者数は少ない。土日の習い事などの影響もあると考える。	新図書館やアキシマクジラを有効活用して、地域の学習を積極的に進めていくことが望まれる。	B	・昭島市民科を創設することで、地域に愛着をもち、地域のために活躍していこうとする人材を育成していく。
3 地域行事にすすんで参加できたと実感できる児童60%以上					
2 地域行事にすすんで参加できたと実感できる児童50%以上					
1 地域行事にすすんで参加できたと実感できる児童50%未満					
4 新しいことに興味がもてたと実感できる児童80%以上	3	外部人材の有効活用を意識した授業を意識して取り組んできたが、予算の関係もあり活発であったとは考えられない。予算の掛からない地域の外部人材確保が求められる。	地域企業やウィズユースの教育への参加を今後も継続していき、地域と学校が密接に結びついた教育を推進していくことが望まれる。	B	・昭島市民科のカリキュラム及び年間指導計画に地域の企業や人材を活用した内容を確実に位置づけていく。
3 新しいことに興味がもてたと実感できる児童60%以上					
2 新しいことに興味がもてたと実感できる児童50%以上					
1 新しいことに興味がもてたと実感できる児童50%未満					
4 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童80%以上	3	全児童に将来の夢や希望、目標がもてるよう、授業を通して未来について考えさせる実践を取り入れていく。	ラグビーチームやオリンピック(地元)の活用を積極的に進め、地域とのつながりの強化、活性化を図ることを望む。	B	・昭島市民科はもとより、教育活動全般において、キャリア教育の充実を図る。 ・地域の教育資源(栗田ウォーターガッシュ等)の有効活用
3 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童60%以上					
2 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%以上					
1 将来への夢や希望がもてたと実感できる児童50%未満					

令和元年度

昭島市立拝島第三小学校

学校経営重点計画(教育推進計画) 年度末評価

学校教育目標	◎かしこく 《平成29～令和元年度重点目標》 ○やさしく ○つよく	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	学校体として組織的・計画的に、確かな学力を育みます	学習やノート指導など、学校として系統的な指導を実践します。	①学習スタンダードの徹底 ②朝学習の週4回実施 ③補習活動の充実 ④ICT機器の活用	4 全ての教職員が、週の指導計画に内容を明記した	3
				3 9割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
				2 8割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
				1 7割の教職員が、週の指導計画に内容を明記した	
		授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習意欲と学力の向上を図る。	①子どもにやさしい教室環境 ②子どもにやさしい学習環境 ③子どもにやさしい授業	4 全ての教職員がユニバーサルデザイン化した授業を行った。	3
				3 7割の教職員がユニバーサルデザイン化した授業を行った。	
				2 5割の教職員が、ユニバーサルデザイン化した授業を行った。	
				1 4割の教職員が、ユニバーサルデザイン化した授業を行った。	
		新学習指導要領に基づき、本実施及び移行措置を確実に進めます。	①週の指導計画確認(45回) ②授業観察・指導(2回) ③OJT研修(年間11回)	4 全ての教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った。	3
				3 8割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
				2 7割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
				1 6割の教職員が、新学習指導要領に基づく指導を行った	
豊かな心	学校体として組織的・計画的に、豊かな心を醸成します	いじめや不登校の撲滅に向けて、未然防止の指導と即時対応の体制を整え徹底を図ります。	①生活スタンダードの徹底 ②いじめ対策PTの設置 ③いじめガイドラインの見直し	4 全ての教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	3
				3 8割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
				2 7割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
				1 6割の教職員が、生活スタンダードやガイドラインに基づく指導を行った	
		道徳の教科化を踏まえ、道徳の時間における指導の充実と学校ぐるみの道徳教育を進めます。	①道徳授業地区公開講座 ②評価に関わるOJT研修 ③あゆみ等への評価の記入	4 全ての教職員が、道徳の時間の指導を改善した	3
				3 8割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				2 7割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
				1 6割の教職員が、道徳の時間の指導を改善した	
		家庭読書の啓発と1学級1栽培・1飼育活動に取り組みます。	①朝読書の定期化(週1回) ②読書旬間の実施(年3回) ③保護者による読み聞かせ活動(年5回程度)	4 全ての教職員が、保護者への啓発活動を行った	2
				3 8割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				2 7割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
				1 6割の教職員が、保護者への啓発活動を行った	
健やかな体	学校体として、組織的・計画的に、健康を保持し、自ら体力を高める態度を育みます	運動能力テストの結果を基に作成する体力向上プランに基づき、系統的な指導を進めます。	①体力向上プラン(9月改訂) ②補強運動の導入(毎時間) ③運動週間(年3回)	4 体育科や運動の全ての時間で補強運動を行った	3
				3 体育科や運動の8割の授業で補強運動を行った	
				2 体育科や運動の7割の授業で補強運動を行った	
				1 体育科や運動の6割の授業で補強運動を行った	
		保健指導を進め、健康を保持、増進するための知識と技能を育みます。	①保健指導計画改訂(2月) ②家庭への啓発活動(毎月) ③学校保健委員会(年1回)	4 全ての教職員が、保健指導を計画的に行った	4
				3 8割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
				2 7割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
				1 6割の教職員が、保健指導を計画的に行った	
		安全教育を系統的に進め、自分の命を自分で守る力を育みます。	①安全教育全体計画改訂(8月・2月) ②避難訓練の改善(11回) ③安全指導日の指導(11回)	4 全ての教職員が、安全指導を計画的に行った	4
				3 8割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
				2 7割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
				1 6割の教職員が、安全指導を計画的に行った	
輝く未来	学校体として組織的・計画的に、将来を見つめ社会を担う力を育てます	話し合い活動や集団行動の指導を計画的に進め、自分たちの問題を自力で解決する力を育みます。	①集団行動訓練(4・5月) ②学級会活動(年10回以上) ③課題解決型学習の重視	4 全ての学級担任が、学級会活動を10回以上行った	3
				3 8割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
				2 7割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
				1 6割の教職員が、学級会活動を10回以上行った	
		ハイパーQUやプログラムアドベンチャー、SC相談などの心理的アプローチを活用し、集団形成に努めます。	①ハイパーQUの活用(2回) ②PAの活用の活用(年5回以上) ③SCの全員面談(高学年)	4 全ての学級担任が、PAを5回以上行った	2
				3 8割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				2 7割の学級担任が、PAを5回以上行った	
				1 6割の学級担任が、PAを5回以上行った	
		自然環境や社会環境、人と関わる体験活動を充実させ積極的に自己実現や社会貢献にかかわる意識や態度を育みます。	①校外学習の全面見直し ②外部教育力の積極的な活用と授業の改善(3回) ③宿泊行事の充実(高学年)	4 全ての教職員が、外部教育力を3回以上活用した	3
				3 8割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	
				2 7割の教職員が、外部教育力を3回以上活用した	
				1 6割の教職員が、外部教育力3回以上活用した	

【総括表】

「実」のある学校体…「誠実に、着実に、確実な教育を進める」…○子供にとって安全・安心な学校 ○教職員が互いに高め合う学校 ○保護者や地域とともに子供を育む学校
「あい」のある子供…○じっくり考え、学び合う子供 ○目で見つめ心でみつめ、思い合う子供 ○運動で体を動かし、鍛え合う子供 ○まじめにやりぬき、高め合う子供
「i」のある教職員…○imagination(戦略的想像力)のある職員 ○innovation(革新性)のある教職員 ○identity(共同体意識)のある教職員

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	学力調査A平均正答率が、都比-1P・	3	4教科の学力の平均値は、対都平均は-0.2Pであった。ABが合わさっての内容及び結果ではあるがH30の-1.7Pと比べ上昇している。	学力が少しずつ向上しているところに先生方の地道な努力と工夫がうかがえる。	A	組織的に学力向上に取り組む方法について教員の理解が深まってきた。一人一人の授業力向上につながる授業研究に取り組んでいく。
3	学力調査A平均正答率が、都比-2P					
2	学力調査A平均正答率が、都比-3P					
1	学力調査A平均正答率が、都比-4P					
4	学力調査B 平均正答率が、都比-1P	3	4教科の学力の平均値は、対都平均は-0.2Pであった。ABが合わさっての内容及び結果ではあるがH30の-3.1Pと比べ上昇している。	細かいところに気を配り教室環境を整え、授業を工夫しているところがよい。	A	次年度は、教科を絞った校内研究を行い、共通したテーマで授業を計画・実施・事後協議を行うことを通して、児童の系統的な学力向上を図る。
3	学力調査B平均正答率が、都比-2P					
2	学力調査B平均正答率が、都比-3P					
1	学力調査B平均正答率が、都比-4P					
4	学力調査B 平均正答率が、都比-1P	3	全国学力・学習状況調査では、国語・算数とも全国平均値を上回った。都平均と比べると国語0P、算数-2Pであった。	教員の負担を増やさない形で研鑽をしてほしい。	B	若手教員の授業力向上を踏めるため、学年会の時間の中で授業について主任教諭が若手教員を指導する時間を設定する。
3	学力調査B平均正答率が、都比-2P					
2	学力調査B平均正答率が、都比-3P					
1	学力調査B平均正答率が、都比-4P					
4	いじめ・不登校の出現回数3割減少	3	不登校の出現状況は、昨年度と同程度である。社会通念上のいじめは昨年度と比べ2件減少している。	いじめが減っているとうかがい安心した。引き続きの指導をお願いしたい。	A	生活指導上の問題について、複数の教員による対応を原則とすることで、問題の早期解決を図る。
3	いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2	いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1	いじめ・不登校の出現回数変化なし					
4	いじめ・不登校の出現回数3割減少	3	道徳授業地区公開講座を通して、「考え、議論する道徳」の実践について研修し、その後の指導に生かしてきた。	いじめ予防の観点から、道徳の授業は重要であると考えている。引き続き充実してほしい。	A	「特別の教科 道徳」の指導について、改善を図ることができるよう道徳授業地区公開講座の充実を図る。
3	いじめ・不登校の出現回数2割減少					
2	いじめ・不登校の出現回数1割減少					
1	いじめ・不登校の出現回数改善なし					
4	全ての子供が、個人での図書室利用回数20回以上	3	3日以上読書に取り組む児童の割合は63%であり、昨年度と比べ1P上昇した。	家庭における読書習慣の形成は家庭の協力が不可欠である。啓発の工夫が必要であろう。	B	家庭への啓発を図ることができるよう「図書室便り」の充実を図るとともに、保護者の読み記換えの在り方についてPTAと協議し、改善を図る。
3	8割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
2	7割の子供が、個人での図書室利用回数20回以上					
1	個人での図書室利用回数20回以上の学級が5割以下					
4	8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	4	体力・運動能力調査では、6学年中5学年で都の平均値を超える、学校全体で上昇傾向にある。	定期的に運動週間を設定していることは、意欲喚起につながると考える。	A	元気アップガイドブックの活用を一層進めるなど、引き続き体育的行事委員会を中心に体育授業や行事の充実を図る。
3	7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2	6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1	運動能力調査都平均値を上回る学級が5割以下					
4	8割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る	4	けがによる保健室への来室者数及び医療機関への受診者数は減少した。	家庭の協力を得にくい児童への指導が大変であろう。全体的には保護者の意識も向上していると考ええる。	B	今年度策定した保健安全指導計画の改善を図る。
3	7割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
2	6割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
1	5割の学級が、運動能力調査都平均値を上回る					
4	保護者による学校評価(関係項目)A評価+3P	3	関係項目についてA評価が2P改善した。地域参加型の防災訓練を教育課程の中で実施できていないため、改善の余地がある。	学校避難所運営委員会や自治会で計画する防災訓練とのタイアップについて次年度も検討していきたい。	B	児童が地域を意識したり、災害時の学校避難所への理解を深めたりできる防災訓練を計画・実施していく。
3	保護者による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2	保護者による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1	保護者による学校評価(関係項目)A評価改善なし					
4	全ての学級で、児童間のトラブルの出現が減少する	3	ほとんどの学級で学級会活動に計画的に取り組むことができ、児童が話し合いを通して問題解決しようとする態度が育ってきた。	話し合いで問題を解決する力が育つことが、いじめの減少につながると考える。	B	学級活動における学級会の取組や指導について学級間の差が多いことから、回数や進め方について、学年の中で統一させる。
3	8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
2	児童間のトラブルの出現が減少した学年が6割以下					
1	8割の学級で、児童間のトラブルの出現が減少する					
4	児童による学校評価(関係項目)A評価+3P	3	PAについては、取り組むことのできた学級と取り組めなかった学級の差が大きく、改善の余地がある。	児童同士の関係構築のために様々な取組をしてくれることはありがたい。	B	PAに関する校内研修会を複数回実施し、教員の理解を深める。
3	児童による学校評価(関係項目)A評価+2P					
2	児童による学校評価(関係項目)A評価+1P					
1	児童による学校評価(関係項目)A評価変化なし					
4	児童による学校評価(関係項目)B評価以上+3P	3	前年度までに活用した外部教育力を引き続き活用することができた。	外部人材の専門性を積極的に導入し、児童の興味関心を高めていってほしい。	A	外部人材を活用した授業について、年度末・年度始に引継ぎを十分行い、継続して実施できるようにする。
3	児童による学校評価(関係項目)B評価以上+2P					
2	児童による学校評価(関係項目)B評価以上+1P					
1	児童による学校評価(関係項目)B評価以上改善なし					

令和元年度

昭島市立昭和中学校

学校経営重点計画(教育推進計画) 年度末評価

学校教育目標	・自ら考えともに学び、積極的に行動する生徒 ・互いの人権を尊重し思いやりのある生徒 ・心身ともに健康な生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な知識や技能の習得、思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学ぶ態度の育成と学習意欲の向上を図る。	課題解決型の授業改善により「分かる授業」を工夫実践する。	発問に工夫を加え、授業改善(主体的、対話的、深い学び)の工夫と実施	4 全教員が十分意識した授業実践した	3
				3 意識して授業実践した教員が80%以上	
				2 意識して授業実践した教員が70%以上	
				1 意識して授業実践した教員が70%未満	
		学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。	シラバスの活用と全教科での明確な課題の提示と自主学習教室の実施	4 学習習慣定着のための指導を全教員実施	3
				3 定着のための指導を実施した教員が80%以上	
				2 定着のための指導を実施した教員が70%以上	
				1 定着のための指導をした教員が70%未満	
		個に応じた指導の充実を図るとともに、特別支援教育を推進する。	習熟度別授業の実施ユニバーサルデザインを意識した授業実践と学級経営	4 全教員が特別支援教育に基づく授業を実践	3
				3 特別支援教育に基づく授業実践した教員は80%以上	
				2 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%以上	
				1 特別支援教育に基づく授業実践した教員は70%未満	
豊かな心	全教育活動を通じて人権教育、心の教育を推進し豊かな人間性を育成する。	全教育活動を通じて生徒の自尊感情、自己肯定感を醸成する。	豊かな人間関係を育む学級経営 主体的、自立的生徒活動、学校行事の実践	4 全教員が十分意識した指導を行った	3
				3 意識して指導した教員が80%以上	
				2 意識して指導した教員が70%以上	
				1 意識して指導した教員が70%未満	
		道徳的価値と実践力の育成	「考える・議論する・体験する道徳」の計画的実施と適正な評価	4 「特別の教科 道徳」の趣旨に則り全教員が工夫実践を行った	3
				3 工夫実践できた教員が80%以上	
				2 工夫実践できた教員が70%以上	
				1 工夫実践できた教員が70%未満	
		いじめ・不登校対策	実態調査の実施 教育相談部会の機能化と関係機関との連携 校内対策会議の活用	4 全教員が人権尊重の理念の下、教育活動を実践した	3
				3 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 人権尊重の理念の下、教育活動を実践した教員が70%未満	
健やかな体	心身ともにたくましく健やかな生徒の育成を図る。	体力向上と生涯にわたるスポーツに親しむ態度の育成	オリンピック・パラリンピック教育の推進 夢・未来プロジェクト 体育授業のTTの活用	4 オリンピックパラリンピックの理念を理解し十分指導した	3
				3 オリンピックパラリンピックの理念を理解し指導した	
				2 オリンピックパラリンピックの理念を理解したが指導が不十分	
				1 オリンピックパラリンピックの理念を理解したが指導しなかった	
		保健・健康の増進	安心できる保健室運営 アレルギーへの対応 食育推進	4 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し全教員が指導した	3
				3 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が80%以上	
				2 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進について指導した教員が70%以上	
				1 健康上の配慮事項を共有し健康の維持増進を理解し指導した教員が70%未満	
		安全教育と防災教育の推進	SNSルール作り 薬物乱用防止教室、安全教室の実施、自殺予防教育の取組	4 生徒の生命安全について十分理解し全教員が指導にあたった	3
				3 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が80%以上	
				2 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%以上	
				1 生徒の生命安全について十分理解し指導にあたった教員が70%未満	
輝く未来	望ましい職業観・勤労観を育成し、自らの進路を主体的に選択できる能力を育成する。 組織的學校運営により信頼される公立学校を目指す。	計画的キャリア教育の推進	上級学校との交流 職場訪問・体験の実施 国際理解、日本の伝統文化についての理解	4 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう全教員が指導した	2
				3 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が80%以上	
				2 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%以上	
				1 自らの進路を主体的、自立的に選択できるよう指導した教員が70%未満	
		小中一貫教育の取組	授業体験、部活動体験 学校行事への招待 生徒会による交流 合同研修会	4 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を全教員が実践した	2
				3 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 小中の接続と小中一貫を十分意識し教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 小中の接続と小中一貫を十分意識した教育活動を実践した教員が70%未満	
		開かれた学校づくり	積極的な学校広報	4 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を全教員が実践した	3
				3 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が80%以上	
				2 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%以上	
				1 積極的な学級、学年、学校広報を意識して教育活動を実践した教員が70%未満	

【総括表】

①一人一人が尊重される ②授業が分かり学び合える ③思いやりと挨拶溢れる ④夢と希望を語り合える ⑤信頼される 昭和中
①意欲的、主体的に取り組む ②挨拶ができ思いやりのある ③自らの力で進路を切り拓き、心身ともに健康な 生徒
①一人一人を大切に ②一時間一時間の授業を大切に ③信頼される ④チームとして力を結集 ⑤ 昭和中を愛する 教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	学力調査の平均正答率が都標準以上	3	5科の平均正答率は都標準から-3.04であった。教科による差も見られた。授業規律はどの教科も確保されている。	・授業が分かりやすく工夫され、肯定評価85％は評価できる。 ・都標準と比較し教科による差異などを今後分析が必要であろう。	B	・授業力向上アドバイザー事業の成果をもとに、毎時の「まとめ」の時間の工夫など、校内研修の実施及び専門研修等への参加を一層奨励する。
3	学力調査の平均正答率がー3ポイント以内					
2	学力調査の平均正答率がー5ポイント以内					
1	学力調査の平均正答率がー5ポイント以上					
4	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価90％以上	3	4回の学校外学習時間数の集計より全校平均1日1時間31分。		B	・定期的学習時間実態調査を引き続き実施、分析するとともに家庭への啓発の工夫を図る。
3	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価80％以上					
2	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70％以上					
1	家庭学習の定着について生徒の肯定的評価70％未満					
4	「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価90％以上	3	分かりやすい授業の肯定的評価は85％。分かりにくいと回答している生徒個々への対応の検討が必要。		B	・生徒の授業アンケートの継続実施及び学校全体のテーマの絞り込みによる指導力向上を追求する。
3	「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価80％以上					
2	「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価70％以上					
1	「分かりやすい授業」についての生徒の肯定的評価70％未満					
4	学校が楽しいと答える生徒が90％以上	3	生徒からの肯定的評価89％に加え、保護者からも88％の肯定的評価を受けた。	・生徒・保護者とも高い数値は評価できる。「安心」の肯定評価が今まで最高値も評価。 ・自己肯定感などの高まりは道德教育の効果が上がってきているように評価できる。 ・ハートフル昭和の実践の成果がでている。	A	・一人一人の生徒に寄り添い、楽しく充実した学級経営、温かい生徒指導を実践する。
3	学校が楽しいと答える生徒が80％以上					
2	学校が楽しいと答える生徒が70％以上					
1	学校が楽しいと答える生徒が70％未満					
4	道德の授業に関する生徒の肯定的評価90％以上	3	道德の授業については毎年高い評価を得ている。様々な工夫の成果が表れている。		A	・評価の精度を上げる工夫を行うとともに、対話の充実を一層すすめていく。
3	道德の授業に関する生徒の肯定的評価80％以上					
2	道德の授業に関する生徒の肯定的評価70％以上					
1	道德の授業に関する生徒の肯定的評価70％未満					
4	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価90％以上	3	「安心」についての肯定的評価は今年89％と過去と比べて最も高かった。一人一人をしっかり見守る指導が生きている。		B	・全生徒の「安心・安全」を全ての教育活動の根本におき、生徒一人一人の変容に常に意を注ぐ。
3	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価80％以上					
2	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70％以上					
1	心の居場所があり安心して学校生活が送れている生徒の肯定的評価70％未満					
4	体力テストで全学年都標準以上	3	男子はどの学年も全国、都標準には及ばず。 女子はどの学年も全国都標準値と同等 また標準値を超えた。	・「健康」に関して積極的な対応策が見受けられ評価できる。 ・オリンピック、パラリンピック教育の推進により体力向上への関心が見られる。 ・体力向上について継続的にできる工夫を今後も行ってほしい。	B	・オリンピック、パラリンピック教育の充実とTTの体育科授業の授業改善により体力向上を図る。
3	体力テストで2つの学年で都標準以上					
2	体力テストで1つの学年で都標準以上					
1	体力テストで全学年都標準以下					
4	保健、健康指導への生徒の肯定的評価90％以上	3	保健主任を中心に保健、健康に関わる情報を共有できた、熱中症対応も校内で共通実践し重篤なものとはなかった。		A	・保健衛生指導を充実させるとともにアレルギーなど個々の状況を校内で情報共有し保健指導にあたる。
3	保健、健康指導への生徒の肯定的評価80％以上					
2	保健、健康指導への生徒の肯定的評価70％以上					
1	保健、健康指導への生徒の肯定的評価70％未満					
4	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価90％以上	3	年間計画に沿った避難訓練、安全指導を実施。東日本大震災及び阪神淡路大震災に関連付けて安全指導を実施した。		B	・阪神淡路大震災や東日本大震災など引き続き安全指導の計画に入れ、災害への一層の意識向上を図る。
3	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価80％以上					
2	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70％以上					
1	避難訓練や安全教室への生徒の肯定的評価70％未満					
4	「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価90％以上	2	各学年年間計画に沿った指導を実施。第2学年「進路準備だより」を発行活用し、家庭と連携を始めた。	・キャリア教育や体験などの教育活動の検証し工夫していく必要がある。 ・小中交流の実践がよく見え、小中接続の評価ができる。 ・「学校だより」「ホームページ」など積極的なPRは評価できる。	B	・キャリアノートの活用を前に学年毎のキャリア教育の指導内容、計画を見直しを行う。
3	「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価80％以上					
2	「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価70％以上					
1	「将来の生き方」を考えることについての生徒の肯定的評価70％未満					
4	体験活動についての児童の肯定的評価90％以上	3	体験授業後の小学生の授業への肯定的は83％であった。6年生にとって意義ある体験活動であった。		B	・小学校との交流を深め、今後は一層の学習面での接続の工夫を行っていく。
3	体験活動についての児童の肯定的評価80％以上					
2	体験活動についての児童の肯定的評価70％以上					
1	体験活動についての児童の肯定的評価70％未満					
4	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価90％以上	3	更新方法をリニューアル。教育情報を積極的に発信した。保護者からの肯定的評価は5ポイント上昇。		B	・定期的なHP更新を引き続き行い、積極的な学校広報を実践する。
3	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価80％以上					
2	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70％以上					
1	ホームページ・便りなどによる学校広報への保護者の肯定的評価70％未満					

学校教育目標	○希望 ○創造 ○潤い	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	確かな学力の定着を図るために、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた組織的な授業改善を進める。	福島中方式問題解決型4ステップ授業を確立させる。	毎時間の授業で、「つかむ・考える・広げる・深める」授業を定着する。	4 全教員が4ステップ授業を行い定着した 3 全教員が個・集団・個の流れを意識した授業を行った 2 全教員が「広げる」ための工夫を実践した 1 全教員が課題設定と振り返りを行った	3
		課題設定を工夫し、自主的な家庭学習を習慣化させる。	5教科の学習を自習用ノートに毎日20分以上記録させ、教員が点検、助言を行う。	4 ノート点検をし自主的な学習方法を指導・徹底した 3 自習用ノートを毎週点検し指導・助言できた 2 自習用ノートの作成方法を指導徹底できた 1 自習用ノートの作成方法を指導した	3
		読解力と説明力を身に付けさせる。	各教科で読むことと書くことを大切にし、自分の考えを整理し表現する指導を徹底する。	4 深く読み、表現する授業を毎時間展開した 3 深く読み、表現する授業を7割以上行った 2 深く読み、表現する授業を5割程度行った 1 深い読みや表現する指導が不十分だった	3
	豊かな心	考え、議論する道徳授業を実践し、よりよく生きる心を育てる。	中心発問を工夫することで22の内容項目を自分自身との関わりの中で深める。	4 生徒が考え、気付くような発問を工夫した 3 計画通りに22の内容項目を全て扱った 2 自分で教材理解をして年間35時間行った 1 指導書にしたがって道徳の授業を行った	3
		一人一人を尊重し、努力を認めて褒めることで自尊感情を育む。	傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛する生徒指導を実践する。	4 傾聴、共感、認定、助言、行動、賞賛を実践した 3 傾聴、共感、認定、助言までは実践した 2 傾聴、共感のはしたが、認めることができなかった 1 傾聴せずに、すぐ指導・説諭をする	3
		挨拶や返事がお互いに気持ちよくできる人間関係を築く。	自らすすんで挨拶や返事をする習慣をつけさせる。	4 学校内外で、教員から挨拶や声かけを行った 3 授業や校内で挨拶・返事の指導を全教員が行った 2 授業中の挨拶・返事の指導を全教員が行った 1 挨拶・返事の指導を半数以上の教員が行った	4
	健やかな体	1年間健康に過ごすための基礎体力・持久力の向上を図る。	体育や部活動で主運動前の補強運動や主運動の時間を十分確保する。	4 体育科・運動部顧問が毎回計画的に体力作り指導をした 3 体育科・運動部顧問が工夫して体力作り指導をした 2 体育科・運動部顧問が体力作り指導をした 1 体育科・運動部顧問が体力作り指導を心がけた	3
		食事や睡眠を大事にする自らの健康増進に努める生徒を育てる。	給食では残さず食べる指導を行い、保護者には早寝・早起き・朝ご飯の協力を求める。	4 全クラスで食の大切さと残さず食べる指導を徹底した 3 全クラスで食の大切さと残さず食べる指導をした 2 各学年で残さず食べる指導に取り組んだ 1 各学年で食育指導を定期的に行なった	3
		SNSの活用について考え、規則正しい生活を送らせる。	SNS学校ルール及び家庭ルールの徹底を図り、学期に1回は定着度を調査する。	4 SNSルールを全教員・全家庭が指導・徹底した 3 SNSルールを各クラスで指導・徹底した 2 学校ルールを基に、家庭ルール作成を指導した 1 SNS学校ルールを各クラスで指導した	3
	輝く未来	家庭・地域との信頼関係を深めるために情報発信を行い、意見を求める。	学校・学年・学級だよりの発行とホームページの更新を毎月行う。	4 毎月発行・更新し、地域からの意見を募った 3 学校・学年だよりとHP更新は毎月1回以上行った 2 学校・学年だよりは毎月1回以上発行した 1 学校だよりは毎月1回以上発行した	3
		キャリア教育によって夢をもち、実現に向け努力する生徒を育成する。	総合的な学習の時間及び進路学習を通して、将来について具体的に考えさせる。	4 よりよく生きるための進路学習を計画的に行った 3 職業学習の充実で働くことの意義を考えさせた 2 職業選択につながる進路指導を行った 1 社会で自立するための職業観をもたせた	3
		9年間を見通した計画的な指導を行い、地域との関わりを深めていく。	福島中グループの小中一貫教育スタンダードを徹底する。	4 スタンダードを周知・徹底し、小学校との実践を深めた 3 スタンダードを全クラスで指導・徹底した 2 スタンダードの意義を理解させ、家庭協力を求めた 1 スタンダードを意義を生徒に理解させた	3

【総括表】

○生徒が生き生きとして、自尊感情を高め、心を開ける学校○生徒・保護者・地域の願いに応え、ともに歩む学校○生徒・保護者・地域・教職員が安心でき、信頼し、躍進できる学校
○自ら学び、自ら考える生徒 ○他を思いやり、支え合う生徒 ○責任をもち、やりぬく生徒
○生徒を第一に考え、生徒の良さを伸ばす教師○自己の資質向上と健康管理に努める教師○和、礼、法を重んじ、信頼される教師

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が90%以上	3	4ステップ授業が定着しつつあり、「つかむ」「深める」努力の成果を80%以上の生徒が実感している。	4ステップ授業により学力向上に繋がっている。生徒の多くが分かりやすいと感じていることは良い。	B	4ステップの「広げる」から「深める」の質を高めるために、より深く教材研究を行う。
3	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が80%～90%					
2	授業が分かりやすく、深まりを感じる生徒が60%～80%					
1	授業が分かりやすいと感じる生徒が60%未満					
4	自主的な家庭学習が定着した生徒が90%以上	3	自習ノートは90%定着しているが、自主的な家庭学習の定着には差がある。	家庭学習を定着使用とする意識付けが重要。家庭の理解と協力が必要。	B	自習ノートは出せば良いということで終わらずに、一人一人の学習内容に対する助言をする。
3	自主的な家庭学習が定着した生徒が70%以上					
2	家庭学習が定着した生徒が50%以上					
1	家庭学習が定着した生徒が50%未満					
4	考え、発表する時間があると感じる生徒が90%以上	3	多くの教科で考える時間が増え、深まりを感じているが、発表・表現活動は工夫を要する。	自分の考えをまとめて表現することは大切。人前で発表する機会を増やすことが必要である。	B	各教科や各学年で、表現活動の工夫を進める。人に伝えることを重視した学習指導方法を検討する。
3	考え、発表する時間があると感じる生徒が80%以上					
2	考え、発表する時間があると感じる生徒が50%以上					
1	深く考え、表現する授業50%未満					
4	1年間で自分を見つめる内容項目が3つ以上あった	3	教員間で中心発問の工夫のための自主研修を進めている。内容項目の理解が今後必要である。	生徒がお互いを尊重しながら自分自身を見つめる授業であってほしい。	B	授業前に学年ごとに教材分析や中心発問を協議することで、多様な指導方法を身に付ける。
3	1年間で自分を見つめる内容項目が2つあった					
2	1年間で自分を見つめる内容項目が1つあった					
1	1年間で自分を見つめる内容項目がなかった					
4	教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が90%以上	3	褒めること、認めることの意識は高く、実践している。保護者の安心感も高まっている。	教員による褒める、認める行為や共感、励ましがとても大切。教師の一言の影響も考えてほしい。	B	生徒一人一人の存在を意識し、少しのつぶやきや行為を見逃さずに認める努力を続ける。
3	教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が80%以上					
2	教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%以上					
1	教員は良さを認め伸ばしてくれると感じる生徒が50%未満					
4	学校内外で、すすんで挨拶できる生徒が80%	3	教師が率先して挨拶をすることで、生徒の挨拶も増えた。学校外では、まだ物足りない。	挨拶の大切さを今後も伝え、知り合いに自然と挨拶できる中学生であってほしい。校内ではよくできている。	B	挨拶の大切さを今後も訴え続けるとともに、教師が率先して挨拶し自然に挨拶する環境を作る。
3	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が80%以上					
2	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%以上					
1	学校内で、挨拶・返事ができる生徒が50%未満					
4	持久走で全学年が全国の平均を上回った	3	持久走では3年女子以外は都の平均を上回った。各部活動でも体力向上の成果が出ている。	体育科の指導のお陰で基本がしっかりして、楽しそうである。運動部以外の生徒の体力向上はどうか。	B	体育の授業を中心に、運動部活動でも積極的に持久力を意識した運動に取り組む。
3	持久走で全学年が都の平均を上回った					
2	持久走で全国の平均を上回る学年が複数あった					
1	持久走で都の平均を上回る学年があった					
4	全校で1か月の平均残菜率が5%以下	2	献立によって残菜が増えるが、平均すると8%台である。	小中学校での食育が基本となる。家庭の協力を得られるように、食事の大切さを伝えて言ってほしい。	B	残菜調べを実施する中で、残さず食べる習慣を身に付けさせる。家庭との連携を強めて食育を進める。
3	全校で1か月の平均残菜率が8%以下					
2	全校で1か月の平均残菜率が10%以下					
1	全校で1か月の平均残菜率が10%前後					
4	SNSルールが80%定着した	3	SNSルールの意識は保護者も含めて高まった。親子で意識が違うことは課題がある。	学校がSNS情報を家庭に伝えている様子が伺える。さらに発信し、SNSルールの定着につなげてほしい。	B	学校と家庭でのSNSルールの定期点検を行う。セーフティ教室等でSNSの正しい利用をさらに徹底する。
3	SNSルールが50%定着した					
2	SNS家庭ルールを作り、意識できた					
1	SNS家庭ルールを作成した					
4	学校の教育活動に安心している保護者が90%以上	3	毎月1回以上、各種たよりを発行し、HPも月1回更新している。80%の保護者が安心できると回答している。	各種たよりやHPは写真が多く、視覚的に見やすい。親子で一緒に共有するとよい。	B	月1回以上の発行と見やすく分かりやすい内容を心掛けて地域の理解を得る。
3	学校の教育活動に安心している保護者が80%以上					
2	学校の教育活動に安心している保護者が60%以上					
1	学校の教育活動に安心している保護者が60%未満					
4	将来の夢が見つかり、30年後まで計画を決められた	2	将来を見据えて体験的な活動や講話は効果的であった。将来設計につなげる指導の工夫を検討する。	職業調べや体験は有意義。具体的な将来設計は難しいと思う。上級学校訪問は内申点を意識して選んでいる。	C	調べ学習、体験学習の意義をより深く理解させ、卒業後の進路及び働くことを自分事として考えさせる。
3	将来の夢に向けて就職までの計画を決められた					
2	将来の夢に向けて進学先を決定した					
1	将来の夢を卒業後に見付ける					
4	小中一貫教育スタンダードを地域が推進した	3	小中で意識が高まり、実践できることが増えた。家庭・地域と共にできるよう努力が必要である。	小中の教員間では連携取れていても、地域には一貫教育の理解が進んでいないし、実感がない。	C	小中での取組を学校だより、HP等で周知する。特に家庭連携スタンダードの徹底を図る。
3	小中一貫教育スタンダードを家庭が協力した					
2	小中一貫教育スタンダードを生徒が実践した					
1	小中一貫教育スタンダードが家庭に周知された					

学校教育目標	すすんで学習に励む生徒 たくましい体力を身につけた生徒 規律と礼儀を重んじる生徒 すすんで働き、協力しあう生徒	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標		評価
確かな学力	全ての生徒に義務教育終了時に必要な基礎学力を定着させる学力保証の取組みの充実	指導方法の工夫改善	毎時間のねらいを明示した授業を実施する	4	全員がねらいを明示した	4
				3	80%～100%未満の教員が明示した	
				2	70%～80%の教員が明示した	
				1	70%未満の教員が明示した	
		学習意欲の向上と家庭学習の充実	『家庭学習の記録』を活用した家庭学習を定着させる	4	全教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	2
				3	80%～100%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
				2	70%～80%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
				1	70%未満の教員が家庭学習の記録を活用した指導を行った	
豊かな心	多様な価値観の中で自身の判断力を磨き、心豊かに主体的に正しい判断をし行動できる人格の育成を目指す指導の充実	正しく判断し行動できる力の育成	生徒の心に寄り添う丁寧な生活指導や道徳教育を充実させる	4	全担任が実施した	3
				3	80%～100%未満の担任が実施した	
				2	70%～80%の担任が実施した	
				1	70%未満の担任が実施した	
		生徒の主体的活動の充実	教育活動に他者と関わりながら主体的に判断する内容を取り入れる	4	全教員が実施した	3
				3	80%～100%未満の教員が実施した	
				2	70%～80%の教員が実施した	
				1	70%未満の教員が実施した	
健やかな体	生き生きと豊かな社会生活を送るための基礎体力を身に付けさせる健康教育と体力向上の推進	基礎体力の向上	体育の授業や部活動、行事などを通じて基礎体力を向上させる	4	全教員が実施した	3
				3	80%～100%未満の教員が実施した	
				2	70%～80%の教員が実施した	
				1	70%未満の教員が実施した	
		健康・安全に関する指導の充実	各学年・学級で状況に応じた健康・安全に関する日常的な指導を実施する	4	全学級で実施した	3
				3	80%～100%未満の学級で実施した	
				2	70%～80%の学級で実施した	
				1	70%未満の学級で実施した	
輝く未来	自己を見つめ自らの生き方を考え、変化の著しい社会を生き抜く力を身に付ける生涯学習の視点からの進路指導の充実	進路指導の充実	生徒や保護者に寄り添い、親切丁寧な進路指導を実施する	4	全教員が実施した	3
				3	80%～100%未満の教員が実施した	
				2	70%～80%の教員が実施した	
				1	70%未満の教員が実施した	
		系統的な生き方指導の充実	三年間を通じて自己を見つめ、社会を知り、将来を考える指導を系統的に行う	4	全教員が実施した	3
				3	80%～100%未満の教員が実施した	
				2	70%～80%の教員が実施した	
				1	70%未満の教員が実施した	

【総括表】

・真面目に努力する生徒が生き生きと活躍できる学校・自主,自立の精神を培うことができる学校・生徒,保護者,地域,教職員が誇りをもてる学校
・規律を重んじ、学力を身に付け、自己有用感の高い生徒
・親切,丁寧,コミュニケーション重視・全員一丸での組織対応・認めて褒める指導・チェックと改善・教育公務員の自覚

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	90%以上の生徒が先生方は授業を工夫していると回答	3	①毎時間ねらいを示し、学習すべき内容を明確化した。②生徒が安心して授業に臨むことができた。③ねらいを明示することでリフレクションカードを使用し、振り返りがよくできるようになった。	①リフレクションカードの利用を続けていくことで改善を進めて欲しい。②全教員の授業に対する意志統一がもう少し必要。③限られた授業時間の中で、生徒の学力の底上げ、理解向上のためご尽力してる様子がうかがえる。④リフレクションカードという内省の新しいツールにより生徒の対話も盛り上がったのではないかな。道徳の授業でもこのカードは効果的ではないかな。	B	①単元を通じてつながりのあるねらいを設定していく。②大きなねらいだけでなく細かなポイントも明示していく。③リフレクションカードを使用し、振り返りの質を高め、さらに良いものにしていく。
3	80%～90%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
2	70%～80%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
1	70%未満の生徒が先生方は授業を工夫していると回答					
4	70%以上の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答	2	①今年度は家庭学習の記録に代わって定期考査前の記録として行うことができた。②学習時間の目標を掲示することで伸ばすことができた。③各教科で家庭学習を促す取組を行っているが学校全体としての取組としては不十分であった。	①記録のフィールドバックと先生方の共有化は大切。②家庭学習については保護者の協力も必要。③HPの活用等、保護者に向けて啓発手段の見直しにおいて過渡期のような気がする。全職員でクラス差、先生の個人差を確認することが大切。④ご家庭の関わる単元については学校努力が報われない場面も多く、評価が難しい。考査の記録への変更がポイントダウンの一因か。	B	①学校全体として生徒の家庭学習が定着するような取組を企画し、実施していく。②計画を立てるのが苦手な生徒へのアドバイスが不可欠である。③個に応じた課題の工夫が必要である。
3	50%～70%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
2	40%～50%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
1	40%未満の生徒が家庭で決まった時間勉強していると回答					
4	90%以上の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答	3	①ひとりひとりの実態に応じて適切な声かけを行うことができた。②気持ちを落ち着かせ、自らの言葉で振り返ることで生徒自身が課題に気づくことができた。③道徳の授業ではICTや音楽を取り入れたり、グループ討議の場を設定したりして深く考えさせることができた。	①生徒の正しい価値観形成と判断力の育成が着実に進んでいる。②生徒に寄り添った指導は大変重要である。続けて欲しい。③先生方は生徒と向き合っている。方策にあるようレベルアップは大切。先生方の仲の良さ・チームワークを生徒に伝えるのが有効。④道徳と生活指導が同時評価なのも多様化社会の中での自らのベース作りという点は理解できる。平和・人権問題は他の視点や集団の中で自分の確立ができ、自己有用感向上につながる。	A	①より生徒に寄り添うことができるよう生徒理解のスキルを高めていく。②道徳の授業では生徒同士、生徒と教師の対話をより充実させる。
3	80%～90%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
2	70%～80%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
1	70%未満の生徒が善悪を判断できる力が身に付いていると回答					
4	90%以上の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答	3	①他者と関わりながら主体的に判断する活動は取り入れているが個人差がある。②班での課題解決学習や意見交流を授業で取り入れている。③小集団活動中は、常に他者視点を意識できるような声かけを行ったため他者を意識することが定着しつつある。	①他人との関わりの中で正しい判断を下す事は生徒の将来にとって大切。②少人数班での意見交流は重要だが、控えめな生徒に対する配慮が必要。③引き続き個人差対応など願いたい。④ここは上記の「正しく判断し行動できる力の育成」ができてからの課題であると考える。難しい課題ではあるが失敗から学ぶ気持ちで教員のみなさんには頑張って欲しい。	B	①教え合いの際、どのような点に注目すればよいか事前に分かりやすく示す。②課題に応じて班設定を工夫する必要がある。③主体的に取り組むことができない場合の個や班への支援が重要である。
3	80%～90%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
2	70%～80%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
1	70%未満の生徒が思いやりの心をもって行動していると回答					
4	90%以上の生徒が体力が身に付いてきたと回答	3	①体育的行事や部活動において体力向上を意識して指導することができた。②通常級の体育と連携し、足りていない部分を補いつつ授業を行うことができた。③体育の授業において生徒の体力に見合った課題を与え、基礎体力の向上を図ることができた。しかし、学年によって持久力や筋力など課題が残った。	①男子中学生で基礎体力が低く、運動の苦手な生徒が努力している姿には感動する。②楽しく体力向上を図るには「ダンス」や「おにごっこ」などの導入も必要。③基礎体力の向上は重要なので今後も取組の工夫を期待する。④取組指標と成果指標が変わらず残念だが、ほぼ達成できていると思う。	A	①学年全体の課題と個人の課題双方を克服できるよう運動の仕方についてより細かく指導していきたい。②運動を苦手とする生徒にはスモールステップで目標を設定させ、成就感を味わわせていく。③体育科と連携を取りながら学校全体で生徒に適した指導を行っていく。
3	80%～90%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
2	70%～80%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
1	70%未満の生徒が体力が身に付いてきたと回答					
4	90%以上の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答	3	①朝学活などで交通安全やインフルエンザ予防など健康・安全に関する指導を日常的に行った。②保健給食委員会で健康・安全に関する指導を行うことができた。③保健の授業でそれぞれの健康課題や安全への課題について挙げ、理解させることができた。	①自分の生命を守るのは自分自身であることを確認してください。②健康や安全については生徒への指導は当然で保護者も取り込んで指導してはどうか。③病気予防や交通安全は登下校中の生徒の様子から達成できていると思う。食の安全についても指導できていると思っている。	B	①必要に応じて、学年でも情報の共有をして、生徒に発信していく。②保健の授業で扱った内容が日常的に更に生かせるよう指導方法を研究していく。
3	80%～90%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
2	70%～80%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
1	70%未満の生徒が安全や健康について学ぶことがあると回答					
4	70%以上の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答	3	①面談や面接指導などで親切丁寧な指導を行っている。②3学年を通じた計画的な進路学習が必要である。③保護者や生徒と連絡を取り合い親切丁寧な指導は心がけたが、対応が少し遅いことがあった。	①厄介な保護者もいると思うが、まず生徒の思いを確認し、保護者と対峙するのでは良いのではないかな。②寄り添う形はいろいろあると思うが、程よい距離感と自立に導く対応はとても良い。	A	①生徒がより自主的に進路について考えられるように進路学習の充実を図っていく。②もっと保護者、生徒と細かく連携をとり、学年・学校で情報共有を密にすることが重要である。
3	60%～70%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
2	50%～60%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
1	50%未満の生徒が先生方は適切にアドバイスをすると回答					
4	90%以上の生徒が自分の将来について考えることがあると回答	3	①各教員で意識的に将来について考える場を設定したが、考える考えないは個人差があった。②総合的な学習の時間や道徳の授業の中で、自己をみつめ将来について考える機会をつくった。	①3年間を通じた計画的指導、素晴らしいアプローチだと思う。②地域の指導者や会社経営者などによる「未来の自分の仕事教室」のような授業を取り入れる事が必要。③自分を見つめる機会になるのが受験。学校や家庭、地域で自己肯定感、自己有用感を育て認識して自分の将来を感じられるようになるとう良い。	B	①1年次よりわかりやすく系統的な計画を立てる。②将来について考えられない生徒に対しては、やりたいこと、好きなことなどを考えさせるなどをしてきっかけを作っていく。
3	80%～90%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
2	70%～80%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					
1	70%未満の生徒が自分の将来について考えることがあると回答					

学校教育目標	・美しい心 ・創造的な知性 ・たくましい体	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	生徒に基礎的。基本的な内容を確実に習得させ、生徒の思考力・判断力を高め、確かな学力を身に付けさせる。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図る。	教材研究、授業分析、指導方法等について工夫・改善し、わかる授業を実現する。	4 意図的、計画的に指導し、集中力や思考力等が向上した。	3
				3 計画的にはならなかったが、授業改善に心がけた。	
				2 授業改善を図ったが、十分な効果が挙げられなかった。	
				1 生徒参加型の指導ができなかった。	
		チャレンジテストの活用等により、学習意欲を高め、学力の定着を図る。	全学年におけるチャレンジテストの実施(年間3回以上)	4 年間5回のチャレンジテストを行った。	2
				3 年間4回のチャレンジテストを行った。	
				2 年間3回のチャレンジテストを行った。	
				1 年間2回のチャレンジテストを行った。	
		観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図る。	観点別学習状況の評価の適正な実施と説明	4 適正に観点別学習状況の評価と説明を行い、生徒の意欲的に学習した。	3
				3 適正に観点別学習状況の評価を行い、説明も行った。	
				2 適正に観点別学習状況の評価を行ったが、説明をしなかった。	
				1 観点別学習状況の評価について課題が残った。	
豊かな心	落ち着いた学校生活の実現を図るとともに、自尊感情や自己肯定感を高め、豊かな心の育成を図る。	落ち着いた学校生活について指導し、生活指導基本方針の定着を図る。	生活指導だよりを活用した全校共通の生活指導の実施	4 生活指導だよりの家庭での活用を確認している。	3
				3 生活指導だよりを読み合わせ、補足的な指導を行った。	
				2 生活指導だよりは読み合わせを行った。	
				1 生活指導だよりは配布した。	
		生徒理解に努め、教師と生徒との間の信頼関係を深める。	生徒への言葉かけや面談の意図的な実施	4 年間3回以上の面談を実施し、生徒理解を深めた。	3
				3 年間3回以上の面談を実施したが、生徒理解はあまり深められなかった。	
				2 年間3回以下の面談で、生徒理解が十分でなかった。	
				1 年間3回未満の面談で、生徒理解ができなかった。	
		特別の教科道德の趣旨を踏まえ、道德授業の充実を図る。	ア:道德の年間総授業時数を上回る実施 イ:資料やワークシート等の工夫	4 道德の時間の実施時数を上回り、資料等の工夫も行った。	3
				3 道德の時間の実施時数を確保し、資料等の工夫を行った。	
				2 道德の時間の実施時数は確保できた。	
				1 道德の時間の実施時数が足りなかった。	
健やかな体	生徒活動の場を一層豊かにし、生徒の主体性や自己有用感を高め、健やかな体の育成を図る。	学校行事、学級活動、生徒会活動等における活動を推進し、達成感を味わわせる。	学校行事実行委員会、委員会活動、学級での係活動等への参加奨励	4 担当する生徒の70%以上が積極的に活動した。	4
				3 担当する生徒の50%以上が積極的に活動した。	
				2 担当する生徒の30%未満の生徒が積極的に活動した。	
				1 担当する生徒に積極的に活動させることができなかった。	
		学校生活の安全と健康について指導し、生徒の意識を高める。	年間指導計画に基づき、各教科、特別活動等における指導の実施	4 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行い、効果を挙げた。	3
				3 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導を行った。	
				2 教科指導、特別活動のいずれかで安全・健康に関する指導を行った。	
				1 教科指導、特別活動ともに安全・健康に関する指導は行わなかった。	
		部活動を通して、生徒に自信を深めさせる。	部活動における生徒の努力と成果を認め、励ます機会の充実	4 顧問である部活動生徒の70%以上が活発に活動した。	4
				3 顧問である部活動生徒の50%以上が活発に活動した。	
				2 顧問である部活動生徒の30%未満が活発に活動した。	
				1 顧問である部活動生徒に活発に活動させることができなかった。	
輝く未来	生徒一人ひとりの夢と希望を育むために、3年間の見通しに立った進路指導の実現を図る。	地域活動や職場体験等の人とかかわりや体験的な活動の充実を図る。	各学年の特性を生かした「生き方指導」の一環としての地域連携活動の実施	4 地域との連携で生徒が生き生きと活動し、意欲を引き出した。	2
				3 地域との連携で生徒が生き生きと活動した。	
				2 毎年の行事として、地域連携活動を例年通りに実施した。	
				1 地域と連携した活動に取り組まなかった。	
		自己の学業生活や卒業後の進路について振り返り、進路選択能力を高める。	年間指導計画に基づき、活用資料等を工夫した進路指導の実施	4 年間指導計画に沿って計画的に進路指導を実施し、成果があった。	3
				3 年間指導計画に沿って進路指導は実施したが、資料等の工夫がやや不十分だった。	
				2 年間指導計画に沿って進路指導を実施したが、資料活用はしなかった。	
				1 年間指導計画に沿った進路指導が実施できなかった。	
		進路指導において、保護者への啓発に取り組み、連携を図る。	進路指導における保護者と連携した取り組みの実施	4 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定し、効果を挙げた。	3
				3 進路指導において、保護者との面談を行い、説明の機会も設定した。	
				2 進路指導において、保護者との面談を行ったが、説明の機会は不十分だった。	
				1 進路指導において、保護者との連携が不十分だった。	

【総括表】

生徒にとって楽しく生きがいのある学びの場としての学校の実現
- 正しい判断力、創造性に富んだ実行力、寛容の心と協力の精神をもつ生徒 - 自ら学ぶ力、社会の変化に主体的に対応できる能力、国際社会で活躍できる力、世界に貢献する態度をもつ生徒 - 均整がとれ、耐久性に富み、機敏性をもった健康でバランスのとれた体を持つ生徒
教育への熱意と使命感、豊かな人間性と高い指導力をもち、教育公務員としての遵法の精神を貫く教師

成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが70%以上	4	90%の生徒が各教員が授業を工夫していると受け止めていた。各教科で一層の工夫を図る。	思考力・判断力・表現力等を育むために指導法の工夫・改善を図っている。	A	各教員の学習指導の成果と課題を振り返り、次年度以降の授業改善の重点を明らかにしていく。
3 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが60%以上					
2 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%以上					
1 先生方は授業を分かりやすくするために工夫しているとの答えが50%未満					
4 学校の授業は分かりやすいとの答えが70%以上	4	91%の生徒が授業は分かりやすいと感じていた。各教科で分かる授業の工夫を一層図る。	チャレンジテストの活用等により、学習意欲を高め、学力の定着を図っている。	A	チャレンジテストの活用方法を各教科で検討し、その実施を年間指導計画に位置づけていく。
3 学校の授業は分かりやすいとの答えが60%以上					
2 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%以上					
1 学校の授業は分かりやすいとの答えが50%未満					
4 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが70%以上	3	各教科の年度初めの授業で、評価計画を説明している。その活用についてさらに指導していく。	観点別学習状況の評価について保護者・生徒に説明し、学習意欲の向上を図っている。	B	学期始めに評価の観点を生徒に説明し、学習指針として活用が図られるよう指導する。
3 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが60%以上					
2 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%以上					
1 評価の方法を理解し、成績を伸ばす努力をしているとの答えが50%未満					
4 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが70%以上	4	88%の生徒が落ち着いた学校生活を送っていると回答していた。学校生活の安定の定着を図る。	落ち着いた学校生活について指導し、生活指導の基本方針の定着を図っている。	A	生活指導方針について、一層の理解を深め、組織的に指導に取り組んでいく。
3 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが60%以上					
2 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%以上					
1 学校は落ち着いて安心して生活できているとの答えが50%未満					
4 学校に相談できる先生がいるとの答えが50%以上	4	63%の生徒が相談できる先生がいると回答した。数値は向上しており、一層の努力を図る。	生徒理解に努め、教師と生徒との間の信頼関係を深めている。	A	日頃からの生徒理解に努めるとともに、面談週間のより有効な活用を図る。
3 学校に相談できる先生がいるとの答えが40%以上					
2 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%以上					
1 学校に相談できる先生がいるとの答えが30%未満					
4 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが70%以上	4	95%の生徒が判断力が身に付いていると回答した。家庭と連携を図り、規範意識の向上を図る。	特別の教科道德の趣旨を踏まえ、道德授業の充実を図っている。	B	特別の教科道德の趣旨を踏まえ、指導資料の収集と活用及び適正な評価について充実を図る。
3 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが60%以上					
2 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%以上					
1 よいこと、悪いことを判断する力が身に付いているとの答えが50%未満					
4 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが80%以上	4	89%の生徒が学校生活は楽しいと回答した。引き続き、学校生活の安全と安定を図っていく。	学校行事、学級活動、生徒会活動における活動を推進し、達成感を味わわせている。	A	特別活動の趣旨を踏まえて、各活動の目的を明確にし、各取組の一層の充実を図る。
3 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが70%以上					
2 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%以上					
1 楽しく学校生活を過ごしているとの答えが60%未満					
4 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが70%以上	3	91%の生徒が安全や健康について学んだと回答している。さらに安全指導の充実を図る。	学校生活の安全と健康について指導し、生徒の意識を高めている。	A	日常の点検活動の徹底を図るとともに、生活指導便りを活用した全校共通の指導を進める。
3 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが60%以上					
2 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%以上					
1 学校で安全や健康について学ぶことがあるとの答えが50%未満					
4 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが70%以上	4	89%の生徒が部活動に参加した。活動の主旨を生かした内容の充実を図っていく。	部活動を通して、生徒に自信を深めさせている。	A	部活動の意義を明確にした指導と部活動指導員等の活用により、活動内容の充実を図る。
3 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが50%以上					
2 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%以上					
1 部活動に楽しく取り組んでいるとの答えが30%未満					
4 地域での行事は大切で意義のあることだと思うとの答えが70%以上	3	PTAとの連携行事の参加者が増加した。地域への活動にも参加者を広げていく。	地域活動や職場体験等の人との関わりや体験的な活動の充実を図っている。	B	体験的な活動の意義を明確にし、指導計画の改善と地域との一層の連携を図る。
3 地域での行事は大切で意義のあることだと思うとの答えが60%以上					
2 地域での行事は大切で意義のあることだと思うとの答えが50%以上					
1 地域での行事は大切で意義のあることだと思うとの答えが50%未満					
4 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが70%以上	3	63%の生徒が進路等についてアドバイスがあると回答した。計画的な指導の充実を図る。	自己の学業生活や卒業後の進路について振り返らせ、進路選択能力を高めている。	B	三年間を通した進路指導計画を明確にし、計画的に進路指導を進めていく。
3 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが60%以上					
2 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%以上					
1 進路の情報や将来の生き方について先生は適切にアドバイスしているとの答えが50%未満					
4 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが70%以上	3	68%の生徒が進路等について家庭で話したと回答した。保護者と連携を図り、進路指導を推進。	進路指導において、保護者への啓発に取り組み、連携を図っている。	B	保護者会の機会等を活用し、進路選択に資する新しい進路情報の提供を図る。
3 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが60%以上					
2 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%以上					
1 家族と自分の将来について話をすることがあるとの答えが50%未満					

令和元年度

昭島市立拝島中学校

学校経営重点計画(教育推進計画)年度末評価

学校教育目標	勉学 よく考え正しく判断できる人間 敬愛 人を尊敬し愛といつくしみのある人間 至誠 誠実で責任感の強い人間 健康 健康で心身ともにたくましい人間	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎的・基本的な学習内容を定着させ、学力向上を図る。	特別支援教育の視点に立った分かりやすい授業を実践する。	授業の見通しをもたせる 既習事項の確認 振り返り学習	4 全教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した	4
				3 90%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した	
				2 80%以上の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した	
				1 80%未満の教員が特別支援教育の視点に立った授業を実践した	
		家庭学習を習慣化させ、学習内容の定着を図る。	学習の手引きの活用 クルノート活用	4 全教員が家庭学習の支援を行った	3
				3 90%以上の教員が家庭学習の支援を行った	
				2 80%以上の教員が家庭学習の支援を行った	
				1 80%未満の教員が家庭学習の支援を行った	
豊かな心	人権尊重の精神に基づき、生徒の心の成長を促し、一人一人の変化に対応した行き届いた指導を展開する。	全教職員がいじめは絶対に許さないという考えの基、未然防止、早期発見、早期対応、再発防止を図る。	人権意識の向上 いじめアンケート(年3回) いじめ対策委員会の活用	4 全教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	3
				3 90%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
				2 80%以上の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
				1 80%未満の教員がいじめ防止や不登校生徒への指導を行った	
		日常的に生徒が悩みを打ち明けやすい相談体制の充実。	生徒との人間関係の構築 相談部会(週1回) スタディサポート教室、学習支援教室との連携	4 全教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	4
				3 90%以上の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
				2 80%以上の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
				1 80%未満の教員が面談や相談の機会を設けるため声かけを行った	
健やかな体	生徒一人一人の体力の向上および健康の保持増進を図る。	規則正しい生活習慣を確立させ、健康の保持と体力の増進について考える態度を育てる。	基本的生活習慣の確立 体力テストの適正実施 オリンピック・パラリンピック教育の推進	4 全教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	4
				3 90%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
				2 80%以上の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
				1 80%未満の教員が健康安全教育を全体計画に基づいて実施している	
		保健体育、特別活動等の指導をととして、体力の向上および健康の保持増進を図る。	保健体育の授業の工夫改善 行事等の工夫 部活動の奨励	4 全教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	4
				3 90%以上の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
				2 80%以上の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
				1 80%未満の教員が体力や運動能力、健康安全の意識や行動等の実態にあった指導を行った	
輝く未来	将来、生徒が自立できる基礎的な能力を身につけさせるため、キャリア教育を推進する。	地域や地域人材を活用した体験活動等を充実させ、自己発見および自分の生き方を考えさせる。	働く人の話を聞く会、職場体験、上級学校訪問等の充実	4 全教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	3
				3 90%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
				2 80%以上の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
				1 80%未満の教員が進路指導計画に基づき、計画的な指導を行った	
		望ましい集団生活をととして、より良い生活や人間関係を築くため、自主的、実践的に取り組ませる。	学校行事、生徒会活動、部活動等の充実	4 全教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った	3
				3 90%以上の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った	
				2 80%以上の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った	
				1 80%未満の教員が生徒が主体的に進路選択できるよう、指導内容・方法の改善・充実を図った	

【総括表】

生徒が「通ってよかった」、保護者が「通わせてよかった」、教職員が「勤めてよかった」と実感できる学校。
凡事徹底「はいじま」、当たり前のことが当たり前にできる生徒。
すべての教育活動において、自他の生命尊重、人権尊重の心を育てることを基盤とした教育活動を実践する教師。

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4	市学力調査の平均正答率が全国平均以上	3	市学力調査全教科平均正答率の平均が1年生で-2.3ポイント、2年生で-1.8ポイントで全体として-2ポイントであった。	都学力調査2年生の数学、社会が都平均を上回っている。極端に低い教科がなく、学校全体の努力が認められる。	B	効率的な振り返り学習や既習事項の確認を实践する。
3	市学力調査の平均正答率が全国平均から－5ポイント以内					
2	市学力調査の平均正答率が全国平均から－10ポイント以内					
1	市学力調査の平均正答率が全国平均から－10ポイント以上					
4	70%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答(評価4・3)	1	家庭で決まった時間、勉強していると回答した生徒は48.1%(48%)であった。	定期テスト対策だけでなく、基礎基本の必要性を認識させたい。クールノートの活用は良いと思う。	B	見方・考え方を活用することで、生徒の知的好奇心を育て、家庭学習へとつなげる。
3	60%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
2	50%以上の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
1	50%未満の生徒が家庭学習に意欲的に取り組むと回答					
4	すべての生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答(評価4・3)	2	学校生活が楽しいと思っている生徒は、83.3%であった。	学校内の雰囲気明るく、生徒同士、生徒と先生が自然に会話できている。楽しいと思う生徒の割合を101%を目指してほしい。	B	道徳の授業を充実させ、思いやりや命の大切さを考えさせ、実践へとつなげる。
3	90%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っていると回答					
2	80%以上の生徒が学校生活が楽しいと思っている					
1	80%未満の生徒が学校生活が楽しいと思っている					
4	80%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答(評価3・2)	2	相談できる先生がいると回答している生徒は、69.3%(75%)であった。	生徒と教員の信頼関係が必要。教員の努力はうかがわれるが、成果を上げてほしい。	C	1・2年生の三者面談を年2回実施し、家庭との連携の充実を図る。
3	70%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
2	60%以上の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
1	60%未満の生徒が学校に相談できる先生がいると回答					
4	都体力調査の体力合計得点が平均より+5ポイント以上	3	教育活動全体を通して、体力の向上および健康の保持増進を図ったことで、体力合計得点が1.4ポイント(2.5ポイント)上回った。	男子、女子ともに平均を上回る種目が多く、評価できる。	B	オリンピック・パラリンピック観戦等をおとして、スポーツへの関わり方を考えさせる。
3	都体力調査の体力合計得点が平均より+5ポイント未満					
2	都体力調査の体力合計得点が平均より－5ポイント未満					
1	都体力調査の体力合計得点が平均より－5ポイント以上					
4	90%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答(評価4・3)	3	保健体育の授業の工夫や部活動への取組によって、体力がついてきていると思う生徒は、82.1%(83%)であった。	生徒の行事や部活動への取組は積極的である。	A	体力テストの結果分析を全教職員で共有し、部活指導や行事への取組に活用する。
3	80%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
2	70%以上の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
1	70%未満の生徒が学校生活をおして自分の体力が高まっていると回答					
4	全ての生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答(評価4・3)	2	計画的に進路指導を实践したことで、将来の生き方について考えることがあると回答した生徒は、80.5%(83%)であった。	職場体験活動で楽しく明るく活動していた姿が印象に残っています。体験の乏しい中学生にとって、学校での取り組みは重要である。	B	地域との関わりの中で、自分の生き方を考えさせるよう指導を工夫する。
3	90%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
2	80%以上の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
1	80%未満の生徒が将来の生き方について、学校で考える機会があると回答					
4	全ての生徒が自分の将来について考えたことがあると回答(評価4・3)	2	キャリア教育の实践により、自分の将来について考えたことがあると回答した生徒は、81.8%(81%)であった。	防災に関する部分での地域との関わりを充実させる。社会の急激な変化に対応できるよう指導してほしい。	B	キャリア教育に関する基本的な考え方等の指導を工夫・充実し、生徒の理解を高める。
3	90%以上の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					
2	80%以上の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					
1	80%未満の生徒が自分の将来について考えたことがあると回答					

学校教育目標	進んで勉強しよう 思いやりのある人になろう 進んで心身をきたえよう	ビジョン	【目指す学校像】
			【目指す児童・生徒像】
			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価
確かな学力	基礎・基本の定着	授業規律の確立	朝読書の取組から落ち着いた一日のスタート	4 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した95%以上	3
				3 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した90%以上	
				2 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した85%以上	
				1 生徒が8:30分には朝読書をするように指導した85%未満	
		教員は教室で始まりのチャイムを聞く実践、生徒は主体的にチャイム着席行う実践		4 チャイム終了までに授業開始した90%以上	3
				3 チャイム終了までに授業開始した80%以上	
				2 チャイム終了までに授業開始した60%以上	
				1 チャイム終了までに授業開始した60%未満	
		わかる授業からできる授業	生徒が見通しを持ち、一回の授業で学んだことが分かる授業の実践	4 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った90%以上	3
				3 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った80%以上	
				2 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った70%以上	
				1 授業の目標・流れを示し、まとめ・振り返りを行った70%未満	
		生徒の「考え」「活動」「頑張り」を認め誉めること		4 90%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。	3
				3 80%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。	
				2 70%以上の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。	
				1 70%未満の生徒が先生に「考え」「活動」「頑張り」を認められた。	
豊かな心	自立できる生徒	教員・生徒ともに挨拶を主体的実践		4 挨拶の指導を積極的に行った90%以上	3
				3 挨拶の指導を積極的に行った80%以上	
				2 挨拶の指導を積極的に行った60%以上	
				1 挨拶の指導を積極的に行った60%未満	
		生徒指導の充実	清掃活動の活性化	4 清掃活動への取り組みを積極的に行った90%以上	3
				3 清掃活動への取り組みを積極的に行った80%以上	
				2 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%以上	
				1 清掃活動への取り組みを積極的に行った70%未満	
		中学生らしい身なりの定着		4 生徒への身なりの指導に積極的に関わった90%以上	4
				3 生徒への身なりの指導に積極的に関わった80%以上	
				2 生徒への身なりの指導に気づいたときに関わった60%以上	
				1 生徒への身なりの指導に気づいたときに関わった60%未満	
		特別活動の充実	自主的な活動の推進	4 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった95%以上	3
				3 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった80%以上	
				2 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%以上	
				1 行事や部活動、委員会活動等の指導に積極的に関わった60%未満	
健やかな体	心と体の健康維持	自ら健康管理のできる生徒	日常の健康観察(アレルギー疾患の把握を含む)、個別の声掛け、保健室と・保護者との連携	4 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った95%以上	4
				3 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った80%以上	
				2 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%以上	
				1 生徒の健康状況の把握(アレルギーを含む)を日々行った60%未満	
		防災意識の高い生徒の育成	避難訓練・防災訓練の工夫	4 防災意識を高める指導を積極的に行った90%以上	3
				3 防災意識を高める指導を積極的に行った80%以上	
				2 防災意識を高める指導を積極的に行った60%以上	
				1 防災意識を高める指導を積極的に行った60%未満	
輝く未来	豊かな情操の育成	文化・芸術を継承・発展させようとする生徒の育成	修学旅行・合唱コンクール展示会・舞台発表会の創造	4 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った90%以上	3
				3 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った80%以上	
				2 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	
				1 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	
		将来の生き方を考えられる生徒の育成	卒業生のお話を聞く会、職業調べ、職場体験、上級学校調べ、高校の先生のお話を聞く会、集団討論の実践	4 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った90%以上	3
				3 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った80%以上	
				2 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	
				1 豊かな情操を育成する指導を積極的に行った60%以上	

【総括表】	
1 安心して楽しく活動できる学校	2 生きる力を育む学校
1 あいさつを大切にし、夢と希望をもち、目標を追いかけていく生徒	2 主体的に考え行動できる生徒(自主自律)
1 授業力・指導力・支援力の向上をあきらめない教師 2 生徒の自尊感情・自己有用感を育める教師 3 生徒・保護者・地域から信頼されるよう努力を惜しまない教師	

成果指標		評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
4 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ90%以上	3		8:30分に学校中が静寂に包まれ、読書をする雰囲気は出来上がっている。しかし、読書に集中できずぼんやりしている生徒も存在するので個別の指導と支援を行っている。	生徒の成長を感じる。授業に落ち着いて臨めるよう継続して指導してほしい。	B	読書に集中できない生徒への支援と指導の工夫に組織的に取り組む。
3 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ80%以上						
2 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ70%以上						
1 朝読書で毎日、8:30には本を読んだ70%未満						
4 90%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた	3		チャイムで、授業を始める教員の申し合わせは徹底してきている。授業準備をとしての着席ができていない生徒がいる。	授業に臨む生徒の姿勢は年々よくなっている。引き続き時間を主体的に守れる生徒を育成してほしい。	A	授業準備をとしての着席指導の徹底を行うために、生徒の意識改革が進む声掛けを増やす。(組織的対応)
3 80%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた						
2 70%以上 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた						
1 70%未満 チャイム着席が、学期を通して、ほぼ守れた						
4 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある80%以上	4		授業の目標・流れを各教科で実践中である。一時間の授業を充実させるためのツールとして活用している。振り返りについては、方法・内容の充実が課題である。教員の授業改善への意識は高い。校内研修・OJTを充実させて授業力の向上を引き続き目指していく。	授業が学校生活の大半を占めるので、授業改善には引き続き努めてほしい。	A	振り返りの工夫について、授業改善を進める。授業観察週間・管理職による授業観察を有効活用する。
3 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある70%以上						
2 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある60%以上						
1 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がある60%未満						
4 先生の授業は楽しい80%以上	4		生徒をよく観て、「勇気づけ言葉」を積極的に使うよう心掛けている。	学校全体が落ち着いてきたのは、日々のこのような実践が生きていると察する。	A	学校経営方針に位置づけ全校体制で取り組む。
3 先生の授業は楽しい70%以上						
2 先生の授業は楽しい60%以上						
1 先生の授業は楽しい60%未満						
4 挨拶を、自分から進んでほぼ毎日できている。	3		教職員自身があいさつを心がけるとともに、生徒会活動を活性化の中で自ら進んで挨拶できる生徒を育成している。学校関係者の方の印象としては、あいさつできる生徒が多い。	気持ちの良いあいさつができる生徒が多い。部活動の生徒の指導も徹底していてよい。	B	生徒会活動のさらなる活性化で取り組んでいく。
3 挨拶をされた時には、ほぼ返事をしている。						
2 挨拶をするのを、忘れてしまう時がある。						
1 挨拶を、ほとんどしない。						
4 清掃活動を、学期を通してきちんと行った90%以上	3		清掃点検を着実に行之、清掃活動を進んで行えるよう指導と支援を繰り返している。	公開授業等で訪れたとき、環境美化に努めている様子が伝わってくる。	B	全校体制で取り組む。
3 清掃活動を、学期を通してきちんと行った80%以上						
2 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%以上						
1 清掃活動を、学期を通してきちんと行った70%未満						
4 頭髪・身だしなみなどが、学期を通してほぼ毎日守れた。	4		本校の頭髪・身だしなみの指導に対して、保護者の協力を得ながら取組中である。	生徒の主体的活動を今後も増やすことが、子供の成長につながるので、引き続き取り組んでほしい。	A	引き続き、組織的な対応を実践していく。
3 頭髪・身だしなみなどが、学期を通しておおむね守れた。						
2 頭髪・身だしなみなどが、学期を通して守れないことが半分ぐらいあった。						
1 頭髪・身だしなみなどが、学期を通してほとんど守れなかった。						
4 行事・委員会・係活動などに、自ら進んで積極的に参加できた。	3		主体的活動を推進するように、リーダー・フォロアーの育成を行っている。	子供たちの成長に向けてさらにリーダー育成をお願いしたい。	B	今年度の実践を来年度に引き継ぐ。また、行事の充実と生徒会活動の活性化で生徒の育成を図る。
3 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけずに取り組むことができた。						
2 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることが少しあった。						
1 行事・委員会・係活動などで、クラスに迷惑をかけることがたびたびあった。						
4 90%以上日々の健康管理ができた	3		保健だよりによる適切な指導を継続中である。また、教員研修も取り入れ、教職員の危機意識向上に努め、安全な学校づくりを推進している。	教員は、普段から気を配っている様子がよくわかりました。生徒への指導も引き続きお願いしたい。	B	今年度の取組を継承し、さらに生徒会活動を推進する中で生徒自身が健康管理できるよう育成を図る。
3 80%以上日々の健康管理ができた						
2 60%以上日々の健康管理ができた						
1 60%未満日々の健康管理ができた						
4 避難訓練の始まりから終わりまで90%以上は真剣に行えた	3		月1回の避難訓練・安全指導を計画的に実施し様々なケースにおいて実践し生徒の防災意識を高めている。	いつ被災するともわからない状況なので、普段から防災意識を高める取り組みを続けてほしい。	B	一回一回の反省を振り返り、課題と目標を明確にし発展させる。
3 避難訓練の始まりから終わりまで80%以上は真剣に行えた						
2 避難訓練の始まりから終わりまで60%以上は真剣に行えた						
1 避難訓練の始まりから終わりまで60%未満は真剣に行えた						
4 修学旅行・合唱コンクール・展示会・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	3		修学旅行では事前指導・当日・事後指導を通して、日本文化に触れ文化の継承と発展を意識して取り組んだ。合唱コンクールにおいては、生徒の主体性をさらに高めていく。	修学旅行・合唱コンクールは、素晴らしい取組と発表だった。今後も豊かな情操の育成に努めてほしい。	B	実行委員の育成を図り、クラスで生徒自身が組織的に取り組める体制を作っていく。
3 修学旅行・合唱コンクール・展示会・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒80%以上						
2 修学旅行・合唱コンクール・展示会・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒60%以上						
1 修学旅行・合唱コンクール・展示会・舞台発表会に意欲的に取り組んだ生徒60%未満						
4 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒90%以上	3		学習・生活の見通しを立て、振り返る事ができた。今後、生涯にわたる学習・生活のつながりを見通すことをさらに工夫していく。	簡単に実現できることではないが、引き続き取り組み、将来に向けて力強く生きていける生徒を育成してほしい。	B	キャリアパスポートのねらいを生徒に理解させ、1学年から3学年の流れを作る。
3 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒80%以上						
2 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%以上						
1 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んだ生徒60%未満						

第6章 点検及び評価に関する有識者からの意見

齋 藤 久 未
(株式会社ジェイコム東京 多摩局
地域プロデューサー)

第2次昭島市教育振興基本計画の5年目にあたる令和元年度の施策、事業は着実に遂行されていますが、今、新たな環境への対応が求められています。ここでは、主要施策についての意見をまとめました。

プラン1 確かな学力の定着

昭島市の全国学力・学習状況調査の結果は、全国や東京都の平均正答率との比較で低い傾向がみられることに対し、昨年度同様に教員の授業力向上や児童生徒への問題集配布等の施策を行っていますが、結果に表れるには時間がかかると思われます。継続することで改善されることを期待しております。特に算数、数学が国平均より低い傾向がありますので、子ども達の学習意欲を高める授業の実施に向けた取り組みの推進を望みます。また、スクール・サポート・スタッフを全小中学校に配置したということですので、教員の業務を支えることにより教員が子ども達の習熟度を的確に把握できるような環境を整え、個々に適した学習アドバイスを行い、学力向上につなげてほしいと考えています。

プラン2 豊かな心の醸成

人権教育の推進策として研修を実施したり、子ども達の体験活動の充実が図られたりしており、情操教育に力を入れ取り組まれています。なかなか絶えることのない「いじめ」問題への対応は、最重要課題の一つと言えます。中学生によるいじめ防止ポスター制作や小学6年生へのいじめ防止の取組について説明する交流活動は、今後も継続していただき、子ども達の間にそうした考えが定着することを期待いたします。また、いじめ問題防止会議の中では「携帯電話・スマートフォンに関わる課題」について協議されているとありましたが、具体性に欠ける印象です。昨年度も同様の提案をしましたが、こうした課題には、NPOや地域貢献活動を行う地元企業など外部の協力を得るなどして、保護者も含めたネットリテラシーの教育に取り組んだり、不登校の児童生徒にはインターネットを通じて家にいても学校の授

業を受けることができる環境を整備したりするなど、具体的な施策を検討していくべきだと考えます。

プラン3 健やかな体の育成

体力・運動能力・運動習慣等調査では、小中学校ともに、東京都の平均よりも上回った種目が多く見られたとの結果は、昨年、成隣小学校と清泉中学校で、体力向上の推進策で作成された「元気アップガイドブック」が各校で活用されたことも要因の一つと考えられますので、今後も継続して「元気アップガイドブック」を活用し、日常的な体力向上に取り組まれることを期待します。また、地産地消の推進やお弁当の日、食育リーダーを中心とした指導体制の充実を図るなど食育への取り組みも健康的な生活習慣の促進につながっていると考えます。

プラン4 輝く未来に向かって

「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣について啓発を図り、「グッドモーニング 60 分」の取組により、登校前の時間を充実させられるようになったという報告があり、学校から家庭への発信が良い方向に動きはじめていると感じました。新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、来年度に向けて最も重要なことの一つに、家庭で教育を受けられる環境整備が挙げられると考えています。e ライブラリ事業が展開された昭島市においては準備が進められる状況にあり、学校、家庭、地域、企業等が連携した今後の施策に期待いたします。

プラン5 生涯学習の推進

令和2年3月に開館した「教育福祉総合センター アキシマエンス」は、ICT を活用した郷土資料室、図書館であり、明るい雰囲気で見学しやすき施設になっていると感じています。蔵書が充実し司書も増員されたことにより、子ども達の読書活動や調べ学習の後押しにもつながると考えます。

昨年から社会教育団体指導者育成事業の継続により自主講座の開催にいたるなど市民活動が広がりを見せ、栗田工業ラグビー部との連携によるスポーツレクリエーションの充実も見えていたところですが、新型コロナウイルス感染症の影響が広がる中、こうした活動をどのように継続していくかが課題です。「アキシマエンス」は、こうした課題を解決する拠点になっていくことを期待いたします。

山 田 茂 利
(帝京大学 教授)

6年間を計画期間とした、『第2次昭島市教育振興基本計画』の5年目に当たる令和元年度の多岐に渡る施策・事業は、計画的に遂行され各学校等や生涯学習の場で成果として表れています。しかしながら、5年間計画的に施策・事業を展開してきたものの、数値等で確認できないことや顕著な効果が出なかったり、毎年良い結果が出なかったりするものもあります。そのため、令和元年度の点検・評価は、6年間の検証・評価を行う最終年度、令和2年度の各施策・事業を視野に入れて行う必要があると考えます。そして、そのことを踏まえて令和2年度の各施策・事業を展開するとともに、これまでの成果と課題を明らかにし、次期計画につなげていくことが肝要だと考えます。そのスタンスで令和元年度の主要施策について意見を述べます。

1 プラン1「確かな学力の定着」

学校教育部はこれまで学習指導要領の確実な定着を図るため、学力調査で課題のあった問題について確認問題集を作成し各学校に配布してきました。この問題集を各学校で計画的に使い、これまで以上に効果を上げるためには、各学校の授業改善推進プランにこの問題集を意図的・計画的に位置づけ、あるいはこの問題集を基に自校の課題を明らかにし、さらに『昭島市立学校教育推進計画』の短期・中期経営目標の「具体的方策」に関連付けていく必要があると考えます。無論いままでも各学校は自校の課題を明らかにし、数値目標を掲げ取り組んできたのですが、『第2次昭島市教育振興基本計画』を最上位の計画として、改めて見直していただきたいと考えます。

そのことは、昭島市の児童に合った教科用図書として採択された教科書の活用にも関係することであり、各学校にはこれまでの学力向上を図るための取組を生かして、新学習指導要領で求められている授業改善を進めていただくことを期待しています。また、子どもと触れ合う時間を確保するために配置されたスクール・サポート・スタッフの積極的な活用の効果についても期待されるところです。

以上、学校での取組が活性化するよう、関係各課においては引き続きそれぞれの学校に応じた助言・支援をしていただきたいと考えます。

個に応じた支援の充実については、令和元年度に「さくら学級」が開設されるなど、これまで計画的に特別支援教育における指導体制の整備が進められてきました。また、日本語の習得が必要な児童・生徒が増加傾向にあり、その対応も進められました。今後、整備されてきたハード面に対して、各学校等でのソフト面の充実が望まれることから、引き続き教員の専門性の向上など関係各課の働きかけを期待しています。

2 プラン2「豊かな心の醸成」

小学校の移動教室の計画の見直しや検討を行ったことによる体験活動の充実、豊

かな情操や道徳心、自他の存在を尊重し合える態度、心の通う人間関係を構築する能力の育成に直結することです。そして、このことはいじめ問題への対応にもつながることであり、特にいじめ防止に対する児童・生徒の主体的な取組の基盤になることです。いじめ問題に関しては、引き続きいじめ防止等に関する教育委員会の具体的な取組と小中学校での活動が、有機的に機能するよう施策・事業を展開していただきたいと思います。

3 プラン3「健やかな体の育成」

体力の向上及び健康の保持増進を図るためには、運動やスポーツの生活化が鍵となります。その方策として昭島市の児童・生徒の実態から作成された「元気アップガイドブック」を活用することは、具体的な取組として大いに評価できることです。とりわけ令和元年度末から私たちの生活に大きな影響を及ぼしているコロナ禍においては、体力や免疫力の向上のために、このガイドブックが有効に継続的に活用されることを期待しています。

また、子どもの健全な発育のため学校給食・食育の充実が求められており、決定した新小学校給食共同調理場の整備については、引き続き安全・安心でおいしい（地場食材を積極的に取り入れた）給食が提供できるよう、建替え整備を進めていただくことをお願いします。

4 プラン4「輝く未来に向かって」

未来を創り出す子どもたちの成長のために、学校、地域住民、保護者等も含め、国民一人一人が教育の当事者となり、新しい時代の教育の実現を図ることが求められています。

そのため、学校が積極的に家庭や地域との連携や協働の在り方を探り、家庭・地域の教育力の向上を図ることが必要です。その一方策としての「早寝・早起き・朝ごはん」等の基本的な生活習慣についての啓発活動や「グッドモーニング 60 分」の取組は、実践的であり効果も表れることが期待されます。

また、教育環境の整備や国際理解教育の推進も地域の将来を担う人材を育成するために重要な施策・事業です。プラン4については、他のプランとは違った幅広い課題が内在し、また取組の方向性が考えられますので、次期計画への発展が期待されます。

5 プラン5「生涯学習の推進」

平成 25 年 3 月に策定された「あきしま学びぷらん」に基づき、計画的に準備を進めてきた教育福祉総合センター「アキシマエンス」が、令和 2 年 3 月 28 日に開館したことにより、市民の交流の場と課題解決を支援する、知の拠点が整いました。

このことから、従来の市民図書館、郷土資料室、教育センター、子ども家庭支援センター、及び男女共同参画センター等の役割を有機的に機能させていくことにより、今まで以上の利便性や付加価値が高まることが期待されます。

また、すでに生涯学習部で検討を進めているように、今後地域の課題解決を担う拠点として、産業活性やまちづくりの分野とも広く連携を図り、どのような場と機会を市民に提供することができるのか、具体的な検討が望まれます。